2022 年度入試状況分析

駿台 SUNDAI

国公立大分析〈文部科学省発表確定志願者数+独自日程〉

※本文内の（　）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

〇国公立大全体では３年ぶりに増加

〇国立大は 11 年ぶりに増加、公立大は３年連続減少

②系統別志願状況

〇スポーツ・健康系、農・水産系は増加、生活科学、社会、総合科学は減少

③地区別志願状況

〇前期は四国が増加、中国が減少、東海がやや減少

〇後期は東海、九州・沖縄を除き前年度と逆の増減

④データネット目標ライン別志願者数集計

〇前期はＣグループで減少、Ｄグループで増加、後期はＣグループでやや増加

⑤２段階選抜実施状況

〇第１段階選抜不合格者数は全日程で大幅増加、大学別では、前期は東京大、中期・後期は山梨大が最多

⑥志願者数が多かった大学

〇志願者数最多は、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大

⑦増減が目立った大学

〇増加数最多は横浜国立大、減少数最多は山口大

⑧難関国立10大学志願状況

〇前期…６大学が増加、４大学が減少、10 大学全体では微増

〇後期…募集人員が多い北海道大は大幅増加、九州大はやや増加

⑨医学部医学科志願状況

〇前期は微増だが２年連続増加、後期も微増だが３年ぶりに増加

⑩大学別志願状況

①志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は３年ぶりに増加

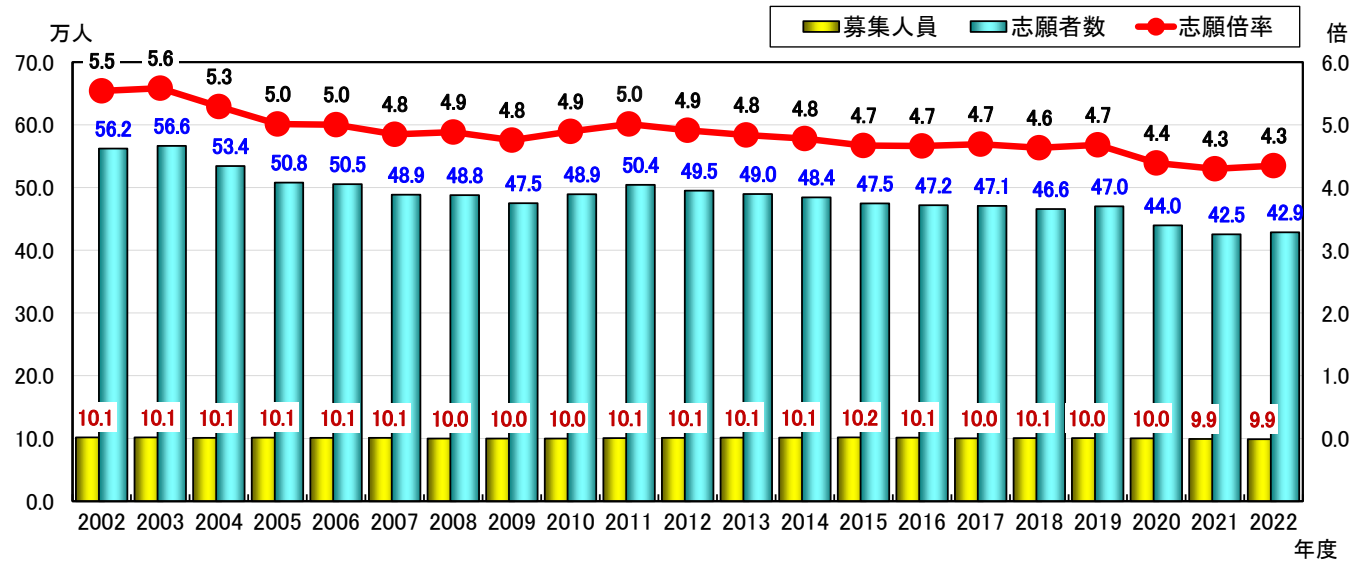
文部科学省が２月 22 日に発表した 2022 年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大、叡啓大の大学発表の確定志願者数を合計すると 432,296 人で、前年度と比べて 2,733 人(101)の増加で、微増ですが３年ぶりに増加でした。募集人員は国公立大全体で 415 人の微減で、志願倍率は 4.32 倍→4.37 倍とほぼ前年度並でした。

〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2022年度					2021年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,637	179,320	2.82	+2,142	101	63,716	177,178	2.78
	後期	12,962	123,633	9.54	+4,880	104	13,201	118,753	9.00
	合計	76,599	302,953	3.96	+7,022	102	76,917	295,931	3.85
公立	前期	16,308	54,643	3.35	−3,535	94	16,198	58,178	3.59
	後期	3,367	39,647	11.78	−2,521	94	3,487	42,168	12.09
	中期	2,349	31,380	13.36	+2,289	108	2,364	29,091	12.31
	独自	378	3,673	9.72	−522	88	450	4,195	9.32
	合計	22,402	129,343	5.77	−4,289	97	22,499	133,632	5.94
合計	前期	79,945	233,963	2.93	−1,393	99	79,914	235,356	2.95
	後期	16,329	163,280	10.00	+2,359	101	16,688	160,921	9.64
	中期	2,349	31,380	13.36	+2,289	108	2,364	29,091	12.31
	独自	378	3,673	9.72	−522	88	450	4,195	9.32
	合計	99,001	432,296	4.37	+2,733	101	99,416	429,563	4.32

※専門職大学を除く。

〔確定志願者数推移〕(独自日程除く)



□国立大は 11 年ぶりに増加、公立大は３年連続減少

【設置別】

国立大……前期は 2,142 人(101)の微増、後期は 4,880 人(104)のやや増加でした。この結果、国立大全体では 7,022 人(102)の微増で、11 年ぶりに増加となりました。共通テストの大幅難化はありましたが、難関大を中心に成績上位層でも共通テストの得点ダウンが顕著だったことにより、結果として個別(２次)試験の比重がより高くなったことが周知されたことで、強気な出願傾向が見られたことが要因でした。

公立大……中期は 2,289 人(108)増加しましたが、前期は 3,535 人(94)、後期は 2,521 人(94)といずれもやや減少しました。共通テストの 900 点満点の予想平均点が文理いずれも大幅ダウンし、比較的合格目標ラインが低い大学が多い公立大の前期、後期にその影響が強く出たことが要因と考えられます。一方で、中期はコロナ禍の中での厳しい経済環境を反映して、国公立大志向が高まる中で受験機会を確保したいという動向が表れました。この結果、公立大全体では 3,767 人(97)のやや減少で、３年連続の減少となりました。

【日程別】

前期……募集人員は前年度並ですが、志願者数は 1,393 人(99)減少したため、志願倍率は 2.95 倍→2.93 倍とわずかに 0.02 ポイントダウンし、前年度に引き続き３倍を下回りました。

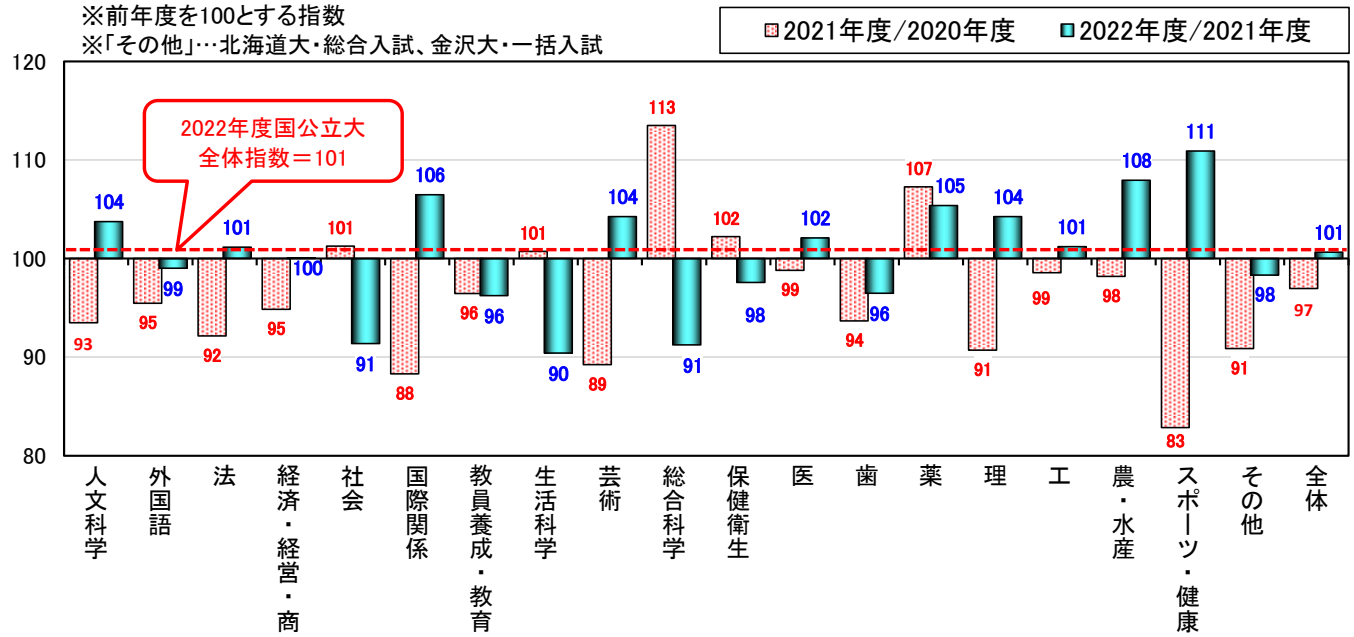
後期……志願者数は 2,359 人(101)の増加でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員は 359 人(98)減少したため、志願倍率は 9.64 倍→10.00 倍と 0.36 ポイントアップし、ほぼ 10 倍となりました。

中期……志願者数は 2,289 人(108)の増加で、３年ぶりに増加。募集人員は 15 人(99)減少で前年度並だが、志願倍率は 12.31 倍→13.36 倍に 1.05 ポイントアップしました。

独自……三条市立大が分離分割方式(前期・中期日程)となったため志願者数は 522 人(88)の減少ですが、募集人員も 72 人(84)大幅減少したので、志願倍率は 9.32 倍→9.72 倍に 0.40 ポイントアップしました。

②系統別志願状況

□スポーツ・健康系、農・水産系は増加、生活科学、社会、総合科学は減少



スポーツ・健康(111)、農・水産(108)は増加、国際関係(106)、薬(105)、人文科学(104)、芸術(104)、理(104)はやや増加でした。一方で、生活科学(90)、社会(91)、総合科学(91)が減少、教員養成・教育(96)、歯(96)はやや減少でした。これら以外の７系統は前年度並でした。

文系の系統では、人文科学(104)は２年連続減少した反動もあり、やや増加となりました。コロナ禍により留学などが不安視され２年連続減少した外国語(99)は微減で志願者は戻っていませんが、国際関係(106)はもともと募集人員が少ないこともあって、反動増の影響が大きく、やや増加しました。また、社会(91)は公立大での減少が目立ちました。法(101)、経済・経営・商(100)は前年度並でした。

理系では、近年低人気だった農・水産(108)はやや増加しました。理(104)は前年度共通テストの成績のみで選抜を行い大きく志願者が減少した横浜国立大・理工のこの系統に含まれる学科の志願者数合計(197)が倍増近い増加だった影響が大きく、やや増加しました。工(101)は実学志向の高まりもあり、微増でした。

メディカル系は、経済環境が悪化する中で、職業直結型の系統であることから人気が高まりました。薬(105)は、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことから関心が高まり、やや増加しました。医(102)は近年入学定員の増加で間口が広がり、既卒生が減少したことによる減少が続いていましたが、系統への人気の高まりから他系統への志望変更が少なく微増でした。一方で、歯(96)は歯科医師過剰による将来への不安があり、やや減少しました。保健衛生(98)は比較的共通テストの目標ラインが低い地方公立大での

設置が多く、共通テストの平均点ダウンの影響から微減となりました。

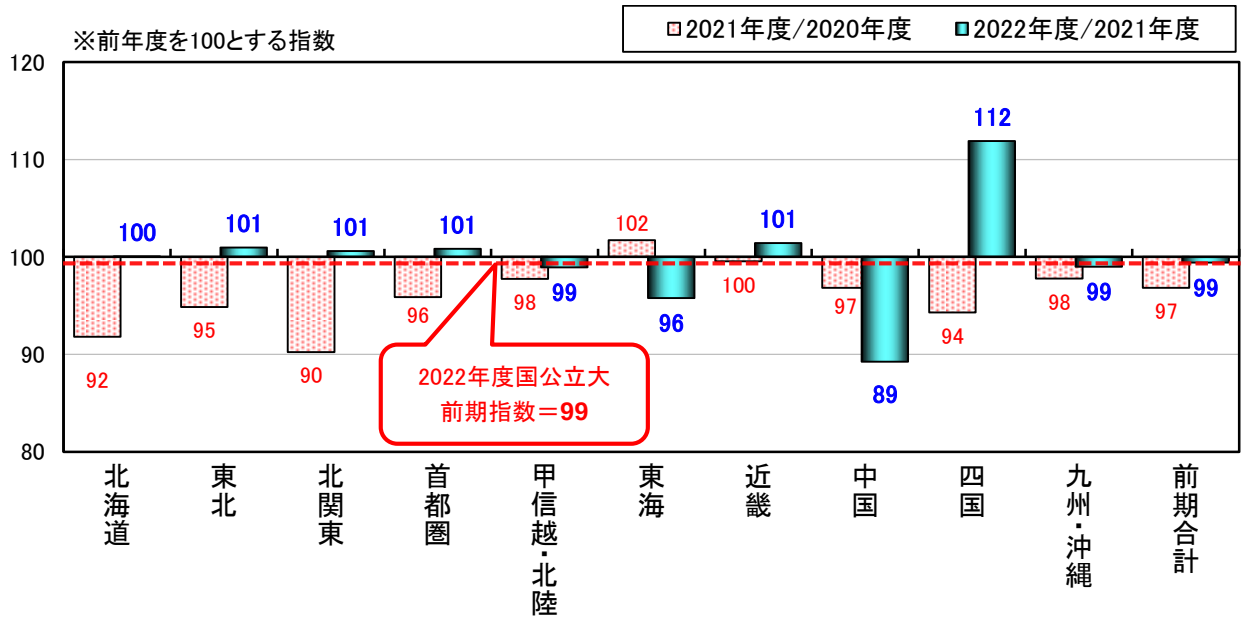
文理いずれからも志願者がいる系統では、東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催されたことで、この系統への関心が戻ってきたスポーツ・健康(111)は増加しました。芸術(104)は映像関係が含まれていることでやや増加しました。一方で、総合科学(91)は減少で、この系統に含まれる近年人気の高まった情報系の難易度アップを敬遠する動きが見られました。また、教育を取り巻く厳しい環境から教員養成・教育(96)は、2年連続やや減少となりました。

③地区別志願状況

□前期は四国が増加、中国が減少、東海がやや減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



○北海道(100)… 13 大学中 7 大学が減少。

【志願者数】北海道大(+305 人)は前年度コロナ禍の影響から道外からの志願者数減少もあり、志願者数は減少したが、その反動もあり増加となった。一方で、北海道教育大(-319 人)は系統への低い人気に加えてコロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から札幌校以外で減少した。

【志願者指数】北見工業大(131)、室蘭工業大(127)は大幅増加。一方で、旭川医科大(63)、北海道教育大(80)、名寄市立大(84)は大幅減少

○東北(101)…17 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】弘前大(+803 人)は前期では全国で 2 番目に大きな増加数だった。次いで、秋田県立大(+264 人)の増加数が大きかった。一方で、福島県立医科大(-166 人)、福島大(-140 人)、秋田大(-132 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】弘前大(151)、秋田県立大(144)は大幅増加。一方で、課程を改組した宮城教育大(74)、山形県立保健医療大(79)、山形県立米沢栄養大(80)、福島県立医科大(80)は大幅減少。

○北関東(101)…10 大学中 5 大学ずつが増減。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した宇都宮大(+281 人)は増加。次いで、群馬大(+178 人)も増加。一方で、高崎経済大(-250 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宇都宮大(124)は大幅増加。一方で、群馬県立県民健康科学大(72)、高崎経済大(84)は大幅減少。

○首都圏(101)… 19 大学中 11 大学が減少。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した横浜国立大(+980 人)は、経済(96)を除くいずれの学部も大幅増加し、前期では全国で最も大きな増加数だった。次いで、東京大(+418 人)の増加数が大きかった。一方で、千葉大(-303 人)、東京都立大(-268 人)、東京農工大(-261 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】横浜国立大(153)は大幅増加。一方で、神奈川県立保健福祉大(74)、東京農工大(83)は大幅減少、埼玉県立大(86)、千葉県立保健医療大(91)、横浜市立大(92)は減少。

○甲信越・北陸(99)… 22 大学中 12 大学が減少。新規実施の三条市立大を除いても(98)の微減。

【志願者数】新潟大(+432 人)、福井大(+334 人)の増加数が大きかった。一方で、富山大(-367 人)、信州大(-340 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新潟県立看護大(353)は 3.5 倍の激増、長野県看護大(151)、福井大(132)、富山県立大(118)、山梨大(115)は大幅増加。一方で、長野大(61)、山梨県立大(63)、石川県立看護大(63)、公立小松大(68)、上越教育大(71)、公立諏訪東京理科大(72)は指数 80 を下回る大幅減少。

○東海(96)…14 大学中８大学が減少。

【志願者数】岐阜大(+555 人)、愛知教育大(+136 人)は増加。一方で、三重大(-650 人)、工学部第二部の一般選抜を廃止した名古屋工業大(-411 人)、名古屋大(-242 人)、愛知県立大(-227 人)は減少した。

【志願者指数】岐阜大(126)、三重県立看護大(117)は大幅増加、愛知教育大(112)は増加。一方で、名古屋工業大(77)、三重大(79)、浜松医科大(79)、豊橋技術科学大(82)、岐阜県立看護大(85)は大幅減少、愛知県立大(88)は減少。

○近畿(101)…24 大学中 15 大学が増加。

【志願者数】大阪大(+510 人)、和歌山県立医科大(+223 人)、滋賀医科大(+214 人)、福知山公立大(+210 人)、滋賀大(+200 人)、工学部を新設した奈良女子大(+189 人)、京都大(+165 人)、京都府立大(+108 人)は増加。一方で、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(-806 人)の減少が目立ち全国で２番目に大きな減少数だった。

【志願者指数】福知山公立大(172)、滋賀医科大(163)が激増、和歌山県立医科大(142)、奈良女子大(130)、滋賀大(118)は大幅増加。一方で、京都教育大(84)、奈良県立医科大(85)、大阪公立大(85)は大幅減少。

○中国(89)…16 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】島根県立大(+251 人)の増加数が目立った。一方で、山口大(-928 人)の減少数が目立ち、前期では全国で最も大きな減少数だった。これに次いで、下関市立大(-425 人)、新見公立大(-260 人)、尾道市立大(-215 人)の減少数も大きかった。

【志願者指数】島根県立大(138)は大幅増加、山口県立大(109)、山陽小野田市立山口東京理科大(108)は増加。一方で、新見公立大(52)、下関市立大(53)はほぼ半減、尾道市立大(68)、公立鳥取環境大(74)、山口大(74)は大幅減少、福山市立大(86)、県立広島大(87)、広島市立大(92)は減少。

○四国(112)…９大学中７大学が増加。

【志願者数】香川大(+549 人)、徳島大(+525 人)、高知大(+210 人)、高知工科大(+166 人)は増加。一方で、愛媛大(-150 人)、高知県立大(-129 人)の２大学のみは減少。

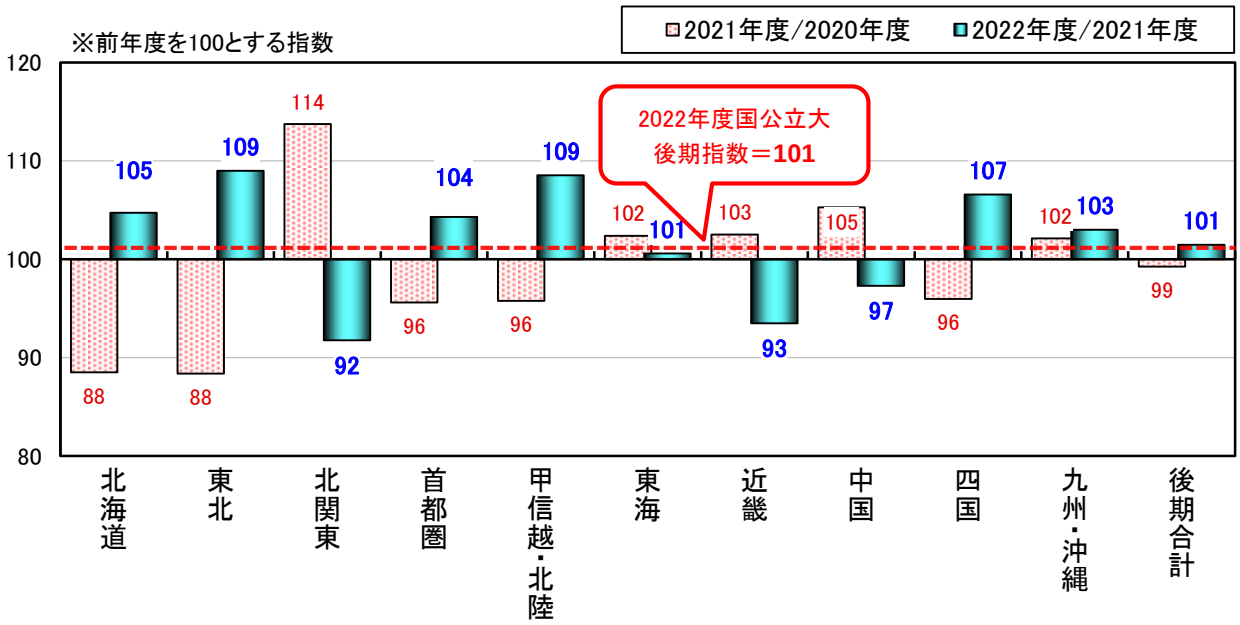
【志願者指数】香川県立保健医療大(134)、香川大(131)、徳島大(126)、高知工科大(118)は大幅増加、高知大(112)、鳴門教育大(109)は増加。一方で、愛媛大(114)は減少。

○九州・沖縄(99)… 23 大学中 13 大学が減少。

【志願者数】大分大(+446 人)、長崎大(+235 人)、長崎県立大(+199 人)は増加。一方で、名桜大(-308 人)、琉球大(-304 人)、鹿児島大(-218 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】大分大(131)、福岡女子大(126)、長崎県立大(117)は大幅増加、鹿屋体育大(112)、熊本県立大(111)、大分県立看護科学大(109)、長崎大(109)は増加。一方で、名桜大(61)、宮崎県立看護大(67)、福岡県立大(69)、九州歯科大(72)は大幅減少。

<後期日程>



○北海道(105)…９大学中６大学が増加。

【志願者数】北海道大(+590 人)、北見工業大(+117 人)は増加。一方で、北海道教育大(-388 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】旭川医科大(138)、北海道大(117)は大幅増加、室蘭工業大(111)、北見工業大(110)は増加。一方で、公立はこだて未来大(73)、北海道教育大(80)は大幅減少、名寄市立大(88)は減少。

○東北(109)…14 大学中 11 大学が増加。

【志願者数】弘前大(+706 人)、岩手県立大(+255 人)、岩手大(+117 人)、秋田大(+110 人)は増加。一方で、福島大(-201 人)、課程を変更した宮城教育大(-129 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】弘前大(168)、岩手県立大(128)は大幅増加、青森公立大(112)、岩手大(111)、秋田大(108)は増加。一方で、宮城教育大(67)は大幅減少、青森県立保健大(86)、福島大(88)は減少。

○北関東(92)…７大学中４大学が減少。後期廃止の前橋工科大を除くと(98)の微減。

【志願者数】茨城大(+384 人)、宇都宮大(+208 人)は増加。一方で、高崎経済大(-598 人)、筑波大(-131 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】宇都宮大(150)は大幅増加、茨城大(110)は増加。一方で、高崎経済大(56)、茨城県立医療大(81)は大幅減少、筑波大(91)は減少。

○首都圏(104)…15 大学中 10 大学が減少。

【志願者数】前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した横浜国立大

(+2,131 人)は増加し、後期では全国で最も大きい増加数だった。一方で、東京都立大(-766 人)は後期では全国で２番目に大きい減少数だった。次いで、千葉大(-631 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】横浜国立大(192)は激増、東京外国語大(128)、一橋大(120)は大幅増加、お茶の水女子大(110)は増加。一方で、横浜市立大(72)、東京都立大(74)は大幅減少、千葉大(88)、神奈川県立保健福祉大(90)は減少。

○甲信越・北陸(109)… 13 大学中８大学が増加。

【志願者数】山梨大(+738 人)、福井県立大(+399 人)、新潟大(+334 人)、福井大(+313 人)の増加数が大きかった。一方で、医学部医学科の募集を廃止した富山大(-369 人)、富山県立大(-102 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】新潟県立看護大(225)は倍増以上、山梨大(141)、福井県立大(141)、福井大(118)、上越教育大(117)、新潟大(116)は大幅増加。一方で、石川県立看護大(58)は大幅減少、敦賀市立看護大(86)、富山県立大(87)、富山大(90)は減少。

○東海(101)…13 大学中７大学が増加。

【志願者数】静岡文化芸術大(+333 人)、愛知教育大(+270 人)の増加数が大きかった。一方で、浜松医科大(-222 人)、岐阜大(-181 人)、三重大(-133 人)、名古屋工業大(-111 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】静岡文化芸術大(174)は激増、愛知教育大(125)は大幅増加、静岡県立大(110)は増加。一方で、浜松医科大(38)は 60%以上の激減、名古屋大(70)は大幅減少、三重県立看護大(86)は減少。

○近畿(93)…20 大学中 11 大学が減少。

【志願者数】奈良県立医科大(+423 人)、福知山公立大(+283 人)、京都府立大(226 人)、工学部を新設した奈良女子大(+204 人)は増加。一方で、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(-1,338 人)の減少が目立ち、後期では全国で最も大きな減少数だった。兵庫県立大(-634 人)は後期では全国で３番目に大きい減少数だった。これに次いで、滋賀大(-412 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】福知山公立大(261)は 2.6 倍の激増、奈良県立医科大(148)、京都府立大(138)、和歌山県立医科大(130)、奈良女子大(125)は大幅増加。一方で、大阪公立大(63)、兵庫教育大(69)、兵庫県立大(72)、滋賀大(81)は大幅減少、神戸市看護大(87)、神戸市外国語大(87)、奈良教育大(89)、京都市立芸術大(89)は 10%を上回る減少。

○中国(97)…14 大学中９大学が減少。

【志願者数】広島大(+859 人)の増加が目立ち、後期では全国で２番目に大きい増加数だった。次いで、鳥取大(+307 人)の増加数が大きかった。一方で、県立広島大(-505 人)、岡山大(-341 人)、山口大(-320 人)、尾道市立大(-294 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】広島大(144)、公立鳥取環境大(130)、鳥取大(116)、島根県立大(115)は大幅増加。一方で、県立広島大(61)、新見公立大(62)、尾道市立大(72)、岡山大(80)、岡山県立大(83)は大幅減少、山口大(90)、島根大(92)は減少。

○四国(107)…９大学中５大学が増加。

【志願者数】徳島大(+634 人)、高知工科大(+319 人)の増加数が大きかった。一方で、香川大(-320 人)、愛媛大(-184 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】愛媛県立医療技術大(151)、高知工科大(141)、香川県立保健医療大(130)、徳島大(126)、鳴門教育大(117)は大幅増加。一方で、香川大(76)は大幅減少、愛媛大(91)は減少。

○九州・沖縄(103)…21 大学中 11 大学が減少。

【志願者数】長崎県立大(+449 人)、大分大(+360 人)、琉球大(+360 人)、佐賀大(+342 人)、北九州市立大(+130 人)の増加数が大きかった。一方で、宮崎大(-284 人)、名桜大(-198 人)、福岡県立大(-188 人)、熊本大(-132 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】大分県立看護科学大(130)、長崎県立大(128)、大分大(127)、琉球大(117)は大幅増加。一方で、名桜大(63)、沖縄県立芸術大(65)、福岡県立大(71)、沖縄県立看護大(79)、宮崎県立看護大(84)、宮崎公立大(84)は大幅減少。

<中期日程>

今年度から中期を実施する前橋工科大、三条市立大を除いた 22 大学中 12 大学が増加。

【志願者数】旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大(+1,543 人)は、旧大阪府立大の工との比較で増加が目立ち、中期では全国で最も大きな増加数だった。公立諏訪東京理科大(+354 人)、岐阜薬科大(+321 人)、山陽小野田市立山口東京理科大(+252 人)、都留文科大(+233 人)の増加数が大きかった。一方で、下関市立大(-491 人)、静岡県立大(-366 人)、公立小松大(-315 人)、長野県立大(-223 人)の減少数が大きかった。

【志願者指数】長野県看護大(199)は激増、岐阜薬科大(142)、大阪公立大(133)、公立諏訪東京理科大(128)、長野大(116)、公立千歳科学技術大(115)、山陽小野田市立東京理科大(115)は大幅増加。一方で、長野県立大(67)、静岡県立大(67)、新見公立大(72)、公立小松大(75)、下関市立大(80)は大幅減少。

<独自日程>

三条市立大が分離分割方式(前期・中期日程)となり、国際教養大、新潟県立大、叡啓大の３大学４学部となった。

【志願者数】国際教養大は(-88 人)、叡啓大(-38 人)の減少。一方で、新潟県立大(+406 人)は増加。

【志願者指数】叡啓大(41)は 59%の大幅減少で志願倍率も 6.4 倍→2.6 倍にダウン、国際教養大(92)は減少で３年連続減少。一方で、新潟県立大(118)は大幅増加で５年ぶりに増加。

次に、地区別に増減数が 150 人以上かつ増減率が 15%以上の大学をまとめました。

○北海道

前期	増加	室蘭工業大	+164人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、２学科とも大幅増加。
	減少	北海道教育大	-319人	系統への低い人気に加えて、コロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から大幅減少。
後期	増加	北海道大	+590人	医(保健)の募集停止があったが、２年連続減少の反動とコロナ禍による移動への敬遠の緩和で大幅増加。学部別では、法(99)を除く学部はいずれも増加で、特に経済(184)、薬(174)は激増。
	減少	北海道教育大	-388人	系統への低い人気に加えて、コロナ禍による移動の敬遠による極端な地元志向の緩和から大幅減少。

○東北

前期	増加	弘前大	+803人	理工(181)、教育(171)、医(保健)(164)は激増、医(医)(141)、人文社会科学(136)、医(心理支援)(124)は大幅増加。
		秋田県立大	+264人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。システム科学技術(知能メカトロにクス)(79)以外のいずれの学科も大幅増加。
	減少	福島県立医科大	-166人	前年度大幅増加の反動で大幅減少。新設２年目の保健科学(58)は大幅減少、医(90)は減少で前年度の反動による増減が継続。
後期	増加	弘前大	+706人	教育(253)、理工(207)、農学生命科学(170)は激増。
		岩手県立大	+255人	総合政策(446)は４倍以上の激増、看護(130)は大幅増加。

○北関東

前期	増加	宇都宮大	+281人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響もあり、国際(202)は激増、農(120)、工(119)、共同教育(117)は大幅増加。
	減少	高崎経済大	−250人	地域政策(60)は４年連続減少で、志願者数は700人を下回った。
後期	増加	宇都宮大	+208人	地域デザイン(152)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、農(115)は２年連続大幅増加。
	減少	高崎経済大	−598人	前年度４年連続減少の反動から増加したが、減少に戻った。

○首都圏

前期	増加	横浜国立大	+980人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響から、経済(96)を除くいずれの学部も大幅増加。
	減少	東京農工大	−261人	全学科で減少。工(81)は大幅減少、農(86)は減少。
後期	増加	横浜国立大	+2,131人	前年度のコロナ禍対策としての個別試験実施取りやめを例年の実施に戻した影響から、いずれの学部も大幅増加。特に、経営<後>(202)、都市科学<後>(195)、理工<後>(194)、経済<後>(175)は激増。
		東京外国語大	+289人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。現在の募集人員となった2019年度以降で初の増加。
		一橋大	+208人	経済(120)のみの募集で、３年連続減少の反動で大幅増加。
	減少	東京都立大	−766人	大幅減少で共通テストの平均点大幅ダウンの影響と前年度増加の反動が見られ、志願者数は2018年度の改組後で最少。

○甲信越・北陸

前期	増加	福井大	+334人	医(看護)(300)は３倍増で４年ぶりの増加、医(医)(192)、教育(191)は激増、国際地域(144)は大幅増加。
		新潟県立看護大	+167人	前年度半減の反動と共通テストの平均点ダウンにより、目標ラインが５割強とそれほど高くないことで激増。
		富山県立大	+155人	工(131)が大幅増加。
	減少	山梨県立大	−230人	看護(39)は激減、人間福祉(89)、国際政策(90)は減少。
		長野大	−212人	社会福祉(36)は激減、環境ツーリズム(53)は大幅減少。
		公立諏訪東京理科大	−160人	前年度半減に引き続き大幅減少。
		公立小松大	−155人	生産システム科学(54)、国際文化交流(60)は大幅減少。保健医療(97)はやや減少。
後期	増加	山梨大	+738人	生命環境(160)は激増、医(医)(153)、工(151)は大幅増加。
		福井県立大	+399人	経済(148)、海洋生物資源(139)は大幅増加、看護福祉(114)は増加。
		新潟大	+334人	経済科学(177)、農(171)、歯(146)が大幅増加。
		福井大	+313人	医(看護)(184)、教育(174)は激増、医(医)(124)は前年度大幅減少の反動と富山大の後期廃止による流入で大幅増加。
中期	増加	公立諏訪東京理科大	+354人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。
	減少	公立小松大	−315人	前年度大幅減少の反動で大幅増加。生産システム科学(64)、国際文化交流(66)は大幅増加。
		長野県立大	−223人	グローバルマネジメント(59)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○東海

前期	増加	岐阜大	+555人	教育(169)は激増、工(145)、医(医)(131)の大幅増加もあり、大学全体で４年ぶりに増加。
	減少	三重大	−650人	教育(44)、医(看護)(80)は大幅減少、工(88)、生物資源(89)は減少。
		名古屋工業大	−411人	工二の廃止もあり大幅減少。工のみでも309人(82)の大幅減少。
後期	増加	静岡文化芸術大	+333人	文化政策(189)は激増、デザイン(146)は大幅増加。
		愛知教育大	+270人	共通テストの得点を300点に圧縮する募集単位が多いため、共通テストの平均点ダウンの影響が緩和された結果、大幅増加。
	減少	浜松医科大	−222人	２年連続増加の反動で激減。志願倍率も23.8倍→9.0倍に大幅ダウン。
中期	増加	岐阜薬科大	+321人	３年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は６年ぶりに1,000人を上回った。
	減少	静岡県立大	−366人	薬(67)は大幅減少で、2017年度以降前年度の反動による増減が継続。

○近畿

前期	増加	和歌山県立医科大	+223人	新設２年目の薬(172)は激増、保健看護(136)、医(121)は大幅増加。
		滋賀医科大	+214人	医(看護)(162)、医(医)(162)はともに激増。
		福知山公立大	+210人	地域経営(186)は激増、情報(151)は大幅増加で2020年度新設以降連続増加。
		滋賀大	+200人	経済(127)は大幅増加。データサイエンス(113)は増加。
		奈良女子大	+189人	理(164)は激増、新設の工は志願者数107人で志願倍率6.3倍。
後期	増加	奈良県立医科大	+423人	前年度減少の反動で激増。志願倍率も16.8倍→24.7倍にアップ。
		福知山公立大	+283人	地域経営(373)は前年度大幅減少の反動で激増、情報(141)は2020年度新設以降連続増加。
		京都府立大	+226人	生命環境(184)は激増、文(130)、公共政策(128)は大幅増加。
		奈良女子大	+204人	理(150)は大幅増加。新設の工は志願者数121人で志願倍率12.1倍。
	減少	大阪公立大	-1,338人	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧２大学との比較で大幅減少。募集人員の減少と旧大阪市立大・工(前年度志願者数802人)の募集停止が影響。
		兵庫県立大	-634人	看護(64)は、工(70)、環境人間(75)、国際商経(76)は大幅減少。
		滋賀大	-412人	３学部全て大幅減少で、データサイエンス(81)は３年連続減少、経済(81)は３年連続大幅減少、教育(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
中期	増加	大阪公立大	+1,543人	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧大阪府立大の工との比較で大幅増加。従来からの他大学からの併願に加えて、新たに大阪公立大・工<前>との学内併願が可能になった影響。

※大阪公立大は旧大阪市立大と旧大阪府立大との比較

○中国

前期	増加	島根県立大	+251人	人間文化(180)は激増、改組２年目の総合政策(154)、地域政策(119)はいずれも大幅増加。
	減少	山口大	-928人	工(39)は前年度激増の反動と共通テスト重視配点のため共通テストの平均点ダウンの影響も加わり激減。医(医)(70)、教育(73)、人文(84)、医(保健)(85)は大幅減少。
		下関市立大	-425人	３年連続増加の反動で大幅減少。
		新見公立大	-260人	６年連続増加の反動で大幅減少。
		尾道市立大	-215人	経済情報(58)は大幅減少、芸術文化(86)は減少。
		公立鳥取環境大	-180人	前年度増加の反動で大幅減少。
後期	増加	広島大	+859人	生物生産(193)、工(191)、経済(178)、歯(168)、法(167)、文(163)、総合科学(154)、理(141)は大幅増加。共通テストの平均点ダウンの影響で、前期上位大学志願者の併願先として狙われた。
		鳥取大	+307人	地域(213)は激増、農(138)は大幅増加でいずれも２年連続増加。
	減少	県立広島大	-505人	地域創生(36)は激減、生物資源科学(50)は半減。
		岡山大	-341人	経済夜の廃止もあり大幅減少。工(56)は激減、経済(69)、農(78)、歯(78)、法(80)は大幅減少。
		尾道市立大	-294人	経済情報(67)、芸術文化(84)は大幅減少。
中期	減少	下関市立大	-491人	２年連続大幅減少で、志願者数は1999年度に中期日程導入以来初めて2,000人を下回った。

○四国

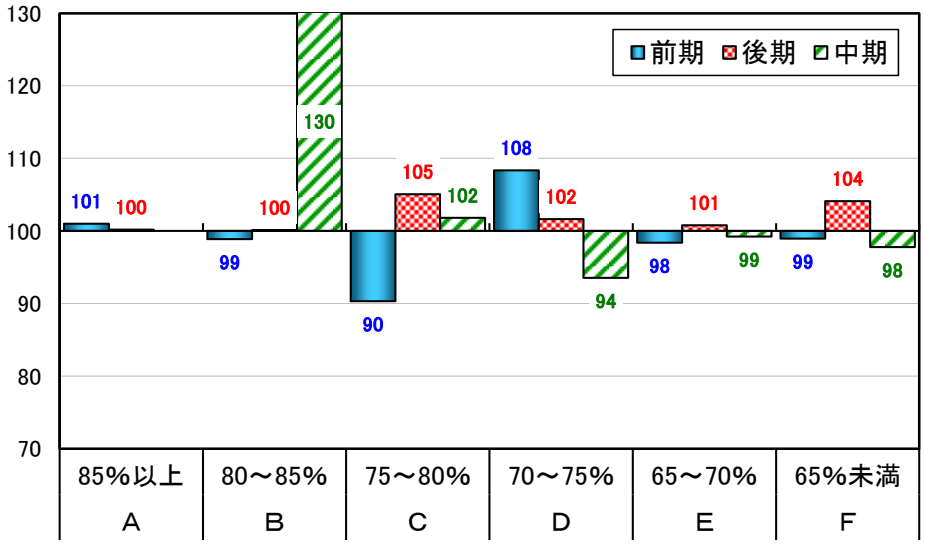
前期	増加	香川大	+549人	創造工(166)、農(155)、法(126)、経済(116)、医(医)(136)は大幅増加。
		徳島大	+525人	総合科学(313)、生物資源産業(195)は激増、医(保健)(146)、理工(124)は大幅増加。
		高知工科大	+166人	環境理工(388)は激増、情報(116)は大幅増加。
後期	増加	徳島大	+634人	生物資源産業(216)は激増、総合科学(187)、医(保健)(121)は大幅増加、理工(114)は増加。
		高知工科大	+319人	環境理工(194)、システム工(149)、情報(131)は大幅増加。
	減少	香川大	-320人	教育(62)、経済(73)、創造工(75)は大幅減少。

○九州・沖縄

前期	増加	大分大	+446人	医(看護)(248)は激増、医(医)(142)、教育(132)、理工(145)は大幅増加。
		長崎県立大	+199人	地域創造(167)は激増、看護栄養(138)、情報システム(125)は大幅増加。
	減少	名桜大	-308人	国際(52)はほぼ半減、人間健康(73)は大幅減少。
		福岡県立大	-171人	看護(64)、人間社会(72)は大幅減少。
後期	増加	長崎県立大	+449人	地域創造(175)は激増、看護栄養(133)、情報システム(125)は大幅増加。
		大分大	+360人	理工(187)は激増、福祉健康科学(138)、教育(126)は大幅増加。
		琉球大	+360人	工(202)は倍増以上、医(保健)(142)は大幅増加。
	減少	名桜大	-198人	国際(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		福岡県立大	-188人	看護(60)、人間社会(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

④データネット目標ライン別志願者数集計

□前期はＣグループで減少、Ｄグループで増加、後期はＣグループでやや増加



左記のグラフは、2022 年度のデータネット(駿台予備学校／ベネッセコーポレーション主催､共通テスト自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(Ｂ判定ライン、合格可能性 60%)を基にして、学部単位（医学科は別集計)で得点率により６つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

前期全体では(99)の微減ですが、Ｃグループが減少し、Ｄグループで増加しています。他のグループは前年度並となっており、志願者数の変動はほとんどありませんでした。その中で、共通テストの平均点大幅ダウンの影響がＣグループに大きく影響し、合格可能性の高い大学へ志望変更があったことを示しています。詳しく見ていくと、Ａグループ(101)は微増で、東京大・理二(113)や京大・工(111)の増加がありましたが、一方で名古屋大・医(医)(43)の大幅減少などもあり、微増に留まりました。Ｂグループ(99)は微減で、共通テストの平均点大幅ダウンでこのグループになった難関大志願者が出願先を変更しなかったことと、このグループに含まれる医(医)などの増減が拮抗したことが影響しました。Ｃグループ(90)は減少で、鳥取大、愛媛大、大阪公立大などでこのグループに含まれる学部の減少が目立ちました。

後期全体では(103)のやや増加ですが、ＡグループとＢグループは(100)の前年度並ですが、Ｃグループ～Ｆグループは増加傾向で、共通テストの平均点大幅ダウンの中で前期難関大志願者が後期併願先を比較的目標ラインが低いグループに求めた様子が見受けられます。詳しく見ていくと、Ｃグループ(105)のやや増加は、このグループに含まれる富山大、島根県立大といった大学の学部での大幅増加が影響しました。

公立大のみの中期は、Ｂグループ(130)で大幅増加していますが、大阪公立大・工、都留文科大・文の大幅増加が影響しています。Ｄグループ(94)はやや減少していますが、このグループに含まれる芸術系の学部などでの減少が目立ちました。なお、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向があることから、あくまでも参考としてください。

⑤２段階選抜実施状況

□第１段階選抜不合格者数は全日程で大幅増加
大学別では、前期は東京大、中期・後期は山梨大が最多

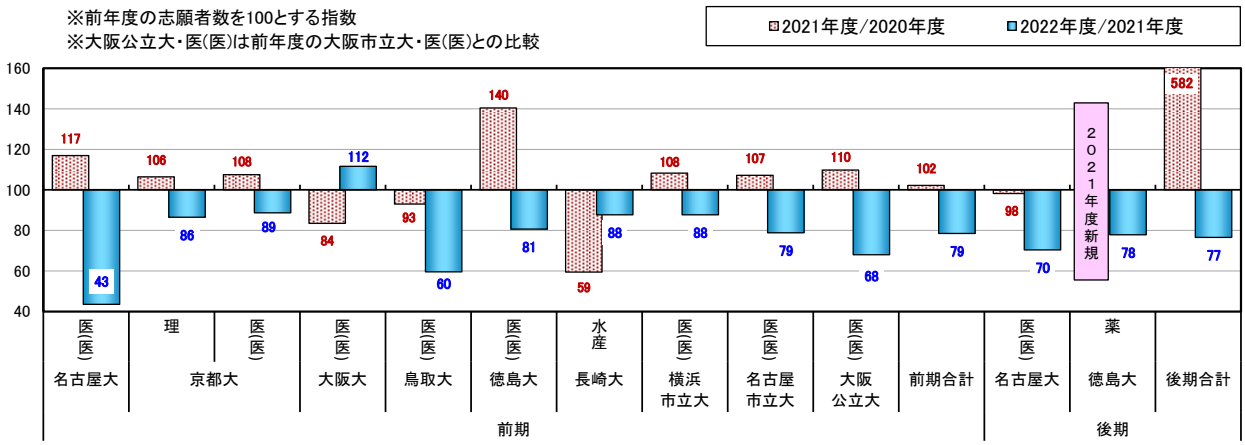
〔２段階選抜実施状況（不合格者数）〕

	前期				中期・後期				合計			
	2022年度	2021年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	増減数	指数
国立大	2,431	1,448	+983	168	3,751	3,546	+205	106	6,182	4,994	+1,188	124
公立大	642	691	−49	93	1,385	605	+780	229	2,027	1,296	+731	156
合計	3,073	2,139	+934	144	5,136	4,151	+985	124	8,209	6,290	+1,919	131

〔２段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学〕

順位	前期				中期・後期			
	2022年度		2021年度		2022年度		2021年度	
1	東京大	857	東京大	482	山梨大	717	岐阜大	762
2	東京都立大	375	東京都立大	445	大阪公立大	682	電気通信大	480
3	一橋大	218	愛媛大	201	奈良県立医科大	563	東京都立大	413
4	香川大	204	一橋大	149	一橋大	435	千葉大	351
5	滋賀医科大	165	福島県立医科大	142	東北大	349	一橋大	261
6	岡山大	157	信州大	94	電気通信大	338	東北大	198
7	和歌山県立医科大	122	千葉大	83	山口大	300	宮崎大	176
8	群馬大	103	旭川医科大	78	岐阜大	254	浜松医科大	157
9	福井大	95	金沢大	64	鹿児島大	191	山梨大	157
10	長崎大	89	高知大	53	九州大	166	奈良県立医科大	146
全体	3,073		2,139		5,136		4,151	

２段階選抜における第１段階選抜不合格者数は、前年度は全体で 1,700 人以上増加しましたが、今年度も引き続き 1,919 人の大幅増加（131）で、前期で 934 人、中期・後期で 985 人の増加となりました。共通テストの平均点ダウンの中でも、成績上位層を中心に強気な出願が行われたことがうかがえます。



一方で、共通テストの平均点ダウンは第１段階選抜を基準点で実施する大学・学部の志願者数減少に影響を与えました。上のグラフは、基準点で第１段階選抜を実施する国公立大の学部・学科における志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。前年度の大幅減少の反動と京都大からの志望変更先として狙われた大

阪大・医(医)<前>を除いて、いずれも減少していることがわかります。前年度の反動の影響もありますが、共通テストの予想をはるかに超える平均点ダウンにより、基準点をクリアできなくなった受験生の増加が志願者数減少影響を与えたことがうかがえます。

第１段階選抜の不合格者数は、前期では 3,073 人で 934 人(144)の大幅増加でした。国立大は 983 人(168)の大幅増加、公立大は 49 人(93)の減少でした。

大学別では、東京大が３年連続不合格者数最多でした。前年度志願倍率が予告倍率を上回らなかったため実施されなかった文科二類を含む全ての科類で第１段階選抜が実施され、不合格者数も 482 人→857 人(178)と大幅増加しました。特に、理科二類では志願者数が 1,980 人→2,235 人(113)と増加したため、366 人が不合格となりました。２番目に多かったのは東京都立大ですが、不合格者数は 445 人→375 人(84)と大幅減少しました。３番目に多かったのは一橋大で、予告倍率を上回った学部は４学部中２学部→３学部と増加しました。

中期・後期では 5,136 人で、国立大は 205 人(106)のやや増加、公立大は 780 人(229)の激増でした。大学別では、山梨大が不合格者数最多でした。医(医)の志願者数が富山大・医(医)の後期廃止の影響と２年連続減少の反動で、1,057 人→1,621 人(153)の大幅増加となり多くの不合格者が出ました。２番目に多かったのは大阪公立大です。第１段階選抜が実施されたのは工<中>と法<後>のみですが、志願者数が 6,200 人だった工<中>で 587 人が不合格者となりました。３番目に多かった奈良県立医科大では医(医)で実施され、不合格者数は 146 人→563 人(386)の大幅増加でした。

なお、2023 年度入試での出願にあたっては、２段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第１段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。また、コロナ禍の状況により、試験教室定員の減員によって以前より厳しい第１段階選抜を行った大学もありました。2023 年度入試でもコロナ禍への対応について大学からの発表に、引き続き注意が必要です。

⑥志願者数が多かった大学

□志願者数最多は、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大

〔志願者数上位 10 大学〕

大学	2022年度			2021年度			志願者増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2022年度／2021年度	2021年度／2020年度
大阪公立大	2,447	13,188	5.4	2,543	13,789	5.4	−601	96	100
千葉大	2,069	10,631	5.1	2,069	11,565	5.6	−934	92	113
神戸大	2,301	10,123	4.4	2,301	10,236	4.4	−113	99	110
北海道大	2,392	9,516	4.0	2,442	8,621	3.5	+895	110	88
東京大	2,960	9,507	3.2	2,960	9,089	3.1	+418	105	98
九州大	2,243	7,692	3.4	2,251	7,629	3.4	+63	101	105
京都大	2,649	7,570	2.9	2,658	7,424	2.8	+146	102	96
大阪大	2,878	7,501	2.6	2,878	6,991	2.4	+510	107	94
横浜国立大	1,332	7,300	5.5	1,329	4,189	3.2	+3,111	174	55
広島大	2,015	6,890	3.4	2,015	6,111	3.0	+779	113	92

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数
※大阪公立大の2021年度以前は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計

上の表は、文部科学省発表の最終確定値、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位 10 大学をまとめたものです。志願者数が 7,000 人以上だった大学は９大学で、前年度と同数でした。前年度は 10 大学中７大学が減少だったのに対し、今年度は７大学が増加と対照的でした。10 大学の中で、第５位の東京大、

第８位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第７位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみの募集です。

2022 年度入試で志願者数が最も多かったのは、旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大で、募集人員は前年度の旧２大学合計よりは 96 人減少したものの、公立大としては国内で最大規模の大学になりました。志願者数は前年度の旧２大学よりは 601 人(96)とやや減少しましたが、１万３千人を上回りました。

第２位の千葉大は、前年度まで６年連続志願者数が最多の大学でしたが 934 人(92)減少しました。しかし、それでも 2010 年度から 13 年連続で志願者数が１万人を上回りました。

第３位の神戸大は、113 人(99)の微減でしたが、志願者数が２年連続で１万人を上回りました。大都市圏の最難関大に次ぐ難易度の大阪公立大、千葉大、神戸大がいずれも前年度よりも志願者数が減少したのは、共通テストの平均点ダウンの影響がいわゆる準難関大に大きかったことを示しています。

第４位の北海道大は、前年度はコロナ禍の影響により遠距離移動を回避する動きから 10%以上の志願者数減少でしたが、この反動もあって３年ぶりの増加でした。しかし、志願者数は１万人には届きませんでした。

第９位の横浜国立大は、前年度コロナ禍対策として個別試験を中止し、共通テストの成績を中心に選抜を行いましたが、これへの敬遠傾向が強く、志願者数が大きく減少しました。今年度は 2020 年度入試以前と同様に個別試験を実施し、3,111 人(174)の大幅増加となりました。しかし、2020 年度の志願者数 7,581 人には及ばず、準難関大への共通テスト平均点ダウンの影響があったことがわかります。

⑦増減が目立った大学

□増加数最多は横浜国立大、減少数最多は山口大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 11 大学で前年度より１大学増加しました。設置別では、前年度は国立７大学、公立３大学でしたが、今年度は国立 10 大学、公立１大学と国立大の増加が目立ちました。

増加数が最も多かった大学は横浜国立大で、3,111 人(174)増加しました。前年度コロナ禍対策からほとんどの個別試験の実施を取りやめたため前期、後期ともに大幅減少しました。今年度は個別試験を予定通り実施したため、経済<前>(96)を除くいずれの学部も大幅増加しました。以下、弘前大、徳島大の上位３大学が 1,000 人以上の増加でした。弘前大は、前年度３番目に志願者数が減少した大学で、前期、後期ともに大幅減少した募集単位が多かった反動が増加要因です。徳島大は、総合科学<前>(313)や生物資源産業<後>(216)など激増した学部があり、共通テストの平均点ダウンの影響で近畿、中国地方の難関大から志望変更先として狙われた影響もありました。

一方で、500 人以上減少した大学は 15 大学で前年度より２大学少なくなりました。設置別では、前年度は国立 14 大学、公立３大学でしたが、今年度は国立７大学、公立８大学となり、国立大学が減少、公立大学が増加しました。地区別では中国地方の大学が５大学含まれています。これは、東海道・山陽新幹線沿線というロケーションからコロナ禍の影響による移動を敬遠した強い地元志向が緩和し、関東から九州までの大学への流出が回復したことがうかがえます。減少数が最も多かった大学は山口大で、1,248 人(81)減少しました。前年度２番目に志願者数が増加した大学で、工<前>(39)、工<後>(43)は前年度全学科で増加しましたが、今年度は全学科で減少となりました。次いで、東京都立大までが 1,000 人以上の減少でした。東京都立大の経済経営<後>(30)は２年連続激増の反動で激減などが影響しました。

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度／2021年度	2021年度／2020年度	2022年度	2021年度	
横浜国立大	+3,111	174	55	7,300	4,189	前年度コロナ禍対策からほとんどの個別試験の実施を取りやめたため前期、後期ともに大幅減少。今年度は個別試験を予定通り実施したため、経済<前>(96)を除くいずれの学部も大幅増加。特に、経営<後>(202)、都市科学<後>(195)、理工<後>(194)、経営<前>(194)、経済<後>(175)、理工<前>(174)は激増。
弘前大	+1,509	158	68	4,119	2,610	前期、後期とも大幅増加。全学部で前期、後期とも増加。教育<後>(253)、理工<後>(207)は激増、第2志望選抜を可能にした理工<前>(181)、さらに教育<前>(171)、農学生命科学<後>(170)、医(保健)<前>(164)は1.6倍以上の激増、人文社会科学<前>(136)は大幅増加。
徳島大	+1,159	126	95	5,591	4,432	前期、後期とも大幅増加。総合科学<前>(313)、生物資源産業<後>(216)、生物資源産業<前>(195)、総合科学<後>(187)、医(保健)<後>(158)、学科全体での選抜からコース別選抜に変更した理工<前>(124)は大幅増加。
北海道大	+895	110	88	9,516	8,621	後期は大幅増加、前期はやや増加。経済<後>(184)、薬<後>(174)、歯<前>(171)は前年度大幅減少の反動でいずれも激増、獣医<後>(143)、工<後>(128)、水産<前>(120)は大幅増加。コロナ禍による道外からの長距離移動への敬遠の緩和も影響。
山梨大	+871	132	86	3,561	2,690	前期、後期とも大幅増加。医(看護)<後>(47)、<前>(57)の大幅減少を除きいずれも増加で、医(医)<後>(153)、生命環境<後>(140)、工<前>(128)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。工<後>(151)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
大分大	+806	129	78	3,589	2,783	前期、後期とも大幅増加。後期は、医(看護)<後>の新規実施も影響。医(看護)<前>(248)、理工<後>(187)、理工<前>(145)、福祉健康科学<後>(138)、教育<前>(132)、教育<後>(126)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。医(医)<前>(142)は3年連続減少の反動で大幅増加。
広島大	+779	113	92	6,890	6,111	後期は大幅増加、前期は微減。生物生産<後>(193)、工<後>(191)、経済<後>(178)、歯<後>(168)、法<後>(167)、文<後>(163)、総合科学<後>(154)は、大幅増加。
新潟大	+766	115	87	5,939	5,173	後期は大幅増加、前期は増加。経済科学<後>(177)は前年度大幅減少の反動で激増で、志願者数は改組前の2017年度以来5年ぶりに600人を超えた。農<後>(171)、歯<後>(146)、農<前>(132)、理<前>(128)は大幅増加。
長崎県立大	+648	123	94	3,421	2,773	前期、後期とも大幅増加。地域創造<後>(175)、地域創造<前>(167)、看護栄養<前>(138)、看護栄養<後>(133)、情報システム<前>(125)、情報システム<後>(125)は大幅増加。
福井大	+647	124	81	3,396	2,749	前期、後期とも大幅増加。医(看護)<前>(300)、医(医)<前>(192)、教育<前>(191)、教育<後>(174)、国際地域<前>(144)は大幅増加。医(医)<後>(124)は富山大医(医)<後>の廃止の影響で大幅増加。
大阪大	+510	107	94	7,501	6,991	前期のみの募集で、やや増加。医(保健)<前>(156)、人間科学<前>(122)、薬<前>(122)、経済<前>(121)は前年度減少の募集単位が多かった反動で大幅増加。法<前>(128)は2年連続増加。共通テストの平均点ダウンにより、個別試験での逆転を考える層の流入もあった。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度／2021年度	2021年度／2020年度	2022年度	2021年度	
山口大	−1,248	81	119	5,385	6,633	前期は大幅減少、後期は減少。工<前>(39)、工<後>(43)はいずれも前年度大幅増加の反動で全学科減少の大幅減少。募集人員減少の教育<前>(73)も大幅減少。医(医)(70)<前>、医(保健)(85)<前>はいずれも大幅減少。中国地方におけるコロナ禍による地元志向の緩和も影響。
東京都立大	−1,034	87	98	6,724	7,758	前期はやや減少、後期は大幅減少。経済経営<後>(30)は2年連続激増の反動で激減、システムデザイン<後>(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、人文社会<後>(72)、都市環境<後>(76)はいずれも大幅減少。
千葉大	−934	92	113	10,631	11,565	前期はやや減少、後期は減少。法政経<後>(65)は3年連続増加の反動で大幅減少、文<後>(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。園芸<後>(117)、<前>(114)、薬<前>(115)、看護<前>(104)を除きいずれも減少。
下関市立大	−916	73	88	2,470	3,386	前期、中期ともに大幅減少。経済<前>(53)は3年連続増加の反動で大幅減少。経済<中>(80)は2年連続大幅減少。志願者数も2,000人を下回った。
兵庫県立大	−834	87	112	5,668	6,502	前期は減少、後期は大幅減少、中期は微減。社会情報科学<前>(62)、看護<後>(64)、環境人間<後>(75)、国際商経<後>(76)、工<前>(79)、社会情報科学<中>(80)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。工<後>(70)は3年連続増加の反動で大幅減少。
高崎経済大	−831	86	95	5,090	5,921	前期、後期はいずれも大幅減少、中期は前年度並。地域政策<後>(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、地域政策<前>(60)は4年連続減少で、志願者数はいずれも1,000人を下回った。経済<前>(131)は大幅増加。
三重大	−783	86	118	4,782	5,565	前期は大幅減少、後期はやや減少。教育<前>(44)、教育<後>(58)、生物資源<後>(66)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
富山大	−736	90	99	6,495	7,231	前期、後期ともに減少。医(医)<後>の募集停止(前年度志願者数378人)が影響。さらに、医(看護)<前>(48)、工<後>(55)、芸術文化<後>(71)、工<前>(73)、薬<前>(78)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少。
北海道教育大	−707	80	101	2,763	3,470	前期、後期ともに大幅減少。釧路校<前>(51)、釧路校<後>(51)、岩見沢校<前>(73)、札幌校<後>(84)はいずれも前年度増加の反動で減少、函館校<前>(81)は5年連続減少。コロナ禍による札幌を除いた地方での地元志向の緩和も影響。
県立広島大	−609	71	142	1,513	2,122	前期は減少、後期は大幅減少。地域創生<後>(36)は前年度開設2年目で激増した反動で激減、生物資源科学<後>(50)、生物資源科学<前>(52)も前年度開設2年目で大幅増加の反動で半減。
大阪公立大	−601	96	100	13,188	13,789	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧2大学との比較で、前期、後期とも大幅減少、中期は大幅増加。旧2大学合計との比較において募集人員の減少と工<後>(前年度志願者数802人)の募集停止が影響。募集人員が36%減少した経済<前>(36)は激減。
名古屋工業大	−522	87	101	3,480	4,000	前期は大幅減少、後期はやや減少。工<前>(82)は大幅減少で2年連続減少、工<後>(95)は前年度募集人員減少と志願者数増加で志願倍率がアップした反動でやや減少。
尾道市立大	−509	70	106	1,201	1,710	前期、後期とも大幅減少。経済情報<前>(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。経済情報<後>(67)は前年度3年ぶりに増加したが、大幅減少で再び減少に転じた。
名桜大	−506	62	104	827	1,333	前期、後期とも大幅減少。国際<前>(52)は3年連続減少で大幅減少、国際<後>(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。人間健康<後>(72)は大幅減少で2年連続減少、人間健康<前>(73)は2年連続増加の反動で大幅減少。
岡山大	−502	90	110	4,678	5,180	前期はやや減少、後期は大幅減少。工<後>(56)、経済<後>(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、教育<前>(74)は前年度増加の反動と募集人員減少により大幅減少。経済<前>(75)、農<後>(78)、歯<後>(78)も大幅減少。中国地方におけるコロナ禍による地元志向の緩和も影響。

⑧難関国立 10 大学志願状況

□前期は６大学増加、４大学減少

〔確定志願者数　前年度対比増減数〕

大学	年度	志願者数(最終確定値)								
		前期			後期			全体		
		人数	増減数	指数	人数	増減数	指数	人数	増減数	指数
北海道大	2022年度	5,409	+305	106	4,107	+590	117	9,516	+895	110
	2021年度	5,104	−370	93	3,517	−761	82	8,621	−1,131	88
	2020年度	5,474	−369	94	4,278	−220	95	9,752	−589	94
	2019年度	5,843	+10	100	4,498	+482	112	10,341	+492	105
	2018年度	5,833	+293	105	4,016	−80	98	9,849	+213	102
東北大	2022年度	4,392	−107	98	1,332	+81	106	5,724	−26	100
	2021年度	4,499	+115	103	1,251	−103	92	5,750	+12	100
	2020年度	4,384	−429	91	1,354	−85	94	5,738	−514	92
	2019年度	4,813	−429	92	1,439	+41	103	6,252	−388	94
	2018年度	5,242	+315	106	1,398	+242	121	6,640	+557	109
東京大	2022年度	9,507	+418	105				9,507	+418	105
	2021年度	9,089	−170	98				9,089	−170	98
	2020年度	9,259	−224	98				9,259	−224	98
	2019年度	9,483	−192	98				9,483	−192	98
	2018年度	9,675	+141	101				9,675	+141	101
東京工業大	2022年度	3,802	+164	105				3,802	+164	105
	2021年度	3,638	−152	96				3,638	−664	85
	2020年度	3,790	−432	90	512	+15	103	4,302	−417	91
	2019年度	4,222	−7	100	497	+28	106	4,719	+21	100
	2018年度	4,229	+62	101	469	−54	90	4,698	+8	100
一橋大	2022年度	2,588	+24	101	1,244	+208	120	3,832	+232	106
	2021年度	2,564	+74	103	1,036	−39	96	3,600	+35	101
	2020年度	2,490	−197	93	1,075	−48	96	3,565	−245	94
	2019年度	2,687	−248	92	1,123	−78	94	3,810	−326	92
	2018年度	2,935	+28	101	1,201	−376	76	4,136	−348	92
名古屋大	2022年度	4,339	−242	95	38	−16	70	4,377	−258	94
	2021年度	4,581	+159	104	54	−1	98	4,635	+158	104
	2020年度	4,422	−314	93	55	−12	82	4,477	−326	93
	2019年度	4,736	−16	100	67	+14	126	4,803	−2	100
	2018年度	4,752	+29	101	53	−7	88	4,805	+22	100
京都大	2022年度	7,210	+165	102	360	−19	95	7,570	+146	102
	2021年度	7,045	−302	96	379	+27	108	7,424	−275	96
	2020年度	7,347	−164	98	352	−162	68	7,699	−326	96
	2019年度	7,511	−350	96	514	+142	138	8,025	−208	97
	2018年度	7,861	−14	100	372	−115	76	8,233	−129	98
大阪大	2022年度	7,501	+510	107				7,501	+510	107
	2021年度	6,991	−471	94				6,991	−471	94
	2020年度	7,462	−74	99				7,462	−74	99
	2019年度	7,536	−331	96				7,536	−331	96
	2018年度	7,867	+470	106				7,867	+470	106
神戸大	2022年度	6,071	−123	98	4,052	+10	100	10,123	−113	99
	2021年度	6,194	+625	111	4,042	+296	108	10,236	+921	110
	2020年度	5,569	−364	94	3,746	−280	93	9,315	−644	94
	2019年度	5,933	+299	105	4,026	−320	93	9,959	−21	100
	2018年度	5,634	−337	94	4,346	+293	107	9,980	−44	100
九州大	2022年度	5,143	−32	99	2,549	+95	104	7,692	+63	101
	2021年度	5,175	+161	103	2,454	+227	110	7,629	+388	105
	2020年度	5,014	−225	96	2,227	−82	96	7,241	−307	96
	2019年度	5,239	−7	100	2,309	−170	93	7,548	−177	98
	2018年度	5,246	+56	101	2,479	−276	90	7,725	−220	97
難関国立10大学合計	2022年度	55,962	+1,082	102	13,682	+949	107	69,644	+2,031	103
	2021年度	54,880	−331	99	12,733	−866	94	67,613	−1,197	98
	2020年度	55,211	−2,792	95	13,599	−874	94	68,810	−3,666	95
	2019年度	58,003	−1,271	98	14,473	+139	101	72,476	−1,132	98
	2018年度	59,274	+1,043	102	14,334	−373	97	73,608	+670	101

2022 年度入試の難関国立 10 大学(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)の確定志願者数は、増加が 7 大学、減少が 3 大学で、全体では 2,031 人(103)のやや増加で 4 年ぶりに増加しました。

日程別では、前期が 1,082 人(102)の微増で 4 年ぶりに増加しました。大阪大(107)、北海道大(106)、東京大(105)、東京工業大(105)はやや増加でした。一方で、名古屋大(95)はやや減少でした。他の京都大(102)、一橋大(101)、九州大(99)、東北大(98)、神戸大(98)は前年度並となりました。

後期も 949 人(107)のやや増加で 3 年ぶりに増加しました。募集人員が多い北海道大(117)は大幅増加、九州大(104)はやや増加。募集人員が少ない大学では、経済(120)のみの一橋大は大幅増加で 5 年ぶりに増加、東北大(106)はやや増加で 3 年ぶりの増加、特色入試として募集する法(95)のみの京都大はやや減少、地域枠として募集する医(医)(70)のみの名古屋大は大幅減少で 3 年連続減少。志願者数は 40 人を下回りました。

〔確定志願者指数 文理別前年度対比指数〕

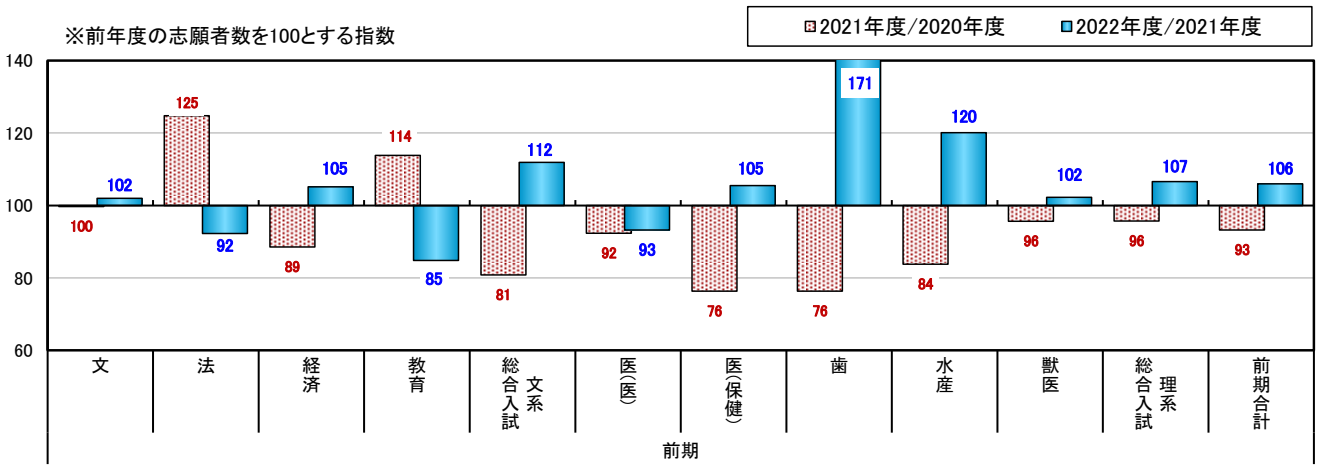
大学	前期			後期			前期・後期合計
	文系	理系	合計	文系	理系	合計	
北海道大	102	108	106	118	116	117	110
東北大	97	98	98	100	110	106	100
東京大	104	105	105				105
東京工業大		105	105				105
一橋大	101		101	120		120	106
名古屋大	105	91	95		70	70	94
京都大	95	106	102	95		95	102
大阪大	109	106	107				107
神戸大	97	99	98	95	103	100	99
九州大	105	97	99	124	94	104	101
難関大合計	102	102	102	109	106	107	103

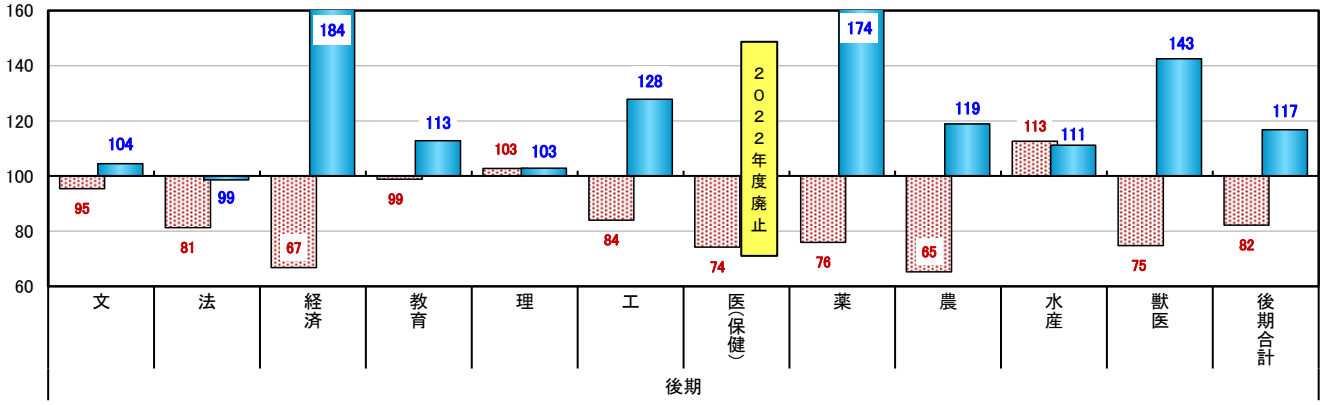
文理別に志願者数を見ると、前期は、文系は 6 大学が増加、 3 大学が減少、理系は 5 大学が増加、 4 大学が減少となりました。

一方、後期は、文系は 4 大学で増加、 2 大学で減少、理系は 3 大学で増加、 2 大学で減少となりました。いずれも比較的募集人員が多いことで最難関大からの併願先として狙われる神戸大は文系(95)のやや減少、理系(103)のやや増加、九州大は文系(124)の大幅増加、理系(94)のやや減少と別れましたが、北海道大は文系(118)、理系(116)と大幅増加で、どちらも前年度大幅減少の反動が見られました。

〔大学別志願状況〕

北海道大：前期はやや増加、後期は大幅増加　　前期：+305 人　後期：+590 人





主な入試変更点	選抜方法：医(保健／放射線、検査技術、理学療法)…後期廃止 募集人員：理(化学)…<後>23 人→20 人 (数学)…<後>13 人→10 人 (物理)…<後>10 人→７人（総合型選抜の選考による欠員４人含む) (生物／高分子機能)…<後>５人→２人 (地球惑星科学)…<後>９人→６人(総合型選抜の選考による欠員１人含む) 工(環境社会工)…<後>52 人→51 人(総合型選抜の選考による欠員４人含む) (応用理工)…<後>38 人→33 人（総合型選抜の選考による欠員４人含む) (機能知能工)…<後>30 人→25 人 医(医)…<前>101 人→97 人(総合型選抜の選考による欠員５人含む) (保健／看護)…<前>63 人→64 人(総合型選抜の選考による欠員４人含む) (保健／放射線技術科学)…<後>７人→０人 (保健／検査技術科学)…<前>28 人→35 人(総合型選抜の選考による欠員 10 人含む) <後>７人→０人 (保健／理学療法)…<後>４人→０人 (保健／作業療法)…<前>13 人→17 人(総合型選抜の選考による欠員７人含む) 歯…<前>39 人→42 人(総合型選抜の選考による欠員４人含む) 総合入試理系(数学重点)…<前>129 人→125 人 (物理重点)…<前>233 人→225 人 (化学重点)…<前>233 人→226 人 (生物重点)…<前>175 人→169 人 (総合科学)…<前>248 人→239 人 ※総合型選抜の選考による欠員の扱いによるもの 医(保健／理学療法)…<前>13 人→17 人 (保健／放射線技術科学)…<前>28 人→33 人 水産…<前>111 人→119 人 個別試験：文(人文科学)<後>…総合問題→論

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度はコロナ禍の影響で道外からの志願者数減少もあり志願者は 10%以上減少したが、その反動もあって３年ぶりの増加となった。前期は 305 人(106)のやや増加。文理別では、文系は 24 人(102)で前年度並、理系は 281 人(108)の

増加。後期は 590 人(117)の大幅増加、志願者数も 4,000 人を上回った。文理別では、文系は 163 人(118)、理系は医(保健)で後期日程を廃止としたが 427 人(116)で、いずれも大幅増加。なお、２段階選抜は後期日程の一部の募集単位で実施予告倍率を上回ったが緩和されて、前期、後期ともに実施されなかった。

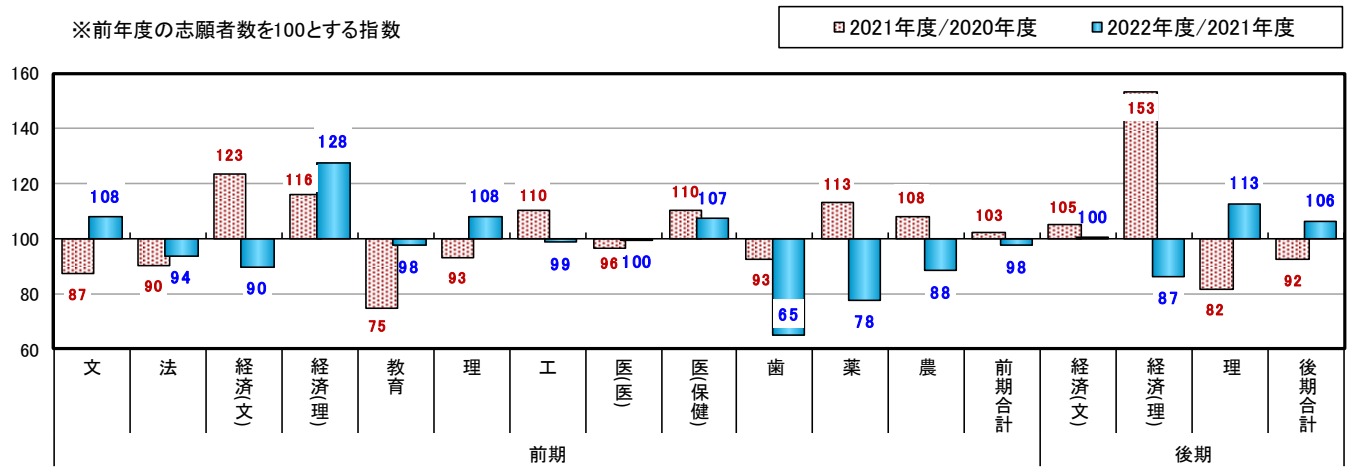
〈前期日程〉

○**文**(102)は、２年連続減少の反動はなく前年度並。
○**法**(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
○**経済**(105)は、やや増加で４年ぶりに増加に転じた。
○**教育**(85)は、大幅減少。2015 年度以降、前年度の反動による増減が継続。
○**総合入試文系**(112)は、増加で前年度の反動による増減が継続。
○**総合入試理系**(107)は、やや増加で４年ぶりの増加。募集人員は 34 人減少(募集人員の前年度対比指数 97)で、志願倍率は 2.5 倍→2.9 倍へアップ。選抜群別では、前年度大幅増加の(数学重点)(83)は大幅減少だが、その他の選抜群はいずれも増加。特に、(総合科学)(130)は大幅増加で、募集人員が減少(募集人員の前年度対比指数 96)だったので、志願倍率は 2.1 倍→2.9 倍へアップ。
○**医(医)**(93)は、やや減少で２年連続減少。
○**医(保健)**(105)は、やや増加で前年度の反動による増減が継続。総合型選抜の欠員による募集人員増加(募集人員の前年度対比指数 114)で、志願倍率は 2.1 倍と総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。専攻別では、(保健／理学療法学)(168)は前年度大幅減少の反動が大きく激増、総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 131)による志願倍率も 2.2 倍→2.8 倍へアップし、競争は激化。(保健／看護学)(111)は４年ぶりの増加。一方で、(保健／検査技術科学)(89)は減少で、総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 125)による志願倍率は 2.6 倍→1.9 倍へダウン。
○**歯**(171)は、前年度大幅減少の反動が大きく激増で、前年度の反動による増減が継続。総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 108)による志願倍率も 2.2 倍→3.4 倍へアップ。
○**水産**(120)は、２年連続減少の反動で大幅増加。
○**獣医**(102)は、２年連続減少の反動はなく前年度並。

〈後期日程〉

○**文**(104)は、やや増加で３年ぶりの増加。
○**法**(99)は、微減だが２年連続減少。
○**経済**(184)は、前年度 30%以上の大幅減少の反動が大きく激増。志願倍率も 8.6 倍→15.8 倍へアップし、競争が激化。志願者数は 300 人を上回った。
○**教育**(113)は、２年連続減少の反動で増加だが、志願者数は３年連続 100 人を下回った。
○**理**(103)は、やや増加に加え、募集人員が減少(募集人員の前年度対比指数 79)で志願倍率は 7.5 倍→9.8 倍へアップ。学科・分野別では、(生物／生物)(148)は２年連続大幅増加、(地球惑星科学)(137)は、前年度反動による大幅増加に加え、募集人員減少(募集人員の前年度対比指数 67)で志願倍率は 5.7 倍→11.7 倍へアップ。一方で、(生物／高分子機能)(39)は激減で、３年連続減少。
○**工**(128)は、２年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、前年度唯一増加の(情報エレクトロニクス)(80)のみ大幅減少、その他の３学科はいずれも大幅増加で前年度と対照的。特に、(環境社会学)(174)、(機能知能工)(162)の激増が目立った。
○**薬**(174)は、前年度大幅減少の反動に加え、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発等の話題が多く報道されたことから関心が高まったことも影響し、激増。
○**農**(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
○**水産**(111)は、２年連続増加。
○**獣医**(143)は、２年連続減少の反動で大幅増加。

東北大：大学全体で前期は微減、後期はやや増加　　前期：−107 人　後期：+81 人



主な入試変更点	第１段階選抜基準変更：文〈前〉…約４倍(通過予定人数：約 588 人)→約 3.5 倍(通過予定人数：約 514 人) 経済(文系)〈前〉…約４倍(通過予定人数：約 588 人)→約 3.5 倍(通過予定人数：約 514 人) 経済(文系)〈後〉…約 15 倍(通過予定人数：約 375 人)→約 14 倍(通過予定人数：約 350 人)

	工〈前〉…学部全体で約 3.5 倍(通過予定人数：約 2,835 人)→学部全体で約 3 倍(通過予定人数：約 2,430 人) 募集人員：理(生物系)…〈前〉25 人→26 人、〈後〉7 人→4 人 理(物理系)…〈前〉72 人→74 人

COMMENT ※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は、107 人(98)の微減で２年ぶりに減少。文理別では、文系は 34 人(97)のやや減少で４年連続減少、理系は 73 人(98)の微減だが２年ぶりに減少。後期は、81 人(106)のやや増加で３年ぶりの増加。

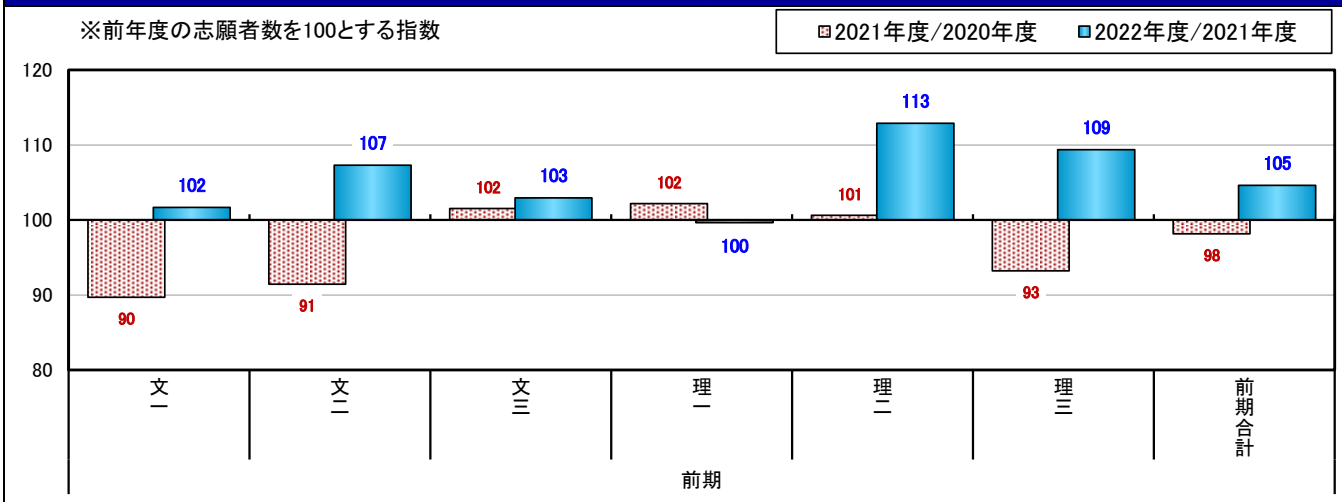
〈前期日程〉

○**文(108)**は、前年度減少の反動で増加、志願倍率は 2.7 倍→2.9 倍にアップ。
○**法(94)**は、やや減少で２年連続減少。
○**経済(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。方式別では(文系)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。新設３年目の(理系)(128)は周知が進んだこともあり、２年連続大幅増加で志願倍率は 3.6 倍→4.6 倍にアップ。
○**教育(98)**は、２年連続大幅減少の反動は見られず、さらに微減。
○**理(108)**は、前年度やや減少の反動で増加。ただし、募集人員の微増(前年度募集人員対比指数 102)があったので志願倍率は 2.6 倍→2.7 倍のわずかなアップに留まった。学科別では、５学科中４学科が増加。特に、(数学系)(121)は大幅増加で志願倍率は３倍を上回った。(物理系)(114)も増加で、志願倍率は２年ぶりに３倍を上回った。一方で、(化学系)(93)はやや減少で、３年連続減少。
○**工(99)**は、系統への人気の高まりもあって、前年度増加の反動はなく前年度並。学科別では、５学科中３学科が減少。特に、(機械知能・航空工)(91)は減少で、志願倍率も 2.9 倍→2.6 倍にダウン。一方で、(化学・バイオ工)(117)は２年連続大幅増加。
○**医(医)(100)**は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、４年連続減少の反動はなく前年度並。志願倍率は 3.1 倍で第１段階選抜実施予告倍率約３倍を超えたことで、第１段階選抜が実施されたが、合格率は 95.5%と選抜は緩かった。
○**医(保健)(107)**は、２年連続増加。専攻別では、(保健／看護学)(147)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(保健／検査技術科学)(106)は前年度の大幅増加に続いてやや増加。一方で、(保健／放射線技術科学)(61)前年度激増の反動で、大幅減少。
○**歯(65)**は、大幅減少で３年連続減少。志願倍率も 5.0 倍→3.4 倍→3.1 倍→2.0 倍までダウン。
○**薬(78)**は、前年度増加の反動で、大幅減少。志願倍率は 2.9 倍と３倍を下回った。
○**農(88)**は、前年度増加の反動で減少。

〈後期日程〉

○**経済(98)**は、２年連続増加の反動はなく、微減に留まった。方式別では(文系)(100)は、前年度並。新設３年目の(理系)(87)は前年度の 50%を超える大幅増加の反動で、減少。志願倍率も 8.9 倍→7.7 倍にダウン。
○**理(113)**は、２年連続減少の反動から増加。志願倍率も 12.3 倍→14.6 倍にアップ。学科別では、５学科中４学科が増加。特に、(化学系)(126)は２年連続減少の反動、(地球科学系)(124)３年連続減少の反動で、いずれも増加率 20%を超える大幅増加。(数学系)(116)も２年連続減少の反動で大幅増加。

東京大：大学全体では４年ぶりに増加、理科一類を除く５つの科類が増加　　前期：+418 人



COMMENT ※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期のみの募集だが、大学全体では 418 人(105)のやや増加で４年ぶりの増加。文理別では、文科類が 138 人(104)のやや増加で３年ぶりの増加、理科類が 280 人(105)のやや増加で２年連続の増加。理科一類だけが微減で、他の５つの科類は増加。

〈前期日程〉

○ **文科一類(102)**は、前年度減少の反動は小さく微増。
○ **文科二類(107)**は、３年連続減少の反動でやや増加。
○ **文科三類(103)**は、前年度の微増に続きやや増加。
○ **理科一類(100)**は、２年連続前年度並で変化は小さい。
○ **理科二類(113)**は、理科一類からの志望変更による流入もあり、10%を上回る増加。
○ **理科三類(109)**は、前年度やや減少の反動で増加。

○**第１段階選抜合格率**　※≪　≫内は合格者最低点

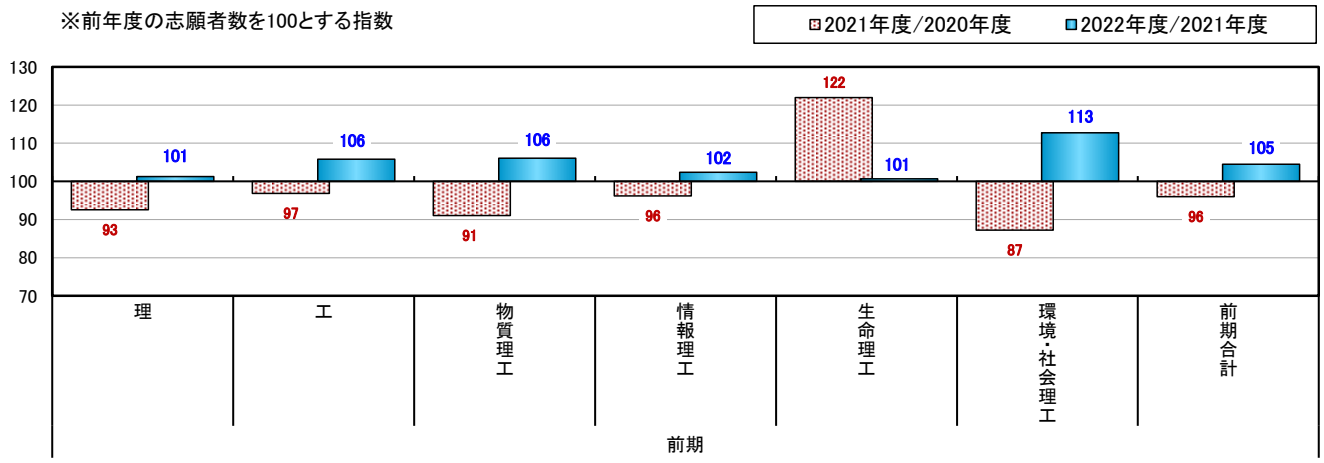
文科一類…93.6%≪520 点≫、文科二類…97.2%≪435 点≫、文科三類…93.9%≪595 点≫、文科類全体…94.7%
理科一類…93.1%≪630 点≫、理科二類…83.6%≪646 点≫、理科三類…80.8%≪529 点≫、理科類全体…88.4%

- 文理別の合格率は、文科類全体は前年度よりも 2.3 ポイントダウン、理科類全体も 4.5 ポイントダウンで、２年連続で文科類の方が高い合格率となった。
- 第１段階選抜の合格者最低点は、最も高い理科二類でも得点率 71.8%だった。また、第１段階選抜の合格者平均点は、東京大が入試統計データを公表した 2001 年度以降では、すべての科類で最も低い得点となり、共通テスト難化の影響が最上位の東京大志願者でも見られた。

〈推薦入試〉　※〔　〕内は前年度数値

○募集人員 100 人程度に対して、志願者数は 240 人〔267 人〕、合格者数は 88 人〔92 人〕。
○コロナ禍の影響による出願要件を満たす受験生の減少で、前年度より志願者数は 27 人減少し、合格者数も４人減少した。
○学部別合格者数：法…９人〔10 人〕、経済…６人〔10 人〕、文…８人〔10 人〕、教育…７人〔５人〕、教養…６人〔５人〕
工…29 人〔27 人〕、理…11 人〔12 人〕、農…５人〔６人〕、薬…２人〔２人〕、医(医)…４人〔３人〕
医(健康総合科学)…１人〔２人〕
○募集人員を充足する合格者を発表した募集単位では、前年度の８募集単位から４募集単位に半減した。
○科類別合格者数：文科一類…９人〔11 人〕、文科二類…８人〔10 人〕、文科三類…18 人〔18 人〕
理科一類…36 人〔34 人〕、理科二類…13 人〔16 人〕、理科三類…４人〔３人〕

東京工業大：大学全体では４年ぶりに増加、学院別でも６つの学院全てが増加　前期：+164 人



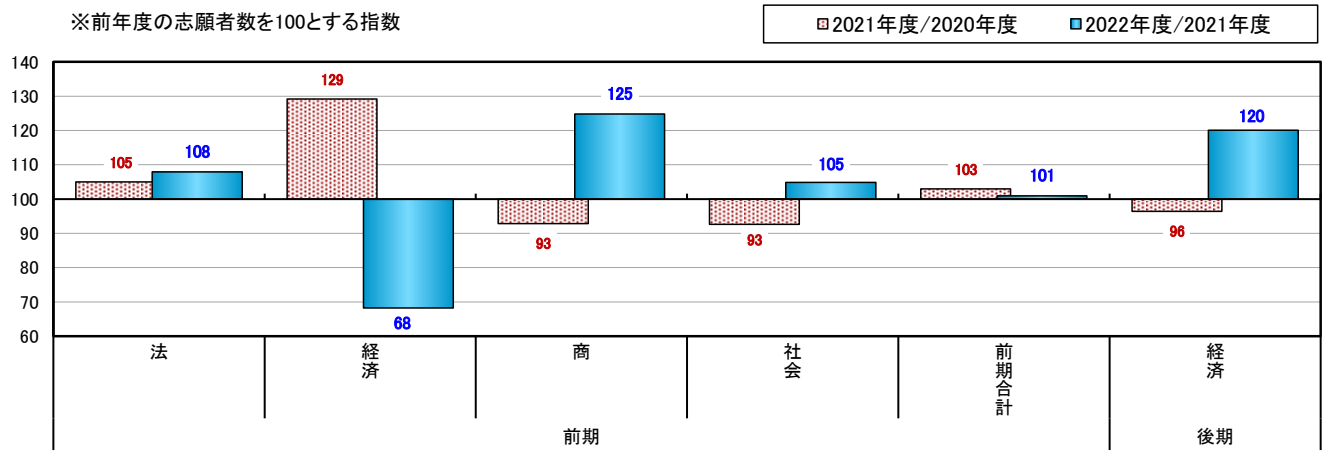
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期のみの募集だが、大学全体では 164 人(105)のやや増加で４年ぶりの増加。第１段階選抜以外の合否判定に共通テストを利用しないことから、共通テストの難化も影響。学院別では、環境・社会理工(113)を筆頭に全ての学院で増加。

〈前期日程〉

○ **理**(101)は、前年度減少の反動は小さく前年度並。
○ **工**(106)は、２年連続減少の反動でやや増加。
○ **物質理工**(106)は、２年連続減少の反動でやや増加。
○ **情報理工**(102)は、２年連続減少の反動は少なく、前年度並だが、志願倍率は６つの学院で最も高倍率の 9.0 倍で、２年ぶりの９倍台。
○ **生命理工**(101)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度並。志願倍率は６つの学院で最も低倍率の 2.2 倍。
○ **環境・社会理工**(113)は、２年連続減少の反動で増加。
○ 全学院の志願者数の合計が募集人員の４倍を超えたことで第１段階選抜が実施され、合格率は 97.9%。

一橋大：前期は微増、後期は大幅増加　　前期：+24 人　後期：+208 人



主な入試変更点	2 次試験：全学部〈前〉…国+歴公+数+外　※歴公：世Ｂ、日Ｂ、地理Ｂ、倫政 →国+歴+数+外　※歴：世Ｂ、日Ｂ、地理Ｂ

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 24 人(101)の微増で、経済以外の全ての学部で増加。後期は 208 人(120)の大幅増加で、志願倍率は 20.7 倍と経済のみの募集となった 2018 年度以来４年ぶりの 20 倍台。

〈前期日程〉

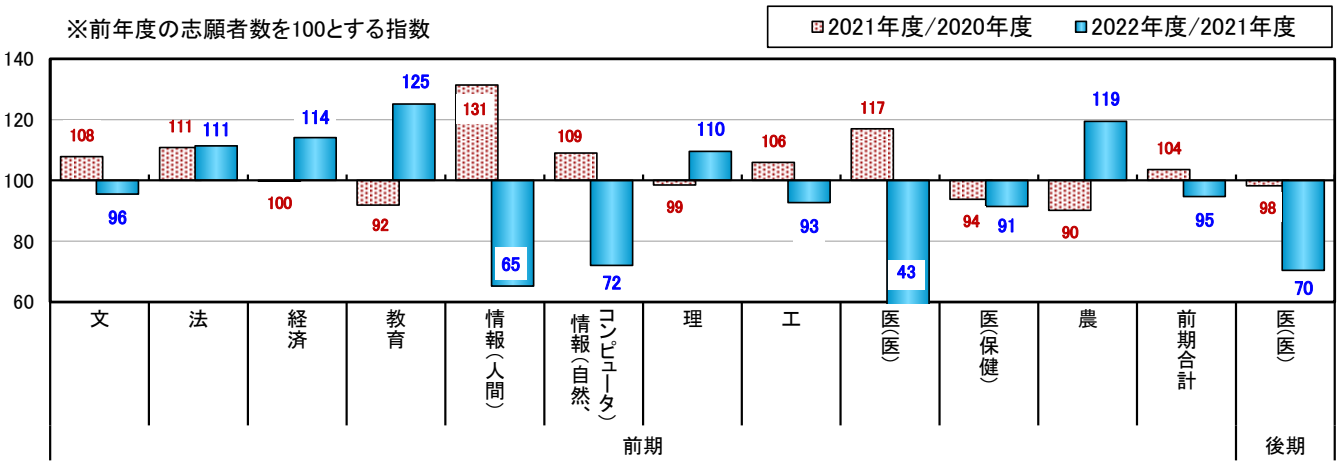
○**法**(108)は、増加で３年連続増加。志願倍率は４つの学部で最も高倍率の 3.5 倍。

○**経済**(68)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 500 人を下回った。志願倍率も 3.6 倍→2.4 倍にダウンし、前年度４つの学部で最も倍率の高かった学部だったのが一転、最も倍率の低い学部になった。

○**商**(125)は、２年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は５年ぶりに 850 人を上回った。

○**社会**(105)は、やや増加。2014 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

名古屋大：前期は文系はやや増加、理系は減少　　前期：−242 人　後期：−16 人



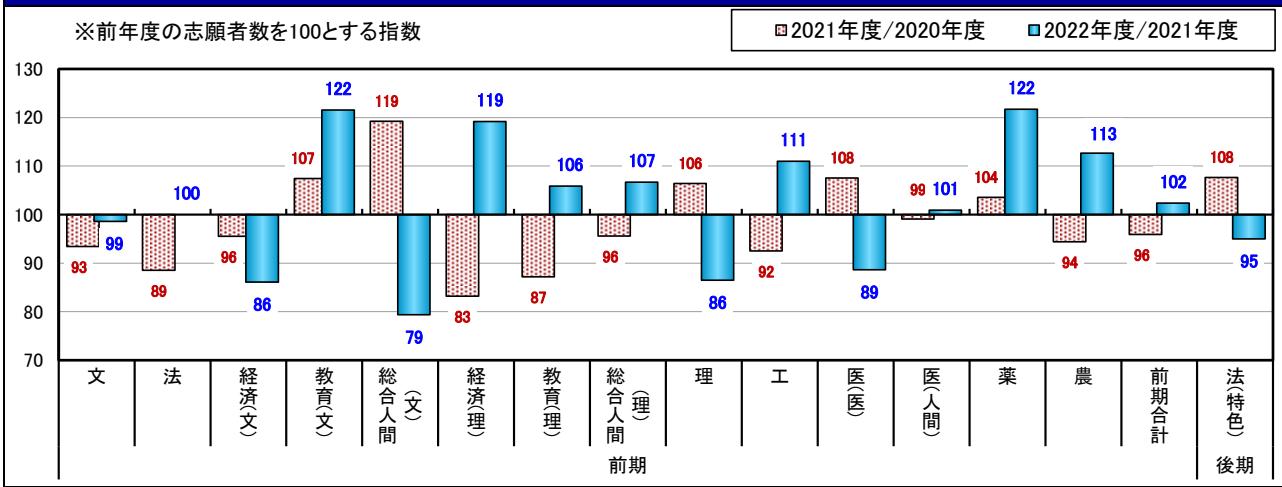
主な入試変更点	２段階選抜実施：医(医)〈前〉…共通テストの成績が 900 点満点中 700 点以上の者 第１段階選抜基準変更：医(医)〈後〉…12 倍(通過予定人数：60 人) →共通テストの成績が 900 点満点中 700 点以上の者 個別試験：農〈前〉…数+理２+外→国+数+理２+外　※国語(現代文)追加

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 242 人(95)のやや減少。文理別では、文系は 65 人(105)のやや増加、理系は 307 人(91)の減少。後期は医(医)(愛知県内枠)のみの募集だが、第１段階選抜を志願倍率による選抜から基準点による選抜への変更を行ったが、共通テストの大幅難化による志望者の得点ダウンにより、基準点をクリアできなかった志望者がいた影響が大きく、16 人(70)の大幅減少。

〈前期日程〉
○**文**(96)は、前年度増加の反動でやや減少。
○**法**(111)は、増加で２年連続増加。
○**経済**(114)は、３年連続減少の反動で増加。
○**教育**(125)は、２年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も 2.7 倍→3.3 倍にアップ。
○**情報**(70)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(自然情報)(56)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人間・社会情報)(65)は大幅減少で前年度の反動による増減が継続、(コンピュータ科学)(88)は減少で２年連続減少。
○**理**(110)は、増加で４年ぶりに増加に転じた。
○**工**(93)は、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(電気電子情報工)(116)が前年度減少の反動、(物理工)(115)は２年連続でいずれも大幅増加。一方で、他の５学科は減少。特に、(エネルギー理工)(52)は前年度大幅増加の反動で半減に近い大幅減少。
○**医(医)**(43)は、前年度大幅増加の反動と、新規に基準点による第１段階選抜を導入したが、共通テストの大幅難化による志望者の得点ダウンにより、基準点をクリアできなかった志望者がいた影響が大きく大幅減少。志願者数は 200 人近く減少し、志願倍率も 3.8 倍→1.7 倍にダウン。
○**医(保健)**(91)は、減少で２年連続減少。専攻別では、(保健／検査技術科学)(116)は大幅増加、(保健／看護)(104)はやや増加。一方で、(保健／放射線技術)(68)は 30%以上の大幅減少、(保健／作業療法)(84)も大幅減少、(保健／理学療法)(89)は減少。
○**農**(119)は、個別試験の科目負担増にもかかわらず、大幅増加で４年ぶりの増加。学科別では、(応用生命科学)(125)は大幅増加。(資源生命科学)(113)は前年度大幅減少の反動、(生物環境科学)(113)は４年連続減少の反動でいずれも増加。

京都大：前期は大学全体では９年ぶりの増加　　前期：+165 人　後期：−19 人



主な入試変更点	第１段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…約 3.0 倍→共通テストの合計が 900 点満点中 630 点以上の者のうちから、募集人員の約３倍

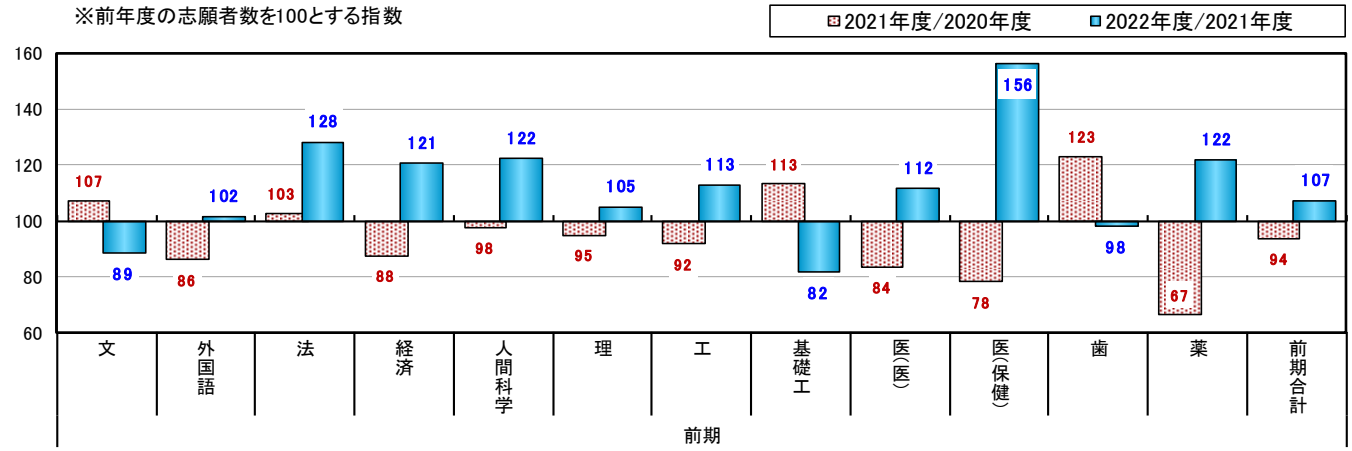
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 165 人(102)の微増だが、９年ぶりの増加。文理別では、文系は 105 人(95)のやや減少で４年連続減少、一方で理系は 270 人(106)のやや増加で８年ぶりの増加。特色入試として実施の法のみ募集の後期は、19 人(95)のやや減少で、前年度の反動による増減が継続。

〈前期日程〉
○**文**(99)は、微減だが３年連続減少。
○**法**(100)は、志願者数は前年度と同数の 701 人。前年度の反動による増減が途切れた。
○**経済**は、**(文系)**(86)は２年連続減少で志願者数は 2016 年度以来の 500 人を下回った。**(理系)**(119)は２年連続減少の反動に加えて、共通テスト難化により、共通テスト：個別試験＝１：2.6 の個別試験重視配点が支持され大幅増加。
○**教育**は、**(文系)**(122)は大幅増加で２年連続増加、**(理系)**(106)は前年度減少の反動でやや増加。
○**総合人間**は、**(文系)**(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、**(理系)**(107)は前年度やや減少の反動でやや増加。
○**理**(86)は、前年度やや増加の反動に加えて、共通テスト難化による慎重な出願により減少。
○**工**(111)は、前年度減少の反動に加えて、共通テストで大幅に難化した数学を合否判定には利用しないことが支持されて増加。学科別では、人気が低い系統の工業化学(95)はやや減少だが、他の５学科は増加し、特に(電気電子工)(126)、地球工(124)は大幅増加、人気が高い系統の情報(114)も 10%を超える増加。
○**医(医)**(89)は、前年度増加の反動と共通テスト難化による慎重な出願の影響により減少、志願者数は４年連続 300 人を下回り、2007 年度に募集を前期一本化した以降では最も少ない志願者数だった。
○**医(人間健康科学)**(101)は、微増だが、５年ぶりの増加。
○**薬**(122)は、コロナ禍の中で人気が上昇した系統であることに加えて、志願者数は３年連続 200 人を下回った反動もあって、大幅増加。
○**農**(113)は、２年連続減少の反動で増加、志願者数も３年ぶりに 700 人を上回った。
○志願倍率の基準による第１段階選抜は、総合人間(理系)、経済(理系)で実施され、それぞれの合格率は 90.3%、84.7%で、経済(理系)が厳しかった。

〈特色入試〉　※〔　〕内は前年度数値
○後期募集の法を除くと、募集人員 145 人〔145 人〕に対して、志願者数は 494 人〔551 人〕、合格者数は 95 人〔118 人〕。志願倍率は 3.4 倍〔3.8 倍〕で 0.4 ポイントダウンした。前年度に続いて、コロナ禍による志願者数の減少が見られた。
○学部・学科・コース・入試方式別の合格者数は以下のとおり。
文…９人〔11 人〕、**経済**…15 人〔17 人〕、**教育**…５人〔５人〕、**総合人間**…５人〔５人〕
理…10 人〔11 人〕（**数理科学入試**４人〔６人〕、**生物科学入試**６人〔５人〕）
工(建築)…１人〔１人〕、**(工業化学)**…３人〔６人〕、**(情報)**…２人〔３人〕、**(電気電子工)**…４人〔６人〕、**(物理工)**…５人〔４人〕、**(地球工)**…１人〔３人〕
医(医)…１人〔２人〕、**(人間健康科学／先端看護科学)**…15 人〔21 人〕、**(人間健康科学／先端リハビリテーション科学－理学療法)**…４人〔５人〕、**(人間健康科学／先端リハビリテーション科学－作業療法)**…３人〔２人〕
薬(薬科学)…１人〔３人〕、**(薬)**…１人〔２人〕
農(食料・環境経済)…２人〔２人〕、**(資源生物科学)**…１人〔２人〕、**(応用生命科学)**…１人〔２人〕、**(地域環境工)**…３人〔２人〕、**(森林科学)**…３人〔３人〕、**(食品生物科学)**…０人〔０人〕

大阪大：大学全体では４年ぶりに増加、減少は３学部のみ　　前期：+510 人



主な入試変更点	第１段階選抜基準変更：基礎工〈前〉…約 3.0 倍→学部全体で約 2.9 倍

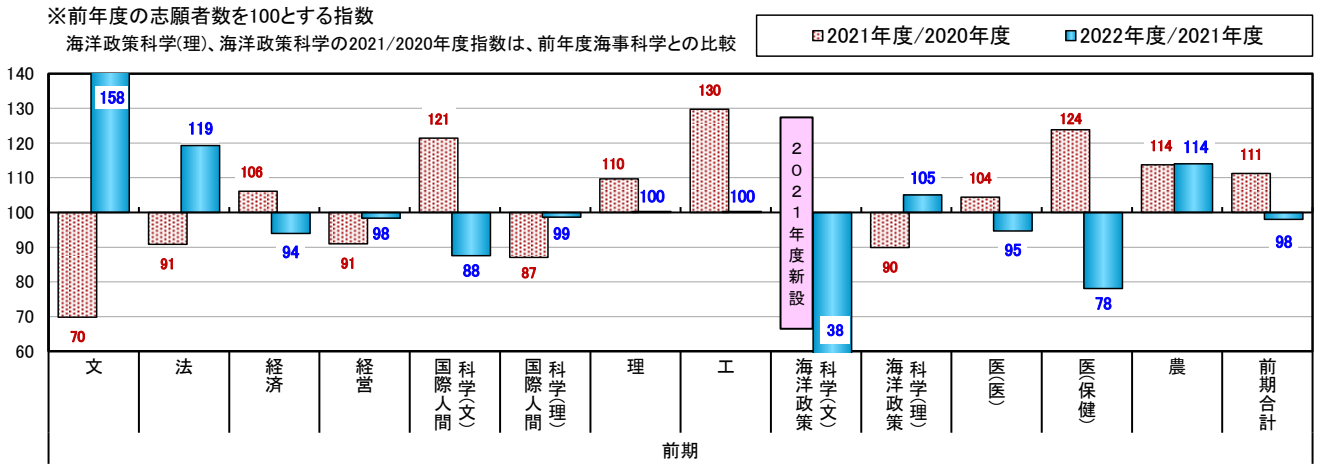
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

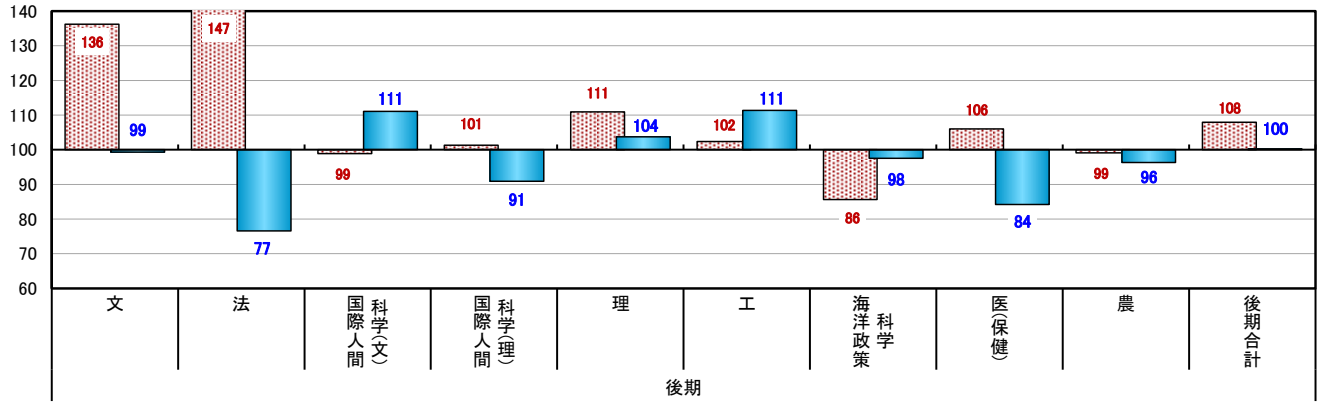
大学全体では、前期のみの募集で 510 人(107)のやや増加で４年ぶりに増加。共通テストの平均点ダウンにより、上位の京都大からの志望変更先として狙われたことと、比較的個別試験が難問なので個別試験での逆転を考える層が、共通テスト重視配点の神戸大への志望変更を行わなかった影響があった。文理別では、文系は 261 人(109)の増加で、理系は 249 人(106)のやや増加。学部別(医は学科別)では、減少したのは３学部のみで、増減が目立ったのは医(保健)(156)、法(128)、人間科学(122)、薬(122)、経済(121)が大幅増加。一方で、基礎工(82)が大幅減少。

〈前期日程〉
○**文(89)**は、２年連続増加の反動で減少。
○**外国語(102)**は、系統への低い人気から前年度減少の反動は小さく微増に留まった。専攻別では、25 専攻中で増加は 12 専攻、減少は 12 専攻、前年度と同人数が１専攻と増減が均等に分かれた。増減が大きかった上位４専攻は、(外国語／デンマーク語)(168)、(外国語／モンゴル語)(155)、(外国語／スウェーデン語)(144)、(外国語／フィリピン語)(143)がいずれも 40%以上の増加、一方で(外国語／アラビア語)(67)、(外国語／日本語)(73)、(外国語／ヒンディー語)(78)、(外国語／イタリア語)(79)はいずれも 20%以上の減少。
○**法(128)**は、大幅増加で２年連続増加。学科別では、系統への人気が高い(法)(128)は大幅増加で２年連続増加。(国際公共政策)(129)は２年連続減少の反動で大幅増加。
○**経済(121)**は、２年連続減少の反動で大幅増加。
○**人間科学(122)**は、３年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は３年ぶりに 300 人を上回った。
○**理(105)**は、やや増加で３年ぶりの増加だが、志願倍率は６年連続で３倍を下回った。学科・コース別では、(生物科学／生命理)(75)のみが前年度大幅増加の反動で大幅減少。他の４つの学科・コースはいずれも増加で、特に(化学)(111)は 10%を超える増加。
○**工(113)**は、前年度減少の反動で増加。学科別では、増加した(電子情報工)(127)、(環境・エネルギー工)(122)、(応用理工)(120)の３学科はいずれも 20%以上の大幅増加。
○**基礎工(82)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、前年度は全ての学科が増加したが、一転して４学科全てが減少した。特に、(システム科学)(76)、(電子物理科学)(79)はいずれも 20%を超える大幅減少。
○**医(医)(112)**は、前年度大幅減少の反動で増加、共通テストの平均点大幅ダウンの中で、共通テスト 500 点：個別試験 1,500 点という個別試験重視配点が個別試験に自信を持つ層に支持されたことも増加要因。この結果、志願倍率は 2.5 倍→2.7 倍にアップし、過去５年間では２番目の高倍率で厳しい入試だった。
○**医(保健)(156)**は、前年度大幅減少の反動で 50%を超える大幅増加。志願倍率は 2.4 倍にアップし、過去５年間で最も高倍率となった。専攻別では、３専攻全てが大幅増加で、特に(保健／放射線技術科学)(207)は倍増以上。
○**歯(98)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。

○**薬**(122)は、前年度は個別試験に小論文と面接を追加したことによる負担増から大幅減少したが、その反動で大幅増加。しかし、志願者数は 200 人台には達しなかった。

神戸大：前期は微減、後期は微増でいずれも前年度並　　前期：−123 人　後期：+10 人





主な入試変更点	募集人員：工(市民工)…〈前〉46 人→49 人、〈後〉15 人→12 人 共通テスト：理(数学)〈前〉…国〈125〉+歴公〈75〉+数２〈50〉+理２〈50〉+外〈75〉=総点〈375〉 →国〈125〉+歴公〈50〉+数２〈60〉+理２〈50〉+外〈75〉=総点〈360〉 〈後〉…国〈125〉+歴公〈75〉+数２〈50〉+理２〈200〉+外〈75〉=総点〈525〉 →国〈125〉+歴公〈50〉+数２〈60〉+理２〈200〉+外〈75〉=総点〈510〉 理(物理)〈前〉…国〈125〉+歴公〈75〉+数２〈50〉+理２〈100〉+外〈75〉=総点〈425〉 →国〈75〉+歴公〈50〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈425〉 個別試験：理(数学)〈前〉…数〈150〉+理２〈150〉+外〈125〉=総点〈425〉 →数〈180〉+理２〈150〉+外〈125〉=総点〈455〉 〈後〉…数〈150〉+外〈125〉=総点〈275〉→数〈180〉+外〈125〉=総点〈305〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 123 人(98)で前年度並。文理別では、文系は 92 人(97)のやや減少、理系は前年度大幅増加の反動はなく 31 人(99)の微減に留まった。後期も前年度増加の反動はなく 10 人(100)の微増で前年度並。文理別では、文系は 77 人(95)のやや減少、理系は 87 人(103)のやや増加で３年連続増加。

〈前期日程〉

○**文**(158)は、前年度大幅減少の反動で 50%以上の大幅増加。志願者数は 250 人を上回った。

○**法**(119)は、前年度減少の反動に加え、系統への高い人気から大幅増加。

○**経済**(94)は、やや減少。方式別では、(数学)(203)は前年度 30%以上大幅減少の反動で倍増。一方で、募集人員が 160 人と最大の(総合)(88)は減少。

○**経営**(98)は、微減で２年連続減少。

○**国際人間科学**(89)は、減少で前年度の反動による増減が継続。募集単位別では、(グローバル文化)(112)は増加、(子ども教育)(104)はやや増加だが、 他の３つの募集単位は減少。特に、(発達コミュニティ)(57)の大幅減少が目立った。

○**理**(100)は、３年連続増加の反動はなく前年度並。学科別では、(惑星)(155) は、前年度大幅減少の反動が大きく 50%以上の大幅増加。共通テスト、個別試験ともに数学の配点が高くなった(数学)(110)は増加。一方、(物理)(68)は大幅減少、(化学)(88)は減少で、いずれも前年度と対照的。

○**工**(100)は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、６学科中３学科で大幅増加。(応用化学)(133)は大幅増加

で２年連続増加。（市民工）(128)は大幅増加で３年連続増加、募集人員も増加(募集人員の前年度対比指数 107)したが、志願倍率は 3.4 倍→4.1 倍と 2017 年度入試以来の高倍率で、競争はさらに激化。一方、（機械工）(74)、（情報知能工）(85)は前年度激増の反動で大幅減少。

○**海洋政策科学(84)**は、大幅減少。（理系科目重視）(105)はやや増加。新設２年目の(文系科目重点)(38)は、前年度の高倍率も影響し激減。

○**医(医)(95)**は、前年度３年連続減少からやや増加に転じたが再び減少し、やや減少。共通テスト 360 点：個別試験 450 点と比較的共通テストの比重が高く、共通テストの難化も影響した。

○**医(保健)(78)**は、前年度大幅増加の反動から大幅減少。専攻別では、理学療法(114)以外の３専攻はいずれも大幅減少。（保健／検査技術科学）(62)、（作業療法）(63)は、40%近い大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。

○**農(114)**は、前年度増加の反動はなく、２年連続増加。学科・コース別では、６つの募集単位全てで増加。特に、（生命機能科学／応用機能生物）(176) は激増、（食料環境システム／食料環境経済）(128)、（食料環境システム／生産環境工）(118)は、前年度大幅増加した反動はなくいずれも２年連続大幅増加。

〈後期日程〉

○**文(99)**は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。

○**法(77)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**国際人間科学(109)**は、増加。募集単位別では、唯一減少の(環境共生(理科系))(91)を除いて、他の４つの募集単位はいずれも増加。（子ども教育）(130)は２年連続大幅増加、（発達コミュニティ）(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、（環境共生(文科系)）(115)は大幅増加で、３年連続増加。

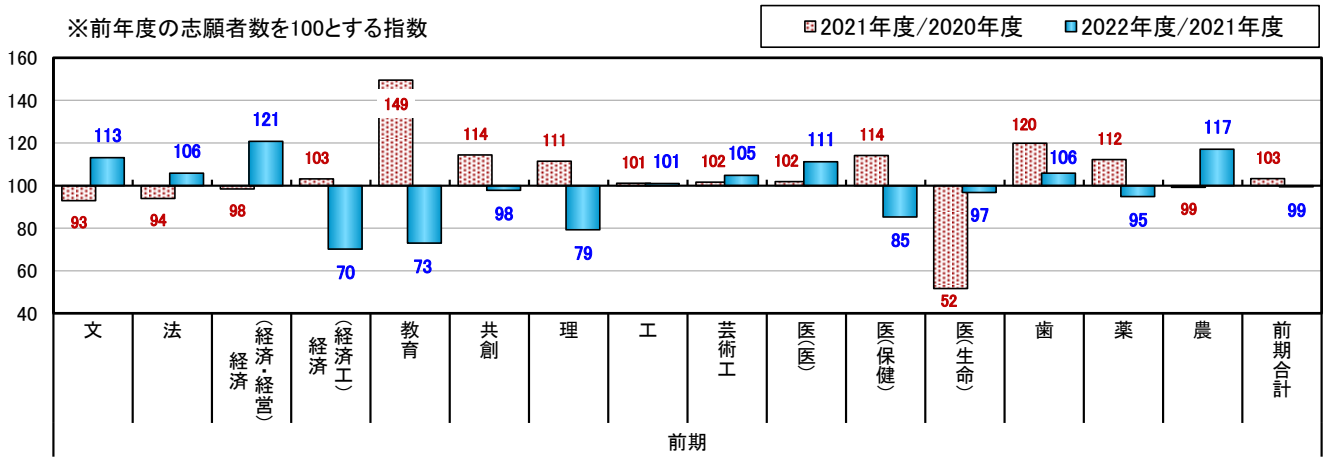
○**理(104)**は、やや増加。学科別では、（化学）(125)は大幅増加で２年連続増加、（惑星）(113)は３年連続減少の反動で増加。一方で、（生物）(78)は大幅減少で２年連続減少、志願者数は 30 人を下回った。

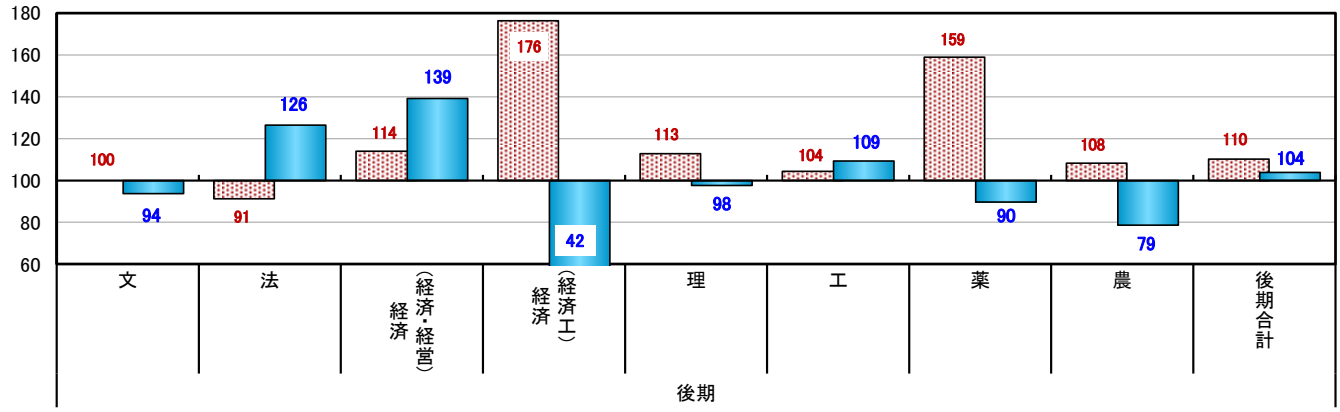
○**工(111)**は、増加で２年連続増加。学科別では、（市民工）(157)は、前年度大幅減少の反動による大幅増加に加え、募集人員も減少(募集人員の前年度対比指数 80)で、志願倍率は 6.6 倍→12.9 倍と競争は激化。（情報知能工）(110)は２年連続増加。一方で、（建築）(95) はやや減少。

○**医(保健)(84)**は、大幅減少。専攻別では、（保健／検査技術科学）(76)は前年度大幅増加の反動が大きく大幅減少、（保健／理学療法）(89)は減少。

○**農(96)**は、やや減少。学科・コース別では、（資源生命科学／応用植物）(120)が大幅増加。（食料環境システム／生産環境工）(109)は増加で、前年度の反動による増減が継続、（食料環境システム／食料環境経済）(107)はやや増加で２年連続増加。一方、（生命機能科学／応用機能生物）(78)は大幅減少で、２年連続減少。

九州大：大学全体では前期は前年度並、後期はやや増加　　前期：−32 人　後期：+95 人





主な入試変更点	募集人員：歯(歯)〈前〉…45 人→37 人 個別試験：芸術工(芸術工／未来構想デザイン)〈前〉

	…数+理２+外　※理：物+(化 or 生)→数+理２+外　※理：(物 or 化 or 生)→２ ※理科の物理が必須から選択へ

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 32 人(99)の前年度並で、前年度の反動は見られなかった。文理別では、文系は 70 人(105)のやや増加、理系は 102 人(97)のやや減少。後期は 95 人(104)のやや増加で、２年連続増加。文理別では、文系は 193 人(124)の大幅増加、理系は 98 人(94)のやや減少。

〈前期日程〉

○**文**(113)は、２年連続減少の反動で増加。

○**法**(106)は、やや増加。2019 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○**経済**(97)は、やや減少。学科別では、(経済・経営)(121)は２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(経済工)(70)は２年連続増加の反動で大幅減少と対照的。

○**教育**(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 100 人を下回り、志願倍率も 3.7 倍→2.7 倍にダウン。

○**共創**(98)は、前年度増加の反動は小さく微減。

○**理**(79)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、５学科全て減少。特に、(生物)(69)、(数学)(73)、(化学)(77)、(地球惑星科学)(84)はいずれも大幅減少。

○**工**(101)は、改組２年目だが前年度並。学科群別では、(建築)の(V 群)(120)は大幅増加で、志願倍率は 2.0 倍→2.5 倍にアップ、2020 年度の旧(建築)の志願倍率に戻った。(船舶海洋工)・(地球資源システム工)・(土木工)含む(IV 群)(114)は増加で志願倍率は 1.5 倍→1.7 倍にアップ。(融合基礎工／機械電気コース)・(機械工)・(航空宇宙工)・(量子物理工)を含む(III 群)(110)も増加で、志願倍率は 2.1 倍→2.3 倍にアップ。一方で、(材料工)・(応用化)・(化学工)・(融合基礎工／物質材料コース)を含む(II 群)(83)は大幅減少、志願倍率は 2.0 倍→1.7 倍にダウン。(電気情報工)の(I 群)(99)は２人の微減で、志願倍率は 2.8 倍で前年度並、2020 年度の旧(電機情報工)の 2.6 倍を上回った。入学時に特定の学科または学科群を選択しない(VI 群)(96)はやや減少、志願倍率は 2.5 倍→2.4 倍とわずかにダウン。

○**芸術工**(105)は、やや増加で２年連続増加。新設３年目の(学科一括)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率も 5.4 倍→3.8 倍にダウン。コース別募集では、５コース中４コースが増加。個別試験で理科の物理が必須から選択となった(芸術工／未来構想デザイン)(141)は大幅増加。(芸術工／メディアデザイン)(133)、(芸術工／音響設計)(123)も大幅増加。一方で、(芸術工／環境設計)(86)は減少。

○**医(医)**(111)は、増加で２年連続増加。なお、第１段階選抜は、志願倍率が 2.79 倍と第１段階選抜基準の 2.5 倍を超えたため実施され、合格率は 89.6%だった。

○**医(保健)**(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。専攻別では、(保健／放射線技術科学)(102)は前年度並。(保健／看護)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(保健／検査技術科学)(86)は減少。

○**医(生命科学)**(97)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。募集人員が少ないので前年度対比指数ではやや減少だが、実志願者数では１人の減少のみ。

○**歯**(106)は、２年連続増加。募集人員が８人減少(募集人員の前年度対比指数 82)なので志願倍率は 3.1 倍→4.0 倍にアップ。

○**薬**(95)は、２年連続増加の反動でやや減少。学科別では、コロナ禍で注目される創薬系の(創薬科学)(107)はやや増加で３年連続増加。一方で、薬剤師養成の(臨床薬)(82)は２年連続増加の反動で大幅減少。

○**農**(117)は、２年連続減少の反動で大幅増加。

〈後期日程〉

○**文**(94)は、やや減少。2015 年以降、前年度の反動による増減が継続。

○**法**(126)は、前年度減少の反動で大幅増加。2016 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○**経済**(103)は、やや増加で３年連続増加。学科別では、(経済・経営)(139)は大幅増加で３年連続増加。なお、第１段階選抜は、志願倍率が 18.31 倍と第１段階選抜基準の７倍を超えたため実施され、合格率は 65.1%と厳しかった。一方で、(経済工)(42)は半減以下の大幅減少で、2012 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○**理**(98)は、前年度増加の反動は小さく微減。学科別では(物理)(140)の大幅増加、(生物)(53)の大幅減少が目立った。

○**工**(109)は、改組２年目だが系統への高い人気もあり２年連続増加。学科群別では、(建築)の(V 群)以外での募集だが、(IV 群)(129)は大幅増加、志願倍率は 6.2 倍→8.0 倍にアップ。(I 群)(124)も大幅増加、志願倍率は 9.0 倍→11.2 倍にアップ、2020 年度の旧(電気情報工)の 8.7 倍も上回った。(III 群)(114)は増加、志願倍率は 8.8 倍→10.0 倍にアップ。(II 群)(108)も増加で、志願倍率は 7.9 倍→8.6 倍にアップ。一方で、入学時に特定の学科または学科群を選択しない(VI 群)(87)は減少。

○**薬**(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。2016 年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(臨床薬)(104)はやや増加で２年連続増加。一方で、(創薬科学)(78)は前年度激増の反動で大幅減少。

○**農**(79)は、２年連続増加の反動で大幅減少。

⑨医学部医学科志願状況

□前期は微増だが２年連続増加、後期も微増だが３年ぶりに増加

〔志願者数推移〕

		2022年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
募集人員	前期	3,636	+32	101	3,604	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614
	後期	363	−45	89	408	454	524	539	541	556	586	611
	合計	3,999	−13	100	4,012	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225
志願者数	前期	15,087	+314	102	14,773	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919
	後期	7,255	+145	102	7,110	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586
	合計	22,342	+459	102	21,883	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505
志願倍率	前期	4.15			4.10	4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51
	後期	19.99			17.43	16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60
	合計	5.59			5.45	5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69

医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増加による既卒受験生の減少などの減少要因がありましたが、コロナ禍で医学への関心の高まりと共に、固い志望動機を持つ医学科志望者の他系統への志望変更が抑制された結果、459 人(102)の微増となりました。

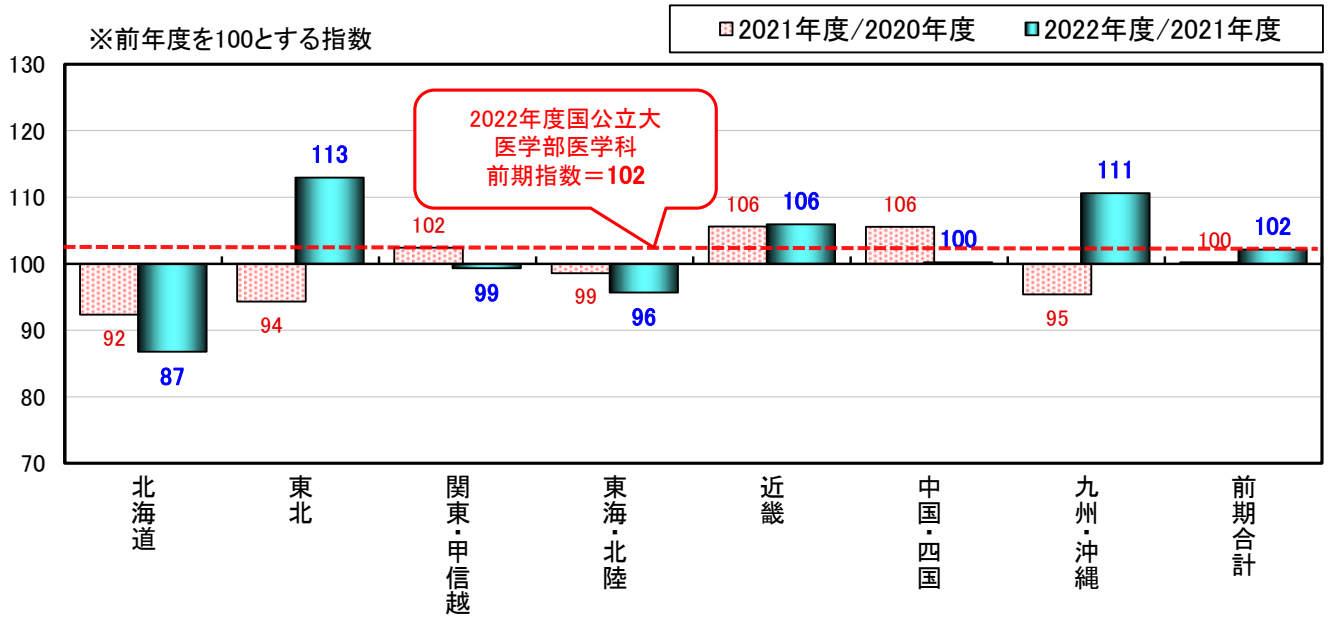
日程別では、前期は 314 人(102)の微増ですが、２年連続増加。後期も 145 人(102)の微増で３年ぶりに増加しました。今年度後期募集を廃止した富山大を除いた大学合計での比較では、(108)と増加しました。この結果、志願倍率は前期が 4.10 倍→4.15 倍と 0.05 ポイントアップに留まりましたが、後期は募集人員が 10%以上減少したこともあって 17.43 倍→19.99 倍と 2.56 ポイントアップとなり、競争が厳しくなりました。

共通テストの数学の平均点大幅ダウンも志願者数に大きな影響がありました。共通テストの数学の配点比率が 20%未満なのは８大学ですが、そのうち５大学で志願者数が増加しました。具体的には、滋賀医科大は 155 人(162)、和歌山県立医科大は 52 人(121)、島根大 38 人(110)、香川大は 138 人(136)、熊本大は 115 人(135)と増加しました。

□前期の地区別では近畿は2年連続やや増加、東北、九州・沖縄が反動で増加

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では 314 人(102)の微増でした。地区別では、近畿(106)は２年連続やや増加で、この地区での医学科人気の高さがうかがえます。東北(113)、九州・沖縄(111)は前年度の反動で増加しました。一方で、北海道

(87)は２年連続減少でコロナ禍による遠距離移動敬遠の影響が続いています。東海・北陸(96)も前年の微減に続きやや減少、関東・甲信越(99)は反動で微減でした。

○北海道(87)：旭川医科大(64)は大幅減少で４年連続増加なし。志願者数は 200 人を下回った。北海道大(93)がやや減少。札幌医科大(102)は微増。

○東北(113)：山形大(160)は５年連続減少の反動で大幅増加。弘前大(141)も２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、秋田大(90)は前年度大幅減少に続いて２年連続減少、福島県立医科大(90)は前年度大幅増加の反動で減少。

○関東・甲信越(99)：群馬大(169)は２年連続減少の反動で激増、新潟大(113)は２年連続減少の反動で増加、東京大(109)は増加で２年ぶりに志願者数が 400 人を上回った。一方で、信州大(80)、筑波大(82)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、千葉大(87)は３年連続増加の反動で減少。横浜市立大(88)は減少したが、この要因は第１段階選抜基準が共通テスト 1000 点満点中 750 点以上という基準点と志願倍率約３倍という２つの基準を併用したが、共通テストの平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことが大きく、さらに理科配点が重くなったことにより現役生に敬遠された。東京医科歯科大(96)はやや減少で２年連続減少。

○東海・北陸(96)：福井大(192)は前年度大幅減少の反動で激増、岐阜大(131)は前年度減少の反動と前期募集人員増加で大幅増加。一方で、名古屋大(43)は第１段階選抜基準が共通テスト 900 点満点中 700 点以上という基準点としたが共通テスト平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことに加えて、出願締切日時点では前年度中止された面接の実施が予定されていたこと、２年連続増加の反動などが重なったことにより半減以上の大幅減少。金沢大(76)は２年連続増加の反動で大幅減少、名古屋市立大(79)は第１段階選抜基準が共通テスト 550 点満点中 390 点以上と、共通テスト後に基準点を概ね 73%以上から概ね 71%以上に引き下げたが、それでも共通テスト平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことに加えて、２年連続増加の反動などが重なったことにより大幅減少。浜松医科大(80)は募集人員枠の変更があったが、２年連続大幅減少。

○近畿(106)：滋賀医科大(162)は激増で２年連続増加、和歌山県立医科大(121)は２年連続大幅増加、大阪大(112)は前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点ダウンによって個別試験重視の配点が影響して増加、京都府立医科大(104)はやや増加で２年連続増加。一方で、大阪公立大(68)は旧大阪市立大との比較で前年度増加の反動で大幅減少、京都大(89)は前年度の反動に加えて共通テスト平均点の大幅ダウンにおる慎重な出願により減少。結果的には、志願倍率は 2.6 倍と第 1 段階選抜実施予告倍率を下回った。奈良県立医科大(93)はやや減少で３年連続減少。

○中国・四国(100)：岡山大(150)は共通テストの配点が 900 点→500 点、個別試験の配点が 1,200 点→1,100 点と個別試験重視に変更になったことから共通テスト失敗組に狙われたことと、前年度やや減少の反動から大幅増加、香川大(136)は前年度大幅増加も後期廃止による募集人員増加で志願倍率が下がったことで、大幅増加で４年連続増加。広島大(125)は前年度微増に引き続き大幅増加、島根大(110)は前年度減少の反動で増加。一方で、鳥取大(60)は大幅減少で４年連続減少、山口大(70)は前年度微減に引き続き大幅減少、愛媛大(73)は３年連続増加の反動で大幅減少、徳島大(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少となり、前年度の反動による増減が継続、高知大(81)は２年連続大幅減少。

○九州・沖縄(111)：大分大(142)は３年連続減少の反動で大幅増加、熊本大(135)は募集人員減少だが２年連続減少の反動で大幅増加、九州大(111)、長崎大(108)、琉球大(108)はいずれも２年連続増加、鹿児島大(107)は２年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、宮崎大(85)は前年度大幅増加の反動と、募集人員減少、個別試験に理科追加の負担増が重なり大幅減少、佐賀大(96)はやや減少で４年連続減少。

〈後期日程〉

後期合計では 143 人(102)の微増で３年ぶりに増加しました。

地区別では、１大学のみの地区では、旭川医科大のみ募集の北海道(221)は前年度大幅減少の反動で２倍以上の激増。山口大のみ募集の中国・四国(212)は２年連続減少の反動で倍増以上の激増。奈良県立医科大のみ募集の近畿(148)は前年度減少の反動で大幅増加し、志願者数が 1,300 人を上回りました。

複数大学の募集がある４地区では増減が目立ったのは、東北(133)、関東甲信越(133)は大幅増加。一方で、東海・北陸(49)は大幅減少、九州・沖縄(92)は減少。

○東北(133)：山形大(183)は２年連続減少の反動で激増。秋田大(111)は２年連続増加。

○関東・甲信越(133)：山梨大(153)、東京医科歯科大(112)はいずれも２年連続減少の反動で増加。一方で、千葉大(93)は募集人員の減少と２年連続増加の反動でやや減少。

○東海・北陸(49)：福井大(124)は前年度大幅減少の反動と近隣の富山大の後期廃止による流入で大幅増加、三重大(116)は２年連続大幅増加。一方で、岐阜大(35)は前年度の激増の反動と募集人員減少で激減、浜松医科大(38)は２年連続激増の反動で激減、名古屋大(70)は第１段階選抜を基準点方式に変更したことで、共通テスト平均点の大幅ダウンの影響を大きく受けて、大幅減少で３年連続減少。

○九州・沖縄(92)：鹿児島大(129)は大幅増加で２年連続増加。一方で、宮崎大(71)は第１段階選抜基準の緩和や個別試験から理科が除外されたが、前年度増加の反動と募集人員減少で大幅減少、琉球大(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、佐賀大(95)は２年連続増加の反動は小さくやや減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点 共テ	配点 個別	志願者数増減 増減数	志願者数増減 指数	2022年度 募集人員	2022年度 志願者数	2021年度 募集人員	2021年度 志願者数	志願倍率 2022年度	志願倍率 2021年度	志願倍率 2020年度	コメント前
北海道	旭川医科大	前		550	350	−101	64	40	178	40	279	4.5	7.0	6.1	大幅減少で4年連続増加なし。志願者数は200人を下回った。
		後		600	250	+121	221	8	221	8	100	27.6	12.5	35.9	志願者数は前年度大幅減少の反動で2倍以上の激増。志願倍率も12.5倍→27.6倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は43.9%だった。
	北海道大	前		300	525	−23	93	97	315	101	338	3.2	3.3	3.6	やや減少で2年連続減少。 ※募集人員はフロンティア入試の欠員分の5人を含む(2021年度4人)。
	札幌医科大	前		700	700	−1	98	91	51	20	52	3.1	2.6	2.9	一般枠は微減で、先進研修連携枠はやや増加。募集人員増で志願倍率は3.7倍→3.1倍にダウン。 ※募集人員は学校推薦型選抜の欠員分の16人を含む。
			先進研修連携枠			+7	103		229	55	222		4.0	4.8	
東北	弘前大	前		1000	500	+85	151	50	253	50	168	5.1	3.4	4.9	**<変更点>募集人員:(青森県定着枠)15人⇒20人** 一般枠、青森県定着枠ともに、2年連続減少の反動で大幅増加。青森県定着枠は募集人員増で志願倍率は6.4倍→6.0倍にダウン。
			青森県定着枠			+23	124	20	119	15	96	6.0	6.4	5.5	
	東北大	前		250	950	−1	100	77	242	77	243	3.1	3.2	3.3	志願者数は前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は95.5%だった。
	秋田大	前		550	400	−24	90	55	220	55	244	4.0	4.4	6.6	前年度の大幅減少に続いて2年連続減少。志願倍率も4.4倍→4.0倍にダウン。
		後		700	300	+28	109	20	340	20	312	17.0	15.6	16.9	一般枠は増加で、志願倍率は15.6倍→17.0倍にアップ。2年目の秋田県地域枠は大幅増加で、志願倍率も9.5倍→12.5倍にアップ。
			秋田県地域枠	450	250	+12	132	4	50	4	38	12.5	9.5		
	山形大	前		900	700	+136	164	65	350	65	214	5.4	3.3	4.2	5年連続減少の反動で大幅増加。一般枠は激増で、志願倍率も3.3倍→5.4倍にアップ。別枠募集2年目の地域枠も3.4倍→4.5倍にアップ。
			地域枠			+9	133	8	36	8	27	4.5	3.4		
		後		900	100	+122	183	15	269	15	147	17.9	9.8	12.8	2年連続減少の反動で激増。志願倍率も9.8倍→17.9倍にアップ。
	福島県立医科大	前		650	660	−33	89	49	277	50	310	5.7	6.2	3.9	**<変更点>募集人員:50人⇒49人** 前年度大幅増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は86.0%だった。
			地域枠			−11	91	30	109	30	120	3.6	4.0	2.4	
関東・甲信越	筑波大	前		900	1400	−25	84	44	133	44	158	3.0	3.6	2.4	**<変更点>出願資格:** **<地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に1年以上居住している者** **⇒<地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に3年以上居住している者** 一般枠は前年度大幅増加の反動で大幅減少。地域枠は茨城県枠は前年度と同じだったがと全国枠は大幅減少で志願倍率も1.8倍→0.6倍にダウン。
			茨城県枠			±0	100	8	30	8	30	3.8	3.8	4.4	
			全国枠			−12	33	10	6	10	18	0.6	1.8	1.7	
	群馬大	前		450	450	+120	173	65	284	65	164	4.4	2.5	2.6	一般枠は2年連続減少の反動で激増。志願倍率も2.5倍→4.4倍にアップ。地域医療枠は前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.6%だった。
			地域医療枠			+10	142	6	34	6	24	5.7	4.0	5.5	
	千葉大	前		450	1000	−74	78	82	257	82	331	3.1	4.0	3.4	**<変更点>募集人員:(地域枠)15人⇒20人** 一般枠は大幅減少、地域枠は激増と対照的。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は一般枠で95.7%、地域枠で84.5%だった。
			地域枠			+27	161	20	71	15	44	3.6	2.9	5.7	
		後		450	1000	−32	93	15	401	15	388	26.7	25.9	18.7	**<変更点>募集人員:(地域枠)5人⇒0人** やや減少だが、地域枠廃止で募集人員減となり、志願倍率は21.7倍→26.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は64.1%だった。
			地域枠							5	45		9.0	18.6	
	東京大	前		110	440	+36	109	97	421	97	385	4.3	4.0	4.3	前年度やや減少の反動で増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.8%だった。
	東京医科歯科大	前		180	360	−13	96	79	303	79	316	3.8	4.0	4.2	やや減少で2年連続減少。
		後		500	200	+18	112	10	168	10	150	16.6	15.0	16.8	2年連続減少の反動で増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は72.3%だった。

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度	
関東・甲信越	横浜市立大	前		1000	1400	−32	88	58	228	58	260	3.3	3.7	3.2	＜変更点＞〈個〉数〈400〉+理2〈400〉+外〈400〉 =総点〈1,200〉 ⇒数〈400〉+理2〈600〉+外〈400〉 =総点〈1,400〉 第1段階選抜基準が共通テスト1,000点満点中750点以上という基準点と志願倍率約3倍という2つの基準を併用したが、共通テストの平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志望者がいたことと、理科の配点変更が重なったことにより減少。2段階選抜が実施され、合格最低点は741.4点と基準が緩和されたが、第1段階選抜の合格率は79.4%だった。
			地域枠					10		10					
			診療科枠					2		2					
	新潟大	前		750	1200	+40	113	80	347	80	307	4.3	3.8	4.3	2年連続減少の反動で増加。志願倍率も3.8倍→4.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.2%だった。
	山梨大	後		1100	1200	+564	153	90	1621	90	1057	18.0	11.7	12.3	2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も11.7倍→18.0倍にアップ。
	信州大	前		450	600	−93	80	95	383	95	476	4.0	5.0	3.9	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。
東海・北陸	富山大	前		900	700	+4	102	70	218	60	214	3.1	3.6	4.1	＜変更点＞募集人員:60人⇒70人 2年連続減少の反動は小さく微増に留まった。後期廃止による募集人員増で志願倍率は3.6倍→3.1倍にダウン。
		後								20	378		18.9	15.1	＜変更点＞募集人員:20人⇒0人
	金沢大	前		450	1050	−76	76	84	244	84	320	2.9	3.8	3.7	2年連続増加の反動で大幅減少。
	福井大	前		900	700	+177	192	55	370	55	193	6.7	3.5	4.7	前年度大幅減少の反動で激増。志願倍率も3.5倍→6.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.3%だった。
		後		450	220	+77	124	25	397	25	320	15.9	12.8	15.7	前年度大幅減少の反動と、富山大の後期廃止による流入で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.3%だった。
	岐阜大	前		900	1200	+109	131	45	466	37	357	10.4	9.6	11.1	＜変更点＞募集人員:37人⇒45人 〈共テ〉:国〈100〉+歴公〈100〉+数2〈200〉 +理2〈200〉+外〈200〉 =総点〈800〉 ⇒国〈200〉+歴公〈100〉 +数2〈200〉+理2〈200〉 +外〈200〉=総点〈900〉 前年度減少の反動と募集人員増加で大幅増加。
		後		450	1200	−736	35	10	405	25	1141	40.5	45.6	25.8	＜変更点＞募集人員:25人⇒10人 〈共テ〉:国〈50〉+歴公〈50〉+数2〈100〉 +理2〈100〉+外〈100〉 =総点〈400〉 ⇒国〈100〉+歴公〈50〉 +数2〈100〉+理2〈100〉 +外〈100〉=総点〈450〉 前年度激増と、募集人員減少で65%の激減。募集人員減少だが、志願倍率も45.6倍→40.5倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は37.3%だった。
	浜松医科大	前		450	700	−50	83	68	242	64	292	3.6	4.6	4.7	＜変更点＞募集人員:(一般枠)〈前〉64人、〈後〉15人 ⇒〈前〉68人、〈後〉14人 (地域医療枠)〈前〉11人 ⇒〈前〉7人、〈後〉1人 2年連続大幅減少。特に地域枠は41%減少。
			地域枠			−16	59	7	23	11	39	3.0	3.5	8.6	
		後		900	350	−222	38	14	127	15	357	9.1	23.8	14.1	2年連続激増の反動で激減。地域枠が復活したが、志願者数は2020年度の3分の1。
			地域枠					1	8			8.0		24.0	

地区	大学	日程	方式	配点 共テ	配点 個別	志願者数増減 増減数	志願者数増減 指数	2022年度 募集人員	2022年度 志願者数	2021年度 募集人員	2021年度 志願者数	志願倍率 2022年度	志願倍率 2021年度	志願倍率 2020年度	コメント前
東海・北陸	名古屋大	前		900	1650	−195	43	90	150	90	345	1.7	3.8	3.3	＜変更点＞2段階選抜新規実施: 共通テストの成績が900点満点中700点以上の者 〈個〉国+数+理2+外+書類審査 ⇒国+数+理2+外+面 ※コロナ禍対応として出願締切後(2/9)、面→書類審査へ 第1段階選抜基準が共通テスト900点満点中700点以上という基準点としたが、共通テストの平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志望者がいたことと、出願締切時点では面接の実施が予定されていたこと、2年連続大幅増加の反動などが重なったことにより半減以上の大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は90.7%だった。
		後	愛知県内	900	0	−16	70	5	38	5	54	7.6	10.8	11.0	＜変更点＞第1段階選抜基準変更: 12倍(通過予定人数:60人) ⇒共通テストの成績が900点満点中700点以上の者 第1段階選抜の基準を共通テスト900点満点中700点以上に変更したが、共通テストの平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志望者がいたことにより大幅減少で3年連続減少。
	三重大	前		600	700	−11	97	70	390	70	401	5.2	5.3	4.0	2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。
			医療枠					5		5					
		後		600	300	+30	116	10	213	10	183	21.3	18.3	12.1	2年連続大幅増加、志願倍率も18.3倍→21.3倍にアップ。
	名古屋市立大	前		550	1200	−44	79	60	164	60	208	2.7	3.5	2.8	＜変更点＞第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が550点満点中概ね75%以上 ⇒共通テストの合計が550点満点中概ね73%以上 ※概ね73%→概ね71%以上にさらに緩和(1月20日発表) 第1段階選抜基準が共通テスト550点満点中390点以上という基準点を共通テスト後に概ね73%→概ね71%に引き下げたが、平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志望者がいたことと、2年連続増加の反動などが重なったことにより大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.1%だった。
近畿	滋賀医科大	前		600	600	+98	150	55	295	55	197	5.4	3.6	3.2	前年度5年連続減少の反動で増加したが、さらに大幅増加で2年連続増加。3年目の地域枠は倍増以上で志願倍率も10.6倍→22.0倍の大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は86.4%だった。
			地域枠	600	600	+57	208	5	110	5	53	22.0	10.6	13.6	
	京都大	前		250	1000	−34	89	106	265	105	299	2.5	2.8	2.6	＜変更点＞第1段階選抜基準変更: 約3倍⇒共通テストの合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍まで 前年度の反動に加えて、共通テストの平均点大幅ダウンによる慎重な出願により志願者が減少。 ※募集人員は特色入試の欠員分の4人を含む(2021年度3人)。
	大阪大	前		500	1500	+27	112	95	260	95	233	2.7	2.5	2.9	前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点大幅ダウンによって個別試験重視の配点が影響して増加。
	神戸大	前		360	450	−14	95	92	247	92	261	2.7	2.8	2.7	前年度3年連続減少からやや増加したが再び減少し、やや減少。共通テストの配点比が比較的高いことも影響。
	京都府立医科大	前		450	600	+10	104	100	287	100	277	2.9	2.8	2.5	やや増加で2年連続増加。
	大阪公立大 ※2021年度以前は旧大阪市立大	前		650	800	−72	68	75	153	75	225	1.9	2.8	2.6	＜変更点＞旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合 旧大阪市立大との比較で、前年度増加の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.9%だった。
			指定枠					5		5					
	奈良県立医科大	前		450	450	−10	93	22	143	22	153	6.5	7.0	7.4	やや減少で3年連続減少。
		後		300	900	+423	148	53	1311	53	888	24.7	16.8	18.3	前年度減少の反動と近畿地区で唯一の後期募集で狙われて大幅増加。志願倍率も16.8倍→24.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は57.1%だった。
	和歌山県立医科大	前		600	700	+52	121	64	295	64	187	3.7	2.9	2.0	2年連続大幅増加で、志願倍率も2.2倍→3.1倍→3.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.1%だった。
			医療枠					15		15	56		3.7	2.7	

地区	大学	日程	方式	配点 共テ	配点 個別	志願者数増減 増減数	志願者数増減 指数	2022年度 募集人員	2022年度 志願者数	2021年度 募集人員	2021年度 志願者数	志願倍率 2022年度	志願倍率 2021年度	志願倍率 2020年度	コメント前
中国	鳥取大	前		900	700	−145	60	58	214	58	359	2.7	4.5	4.9	4年連続減少で、志願倍率も11.1倍→8.8倍→4.9倍→4.5倍→2.7倍とダウン。
			鳥取県枠					14		14					
			兵庫県枠					2		2					
			島根県枠					5		5					
	島根大	前		700	460	+27	107	55	390	55	363	7.1	6.6	7.8	一般枠は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。定着枠は前年度やや増加に引き続き大幅増加で、志願倍率も8.7倍→9.0倍→12.7倍にアップ。
			定着枠			+11	141	3	38	3	27	12.7	9.0	8.7	
	岡山大	前		500	1100	+181	150	98	540	98	359	5.5	3.7	3.8	＜変更点＞<共テ>国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<900>⇒国<100>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<100>=総点<500><個>数<400>+理2<400>+外<400>=総点<1,200>⇒数<400>+理2<300>+外<400>=総点<1,100>共通テストの配点が900点→500点、個別試験の配点が1,200点→1,100点と個別試験重視に変更となったことから共通テスト失敗組に狙われたことと、前年度やや減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.9%だった。
	広島大	前		900	1800	+126	125	90	621	90	495	6.9	5.5	5.4	前年度微増に引き続き大幅増加。志願倍率も5.5倍→6.9倍とアップ。
	山口大	前		900	600	−92	70	55	214	55	306	3.9	5.6	5.6	前年度微減に引き続き大幅減少。志願倍率も5.6倍→3.9倍にダウン。
		後		900	500	+238	212	7	450	7	212	45.0	21.2	21.4	2年連続減少の反動と中国・四国地区で唯一の後期募集で狙われて倍増以上の増加。志願倍率も21.2倍→45.0倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は33.3%だった。
			地域枠					3		3					
四国	徳島大	前		900	400	−41	81	64	171	64	212	2.7	3.3	2.4	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.6%だった。
	香川大	前		700	700	+138	136	70	520	70	382	6.6	4.8	4.9	前年度大幅増加も後期廃止による募集人員増加で志願倍率が下がったことで、大幅増加で4年連続増加。志願倍率も4.8倍→6.6倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.8%だった。
			地域枠					9		9					
	愛媛大	前		450	700	−142	73	55	389	55	531	7.1	9.7	7.7	3年連続増加の反動で大幅減少。志願者数も400人を下回った。
	高知大	前		900	1000	−44	84	55	225	55	269	4.1	4.9	6.8	2年連続大幅減少。志願倍率も一般枠で6.8倍→4.9倍→4.1倍、地域枠で5.0倍→5.0倍→2.6倍にダウン。
			地域枠			−12	52	5	13	5	25	2.6	5.0	5.0	
九州・沖縄	九州大	前		450	700	+31	111	110	307	110	276	2.8	2.5	2.5	前年度微増で引き続き増加し、志願者数は300人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は89.6%だった。
	佐賀大	前		630	400	−10	96	50	232	50	242	4.6	4.8	5.4	やや減少で4年連続減少。
		後		630	280	−12	95	10	227	10	239	22.7	23.9	21.5	2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は73.1%だった。
	長崎大	前		450	800	+35	108	76	457	76	422	6.0	5.6	3.7	前年度大幅増加に引き続き増加で、志願倍率も3.7倍→5.6倍→6.0倍とアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.2%だった。
	熊本大	前		400	800	+115	135	87	447	90	332	5.1	3.7	5.4	2年連続減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は87.7%だった。
	大分大	前		450	550	+75	142	55	253	55	178	3.9	2.7	4.4	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.7倍→3.9倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は77.9%だった。
			地元枠					10		10					

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度	
九州・沖縄	宮崎大	前		900	600	−44	85	45	252	50	296	5.6	5.9	4.5	＜変更点＞募集人員:50人⇒45人 〈個〉数+外+面 ⇒数+理2+外+面 ※理:物or化or生 前年度大幅増加の反動と、募集人員減少、個別試験科目の負担増が重なり大幅減少。
		後		900	150	−115	71	15	282	20	397	18.8	19.9	18.0	＜変更点＞第1段階選抜基準変更: 約10倍(通過予定人数:約200人) ⇒約14倍(通過予定人数:約210人) 募集人員:20人⇒15人 〈個〉理+外+面　※理:化 ⇒外+面 第1段階選抜基準の緩和や個別試験科目の削減があったが、前年度増加の反動と募集人員減少で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.1%だった。
	鹿児島大	前		900	920	+17	107	69	266	69	249	3.9	3.6	4.8	2年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
		後		900	320	+84	129	23	375	23	291	16.3	12.7	11.3	大幅増加で2年連続増加。志願倍率も11.3倍→12.7倍→16.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は49.1%だった。
	琉球大	前		900	800	+26	108	70	340	70	314	4.9	4.5	3.8	2年連続増加で、志願倍率も3.8倍→4.5倍→4.9倍にアップ。
		後		1000	300	−61	85	25	352	25	413	14.1	16.5	12.8	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
広島大	621 (90)	山梨大	1621 (90)
岡山大	540 (98)	奈良県立医科大	1311 (53)
香川大	520 (79)	山口大	450 (10)
岐阜大	466 (45)	岐阜大	405 (10)
長崎大	457 (76)	千葉大	401 (15)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
奈良県立医科大	143 (22)	名古屋大	38 (5)
名古屋大	150 (90)	浜松医科大	135 (15)
大阪公立大	153 (80)	東京医科歯科大	168 (10)
名古屋市立大	164 (60)	三重大	213 (10)
筑波大	169 (62)	旭川医科大	221 (8)

※(　)内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。
※大阪公立大は旧大阪市立大との比較

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
岡山大	+181	山梨大	+564
福井大	+177	奈良県立医科大	+423
滋賀医科大	+155	山口大	+238
山形大	+145	山形大	+122
香川大	+138	旭川医科大	+121

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
名古屋大	−195	岐阜大	−736
鳥取大	−145	浜松医科大	−222
愛媛大	−142	宮崎大	−115
旭川医科大	−101	琉球大	−61
信州大	−93	千葉大	−32

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
岐阜大	10.4	山口大	45.0
島根大	7.4	岐阜大	40.5
愛媛大	7.1	旭川医科大	27.6
広島大	6.9	千葉大	26.7
滋賀医科大	6.8	奈良県立医科大	24.7

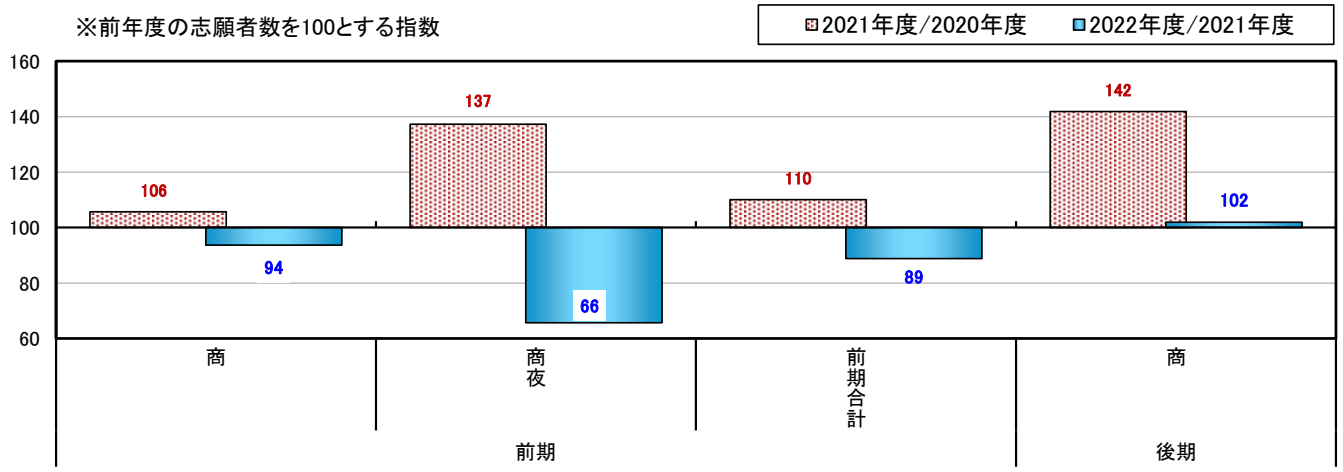
〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
名古屋大	1.7	名古屋大	7.6
大阪公立大	1.9	浜松医科大	9.0
京都大	2.5	琉球大	14.1
徳島大	2.7	福井大	15.9
神戸大	2.7	秋田大	16.3
鳥取大	2.7	鹿児島大	16.3
筑波大	2.7		
名古屋市立大	2.7		
大阪大	2.7		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。
※大阪公立大は旧大阪市立大との比較

⑩大学別志願状況

小樽商科大：前期は反動減、後期は微増だが２年連続増加　　前期：-90 人　後期：+8人



COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

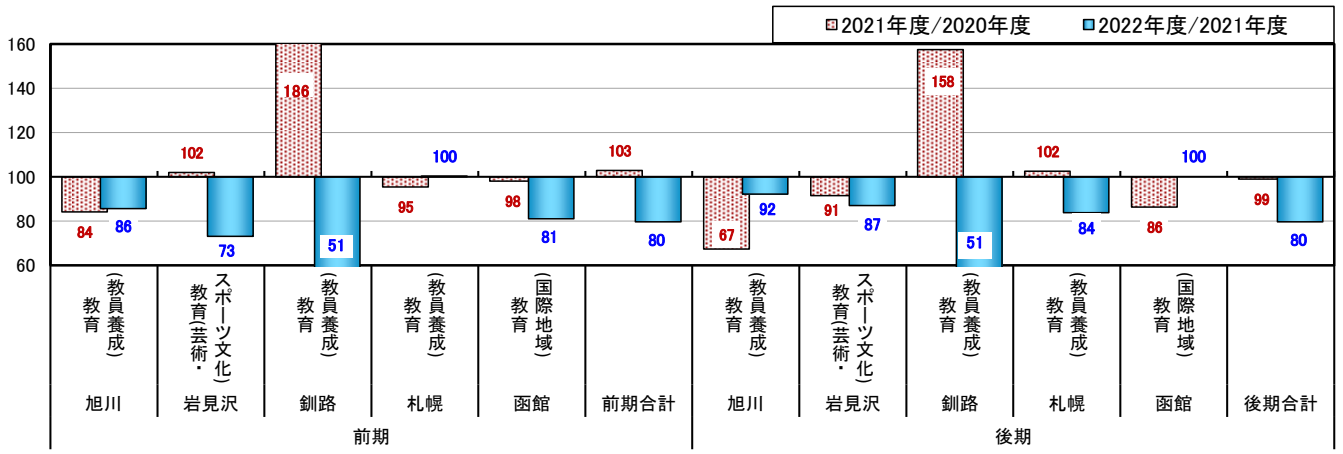
大学全体では、82 人(93)のやや減少で前年度大幅増加の反動は小さかった。日程別では、前期は前年度増加の反動で 90 人(89)の減少。夜間主コースを除くと 42 人(94)のやや減少。後期は昼間コースのみの募集だが、前年度大幅増加の反動はなく８人(102)の微増で、志願者数は 400 人を２年連続上回った。

〈前期日程〉

○商(94)は、前年度やや増加の反動でやや減少。2017 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○商夜(66)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 7.0 倍→4.6 倍にダウン。2019 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

北海道教育大：大学全体では系統への低い人気で、前期、後期ともに大幅減少　　前期：-319 人　後期：-388 人



主な入試変更点	選抜方法：岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化／美術文化)〈前〉〈後〉…コース別募集→専攻一括募集 個別試験：岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化／美術文化)〈前〉…ポートフォリオの提出→実 ※2021 年度は新型コロナウイルスの影響で当初予定の論+面+実を取りやめ (芸術・スポーツ文化／美術文化)〈後〉…ポートフォリオの提出→面+実 ※2021 年度は新型コロナウイルスの影響で当初予定の論+面+実を取りやめ (芸術・スポーツ文化／芸術・スポーツビジネス)〈前〉…面→面+実 〈後〉…面〈400〉→面〈700〉 札幌校・教育(教員養成／芸術体育ー図画工作・美術教育)〈前〉 …面〈150〉+実〈250〉=総点〈400〉→面〈200〉+実〈200〉=総点〈400〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、707 人(80)の大幅減少、系統への低い人気に加えて、コロナ禍による移動の敬遠から北海道内の札幌を除いた地方における極端な地元志向が緩和された影響もあった。日程別では、前期は 319 人(80)の大幅減少。志願者数は 1,300 人を下回った。修学校別では、釧路校(51)は前年度激増の反動でほぼ半減。岩見沢校(73)、函館校(81)も大幅減少。後期は 388 人(80)の大幅減少で３年連続減少。修学校別では、釧路校(51)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。札幌校(84)も大幅減少。

〈前期日程〉

○**旭川校・教育(教員養成)(86)**は、前年度大幅減少に引続き減少。専攻・分野別では 10 専攻・分野中、増減が５専攻・分野ずつに分かれた。特に、(教員養成／芸術・保健体育－音楽)(188)は、前年度半減の反動で 90%近い激増。(教員養成／英語)(171)は前年度激減の反動で激増。一方で、(教員養成／国語)(44)は前年度減少に引き続き大幅減少。(教員養成／教育発達)(51)は４年連続増加の反動でほぼ半減。

○**岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化)(73)**は、大幅減少で志願者数は 200 人を下回った。専攻・コース別では、(芸術・スポーツ文化／音楽文化－音楽教育・音楽文化)(200)は倍増で唯一増加した。一方で、他の６専攻・コースはいずれも減少。特に、(芸術・スポーツ文化／スポーツ文化-アウトドア・ライフ)(30)は前年度激増の反動で激減。また、(芸術・スポーツ文化／美術文化)(77)は専攻一括募集に変更になり募集人員が増加(募集人員の対前年度対比指数 163)したが、前年度のコース別の志願者合計と比較すると大幅減少。

○**釧路校・教育(教員養成)(51)**は、前年度激増の反動でほぼ半減。志願倍率は 5.1 倍→2.6 倍にダウン。

○**札幌校・教育(教員養成)(100)**は、１人増加で前年度並。専攻・分野別では、９専攻・分野中５専攻・分野が増加。(教員養成／特別支援)(200)は前年度大幅減少の反動で倍増。(教員養成／理数)(120)、(教員養成／芸術体育－保健体育)(118)、(教員養成／学校)(116)はいずれも大幅増加。一方で、減少した４専攻・分野では(教員養成／生活創造)(71)は大幅減少で２年連続減少。(教育養成／養護教育)(74)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。(教員養成／言語・社会)(81)は２年連続大幅減少。

○**函館校・教育(国際地域)(81)**は、大幅減少で５年連続減少。専攻・グループ別では、(国際地域／地域協働－地域環境科学)(131)は、２年連続大幅増加。(国際地域／地域協働－地域政策)(115)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(国際地域／地域教育)(26)は前年度激増の反動で減少率 70%以上の激減。

〈後期日程〉

○**旭川校・教育(教員養成)(92)**は、減少で２年連続減少。専攻別では、後期募集を行う７専攻中２専攻が増加。(教員養成／英語)(213)は２年連続大幅減少の反動で倍増以上。(教員養成／理科)(158)は、前年度激減だった反動で 60%近い大幅増加。一方で、(教員養成／国語)(52)は２年連続でほぼ半減。(教員養成／社会科)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(教員養成／教育発達)(82)は２年連続大幅減少。

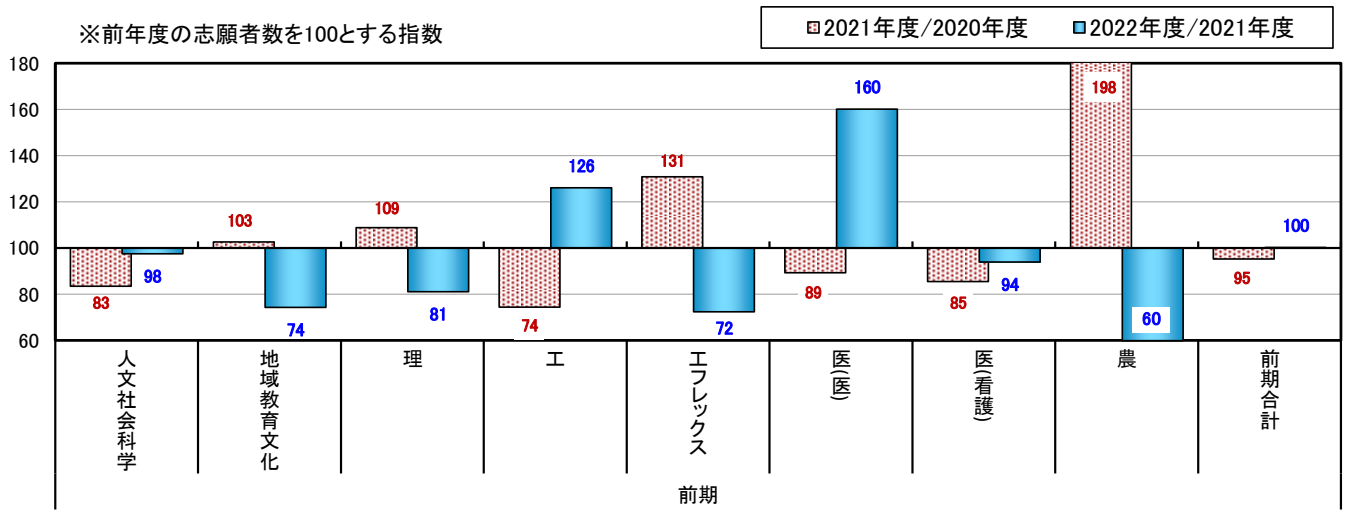
○**岩見沢校・教育(芸術・スポーツ文化)(87)**は、２年連続減少。専攻・コース別では、(芸術・スポーツ文化／スポーツ文化－スポーツ・コーチング科学)(153)は前年度大幅減少の反動で 50%以上の大幅増加。一方で、(芸術・スポーツ文化／スポーツ文化－アウトドア・ライフ)(46)は前年度激増の反動で半減以下。(芸術・スポーツ文化／芸術・スポーツビジネス)(49)も半減以下。(芸術・スポーツ文化／音楽文化－音楽教育・音楽文化)(62)は前年度増加の反動で大幅減少。また、(芸術・スポーツ文化／美術文化)(86)は専攻一括募集に変更になり、募集人員が減少(募集人員の対前年度対比指数 60)したこともあり減少だが、志願倍率は 3.5 倍→5.0 倍にアップ。

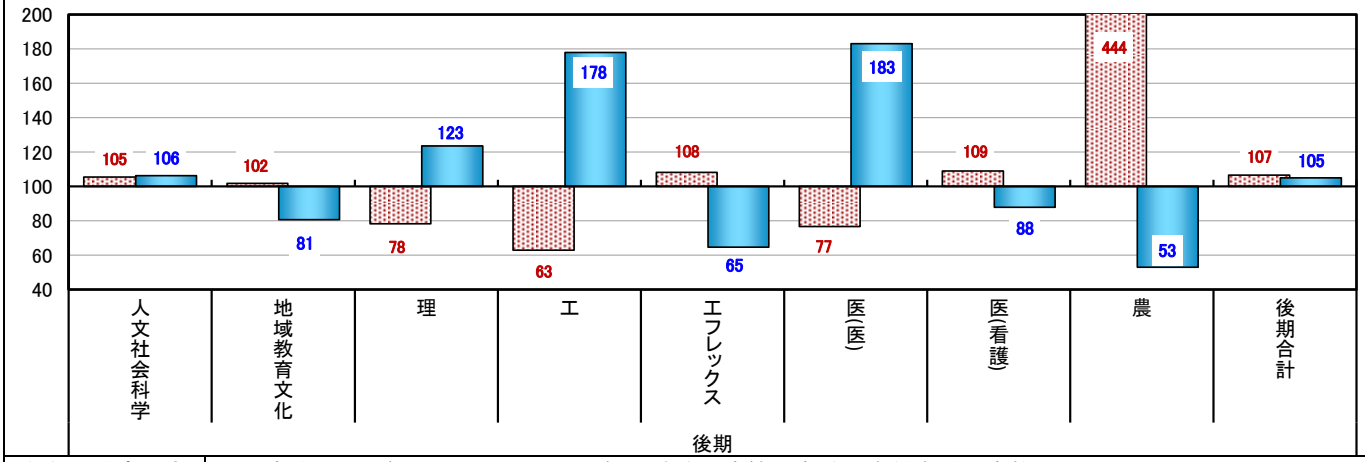
○**釧路校・教育(教員養成)(51)**は、前年度 60%近い大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 300 人を下回った。

○**札幌校・教育(教員養成)(84)**は、大幅減少。志願者数は４年連続 280 人台で推移していたが 250 人を下回った。専攻別では、後期募集を行う６専攻で増減が３専攻ずつに分かれた。(教員養成／学校)(136)、(教員養成／特別支援)(129)、(教員養成／理数)(115)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(教員養成／言語・社会)(56)は３年連続増加の反動で 40%以上の大幅減少。(教員養成／生活創造)(63)、(教員養成／養護)(67)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**函館校・教育(国際地域)(100)**は、４年連続減少の反動はなく、志願者数は前年度と同数。専攻・グループ別では、４専攻・グループ中で増減が２専攻・グループずつに分かれた。(国際地域／地域協働－地域政策)(114)は前年度大幅減少の反動で増加。(国際地域／地域協働－地域環境科学)(109)は増加で２年連続増加。一方で、(国際地域／地域教育)(64)は前年度増加の反動で大幅減少。

山形大：前期は５年連続減少の反動はなく微増、後期は２年連続増加　前期：+５人　後期：+72 人





主な入試変更点	選抜方法：理〈前〉…共通テスト及び個別試験の成績の合計の高得点順に合格とする →個別試験において同一の科目を受験した全受験者のうち、個別試験の成績順上位５％以内の者、又は個別の得点率が 90％以上の者を合格とする。その後、他の受験者については共通テスト及び個別試験の成績の合計の高得点順に合格とする 募集人員：人文社会科学（人文社会科学／人間文化）…〈前〉53 人→55 人、〈後〉7 人→10 人 個別試験：地域教育文化（地域教育文化／児童教育）〈前〉…外+論→外+総合問題 〈後〉…論→総合問題 理〈前〉…数 or 理　※理：物 or 化 or 生 or 地学 →数 or 理 or 総合問題　※理：物 or 化 or 生　※総合問題は地球科学に関する問題

COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は５人（100）の微増に留まり、５年連続減少の反動はなかった。エフレックス（72）を除くと（102）の微増。後期は 72 人（105）の２年連続やや増加。エフレックス（65）を除くと（108）の増加。

〈前期日程〉

○**人文社会科学（98）**は、微減で３年連続減少。学科・コース別では、いずれも減少で、（人文社会科学／グローバル・スタディーズ）（93）はやや減少で２年連続減少、（人文社会科学／総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」）（98）、（人文社会科学／人間文化）（99）はいずれも微減。

○**地域教育文化（74）**は、大幅減少。学科別・コース別では、いずれも減少で、（地域教育文化／文化創生）（69）は前年度増加の反動で大幅減少、（地域教育文化／児童教育）（80）も大幅減少で３年連続減少。

○**理（81）**は、前年度増加の反動で大幅減少。2017 年度の改組後初めて志願者数が 300 人を下回った。

○**工（126）**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、（化学・バイオ工／バイオ化学工学）（234）、（高分子・有機材料工）（179）、（化学・バイオ工／応用化学・化学工学）（159）はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、（建築・デザイン）（44）は前年度 2.5 倍増以上の反動で減少率 50％以上の大幅減少、（情報・エレクトロニクス／電気・電子通信）（74）は２年連続大幅減少。

○**医（医）（160）**は、５年連続減少の反動で激増。志願倍率は 3.3 倍→5.3 倍にアップ。

○**医（看護）（94）**は、やや減少で３年連続減少。

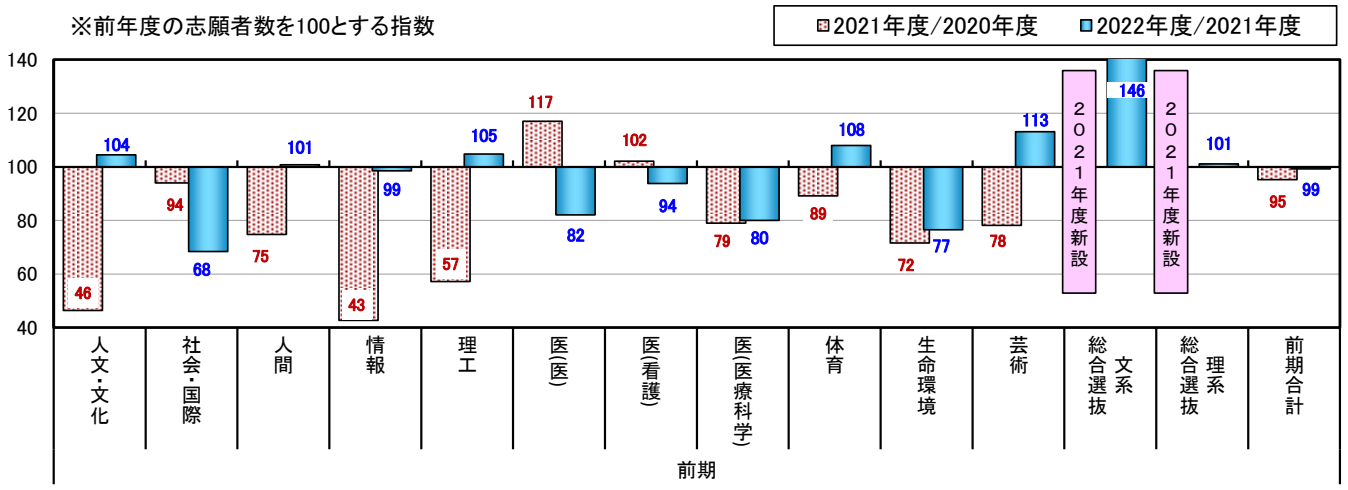
○**農（60）**は、前年度ほぼ倍増の反動で大幅減少。

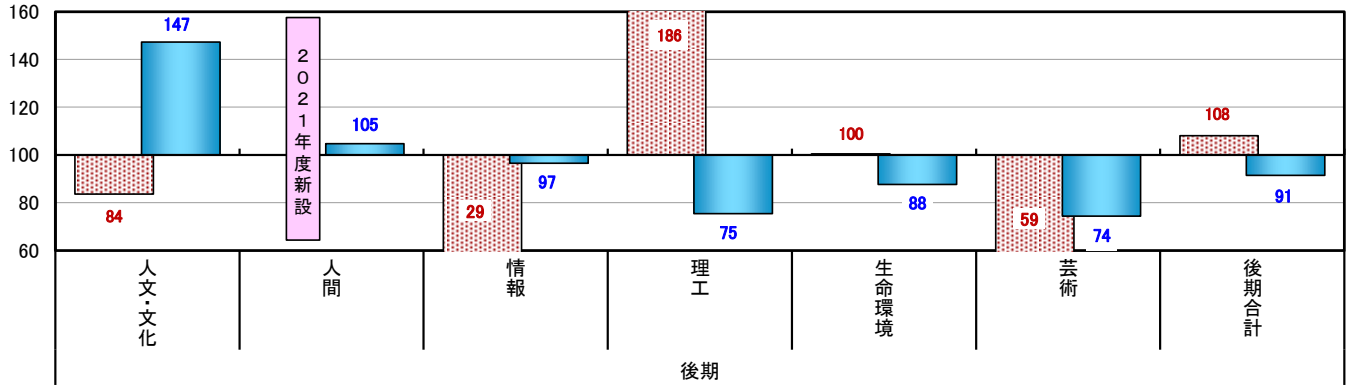
〈後期日程〉

○**人文社会科学（106）**は、２年連続やや増加。学科・コース別では、いずれも増加で、（人文社会科学／総合法律・地域公共政策・「経済・マネジメント」）（107）はやや増加で２年連続増加、（人文社会科学／人間文化）（105）は募集人員増加（前年度募集

人員対比指数 143)もありやや増加で 2017 年度の改組後初めての増加。ただし、志願倍率は 11.3 倍→8.3 倍にダウンし、競争は緩和。
○**地域教育文化(81)**は、大幅減少。学科・コース別では、(地域教育文化／文化創生)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(地域教育文化／児童教育)(88)は減少で３年連続減少。
○**理(123)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
○**工(178)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2017 年度の改組以降は大幅増減が継続。学科・コース別では、いずれも大幅増加で、(情報・エレクトロニクス／情報・知能)(235)、(情報・エレクトロニクス／電気・電子通信)(193)、(化学・バイオ工／バイオ化学工学)(183)、(機械システム工)(179)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増、(建築・デザイン)(213)は２年連続大幅減少の反動で倍増以上、(化学・バイオ工／応用化学・化学工学)(139)は２年連続大幅増加。
○**医(医)(183)**は、２年連続減少の反動で激増。志願倍率は 9.8 倍→17.9 倍にアップ。
○**医(看護)(88)**は、３年連続増加の反動で減少。
○**農(53)**は、前年度４倍増以上の反動でほぼ半減。志願倍率も 13.8 倍→7.3 倍にダウン。

筑波大：前期は前年度並、後期は前年度の反動で減少　　前期：-33 人　後期：-131 人





主な入試変更点	※コロナ禍対策のため、一般選抜個別試験での調査書を用いた主体性等評価(調査書点数化)を見送り、調査書配点を除いた総点で選抜。 出願資格：医(医)<地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に１年以上居住している者 →<地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に３年以上居住している者 第１段階選抜基準変更：芸術<後>…約６倍(通過予定人数：約 30 人)→約 10 倍(通過予定人数：約 50 人)

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

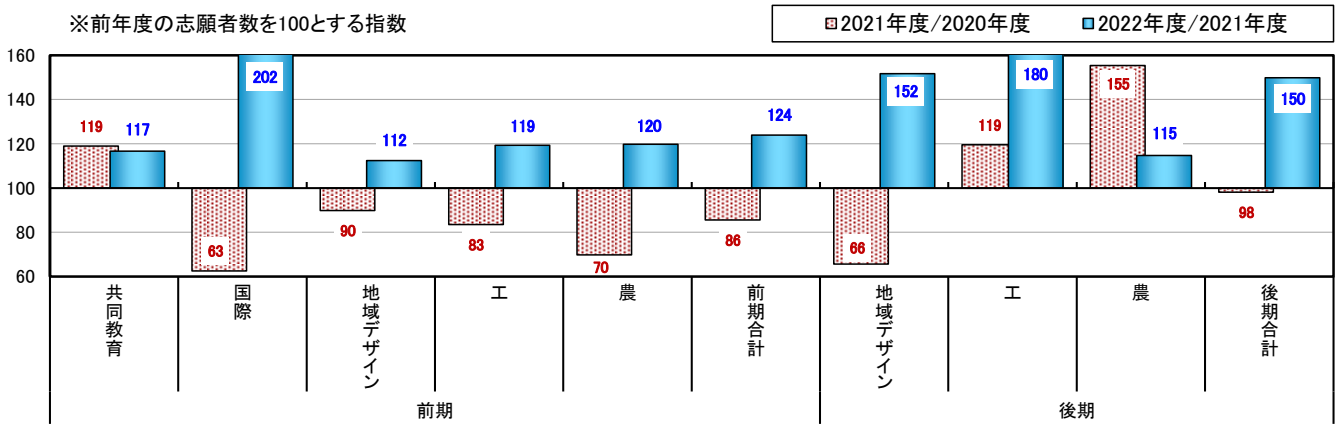
大学全体では、前期は 33 人(99)の微減で３年連続減少、ただし減少率は毎年縮小。後期は、前年度増加の反動で 131 人(91)の減少、2018 年度以降は前年度の反動による増減が継続。学群(医は学類)・選抜別では、前期は、総合選抜(文系)(146)は大幅増加。一方で、社会・国際(68)、生命環境(77)、医(医療科学)(80)、医(医)(82)が大幅減少。後期は、人文・文化(147)が大幅増加。一方で、芸術(74)、理工(75)が大幅減少。

<前期日程>
○**人文・文化(104)**は、やや増加に留まり、前年度半減以下だった反動は小さかった。
○**社会・国際(68)**は、大幅減少で３年連続減少。学類別では、(社会)(54)は、大幅減少で 2017 年度以降は前年度の反動による増減が継続。国際総合(109)は増加だが、２年連続減少の反動は小さかった。
○**人間(101)**は、前年度並で前年度大幅減少の反動は小さかった。学類別では，(障害科学)(245)は前年度 60%を超える激減の反動で激増。一方で、教育(80)、心理(81)はいずれも大幅減少。
○**情報(99)**は、微減で４年連続減少。前年度半減以下だった反動はなかった。学類別でも(情報メディア創成)(97)は４年連続

減少、(情報科学)(99)は３年連続減少。
○**理工(105)**は、前年度大幅減少の反動はなく、やや増加に留まった。学類別では、６学類のうち、(数学)(51)のみが半減近い大幅減少で、(応用理工)(120)は大幅増加、(物理)(111)、(社会工)(110)、(工学システム)(108)は増加。(化学)(100)は前年度並。
○**医(医)(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 2013 年度の後期廃止以来最少。
○**医(看護)(94)**は、やや減少で 2016 年度以降前年度の反動による増減が継続。志願者数は３年連続 100 人を下回った。
○**医(医療科学)(80)**は、２年連続大幅減少で志願者数は 40 人を下回った。志願倍率も 3.0 倍→2.4 倍にダウン。
○**体育(108)**は、系統への人気回復もあり３年ぶりに増加。
○**生命環境(77)**は、２年連続大幅減少。募集人員(前年度募集人員対比指数 103)の増加もあり、志願倍率は 3.0 倍→2.2 倍にダウン。学類別では、募集人員が約 20%増加の(生物)(147)のみが大幅増加で志願倍率も 2.3 倍→2.8 倍にアップだが、(生物資源)(66)、(地球)(68)はいずれも大幅減少で、特に(生物資源)は６年連続減少。
○**芸術(113)**は、増加で３年ぶりに増加。志願倍率は 2.4 倍→2.8 倍にアップ。
○実施２年目の**総合選抜文系(146)**は、周知が進んだこともあり大幅増加。志願倍率は 2.3 倍→3.3 倍にアップ。
○実施２年目の**総合選抜理系(101)**は、前年度並。募集単位別では、数学重視の(理系 III)(115)は大幅増加。一方で、均等配点の(理系 II)(78)は大幅減少。物理必須の(理系Ⅰ)(102)は前年度並と増減が分かれた。

〈後期日程〉
○**人文・文化(147)**は、大幅増加で３年ぶりに増加。志願倍率は 11.8 倍→17.3 倍にアップ。
○後期募集２年目の**人間(105)**は、やや増加。学類別では、(障害科学)(177)は激増で、志願倍率は 4.3 倍→7.7 倍にアップ。
○**情報(97)**は、前年度から(知識・図書館)(97)のみの募集となり、前年度 70%を超える激減に続いてやや減少。志願者数は３年連続 100 人を下回った。
○**理工(75)**は、前年度から(物理)(化学)の後期募集が始まったことで大幅増加したが反動で大幅減少。後期募集を継続していた３学科合計でも大幅減少で、共通テスト難化の影響が見られた。学類別でも、全ての学類で減少し、(応用理工)(57)、(化学)(62)、(物理)(78)、(工学システム)(83)は大幅減少、(社会工)(86)は減少。
○**生命環境(88)**は、減少。志願倍率は 6.6 倍→5.8 倍にダウン。学類別では、(生物)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(地球)(85)は２年連続大幅減少。一方で、(生物資源)(108)は、前年度減少の反動で増加。
○**芸術(74)**は、２年連続大幅減少で３年連続減少。第１段階選抜基準を緩和したが、前年度志願倍率が 13.3 倍→23.4 倍に大幅アップしたことから敬遠され、志願倍率は 23.4 倍→17.4 倍にダウン。なお、第１段階選抜合格者数は 55 人で、ほぼ予告通り実施された。

宇都宮大：前期は 2020 年度比でもやや増加、後期は共テ難化で大幅増加　前期：+281 人　後期：+208 人



主な入試変更点	共通テスト：共同教育(学校教育教員養成／教育人間科学、人文社会)〈前〉…国+歴公２+数２+理基２+外→国+歴公２+数+外+(理・理基２) (学校教育教員養成／自然科学)〈前〉…国+歴公+数２+外+｛理２or(理+理基２)｝→国+歴公+数２+理２+外 (学校教育教員養成／芸術・生活・健康)〈前〉…国+歴公+数+理基２+外→国+歴公+数+外+(理・理基２) 地域デザイン科学(建築都市デザイン、社会基盤デザイン)〈前〉〈後〉 …国+歴公+数２+理２+外　※数：数 Ior 数Ⅰ・数Aor 数 IIor 数 II・数B →国+歴公+数２+理２+外　※数：数Ⅰ・数A+数 II・数B `個別試験：全学部〈前〉…コロナ禍対策として、個別試験実施無し→2020 年度までと同様に実施

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

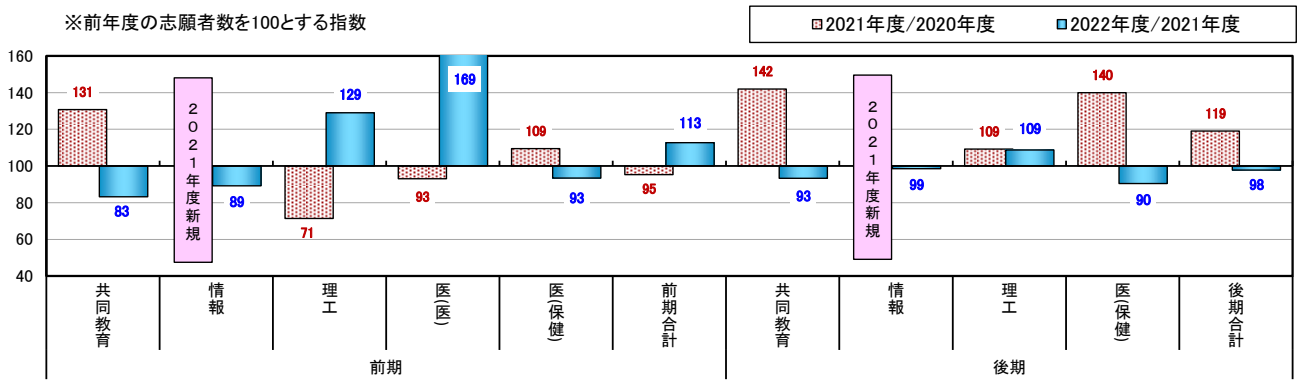
大学全体では、前期は前年度コロナ禍対策による個別試験を実施しなかったことにより減少したが、個別試験の実施を 2020 年度以前に戻したことで、281 人(124)の大幅増加で、志願者数は 1,400 人を上回った。個別試験を実施した 2020 年度対比でも６%の増加。学部別では、国際(202)、農(120)、工(119)、共同教育(117)はいずれも大幅増加。後期は 208 人(150)の大幅増加。共通テストの平均点ダウンの影響で、前期の目標ラインの高い大学からの併願先として狙われた。

〈前期日程〉
○**共同教育(117)**は、前年度は個別試験を実施しなかったが、提出課題を課したのでその影響はなく、2020 年度の大幅減少の反動で大幅増加だったが、今年度も引き続き大幅増加。系別では、(学校教育教員養成／教育人間科学)(205)は倍増以上、(学校教育教員養成／自然科学)(112)は増加、(学校教育教員養成／人文社会)(107)はやや増加。一方で、(学校教育教員養成／芸術・生活・健康)(90)は減少。

○**国際**(202)は、前年度大幅減少の反動で２倍以上の激増。個別試験を実施した 2020 年度対比でも 26%の大幅増加。
○**地域デザイン**(112)は、増加だが、個別試験を実施した 2020 年度対比では２人のみの微増。学科別では、(建築都市デザイン)(153)は大幅増加だが、個別試験を実施した 2020 年度対比では２人のみの微増。一方で、(社会基盤デザイン)(91)は減少、(コミュニティデザイン)(94)はやや減少。
○**工**(119)は、大幅増加だが、個別試験を実施した 2020 年度対比では２人のみの微減。
○**農**(120)は、大幅増加だが、個別試験を実施した 2020 年度対比では 16%の大幅減少。学科別では、(生物資源科学)(143)、(農業環境工)(140)、(農業経済)(124)、(森林科学)(118)は大幅増加だが、個別試験を実施した 2020 年度対比で増加したのは(生物資源科学)の 15%の大幅増加のみ。一方で、(応用生命化)(75)は大幅減少で３年連続減少。

〈後期日程〉
○**地域デザイン**(152)は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、３学科全てが増加で、(建築都市デザイン)(342)は前年度激減の反動で約 3.5 倍増、志願倍率は 3.0 倍→10.3 倍へ大幅アップ。(社会基盤デザイン)(213)は２年連続大幅減少の反動で倍増以上、(コミュニティデザイン)(101)は前年度並。
○**工**(180)は、２年連続大幅増加。４年ぶりに志願者数は 200 人を上回った。
○**農**(115)は、２年連続大幅増加。学科別では、(応用生命化)(221)は倍増以上、(農業環境工)(121)は２年連続大幅増加、(生物資源科学)(105)はやや増加で２年連続増加。一方で、(農業経済)(86)は２年連続大幅増加の反動で減少。

群馬大：前期は７年ぶりに増加も志願者数は 1,500 人台　　前期：+178 人　後期：−26 人



主な入試変更点	共通テスト：共同教育(学校教育教員養成／人文社会、教育人間科学)〈前〉…国+歴公２+数+外+(理・理基２) →国+歴公２+数+外+(理・理基２)　※歴公の地歴が選択から必須へ (学校教育教員養成／自然科学－数学、技術)〈前〉…国+歴公+数２+理+外　※数：数 Ior 数Ⅰ・数 A+数 IIor 数Ⅱ・数 B →国+歴公+数２+理２+外　※数：数Ⅰ・数 A+数Ⅱ・数 B (学校教育教員養成／自然科学－理科)〈前〉…国+歴公+数２+外+{理２or(理+理基２)}　※数：数 Ior 数Ⅰ・数 A+数 IIor 数Ⅱ・数 B →国+歴公+数２+理２+外　※数：数Ⅰ・数 A+数Ⅱ・数 B (学校教育教員養成／芸術・生活・健康－家政、保健体育)〈前〉…国+歴公２+数+外+(理・理基２) →国+歴公+数+外+(理・理基２)

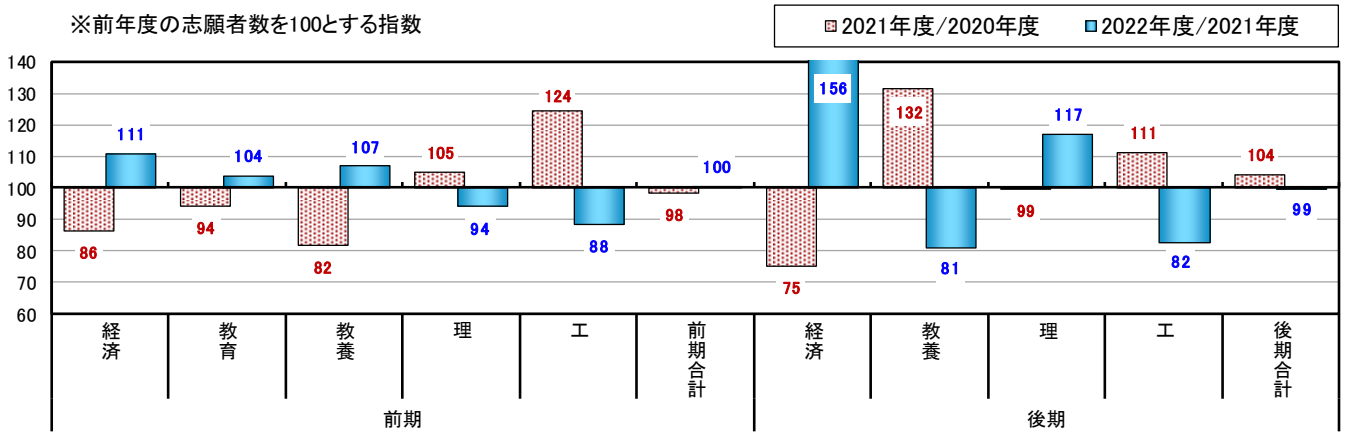
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 178 人(113)の増加で７年ぶりに増加だが、志願者数は 1,600 人には届かなかった。後期は前年度大幅増加の反動はなく、26 人(98)の微減。

〈前期日程〉
○**共同教育**(83)は、系統への低い人気に加えて、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別では、13 募集単位中８募集単位が減少。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、(学校教育教員養成／自然科学－理科)(97)を除いた 12 募集単位が 20%以上の増減。特に、(学校教育教員養成／教育人間科学－教育)(30)は前年度 2.3 倍増の反動で激減。志願倍率は 7.7 倍→2.3 倍に大幅ダウン。(学校教育教員養成／自然科学－技術)(43)は前年度３倍増の反動と共通テストの科目負担増が影響し、大幅減少。志願倍率は 5.0 倍→2.2 倍にダウン。一方で、(学校教育教員養成／芸術・生活・健康－美術)(163)は激増。(学校教育教員養成／教育人間科学－特別支援教育)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(学校教育教員養成／人文社会－国語)(122)は大幅増加で２年連続増加。
○**情報**(89)は、学部改組後２年目だが減少で、志願倍率は 3.0 倍→2.7 倍にダウン。
○**理工**(129)は、学科改組後２年目だが大幅増加。類別では、いずれも増加。特に、(物質・環境)(149)は 50%近い大幅増加。志願倍率は、1.5 倍→2.3 倍にアップ。
○**医(医)**(169)は、２年連続減少の反動で激増。志願倍率は 2.6 倍→4.5 倍にアップ。学科全体で志願倍率が３倍を超えたために２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 67.6%だった。出願区分別では、(一般枠)(173)２年連続減少の反動で激増、志願倍率も 2.5 倍→4，4 倍にアップ。(地域医療枠)(142)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願倍率も 4.0 倍→5.7 倍にアップ。
○**医(保健)**(93)は、やや減少。専攻別では、(保健／理学療法学)(159)は前年度 40%以上の大幅減少の反動で大幅増加。(保健／作業療法学)(115)は大幅増加で２年連続増加。一方で、(保健／検査技術科学)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(保健／看護学)(96)はやや減少で３年連続減少。

〈後期日程〉
○**共同教育**(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。募集単位別では、10 募集単位中 7 募集単位が減少。特に、(学校教育教員養成／芸術・生活・健康－家政)(34)は前年度大幅増加の反動で激減。志願倍率は 10.7 倍→3.7 倍にダウン。(学校教育教員養成／芸術・生活・健康－保健体育)(56)、(学校教育教員養成／自然科学－技術)(60)は大幅減少で、いずれも前年度大幅増加の反動。一方で、(学校教育教員養成／自然科学－理科)(215)は激増で 2 年連続大幅増加。志願倍率は 8.7 倍→18.7 倍に大幅アップ。(学校教育教員養成／芸術・生活・健康－美術)(163)も 2 年連続大幅増加。
○**情報**(99)は、学部改組後 2 年目だが微減。志願倍率も 8.7 倍→8.5 倍とほぼ同じ。
○**理工**(109)は、学科改組後 2 年目だが増加。類別では、(物質・環境)(169)は大幅増加で、志願倍率は 5.0 倍→8.4 倍にアップ。一方で、(電子・機械)(63)は大幅減少で、志願倍率は 10.1 倍→6.3 倍にダウンと対照的。
○**医(保健)**(90)は、前年度大幅増加の反動で減少、2019 年度以降大幅な増減が継続。専攻別では、4 専攻全てが減少。(保健／作業療法学)(71)は大幅減少、(保健／理学療法学)(89)、(保健／検査技術科学)(92)は減少でいずれも前年度激増の反動。

埼玉大：大学全体では前期、後期ともに志願者数は前年度並　　前期：+10 人　後期：−18 人



主な入試変更点	選抜方法：教育(学校教育教員養成／小学校－実技－体育)、(学校教育教員養成／中学校－言語文化－国語)、 (学校教育教員養成／中学校－身体文化－保健体育)…総合点が同点の場合は同順位とする →面の満点(50 点)の 20%(10 点)に達しない者は、総合点の如何にかかわらず不合格となる 募集人員：経済〈一般選抜枠〉…〈前〉210 人→195 人 個別試験：教育(学校教育教員養成／小学校－実技－体育)、(学校教育教員養成／中学校－身体文化－保健体育)〈前〉…実→面+実 教育(学校教育教員養成／中学校－言語文化－国語)〈前〉…国→国+面

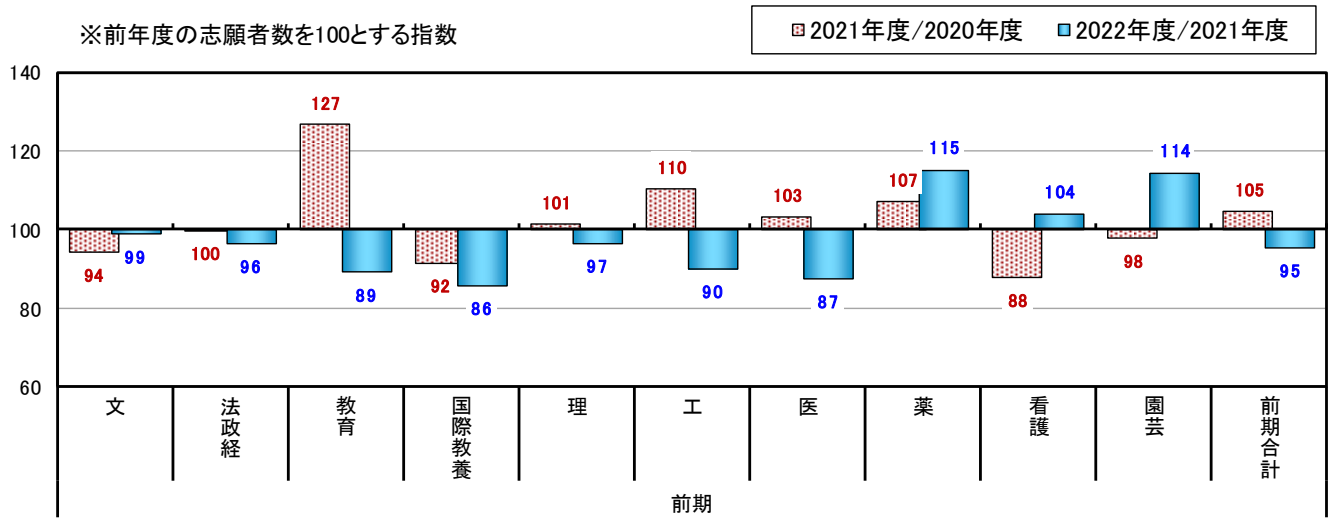
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

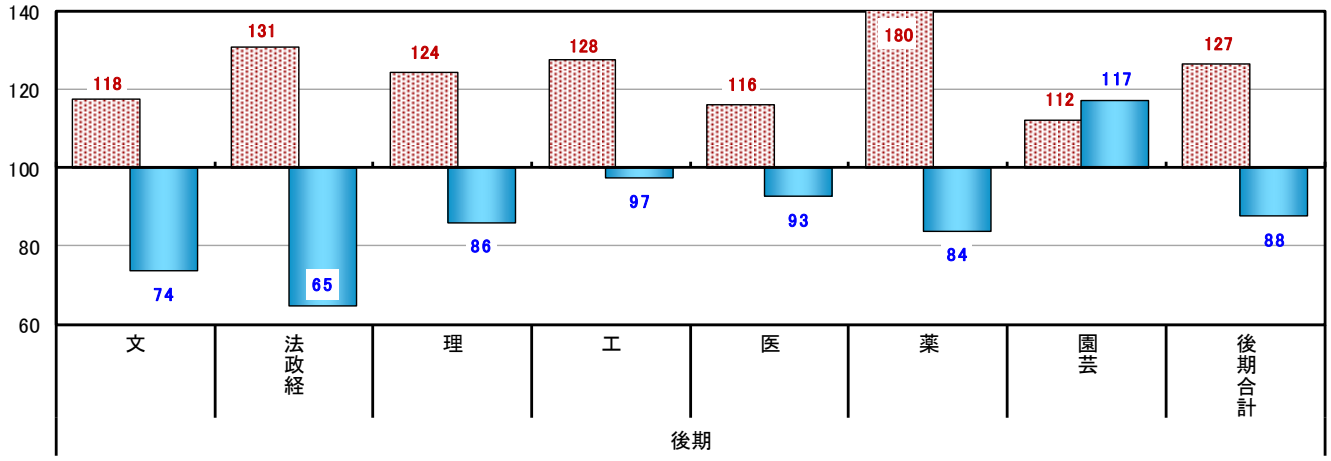
大学全体では、前期は 10 人(100)の微増で、志願者数は 3 年連続で 2,900 人前後が継続。後期は 18 人(99)の微減で、志願者数は 2 年連続で約 3,000 人。前期、後期ともに学部別ではいずれも前年度と逆の増減と反動が見られた。

〈前期日程〉
○**経済**(111)は、2 年連続減少の反動で増加。方式別では、〈国際プログラム枠〉(224)は、前年度は海外語学研修や交換留学がカリキュラムに含まれることからコロナ禍の影響を強く受けて、減少率 40%以上の大幅減少だったが、その反動で倍増以上。一方で、〈一般選抜枠〉(97)はやや減少で 3 年連続減少。募集人員が 210 人から 195 人に減少(募集人員の前年度対比指数 93)したため、志願倍率は逆に 3.0 倍→3.1 倍にアップした。
○**教育**(104)は、2 年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。募集単位別では、18 募集単位中 13 募集単位が増加。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、12 募集単位で 20%以上の増減があった。特に、(学校教育教員養成／中学校－生活創造－技術)(725)は前年度志願倍率が 1 倍を下回った反動で約 7.3 倍の激増。志願倍率は 0.8 倍→4.8 倍と大幅アップ。(学校教育教員養成／中学校－身体文化－保健体育)(367)は前年度激減の反動で約 3.7 倍の激増。2019 年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。(学校教育教員養成／中学校－芸術－美術)(200)は倍増。一方で、(学校教育教員養成／小学校－理系)(60)、(学校教育教員養成／乳幼児教育)(66)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**教養**(107)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まり、志願者数は 2 年連続で 300 人を下回った。
○**理**(94)は、4 年連続増加の反動は小さくやや減少。学科別では、5 学科中 2 学科が増加。(物理)(114)は増加で 4 年連続増加。一方で、(基礎化)(80)は大幅減少、(数)(89)は減少。いずれも前年度の反動による減少。
○**工**(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。志願者数は 700 人を下回った。学科別では、(環境社会デザイン)(125)を除く 4 学科で減少。特に、(電気電子物理工)(56)は前年度約 2.8 倍増の反動で大幅減少。2018 年度の学科改組以降は反動による大幅な増減が継続。(情報工)(94)はやや減少で、2 年連続減少。

〈後期日程〉
○**経済**(156)は、前年度大幅減少の反動で 50%以上の大幅増加で、4 年ぶりに志願者数は 500 人を上回った。
○**教養**(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018 年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。
○**理**(117)は、大幅増加。学科別では、5 学科中 4 学科が増加。特に、(分子生物)(147)は 2 年連続大幅増加。(物理)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(生体制御)(98)は微減だが 3 年連続減少。
○**工**(82)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は 1,300 人を下回った。学科別では、5 学科中 3 学科が減少。特に、(電気電子物理工)(39)は前年度約 2.6 倍の激増の反動で激減。(情報工)(84)は大幅減少で、2 年連続減少。一方で、(応用化)(113)は増加、(環境社会デザイン)(106)はやや増加で 2 年連続増加。

千葉大：大学全体では減少、国公立大志願者数最多が途切れた　前期：-303 人　後期：-631 人





主な入試変更点	コース名称変更：工(総合工)…都市環境システム→都市工学 募集人員：工(総合工／都市工学)…〈前〉37 人→30 人、〈後〉15 人→12 人 (総合工／電気電子工学)…〈前〉55 人→56 人、〈後〉19 人→20 人 (総合工／物質科学)…〈前〉68 人→70 人 (総合工／共生応用化学…〈前〉70 人→72 人、〈後〉24 人→25 人 (総合工／情報工学)……〈前〉47 人→49 人、〈後〉19 人→20 人 医(医)…〈前〉(一般枠)82 人→82 人、(千葉県地域枠)15 人→20 人 〈後〉(一般枠)15 人→15 人、(千葉県地域枠) 5 人→０人　※千葉県地域枠廃止 個別試験：教育(学校教員養成／英語教育)〈前〉…外〈400〉+適性検査〈200〉+外ライティング〈200〉+(国 or 数)〈200〉=総点〈1,000〉 →外〈300〉+適性検査〈200〉+外ライティング〈200〉+(国 or 数)〈300〉=総点〈1,000〉 工(総合工／電気電子工学)〈後〉…数〈300〉+理〈200〉=総点〈500〉→数〈400〉+理〈300〉=総点〈700〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、934 人(92)の減少で、国公立大の志願者数最多は６年連続で途切れた。日程別では、前期は 303 人(95)のやや減少で２年ぶりの減少、後期は 631 人(88)の減少で前年度大幅増加の反動と首都圏での併願環境の変化が影響した。

〈前期日程〉

○ **文(99)**は、微減だが２年連続減少。コース別では、増減が２コースずつに分かれた。増減が目立ったのは、(人文／行動科学)(109)は前年度減少の反動で増加、一方で(人文／国際言語文化学)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人文／歴史学)(87)は３年連続減少。

○ **法政経(96)**は、やや減少。2018 年度以降 900 人台の志願者数が継続。

○ **教育(89)**は、前年度大幅増加の反動で減少。課程・コース・分野別では、14 募集単位中８募集単位が減少。(学校教員養成／小学校)(94)はやや減少、(学校教員養成／養護教諭)(88)は減少だが、これを除く６募集単位はいずれも大幅減少。一方で、(学校教員養成／中学校理科教育)(156)、(学校教員養成／中学校数学科教育)(142)、(学校教員養成／中学校技術科教育)(136)は大幅増加。

○ **国際教養(86)**は、コロナ禍による系統への人気の低下から２年連続減少、2016 年度の新設以来、学部全体の志願者数が初めて 300 人を下回った。

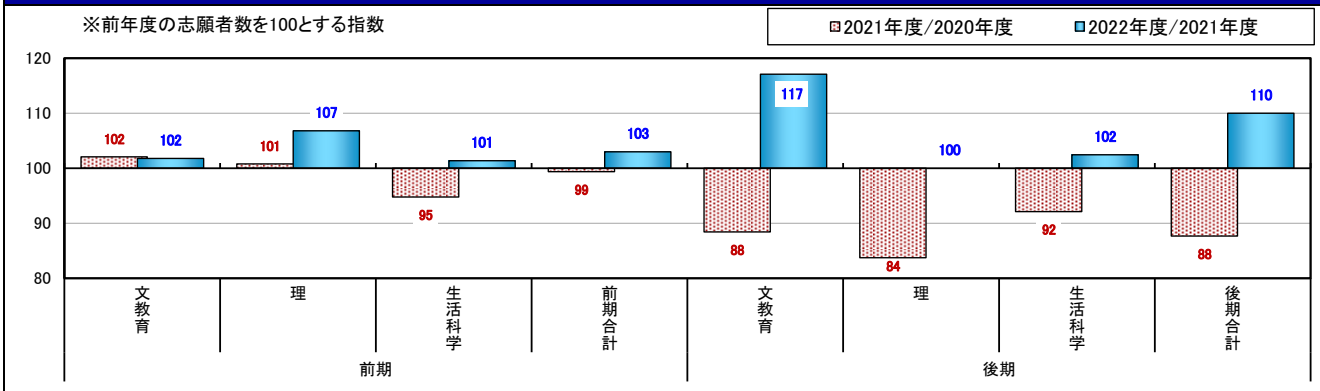
○ **理(97)**は、やや減少で３年ぶりの減少。学科別では、(数学・情報数理)(129)は系統への高い人気から大幅増加。他の４学科はいずれも減少で、特に(生物)(79)、(化)(84)は大幅減少。

○ **工(90)**は、前年度増加の反動で減少、志願者数は 1,700 人を下回った。コース別では、９コース中５コースが増加。特に(総合工／デザイン)(127)が大幅増加、一方で、(総合工／物質科学)(34)は２年連続大幅増加の反動で激減、(総合工／都市工

学)(72)、(総合工／共生応用化学)(80)も大幅減少。
○ **医(87)**は、３年連続増加の反動で減少。募集単位別では〈一般枠〉(78)が大幅減少、〈千葉県地域枠〉(161)の激増と対照的。なお、２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は〈一般枠〉が 95.7%、〈千葉県地域枠〉が 84.5%だった。
○ **薬(115)**は、大幅増加で２年連続増加。志願倍率も 5.1 倍→5.9 倍とアップ。
○ **看護(104)**は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。2016 年度以降、前年度の反動による増減が継続。
○ **園芸(114)**は、２年ぶりに増加。学科別では、４学科中３学科が増加で、特に(食料資源経済)(182)が激増、(園芸)(118)も大幅増加。一方で、(応用生命化)(80)は大幅減少。

〈後期日程〉
○ **文(74)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集を行う(人文／行動科学)(72)、(人文／歴史学)(77)の２学科はいずれも大幅減少。
○ **法政経(65)**は、３年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は 16.4 倍→10.6 倍にダウン。前年度の横浜国立大の個別試験実施なしの影響による上位大学前期からの併願先として集中したという併願環境の変化が影響。
○ **理(86)**は、前年度の大幅増加の反動で減少。前年度の横浜国立大の個別試験実施なしの影響による上位大学前期からの併願先として集中したという併願環境の変化が影響。学科別では５学科中３学科が大幅減少、特に(生物)(65)は 30%以上の大幅減少。
○ **工(97)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。なお、改組後２年目の 2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。コース別では、７コース中５コースが減少。特に、(総合工／医工学)(78)が大幅減少。一方で、(総合工／電気電子工学)(142)は２年連続大幅増加。
○ **医(93)**は、学部全体では〈千葉県地域枠〉の募集廃止によりやや減少だが、募集人員の減少により志願倍率は 21.7 倍→26.7 倍にアップ。継続募集する〈一般枠〉(103)のみの比較ではやや増加で、前年度大幅増加の反動はなく、志願倍率も 25.9 倍→26.7 倍にわずかにアップ。なお、２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 64.1%だった。
○ **薬(84)**は、(薬科学)のみの募集だが、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率は 24.8 倍→20.8 倍とダウンしたが、２年連続で 20 倍を上回った。
○ **園芸(117)**は、大幅増加で２年連続増加。学科別では、(食料資源経済)(92)のみ減少で、他の３学科はいずれも大幅増加。

お茶の水女子大：大学全体では５年ぶりに増加　　前期：+28 人　後期：+49 人



COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

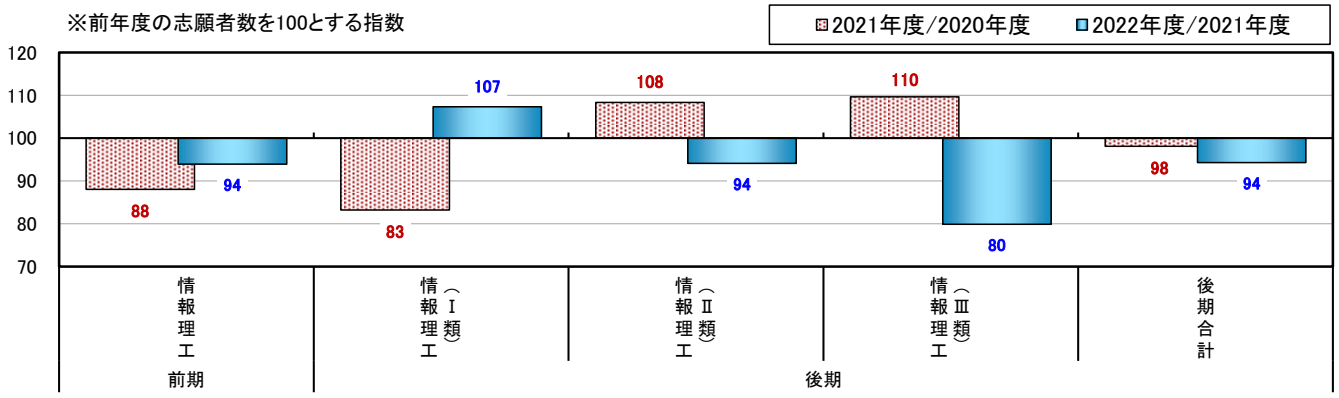
大学全体では、女子大への人気低下の中で４年連続減少した反動は見られたが、77 人(105)のやや増加に留まった。前期は 28 人(103)のやや増加で、４年ぶりの増加だが、志願者数は 1,000 人に達しなかった。後期は２年連続減少の反動と共通テストの平均点ダウンの影響で前期上位大学志願者からの併願先として狙われて、49 人(110)の増加。

〈前期日程〉
○**文教育(102)**は、２年連続前年度並。学科・専修プログラム別では、(人文科学)(122)は２年連続減少の反動で大幅増加。(人間社会科学)(107)は、やや増加で２年連続増加。(芸術・表現行動)は募集人員が少なく極端な増減となりやすいが、(芸術・表現行動／音楽表現)(63)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。(芸術・表現行動／舞踊教育)(80)は、大幅減少で２年連続減少。
○**理(107)**は、やや増加で志願倍率は３年ぶりに 3.2 倍を上回った。学科別では、(情報科学)(156)は系統への高い人気と３年連続減少の反動による大幅増加で、志願倍率も 2.3 倍→3.5 倍にアップ。(物理)(146)、(生物)(121)も大幅増加。一方で、(数学)(51)は２年連続大幅増加の反動でほぼ半減で、志願倍率も 6.0 倍→3.1 倍にダウンして５年ぶりに４倍を下回った。
○**生活科学(101)**は、前年度やや減少の反動はなく前年度並。学科別では、(人間・環境科学)(118)は大幅増加、(心理)(111)は、前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(食物栄養)(90)のみ前年度増加の反動で減少。

〈後期日程〉
○**文教育(117)**は、前年度減少の反動で大幅増加。志願倍率は 15.3 倍→17.9 倍にアップし、２年ぶりに 17 倍を上回った。学科・専修プログラム別では、(人文科学)(127)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(芸術・表現行動／音楽表現)(114)は増加。(人間社会科学)(100)は、前年度大幅増加の反動はなく前年度と同人数。
○**理(100)**は、３年連続減少の反動はなく前年度と同人数。学科別では、(化)(179)は、３年連続減少の反動で激増。(数)(168)は、前年度個別試験の数学を廃止し共通テストのみとした影響で大幅減少したが、その反動で激増。志願倍率は 6.3 倍→10.7 倍にアップしたが、2019 年度以前は 20 倍を上回っていたので、厳しい競争ではなかった。(生物)(136)は、前年度激増した

反動はなく、さらに大幅増加。（情報科学）(49)は、前年度増加の反動で半減以下の大幅減少。
○**生活科学**(102)は、微増だが５年ぶりに増加。学科別では、(人間・環境科学)(103)はやや増加で２年連続増加、(食物栄養)(102)は、前年度大幅減少の反動は小さく前年度並。

電気通信大：共テ平均点ダウンの影響で前期は３年連続減少、後期は２年連続減少　期：-89 人　後期：-142 人

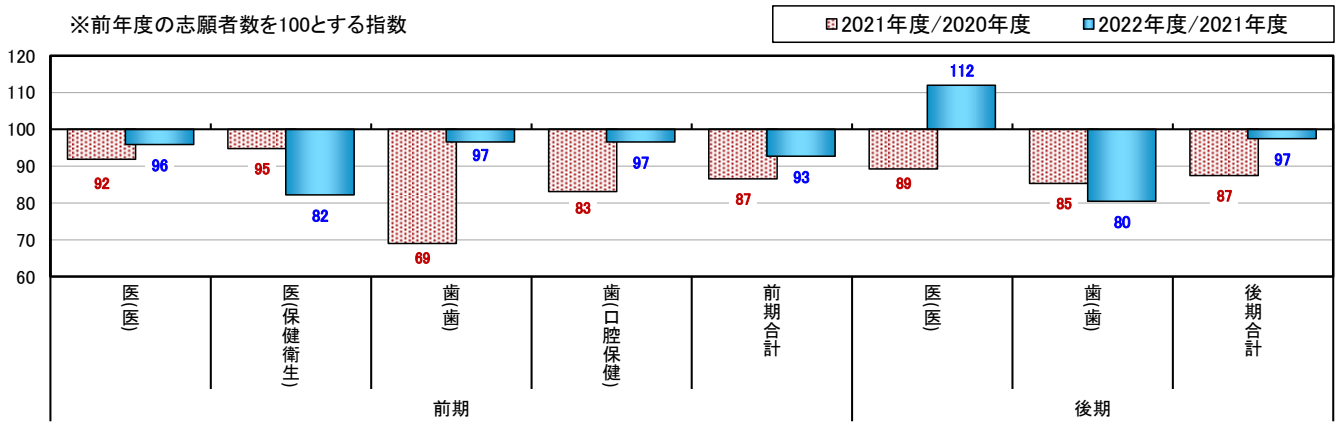


COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、231 人(94)のやや減少で２年連続減少、共通テストの平均点ダウンの影響で、2016 年度の改組以降最少の志願者数だった。前期は情報理工の一括募集の１募集単位のみの募集だが、89 人(94)のやや減少で３年連続減少、志願者数は２年連続で 1,500 人を下回った。また、志願倍率は 4.2 倍→3.9 倍と 2016 年度の改組以降初めて４倍を下回った。後期 142 人(94)はやや減少で２年連続減少、志願者数は２年連続で 2,500 人を下回った。

〈後期日程〉
○**情報理工**(94)は、前年度に引き続き２段階選抜が実施され、不合格者は 337 人だった。類別では、情報系の(Ⅰ類)(107)がやや増加。一方で、理工系の(Ⅲ類)(80)が大幅減少、融合系の(Ⅱ類)(94)はやや減少で、３類いずれも前年度と逆の増減。

東京医科歯科大：前期は２年連続減少、後期の医（医）は増加　前期：-48 人　後期：-9人



COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

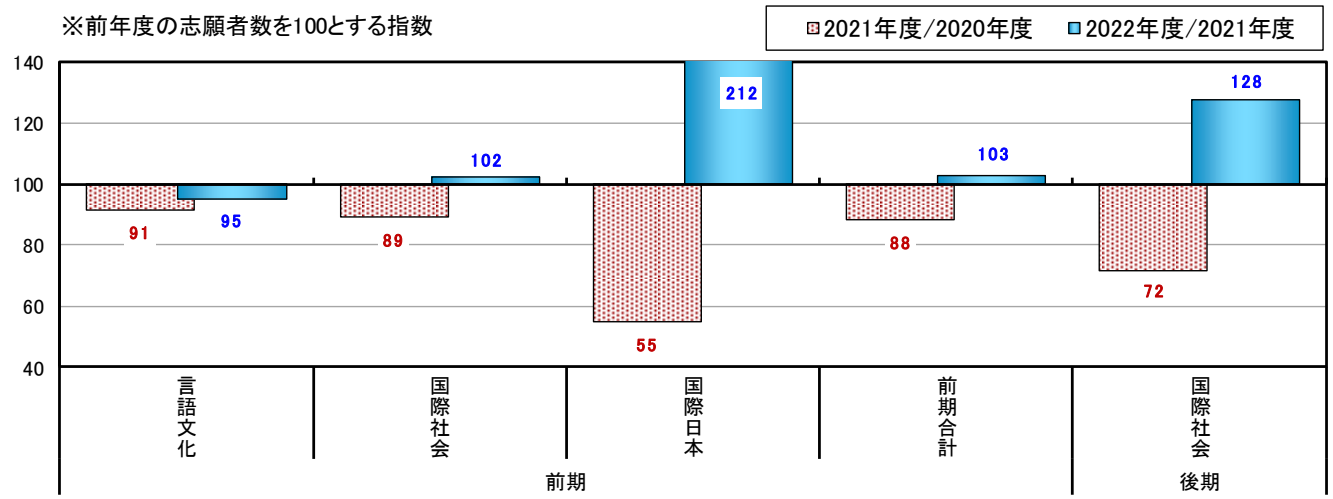
大学全体では、55 人(94)のやや減少で３年連続減少。前期は 48 人(93)のやや減少で２年連続減少、志願者数は２年連続で 600 人台。後期は７人(97)のやや減少で３年連続減少。学部・学科・日程別では医(医)〈後〉を除いていずれも減少で、共通テストの平均点ダウンの影響が見られた。

〈前期日程〉
○**医(医)**(96)は、やや減少で２年連続減少。志願倍率は 4.0 倍→3.8 倍にダウンして、３年ぶりに４倍を下回ったので、第１段階選抜は実施されなかった。
○**医(保健衛生)**(82)は、共通テストの平均点ダウンの影響により、大幅減少で２年連続。専攻別では、(保健衛生／検査技術学)(82)は大幅減少で３年ぶりに減少。(保健衛生／看護学)(83)は大幅減少で３年連続減少、志願倍率は 2.2 倍→1.8 倍にダウンして、２倍を下回った。
○**歯(歯)**(97)は、前年度減少率 30%以上の大幅減少の反動はなくやや減少で、志願倍率は２年連続で４倍を下回ったので、第１段階選抜は実施されなかった。
○**歯(口腔保健)**(97)は、共通テストの平均点ダウンの影響により、２年連続大幅減少の反動はなくさらにやや減少して、３年連続減少。志願倍率は 2011 年度に新設以来最低の 2.0 倍。専攻別では、(口腔保健／口腔保健衛生学)(108)は、前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(口腔保健／口腔保健工学)(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

〈後期日程〉
○**医(医)**(112)は、２年連続減少の反動で増加。志願倍率は 15.0 倍→16.8 倍にアップし、実施基準倍率 12 倍を上回ったので、

２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 72.3%だった。
○**医(歯)(80)**は、大幅減少で３年連続減少。志願倍率も 8.5 倍→6.9 倍にダウンしたが、実施基準倍率６倍を上回ったので、２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 87.4%だった。

東京外国語大：前期はやや増加、個別の英語スピーキング試験実施の影響なし　前期：+38 人　後期：+289 人



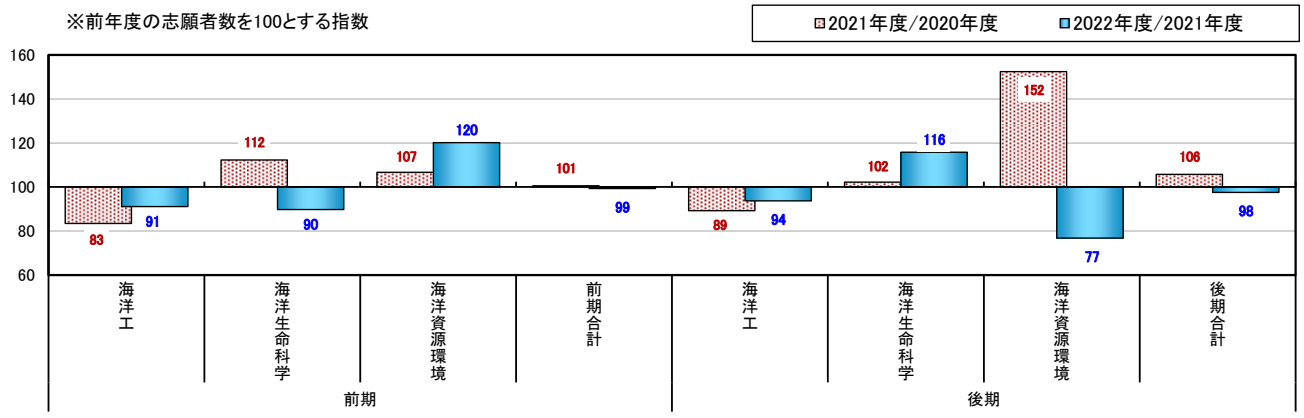
主な入試変更点	入学検定料：全学部〈前〉…17,000 円→19,750 円　※英語スピーキング試験実施のため 個別試験：言語文化〈前〉、国際社会〈前〉…英語スピーキングテスト(BCT-S)を新規実施

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、６年連続減少の反動で 327 人(113)の増加。日程別では、前期は 38 人(103)のやや増加で、募集人員が 579 人となった 2019 年度以降では初の増加。前期合計の志願倍率は３年連続で３倍を下回ったが、2.57 倍→2.64 倍とわずかにアップ。入学検定料の値上げや言語文化、国際社会への英語スピーキング試験新規実施の影響は見られなかった。国際社会のみ募集の後期は、前年度大幅減少の反動で 289 人(128)の大幅増加で、募集人員が 56 人となった 2019 年度以降では初の増加。志願倍率は 18.6 倍→23.7 倍にアップし、２年ぶりに 20 倍を上回った。

〈前期日程〉
○**言語文化(95)**はやや減少で、募集人員が 290 人となった 2019 年度以降では３年連続減少。志願倍率も 2.8 倍→2.7 倍にダウン。専攻言語別では、15 募集単位中 10 募集単位が減少。特に、(タイ語・ラオス語・ベトナム語・カンボジア語・ビルマ語)(59)、(ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語)(68)、(朝鮮語)(70)、(中国語)(75)、(ドイツ語) (78)、(フランス語)(83) 、(イタリア語)(83)は大幅減少。一方で、(インドネシア語･マレーシア語･フィリピン語)(183)、(ポルトガル語)(163)は激増、(スペイン語)(146)、(ポーランド語・チェコ語)(117)は大幅増加。
○**国際社会(102)**は微増。13 募集単位中７募集単位で減少。特に、(オセアニア)(63)、(東南アジア第２)(68)、(アフリカ)(78)、(ロシア)(78)、東アジア(82)は大幅減少。一方で、(イベリア／ラテンアメリカ)(181)は激増、(中央アジア)(154)、(中央ヨーロッパ)(139)、(中東)(121)は大幅増加。
○**国際日本(212)**は新設４年目だが初の増加で、前年度半減近かった反動で倍増以上。志願倍率も 1.7 倍→3.5 倍にアップ。

東京海洋大：大学全体では前期、後期ともに微減　前期：−7人　後期：−23 人



主な入試変更点	募集人員：海洋工(流通情報工)…〈前〉21 人→20 人、〈後〉15 人→14 人

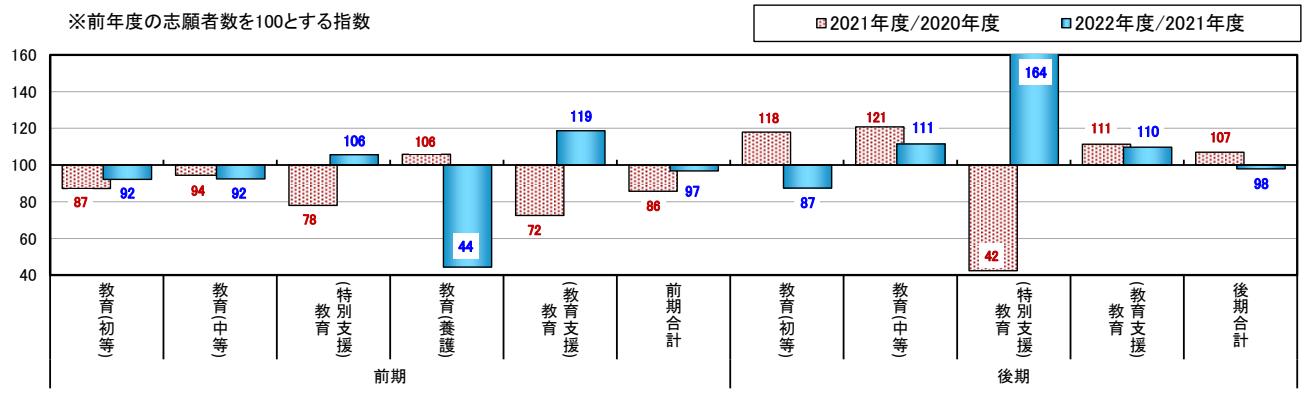
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は７人(99)の微減で３年ぶりの減少、後期も 23 人(98)の微減。前年度から英語外部試験を出願要件とした海洋工は、前期・後期ともに２年連続減少。

〈前期日程〉
○**海洋工(91)**は、前年度大幅減少の反動はなく、２年連続減少。学科別では、３学科のいずれも減少。前年度より個別試験に英語を追加した(海洋電子機械工)(83)は、前年度減少に引き続き大幅減少で、志願者数は 100 人を下回った。
○**海洋生命科学(90)**は、前年度増加の反動で減少。学科別では、唯一増加の(食品生産科学)(114)は２年連続増加。一方で、(海洋生物資源)(80)は２年連続増加の反動で大幅減少、(海洋政策文化)(82)も大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。
○**海洋資源環境(120)**は、大幅増加で３年連続増加。学科別では、(海洋資源エネルギー)(148)は大幅増加で３年連続増加、志願者数は 2017 年度の学部改組後最多の 127 人だった。 (海洋環境科学)(109)は増加で２年連続増加、志願倍率は 5.5 倍→6.1 倍へアップし、2017 年度の学部改組初年度以来６倍を上回った。

〈後期日程〉
○**海洋工(94)**は、前年度減少に引き続きやや減少で、２年連続減少。学科別では、(海事システム工)(122)は２年連続大幅増加。一方で、(海洋電子機械工)(75)は３年連続増加の反動で大幅減少、(流通情報工)(89)は前年度大幅減少に引き続き減少で、２年連続減少。
○**海洋生命科学(116)**は、大幅増加で２年連続増加。志願者数は、2017 年度の改組初年度以来の 400 人を上回った。学科別では、(海洋政策文化)(130)は２年連続大幅増加、志願倍率は 9.5 倍→12.3 倍へアップ。(海洋生物資源)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(食品生産科学)(98)は微減で、2017 年度の改組の翌年から前年度の反動による増減が継続。
○**海洋資源環境(77)**は、前年度 50%以上の大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(海洋資源エネルギー)(71)、(海洋環境科学)(80)は大幅減少で、いずれも前年度大幅増加の反動。

東京学芸大：前期はやや減少、後期は微減　　前期：-50 人　後期：-24 人



主な入試変更点	募集人員：教育(初等／ものづくり技術)…〈前〉７人→８人 共通テスト：教育(教育支援／教育支援－多文化共生教育)…〈前〉〈後〉国+数２+外+{歴公 or(理・理基２)}→３ →国+歴公２+数２+外+(理・理基２) 国〈200〉+歴公〈100or200〉+数２〈200〉+理〈100or200〉+外〈400〉=総点〈1,100〉 →国〈200〉+歴公〈200〉+数２〈200〉+理〈100〉+外〈500〉=総点〈1,200〉 個別試験：教育(初等／英語)、(中等／英語)…〈前〉面→面(英語によるものも含む)

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 50 人(97)のやや減少で２年連続減少、後期は個別試験で教科試験がなく、共通テストの平均点ダウンの影響を受けやすいが、24 人(98)の微減に留まった。

〈前期日程〉
○**教育(初等)(92)**は、減少で２年連続減少。選修別では、16 選修中 10 選修が減少。特に、(初等／学校教育)(47)は半減以下で前年度の反動による極端な増減が継続、(初等／ものづくり技術)(64)は、前年度激減の反動はなく２年連続大幅減少で、志願倍率は 1.6 倍→0.9 倍と１倍を下回った。一方で、(初等／幼児教育)(152)、(初等／家庭)(124)は大幅増加で、いずれも前年度の反動による増減が継続。(初等／理科)(123)は、２年連続減少の反動で大幅増加。
○**教育(中等)(92)**は、減少で４年連続減少。専攻別では、11 専攻中６専攻が減少。特に、(中等／英語)(50)は前年度大幅増加の反動に加え、個別試験の面接が英語によるものも含まれることとなり敬遠された影響で半減。(中等／技術)(200)は２年連続大幅減少の反動で倍増。一方で、(中等／理科)(144)は大幅増加で５年ぶりの増加、(中等／社会)(113)は増加。
○**教育(特別支援)(106)**は、やや増加で、前年度３年ぶりに減少したが再び増加に転じた。
○**教育(養護)(44)**は、２年連続増加の反動で 44%の大幅減少。志願倍率は 3.0 倍→1.3 倍にダウン。
○**教育(教育支援)(119)**は、２年連続減少の反動で大幅増加。専攻・コース別では、７募集単位中４募集単位が増加。特に、(教育支援／教育支援－多文化共生教育)(233)は前年度半減以下の反動が大きく 233%の倍増以上、共通テストで必須科目の増加や配点変更があったが、影響は見られなかった。一方で、(教育支援／教育支援－生涯スポーツ)(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

〈後期日程〉

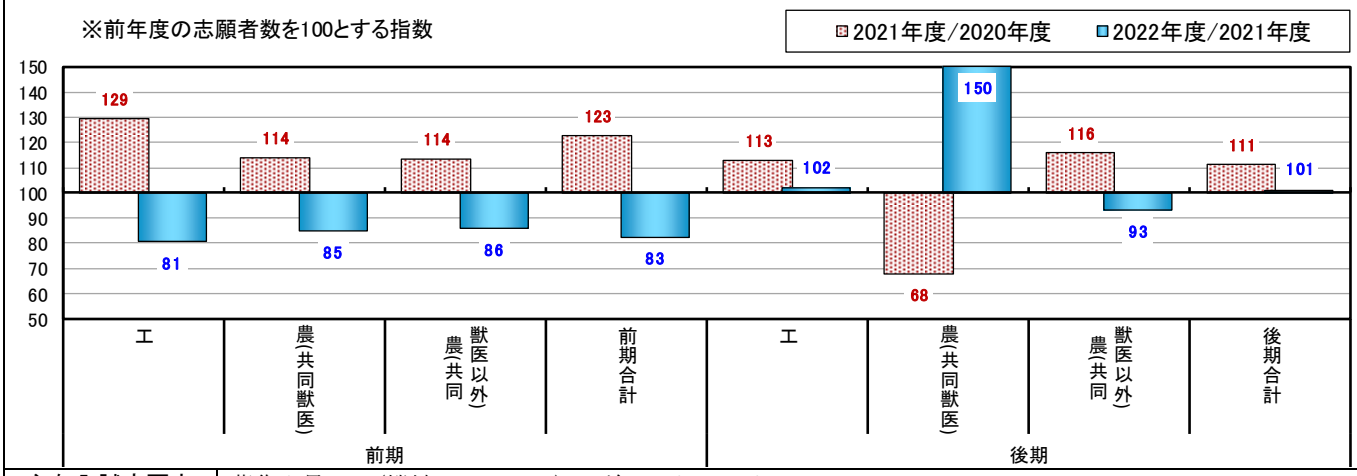
○**教育（初等）(87)**は、減少で 2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。選修別では、後期募集を行う 10 選修中７選修が減少。特に、（初等／学校教育）(53)、（初等／社会）(63)の大幅減少が目立ったが、いずれも前年度大幅増加の反動。一方で、（初等／理科）(124)は大幅増加で２年連続増加、（初等／国語）(111)は前年度減少の反動で増加、（初等／音楽）(103)は２年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。

○**教育（中等）(111)**は、増加で２年連続増加。専攻別では、後期募集を行う４専攻中３専攻が減少。特に、（中等／数学）(75)は大幅減少で、前年度の反動による極端な増減が継続。一方で、唯一増加の（中等／理科）(156)は２年連続大幅増加。

○**教育（特別支援）(164)**は、前年度半減以下だった反動で激増。

○**教育（教育支援）(110)**は、２年連続増加。後期募集を行う３つの専攻・コースでは、（教育支援／教育支援－多文化共生教育）(132)は２年連続大幅増加、共通テストで必須科目の増加や配点変更があったが、影響は見られなかった。（教育支援／教育支援－生涯学習）(114)は、前年度減少の反動で増加。一方で、（教育支援／教育支援－情報教育）(52)は２年連続大幅増加の反動で半減。

東京農工大：前期は大幅減少、後期は微増だが２年連続増加　　前期：-261 人 後期：+24 人



主な入試変更点	募集人員：工（機械システム工）…〈前〉55 人→52 人 工（生命工）…〈前〉46 人→42 人

COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動で 261 人(83)の大幅減少、募集人員は７人の微減だが、志願倍率は 3.1 倍→2.6 倍にダウン。後期は共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたため、前年度増加の反動はなく 24 人(101)の微増で、２年連続増加。

〈前期日程〉

○**工(81)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、６学科全てが減少で、そのうち４学科は大幅減少。（化学物理工）(65)は前年度激増の反動で大幅減少、（応用化）(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。（知能情報システム工）(78)も大幅減少で、2019 年度の改組以降大幅増加が連続したが初の減少。（生命工）(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、募集人員も４人減少だが、志願倍率は 3.6 倍→3.2 倍へダウン。

○**農（共同獣医）(85)**は、大幅減少。2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。

○**農（共同獣医以外）(86)**は、共通テストの平均点ダウンの影響と前年度増加の反動で減少。2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、４学科全てが減少。（環境資源科学）(79)、前年度唯一減少だった（生物生産）(87)は減少で、２年連続減少。（地域生態システム）(88)、（応用生物科学）(89)も減少。

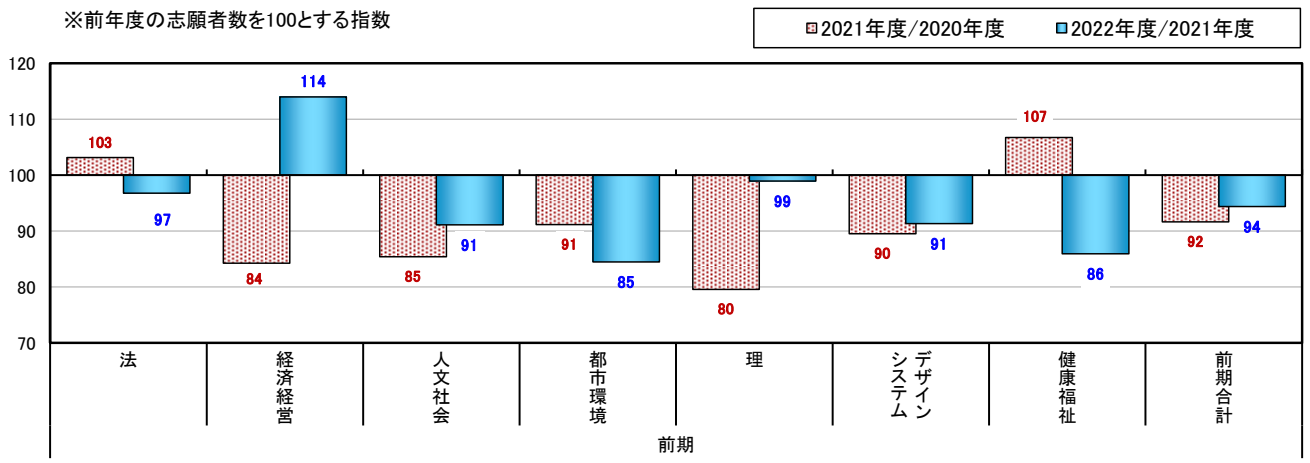
〈後期日程〉

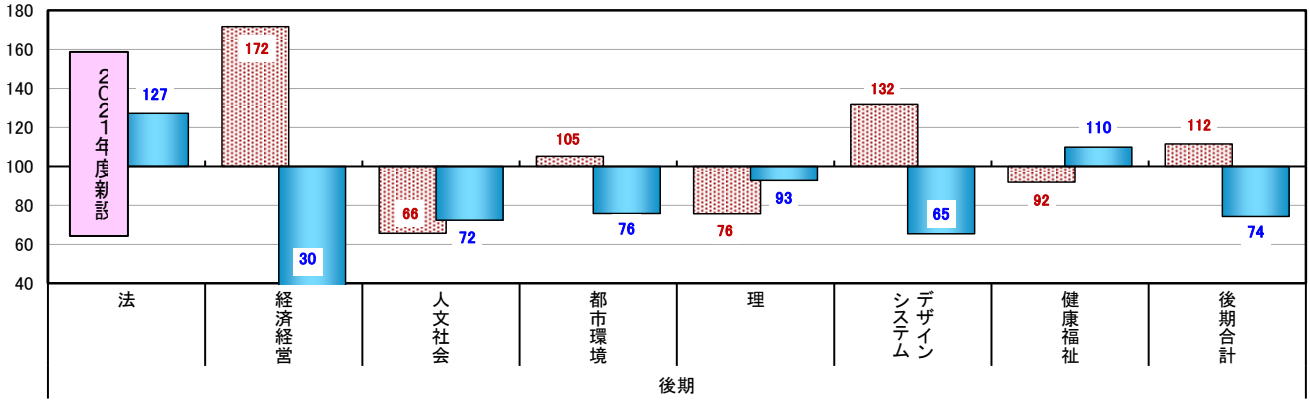
○**工(102)**は、微増だが３年連続増加。学科別では、６学科中増減が３学科ずつ。（知能情報システム工）(125)は系統への高い人気もあり大幅増加、志願倍率も 6.5 倍→8.1 倍へアップ。志願者数は 2019 年度の学科改組後初めて 300 人を上回った。（生体医用システム工）(117)は、2019 年度の学科改組以降３年連続大幅増加、（化学物理工）(110)は増加で２年連続増加。一方で、（生命工）(86)は前年度大幅増加の反動で減少、（機械システム工）(92)は２年連続増加の反動で減少、（応用化）(94)はやや減少で、2019 年度の学科改組以降初めての減少。

○**農（共同獣医）(150)**は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数はわずかに 100 人に届かなかった。

○**農（共同獣医以外）(93)**は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、（地域生態システム）(67)は前年度激増の反動で大幅減少、（生物生産）(92)は前年度大幅増加の反動で減少、（応用生物科学）(99)は微減。一方で、（環境資源科学）(129)は３年連続減少の反動で大幅増加。

東京都立大：前期、後期ともに志願者数は 2018 年度の改組後で最少　　前期：-268 人　後期：-766 人





主な入試変更点	募集人員：健康福祉(放射線)…〈後〉8 人→5 人

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 268 人(94)のやや減少で 3 年連続減少、志願者数は 2018 年度の改組後で最少。後期は 766 人(74)の大幅減少で共通テストの平均点大幅ダウンの影響と前年度増加の反動が見られ、前期同様に志願者数は 2018 年度の改組後で最少。なお、第 1 段階選抜の不合格者数は、〈前〉は 445 人→367 人と大幅減少。〈後〉は 413 人→129 人と激減。

〈前期日程〉

○**法(97)**は、やや減少で志願者数は 2018 年度の改組後で最少。

○**経済経営(114)**は、前年度大幅減少の反動で増加。募集単位別では個別試験が文系の〈一般〉(117)は、前年度減少の反動で大幅増加。個別試験が理系の〈数理〉(102)は、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。

○**人文社会(91)**は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少で 2 年連続減少した結果、志願者数は 2018 年度の改組後で最少。学科別では、(人文)(79)は大幅減少で改組後 2 年目から 4 年連続減少。志願者数は 200 人を下回り、志願倍率も 5.0 倍→3.9 倍にダウン。(人間社会)(100)は前年度並。

○**都市環境(85)**は、大幅減少で 2 年連続減少で志願者数は 2018 年度の改組後で最少。志願倍率は 3 年連続 5.2 倍で推移していたが 4.4 倍にダウン。学科別では、(環境応用化学)(123)は 2 年連続大幅増加、(都市基盤環境)(115)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、コロナ禍の影響を強く受けている系統である(観光科学)(43)は半減以下、(都市政策科学／理系)(44)も半減以下。

○**理(99)**は、前年度大幅減少の反動はなく微減で志願者数は 2018 年度の改組後で最少。学科別では、(生命科学)(142)、(化学)(128)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(物理)(71)は大幅減少、(数理科学)(88)は減少。

○**システムデザイン(91)**は、4 年連続減少で、志願者数は 2018 年度の改組後で最少、900 人を下回った。学科別では、(航空宇宙システム工)(103)はやや増加、(機械システム工)(101)、(情報科学)(101)は前年度並。一方で、(インダストリアルアート)(69)は大幅減少で 2018 年度から 5 年連続減少、志願倍率も 5.1 倍→3.5 倍にダウン。(電子情報システム工)(85)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**健康福祉(86)**は、3 年連続増加の反動で減少。学科別では、(作業療法)(111)が前年度大幅減少の反動で 4 学科で唯一の増加。他の 3 学科は(放射線)(80)、(看護)(81)の 2 学科が大幅減少、(理学療法)(90)は減少。

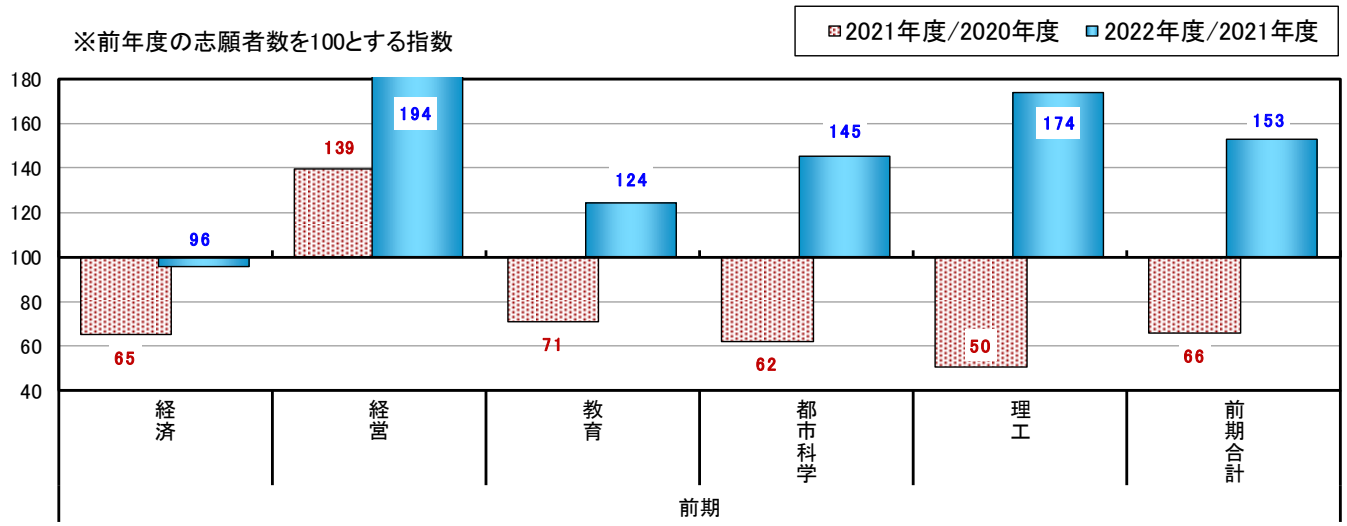
〈後期日程〉

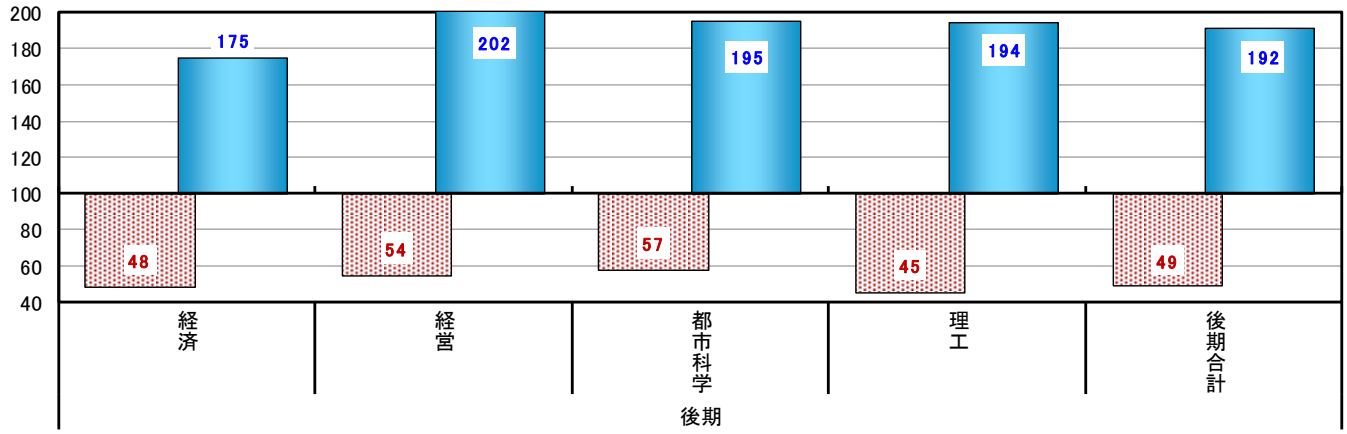
○**法(127)**は、後期実施 2 年目で周知が進み大幅増加。志願倍率も、11.3 倍→14.3 倍にアップ。

○**経済経営(30)**は、前年度が 2019 年度対比で 3.3 倍増まで増加した反動でほぼ 2019 年度の志願者数に戻った。志願倍率も 19.8 倍→5.9 倍に大幅ダウン。

○**人文社会**(72)は、２年連続大幅減少。志願者数は 200 人を下回り、2018 年度の改組後で最少。学科別でも、(人文)(66)、(人間社会)(77)のいずれも２年連続大幅減少で、志願者数は 2018 年度の改組後で最少。
○**都市環境**(76)は、大幅減少。志願者数は 500 人を下回り、2018 年度の改組後で最少。学科別では、(建築)(112)は増加で３年連続増加。(都市基盤環境)(106)はやや増加。その他の４学科はいずれも減少。特に、前年度ほぼ倍増した(都市政策科学)(27)は激減で、志願倍率も 24.8 倍→6.6 倍へ大幅ダウン。
○**理**(93)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少で、志願者数は 2018 年度の改組後で最少。学科別では、(生命科学)(119)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、(物理)(110)は増加。一方で、(化学)(63)は２年連続大幅減少、(数理科学)(96)はやや減少で３年連続減少。
○**システムデザイン**(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少で、志願者数は 2018 年度の改組後で最少。志願倍も 9.6 倍で、改組後初めて 10 倍を下回った。学科別では、５学科全てが大幅減少。特に、(機械システム工)(53)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。志願倍率も 13.4 倍→7.1 倍にダウン。
○**健康福祉**(110)は、２年連続減少の反動で増加。学科別では、(作業療法)(248)が 1.5 倍近い激増。　(放射線)(100)は前年度と同じ志願者数だが、募集人員が３人減少したことから志願倍率は 9.6 倍→15.4 倍にアップし競争激化。

横浜国立大：前年度比では大幅増加も、2020 年度比では前期微増、後期やや減少　前期：+980 人　後期：+2,131 人





主な入試変更点	コロナ禍特別対応：個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜(ただし、教育では面接や実技等に相当する提出物を求める)に変更 →2020 年度入試までと同様に個別試験を実施(ただし、以下の変更あり) 第１段階選抜：経済〈後〉…新規実施、実施基準は募集人員の約 15 倍(通過予定人数：約 1,200 人) 経営〈前〉…新規実施、実施基準は募集人員の約６倍(通過予定人数：約 930 人) 募集人員：都市科学(都市社会共生)…〈前〉30 人→33 人 個別試験：経営〈前〉…実施なし→数 or 外 都市科学(都市社会共生)〈前〉…外+論→論　※2021 年度はコロナ禍特別対応で個別試験実施を見送り 〈後〉…外+論→面　※2021 年度はコロナ禍特別対応で個別試験実施を見送り

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

前年度はコロナ禍の影響を考慮して、個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜(ただし、教育では面接や実技等に相当する提出物を求める)に変更したため、合格目標ラインが見極めにくくなったことと、共通テストで失敗して個別試験での逆転を狙う層を失ったことで、前期・後期とも大幅減少となった。今年度はコロナ禍特別対応が無くなり、基本的に 2020 年度入試までの選抜方法に戻ったことで、大学全体では 3,111 人(174)の激増となった。日程別でも、前期は 980 人(153)の大幅増加、後期は 2,131 人(192)のほぼ倍増だった。ただし、2020 年度比では、大学全体では 281 人(96)のやや減少、前期は 13 人

(100)の微増、後期は 294 人(94)のやや減少だった。共通テストの平均点ダウンの影響を受けた後期が 2020 年度までの３年連続減少からさらに減少した。

〈前期日程〉

○**経済(96)**は、やや減少で４年連続減少。志願倍率も 2.5 倍→2.4 倍にわずかにダウン。新設２年目の(DSEP)の志願倍率は 3.4 倍→2.2 倍、(LBEEP)の志願倍率は 2.3 倍→1.5 倍とダウンし、いずれも学部全体の志願倍率を下回った。

○**経営(194)**は、2020 年度も個別試験の実施はなかったので、前年度もコロナ禍特別対応による影響はなかった。今年度は新たに個別試験を実施することになり、共通テストの平均点ダウンにより個別試験での逆転を狙う層からの支持もあって、ほぼ倍増で２年連続大幅増加、志願倍率も 2.4 倍→4.6 倍にアップ。前期５学部中、最も増加率が高くなった。新設２年目の(DSEP)の志願倍率は 4.7 倍で学部全体の志願倍率を上回った。

○**教育(124)**は、課程・コース・領域の大規模な改組が行われて２年目だが、学部全体では大幅増加で２年ぶりの増加、志願倍率も 2.2 倍→2.7 倍にアップ。ただし、2020 年度比では(88)の減少。募集単位別では、極端な激増の募集単位があるが、前年度が特別な選考によるものだったので、次年度の動向への影響は限定的。

○**都市科学(145)**は、大幅増加で２年ぶりの増加。ただし、2020 年度比では(91)の減少。学科別では、(建築)(227)は約 2.3 倍増だが、2020 年度比では(88)の減少。一方で、(環境リスク共生)(86)は減少、2020 年度比では(75)の大幅減少。

○**理工(174)**は、激増で２年ぶりに増加。ただし、2020 年度比では(88)の減少。学科・教育プログラム別では、(機械・材料・海洋系／材料工学)(55)のみ大幅減少で、他の８募集単位はいずれも大幅増加。特に、(化学・生命系／化学・化学応用)(264)が約 2.6 倍増、(数物・電子情報系／情報工学)(181)が約 1.8 倍増と目立った。ただし、2020 年度の志願者数を上回ったのは(数物・電子情報系／数理科学)、(化学・生命系／バイオ)の２募集単位のみだった。

〈後期日程〉

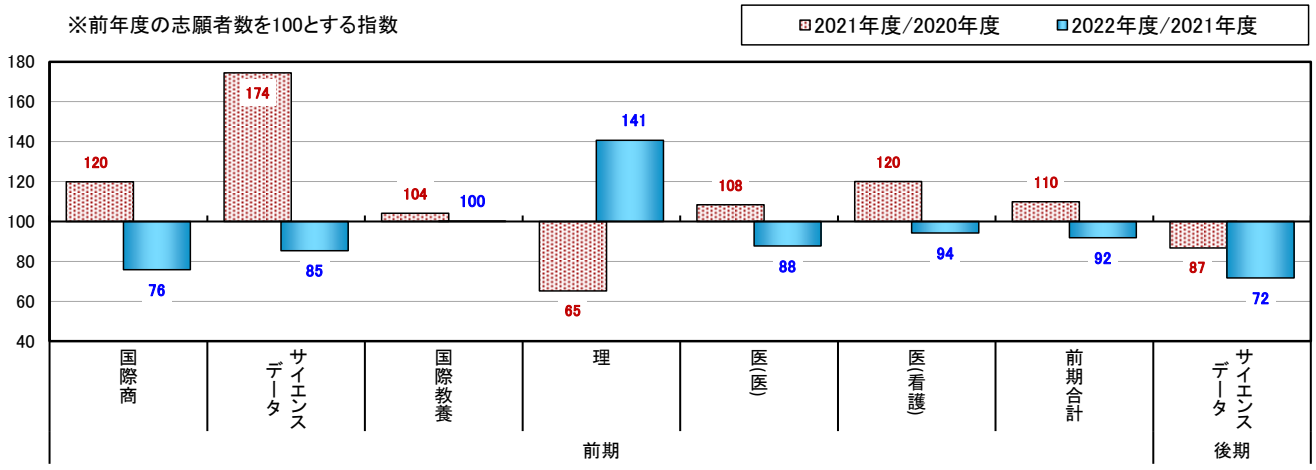
○**経済(175)**は、激増で志願倍率は 6.8 倍→11.8 倍にアップ。ただし、2020 年度比では(84)の大幅減少で、志願者数は 1,000 人を下回った。新設２年目の(DSEP)の志願倍率は 6.2 倍→9.0 倍にアップしたが、学部全体の志願倍率には及ばなかった。

○**経営(202)**は、倍増以上で志願倍率は 5.9 倍→12.0 倍にアップ。ただし、2020 年度対比でも(110)の増加。新設２年目の(DSEP)の志願倍率は 16.3 倍→21.0 倍にアップし、学部全体の志願倍率を上回った。

○**都市科学(195)**は、ほぼ倍増。2020 年度比でも(112)の増加。学科別では、(環境リスク共生)(33)は２年連続大幅増加の反動で激減。他の３学科はいずれも倍増以上。特に、(都市社会共生)(299)はほぼ３倍増。

○**理工(194)**は、倍増近かったが、2020 年度比では(88)の減少。学科・教育プログラム別では、９募集単位がすべて大幅増加で、特に(数物・電子情報系／電子情報システム)(215)、(数物・電子情報系／物理工学)(212)、(化学・生命系／バイオ)(211)、(化学・生命系／化学・化学応用)(203)の４つの募集単位はいずれも倍増以上。しかし、2020 年度の志願者数を上回ったのは(数物・電子情報系／数理科学)だけだった。

横浜市立大：前期は国際教養を除き、前年度逆の増減　　前期：-179 人　後期：-24 人



主な入試変更点	個別試験：医(医)〈前〉…数〈400〉+理２〈400〉+外〈400〉=総点〈1,200〉 →数〈400〉+理２〈600〉+外〈400〉=総点〈1,400〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 179 人(92)の減少。学部（医は学科）別では、理は 74 人(141)で前年度大幅減少の反動で大幅増加、国際教養は１人(100)のみの微増だが、他の４学部・学科はいずれも減少で、国際教養を除くと前年度と逆の増減。後期は系統への人気が高いデータサイエンスのみの募集だが、前年度減少の反動はなく 24 人(72)の大幅減少で２年連続減少。志願倍率も 17.0 倍→12.2 倍にダウン。共通テストの平均点ダウンの影響で高い目標ラインを敬遠。

〈前期日程〉

○**国際商(76)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019 年度の改組の翌年から前年度の反動による大幅増減が継続。改組後初めて、志願者数は 600 人を下回り、志願倍率も 3.9 倍→2.9 倍にダウンして、３倍を下回った。

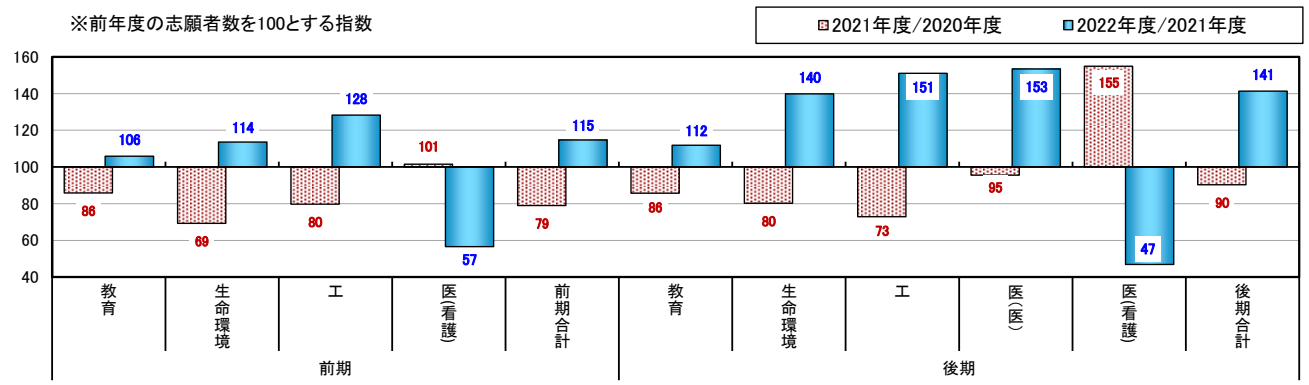
○**データサイエンス(85)**は、系統への人気は高いが、前年度激増の反動に加えて、共通テストの平均点ダウンの影響で高い目標ラインを敬遠して大幅減少。

○**国際教養(100)**は、微増で２年連続増加だが、志願者数は３年連続 700 人を下回り、志願倍率も４倍を下回った。

○**理(141)**は、大幅増加で 2019 年度の改組後では初めて増加、志願倍率は 2.6 倍→3.7 倍にアップし、改組初年度の 2019 年度

に次ぐ高倍率。方式別では、個別試験が数+理２の〈Ａ方式〉(137)は、２年連続減少の反動で大幅増加、個別試験が数+理１の〈Ｂ方式〉(148)は、前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。
○**医(医)(88)**は、減少。第１段階選抜基準が共通テスト 1000 点満点中 750 点以上という基準点と志願倍率約３倍という２つの基準を併用したが、共通テストの平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことが大きく、さらに理科配点が重くなったことにより現役生に敬遠されたことが影響した。。
○**医(看護)(94)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まり、志願倍率はダウンしたが、２倍に留まった。

山梨大：前期は反動、後期はさらに併願先として狙われ、ともに大幅増加　前期：+133 人　後期：+738 人



主な入試変更点	募集人員：教育(学校教育／幼小発達教育)…〈前〉12 人→８人、〈後〉４人→３人 生命環境(生命工)…〈前〉27 人→32 人

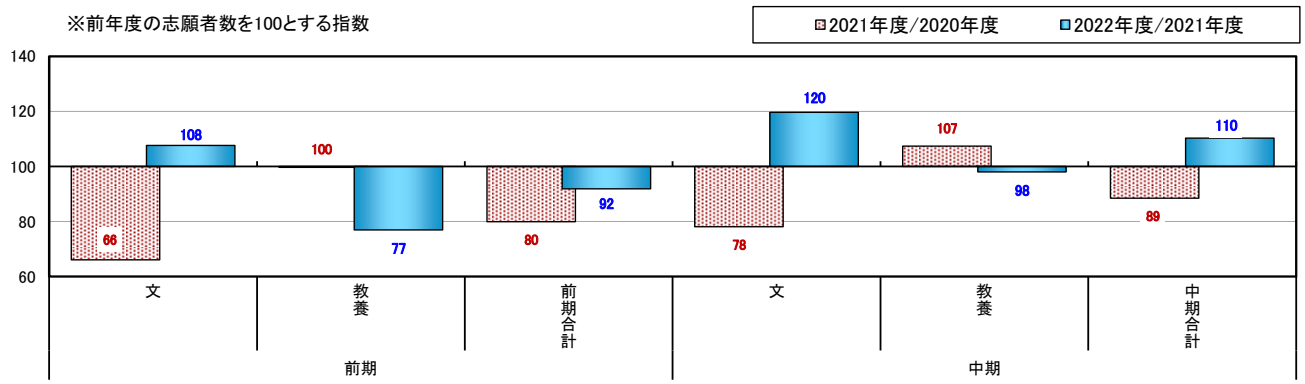
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は２年連続大幅減少の反動で 133 人(115)の大幅増加、志願倍率は 2.2→2.5 倍へアップ。後期は２年連続減少の反動に加え、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたため、738 人(141)の大幅増加で、志願倍率は 10.4 倍→14.8 へアップ。

〈前期日程〉
○**教育(106)**は、系統への人気の低下から、２年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。コース別では、６コース中３コースが増加で、特に(学校教育／言語教育)(178)は前年度減少率 70%の激減の反動で激増。(学校教育／幼小発達教育)(115)は募集人員が４人(33%)減少にもかかわらず、２年連続大幅減少の反動で大幅増加、志願倍率は 2.2 倍→3.8 倍へアップ。
○**生命環境(114)**は、２年連続大幅減少の反動で増加だが、志願者数は２年連続 200 人台に留まった。学科・コース別では、(環境科学)(89)は唯一減少したが、その他の５学科・コースはいずれも増加。特に(地域食物科学)(181)は２年連続大幅減少の反動で激増。(生命工)(107)はやや増加だが、募集人員は５人(19%)増加で、志願倍率は 2.3→2.0 倍にダウン。
○**工(128)**は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、７学科のうち５学科が大幅増加。特に、(電気電子工)(207)は前年度半減以下だった反動で倍増以上、(機械工)(191)は２年連続大幅減少の反動でほぼ倍増の２学科が目立った。一方で、(土木環境工)(78)は大幅減少で、2019 年度以降前年度の反動による増減が継続、(コンピュータ理工)(87)は２年連続減少。
○**医(看護)(57)**は、個別試験に教科試験がないことから共通テストの平均点ダウンの影響を強く受けて、減少率 40%以上の大幅減少。

〈後期日程〉
○**教育(112)**は、系統への人気低下にもかかわらず、２年連続減少の反動で増加。コース別では、６コース中４コースが増加。(学校教育／幼小発達教育)(184)は激増で、2016 年度の改組以降前年度の反動による増減が継続。募集人員が１人(25%)減少もあって、志願倍率は 10.8→26.3 倍へ大幅アップ。(学校教育／科学教育)(167)、(学校教育／言語教育)(150)は大幅増加で、いずれも２年連続大幅減少の反動。一方で、(学校教育／生活社会教育)(55)は２年連続大幅減少、(学校教育／障害児教育)(78)は２年連続大幅増加の反動で大幅減少。
○**生命環境(140)**は、２年連続大幅減少の反動に加え、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたことから大幅増加。学科別では、全ての学科で増加し、特に(地域食物科学)(204)、(環境科学)(200)は倍増。(生命工)(138)は大幅増加で、前年度の反動による極端な増減が継続、(地域社会システム)(104)はやや増加で２年連続増加。
○**工(151)**は、系統への堅調な人気と、共通テストの平均点ダウンの影響による前期上位大学志願者の併願先として狙われたことから大幅増加。学科別では、７学科のうち６学科が大幅増加。特に(機械工)(295)は約３倍増、(電気電子工)(200)も倍増。(メカトロニクス工)(179)は大幅増加で２年連続増加、(先端材料理工)(146)は３年連続大幅増加。一方で、(土木環境工)(86)は減少で２年連続減少。
○**医(医)(153)**は、２年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は 2017 年度以来５年ぶりに 1,600 人を上回った。志願倍率も 11.7 倍→18.0 倍にアップ。２段階選抜が実施されたが、中期・後期日程における２段階選抜実施大学の中で不合格者数最多の 713 人となり、合格率は 56.0%、合格者最低点は 670 点(74.4%)だった。
○**医(看護)(47)**は、個別試験が面接のみであることから共通テストの平均点ダウンの影響を強く受けて、半減以下で、前年度の反動による極端な増減が継続。

都留文科大：前期は３年連続減少、中期は改組後初めての増加　　前期：−44 人　中期：+233 人



主な入試変更点	共通テスト：文(比較文化)…<前><中>外+{国 or 歴公 or 数 or(理・理基２)}→２ →歴公+外+{国 or 数 or(理・理基２)} 教養(地域社会)…<前>歴公＋{国 or 歴公 or 数 or(理・理基２)or 外}→２ →歴公＋外＋{国 or 歴公 or 数 or(理・理基２)}

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 44 人(92)の減少で３年連続減少。設置学部の系統への人気低下に加え、個別試験を課さないため共通テストの平均点ダウンの影響を受けた。一方で、個別試験を課す中期は 233 人(110)の増加で、2018 年度の学部新設・改組以降では初めての増加。

<前期日程>

○**文**(108)は、２年連続大幅減少の反動で増加。学科別では、(比較文化)(149)は、共通テストの歴公が選択から必須となり負担増だが影響はなく、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。(英文)(136)は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加。(国際教育)(55)は、留学必須のためコロナ禍による海外渡航制限の影響を受けて、２年連続大幅減少。

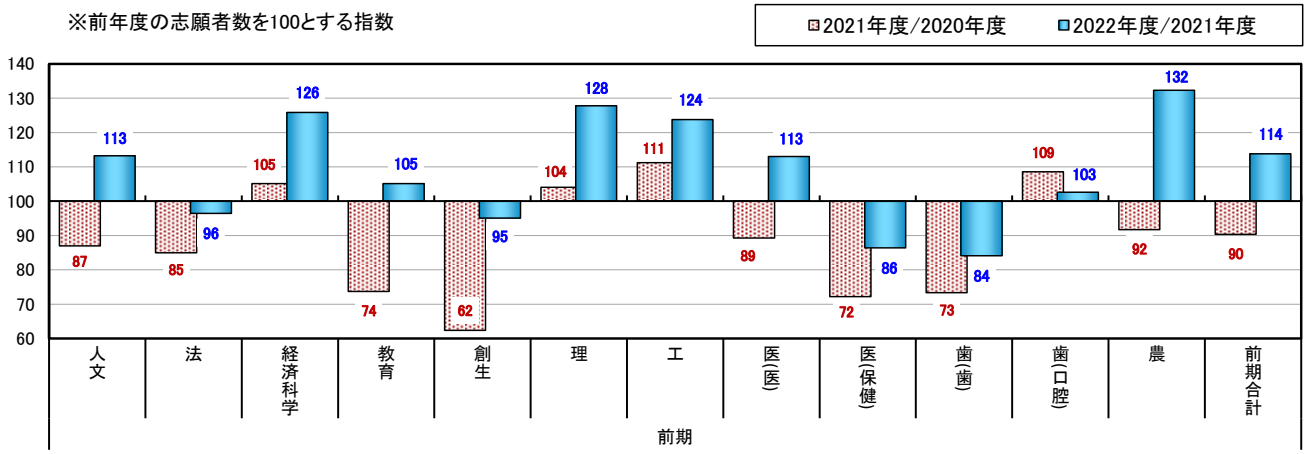
○**教養**(77)は、前年度の微減に引き続き大幅減少。学科別では、(地域社会)(55)は大幅減少。前年度激増の反動に加え、共通テストの英語が選択から 2020 年度以前同様に再び必須科目になったことも影響。一方で、(学校教育)(131)は前年度半減以下の反動で大幅増加。

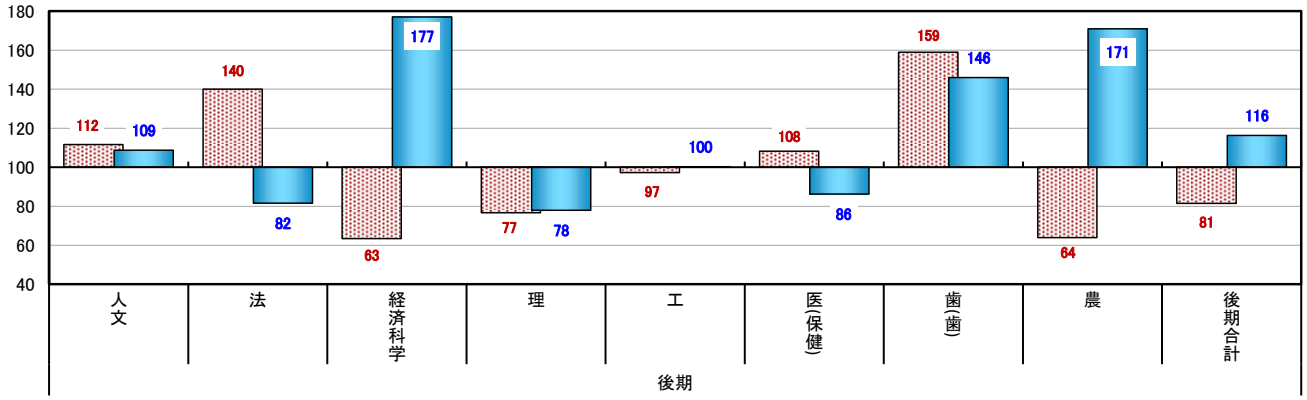
<中期日程>

○**文**(120)は、大幅増加で３年ぶりに増加。国公立大志向の高まりの中、中期日程で受験機会を増やそうという積極的な出願が見られた。学科別では、(英文)(172)は２年連続大幅減少の反動もあり激増、(国文)(111)、(比較文化)(110)は増加。一方で、(国際教育)(69)は留学必須のためコロナ禍による海外渡航制限の影響を受けて、２年連続大幅減少。志願者数は、2017 年度新設以降で初めて 100 人を下回った。

○**教養**(98)は、微減で前年度３年ぶり増加に転じたが再び減少。学科別では、(地域社会)(88)は減少、(学校教育)(108)は増加で、いずれも前年度の反動。

新潟大：前期は増加、後期は前年度の反動で大幅増加　　前期：+432 人　後期：+334 人





COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 432 人(114)の増加。志願者数は５年ぶりに 3,500 人を上回った。学部別では、農(132)、理(128)、経済科学(126)、工(124)が大幅増加で、理系を中心に志願者数増加。後期は 334 人(116)の大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。学部別では、経済科学(177)、農(171)が激増、歯(歯)(146)が２年連続大幅増加。

<前期日程>

○人文(113)は、２年連続減少の反動で増加。
○法(96)は、前年度の大幅減少に引き続きやや減少。
○経済科学(126)は、改組３年目だが大幅増加で２年連続増加。志願倍率は 2.5 倍→3.2 倍と改組後初めて３倍を上回った。
○教育(105)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。専修別では、増加した６専修は全て 20%以上の大幅増加で、特に(学校教員養成／教科教育－理科教育)(226)は２倍以上の激増。一方で、減少した７専修も(学校教員養成／教科教育－音楽教育)(95)を除き 20%以上の減少で、(学校教員養成／学校教育－教育心理学)(41)は前年度激増の反動で半減以下。
○創生(95)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少。2017 年度の新設以降、初めて志願者数が 100 人を下回った。
○理(128)は、大幅増加で２年連続増加。方式別では、<野外科学志向選抜>(153)、<理数重点選抜>(144)が大幅増加。一方で、<理科重点選抜>(69)は大幅減少。
○工(124)は、大幅増加で３年連続増加。方式別では、<共通テスト重視型>(163)は大幅増加で志願倍率は 1.5 倍→2.5 倍にアップ。一方で、<個別学力検査重視型>(67)は大幅減少で志願倍率は 4.3 倍→2.9 倍にダウンと対照的。共通テストの平均点が大幅ダウンした数学の総合点に対する比率が<共通テスト重視型>が 25%に対して、<個別学力検査重視型>は 33%と<共通テスト重視型>のウェイトが小さかったことが影響。
○医(医)(113)は、２年連続減少の反動で増加だが、志願者数は 350 人を３年連続で下回った。
○医(保健)(86)は、減少で２年連続減少。　学科別では、(保健／検査技術科学)(56)は２年連続で半減近い減少。
○歯(歯)(84)は、２年連続大幅減少。志願倍率も 5.5 倍→4.6 倍へダウンし、３年ぶりに５倍を下回った。
○歯(口腔生命福祉)(103)は、やや増加で２年連続増加。
○農(132)は、２年連続減少の反動と系統への人気上昇で大幅増加。

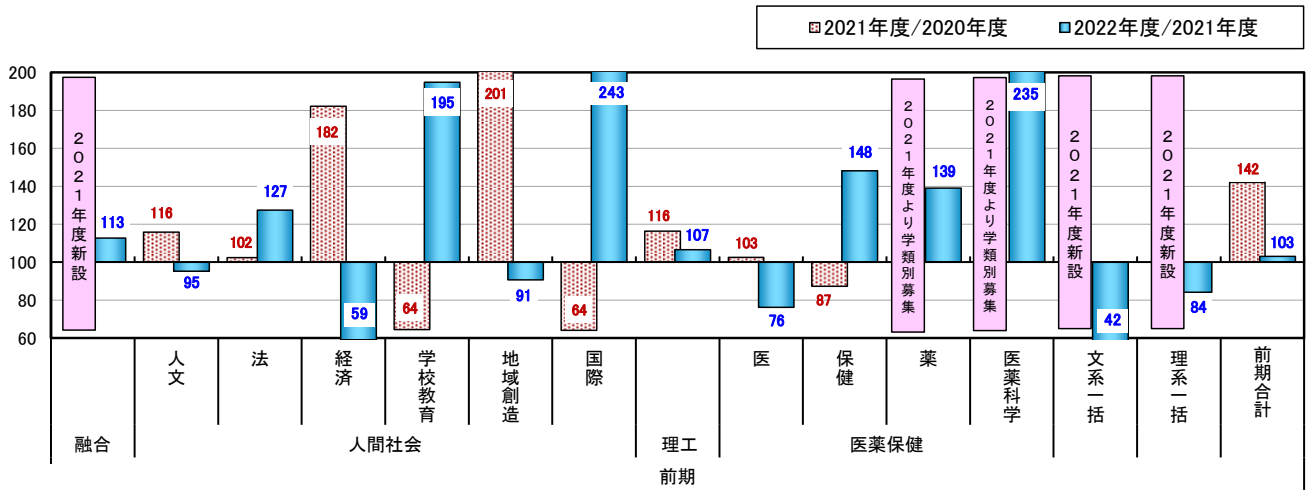
<後期日程>

○人文(109)は、３年連続増加。志願倍率は 10.0 倍で、７年ぶりの 10 倍台。
○法(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○経済科学(177)は、前年度大幅減少の反動で激増。改組前の旧経済の 2017 年度以来５年ぶりに志願者数は 600 人を上回った。
○理(78)は、２年連続大幅減少。
○工(100)は、１人のみ増加の前年度並。
○医(保健)(86)は、２年連続増加の反動で減少。専攻別では、(保健／放射線技術科学)<176>は激増。(保健／検査技術科学)(44)

駿台

は２年連続大幅増加の反動で半減以下。(保健／看護学)(87)は３年連続増加の反動で減少。
○歯(歯)(146)は、２年連続大幅増加。志願者数は６年ぶりに 180 人を上回った。
○**農(171)**は、前年度大幅減少の反動で激増。2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。

金沢大：大学全体ではやや増加、４学域は全て増加、一括入試は文理とも大幅減少　　前期：+94 人



主な入試変更点	学類新設：融合(観光デザイン) 学類改組：人間社会(学校教育学類)→(学校教育学類共同教員養成課程)　※富山大との共同教育課程に変更 専攻名称変更：医薬保健(保健／放射線技術科学)→(保健／診療放射線技術学) 募集人員：人間社会(人文)…〈前〉123 人→120 人、(法)…〈前〉135 人→125 人、(国際)…〈前〉53 人→51 人 一括入試〈文系〉…〈前〉68 人→69 人、一括入試〈理系〉…〈前〉78 人→79 人 共通テスト：理工〈前〉…英語外部試験新規利用(対象試験：ケンブリッジ英検、英検、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT) 医薬保健(保健／診療放射線技術学)〈前〉…国〈100〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+理２〈400〉+外〈300〉=総点〈1,100〉 →国〈50〉+歴公〈50〉+数２〈200〉+理２〈200〉+外〈200〉=総点〈700〉 個別試験：医薬保健(保健／診療放射線技術学)〈前〉…数〈800〉+理〈800〉+外〈800〉=総点〈2,400〉→数〈400〉+理〈400〉+外〈300〉=総点〈1,100〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

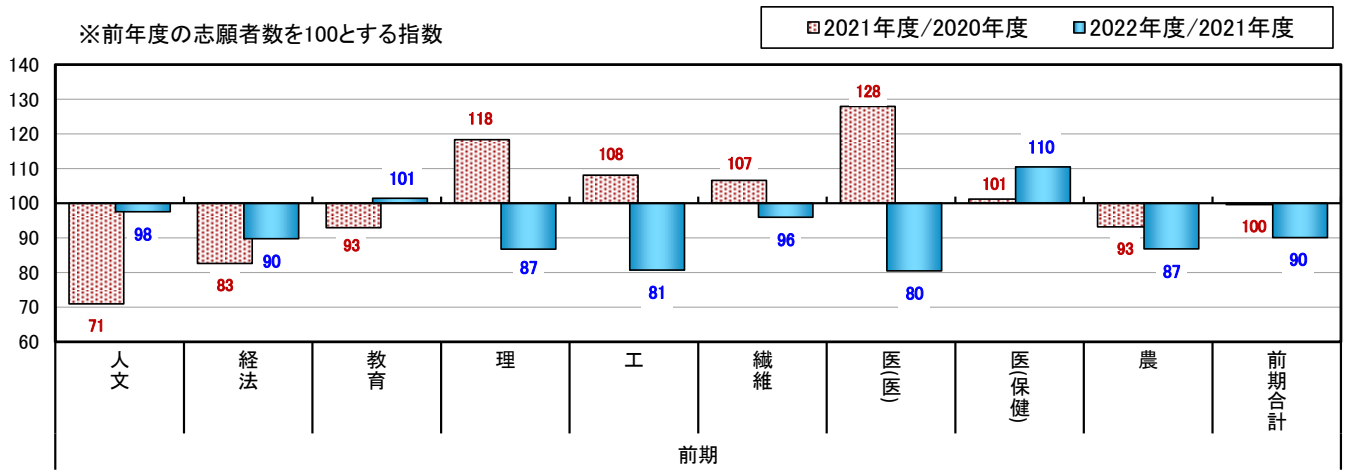
大学全体では、前期のみの募集で 94 人(103)のやや増加。学域別では、４つの学域全てで増加。一方で、一括入試は前期実施になって２年目だが、〈文系〉(42)は半減以下、〈理系〉(84)は大幅減少。

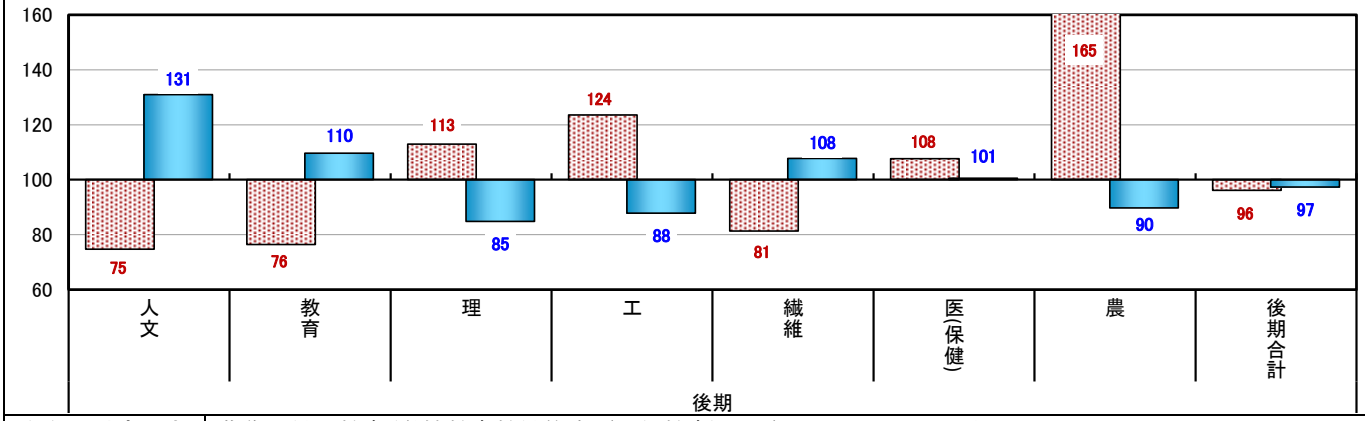
〈前期日程〉

○**融合(113)**は、新設２年目だが(観光デザイン)の新設で増加。既存の(先導科学)(85)は〈文系傾斜〉(66)が大幅減少、〈理系傾斜〉(106)はやや増加で、学類全体では(85)の大幅減少。新設の(観光デザイン)の志願者数は、〈文系傾斜〉24 人、〈理系傾斜〉15 人で、いずれも志願倍率は 3.0 倍だった。
○**人間社会(110)**は、前年度大幅増加の反動はなく、２年連続増加。学類別では、(国際)(243)、(学校教育)(195)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増、法(127)は２年連続増加。一方で、(経済)(59)は前年度激増の反動で大幅減少、(地域創造)(91)は前年度倍増以上の反動は小さく減少。
○**理工(107)**は、前年度大幅増加の反動はなくやや増加。募集単位別では、(地球社会基盤)(173)は激増で３年連続増加。(生命理工)(162)は２年連続減少の反動で大幅増加。３学類一括入試の(機械工・フロンティア工・電子情報通信)(86)は前年度大幅増加の反動で減少。2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。
○**医薬保健(医)(76)**は、２年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は３年ぶりに 3.0 倍を下回った。
○**医薬保健(保健)(148)**は、前年度減少の反動で大幅増加。募集単位別では、全ての募集単位で増加。専攻名を改称した(保健／診療放射線技術学)(252)は約 2.5 倍の激増で、志願者数は 200 人に迫った。看護(120)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
○**医薬保健(薬)(139)**は、学類別募集２年目だが、系統への高い人気から大幅増加。
○**医薬保健(医薬科学)(235)**は、学類別募集２年目だが、系統への高い人気から倍増以上。
○**一括入試〈文系〉(42)**は、前期募集となって２年目だが、前年度志願倍率が 5.5 倍の高倍率だったことへの敬遠から減少率 60%近い大幅減少。志願倍率は 2.3 倍にダウン。
○**一括入試〈理系〉(84)**は、前期募集となって２年目だが、前年度志願倍率が 4.1 倍の高倍率だったことへの敬遠から大幅減少。志願倍率は 3.4 倍にダウン。

駿台

信州大：前期は減少、後期はやや減少でいずれも改組後最少　　前期：-340 人　後期：-76 人





主な入試変更点	募集人員：教育(学校教育教員養成／現代教育)…〈前〉12 人→10 人、〈後〉4 人→3 人 (学校教育教員養成／国語教育)…〈前〉13 人→12 人 (学校教育教員養成／英語教育)…〈前〉7 人→6 人、〈後〉3 人→2 人 (学校教育教員養成／図画工作・美術教育)…〈前〉8 人→6 人、〈後〉2 人→3 人 個別試験：理(理／生物学)〈前〉…面(生の口頭試問含む)→理　※理：生 人文〈前〉〈後〉…コロナ禍対策として個別試験の実施なし→2020 年度以前のように個別試験を実施 経法〈前〉…コロナ禍対策として個別試験の実施なし→2020 年度以前のように個別試験を実施

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 340 人(90)の減少で、改組を行った 2016 年度以降では志願者数は最少。後期は 76 人(97)のやや減少で 3 年連続減少し、改組を行った 2016 年度以降では前期と同じく志願者数は最少。

〈前期日程〉

○**人文(98)**は、前年度コロナ禍により個別試験の実施なしで大幅減少した反動はなく、さらに微減で 3 年連続減少。志願者数は 400 人を下回った。

○**経法(90)**は、前年度コロナ禍により個別試験の実施なしで大幅減少した反動はなく、さらに減少。学科別では、(応用経済)(104)は 4 年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。一方で、(総合法律)(80)は大幅減少で 2 年連続減少。

○**教育(101)**は、2 年連続減少の反動は小さく微増に留まった。コース別では、14 コース 9 コースが減少。特に、(学校教育教員養成／国語教育)(52)はほぼ半減、(学校教育教員養成／家庭科教育)(66)、(学校教育教員養成／社会科教育)(73)、(学校教育教員養成／ものづくり・技術教育)(79)、(学校教育教員養成／心理支援教育)(84)、(学校教育教員養成／現代教育)(85)はいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成／野外教育)(200)は倍増、(学校教育教員養成／理科教育)(153)、(学校教育教員養成／保健体育)(150)、(学校教育教員養成／数学教育)(146)、(学校教育教員養成／特別支援教育)(139)はいずれも大幅増加。

○**理(87)**は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・コース別では、6 学科・コース中 4 学科・コースが減少。(理／物質循環学)(58)は前年度激増の反動で大幅減少、(理／化学)(67)、(数)(77)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(理／生物学)(161)、(理／地球学)(119)はいずれも前年度大幅減少の反動から大幅増加で、2018 年度以降大幅な増減が継続。

○**工(81)**は前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、5 学科中 4 学科が減少。特に(水環境・土木工)(46)は 2 年連続増加の反動で半減以下、(物質化)(70)、(電子情報システム工)(75)はいずれも大幅減少。一方で、唯一増加の(機械システム工)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

○**繊維(96)**は、やや減少。学科別では、4 学科中 3 学科が減少。(機械・ロボット)(66)、(先進繊維・感性工)(78)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、(応用生物科学)(82)は 2 年連続大幅減少。一方で、唯一増加の　(化学・材料)(140)は大幅増加で 2 年連続増加。

○**医(医)(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期を廃止した翌年の 2017 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

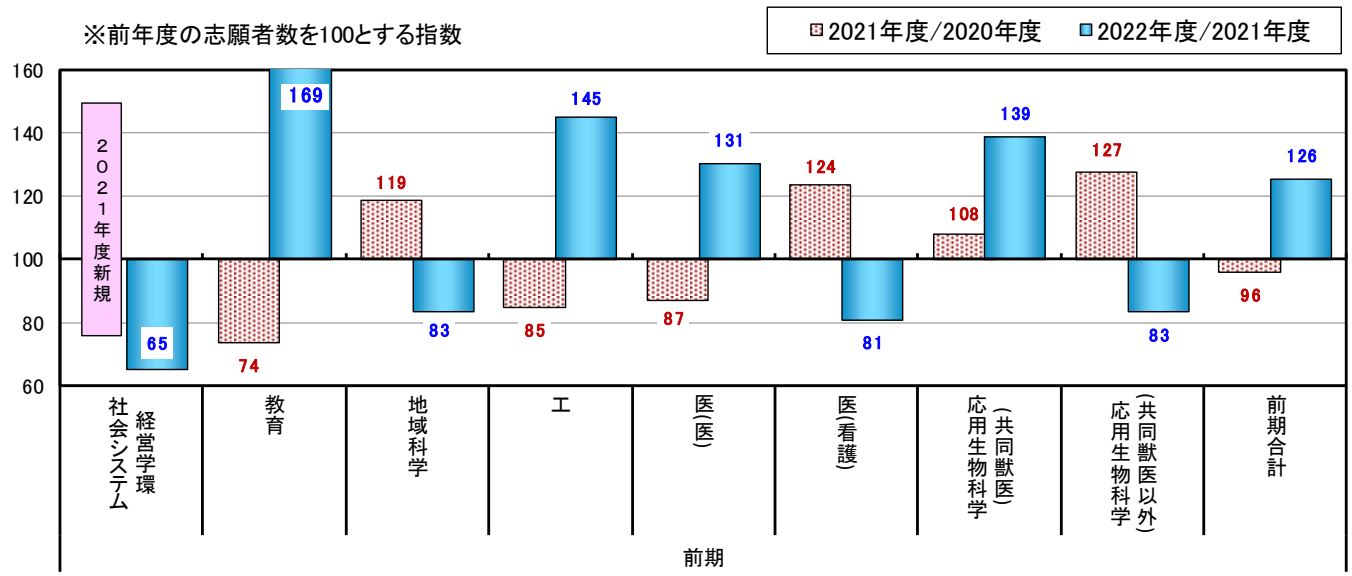
○**医(保健)(110)**は、増加。専攻別では、(保健／看護学)(136)は大幅増加で 2 年連続増加、(保健／検査技術科学)(105)は 2 年

駿台

連続やや増加。一方で、(保健／作業療法学)(79)は３年連続大幅減少、(保健／理学療法学)(93)はやや減少で３年連続減少。
○**農(87)**は、減少で４年連続減少。志願者数は 200 人を下回った。学科・コース別では、(農学生命科学／植物資源科学)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(農学生命科学／動物資源科学)(79)は大幅減少で５年連続減少。

〈後期日程〉
○**人文(131)**は、前年度コロナ禍により個別試験の実施なしで大幅減少した反動で大幅増加。ただし、個別試験を実施した 2020 年度対比では２％の微減。
○**教育(110)**は、２年連続減少の反動で増加。課程・コース別では、(学校教育教員養成／野外教育)(319)は前年度大幅減少の反動で３倍増以上、(学校教育教員養成／社会科教育)(181)は２年連続大幅増加、(学校教育教員養成／理科教育)(138)、(学校教育教員養成／現代教育)(130)、(学校教育教員養成／音楽教育)(115)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加、(学校教育教員養成／保健体育)(135)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(学校教育教員養成／特別支援教育)(60)は前年度倍増以上の反動で大幅減少、(学校教育教員養成／数学教育)(64)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(学校教育教員養成／ものづくり・技術教育)(68)は２年連続大幅減少、(学校教育教員養成／心理支援教育)(82)は大幅減少、(学校教育教員養成／英語教育)(85)は３年連続大幅減少。
○**理(85)**は、前年度増加の反動で大幅減少。学科・コース別では６学科・コース中３学科・コースずつに増減が分かれた。(数)(116)は大幅増加、(理／地球学)(110)、(理／生物学)(109)は増加。一方で、(理／物理学)(43)、(理／化学)(74)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、(理／物質循環学)(73)は２年連続大幅減少。
○**工(88)**は、２年連続増加の反動で減少。学科別では、５学科中４学科が減少。特に、(水環境・土木工)(69)は大幅減少で２年連続減少、(機械システム工)(75)は２年連続大幅増加の反動で大幅減少、(建築)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で,唯一増加の(物質化)(108)は３年連続増加。
○**繊維(108)**は、２年連続減少の反動で増加。学科別では、(化学・材料)(160)は前年度大幅減少の反動で激増、(先進繊維・感性工)(144)は２年連続大幅増加。一方で、(応用生物科学)(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(機械・ロボット)(67)は２年連続大幅減少で、志願者数は 100 人を下回った。
○**医(保健)(101)**は、前年度並。専攻別では、(保健／作業療法学)(111)は２年連続減少の反動で増加。一方で、(保健／看護学)(94)はやや減少。
○**農(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。2016 年度に学部・学科一括募集へ変更以降、前年度の反動による増減が継続。

岐阜大：前期は大幅増加だが学部別では前年度逆の増減、後期は４年連続減少　　前期：+555 人　後期：-181 人



主な入試変更点	募集人員：医(医)…〈前〉37 人→45 人、〈後〉25 人→10 人 共通テスト：医(医)〈前〉…国〈100〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+理２〈200〉+外〈200〉=総点〈800〉 →国〈200〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+理２〈200〉+外〈200〉=総点〈900〉 〈後〉…国〈50〉+歴公〈50〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈400〉 →国〈100〉+歴公〈50〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈450〉

COMMENT ※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 555 人(126)の大幅増加で４年ぶりに増加。学部(医、応用生物科学は学科)・学環別では、教育(169)、工(145)、応用生物科学(共同獣医)(139)、医(医)(131)は大幅増加、新設２年目の社会システム経営学環(65)、医(看護)(81)、応用生物科学(共同獣医以外)(83)、地域科学(83)は大幅減少。学部(医、応用生物科学は学科)・学環別の増減は応用生物(共同獣医)を除いて前年度と逆の増減。後期は 181 人(94)のやや減少で４年連続減少。

〈前期日程〉

○**社会システム経営学環(65)**は、新設２年目だが大幅減少。志願倍率は 5.5 倍→3.6 倍にダウン。

○**教育(169)**は、３年連続大幅減少の反動で激増。募集単位 13 募集単位中８募集単位が増加。特に、(学校教育教員養成／美術教育)(313)、(学校教育教員養成／理科教育)(274)、(学校教育教員養成／特別支援教育)(256)、(学校教育教員養成／保健体育)(223)、(学校教育教員養成／学校教育－教職基礎)(204)、(学校教育教員養成／英語教育)(200)、(学校教育教員養成／社会科教育)(189)はいずれも激増、(学校教育教員養成／国語教育)(132)は大幅増加。一方で、(学校教育教員養成／技術教育)(35)は激減、(学校教育教員養成／音楽教育)(77)、(学校教育教員養成／数学教育)(83)、(学校教育教員養成／学校教育－心理学)(85)はいずれも大幅減少。募集人員が少ないので、極端な増減が目立った。

○**地域科学(83)**は、２年連続増加の反動で大幅減少。

○**工(145)**は、３年連続減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、８学科・コース中６学科・コースが増加。特に、(社会基盤工)(284)は前年度半減以下の反動で激増、(機械工／機械)(258)は３年連続減少の反動で激増、(電気電子・情報工／応用物理)(224)は２年連続大幅減少の反動で激増、(化学・生命工／物質化学)(121)、(化学・生命工／生命化学)(120)、(電気電子・情報工／情報)(118)はいずれも大幅増加。一方で、(機械工／知能機械)(84)は大幅減少。

○**医(医)(131)**は、前年度減少の反動と募集人員が８人(前年度募集人員対比指数 122)増加した影響で大幅増加。志願倍率も２年ぶりに 10 倍を上回った。

○**医(看護)(81)**は、２年連続増加の反動で大幅減少,志願者数は 2020 年度と同数。

○**応用生物科学(共同獣医)(139)**は、大幅増加で２年連続増加。志願倍率は 5.1 倍で、５年ぶりに５倍を上回った。

○**応用生物科学(共同獣医以外)(83)**は、大幅減少で 2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。２課程はいずれも減少で、(応用生命科学)(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(生産環境科学)(91)も前年度大幅増加の反動で減少。

〈後期日程〉

○**地域科学(91)**は、前年度大幅増加の反動で減少。

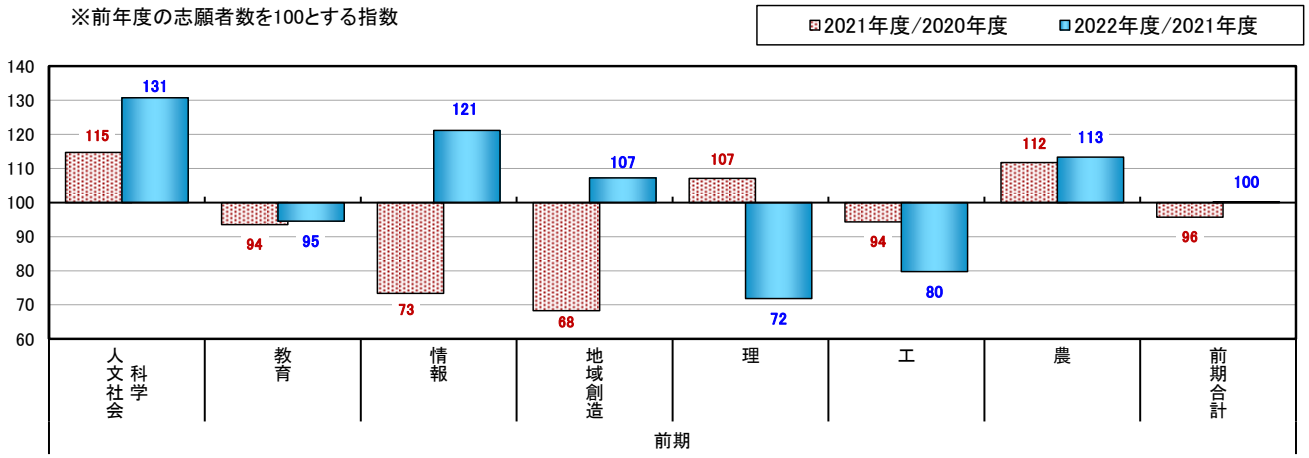
○**工(137)**は、２年連続減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、８学科・コース中７学科・コースが大幅増加。(化学・生命工／生命化学)(169)は３年連続減少の反動で激増、(電気電子・情報工／電気電子)(160)は激増で２年連続増加、(化学・生命工／物質化学)(148)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、(電気電子・情報工／応用物理)(147)は２年連続減少の反動で大幅増加、(社会基盤工)(144)は２年連続大幅増加、(機械工／機械)(130)は３年連続減少の反動で大幅増加、(電気電子・情報工／情報)(115)は２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(機械工／知能機械)(90)は唯一減少で２年連続減少。

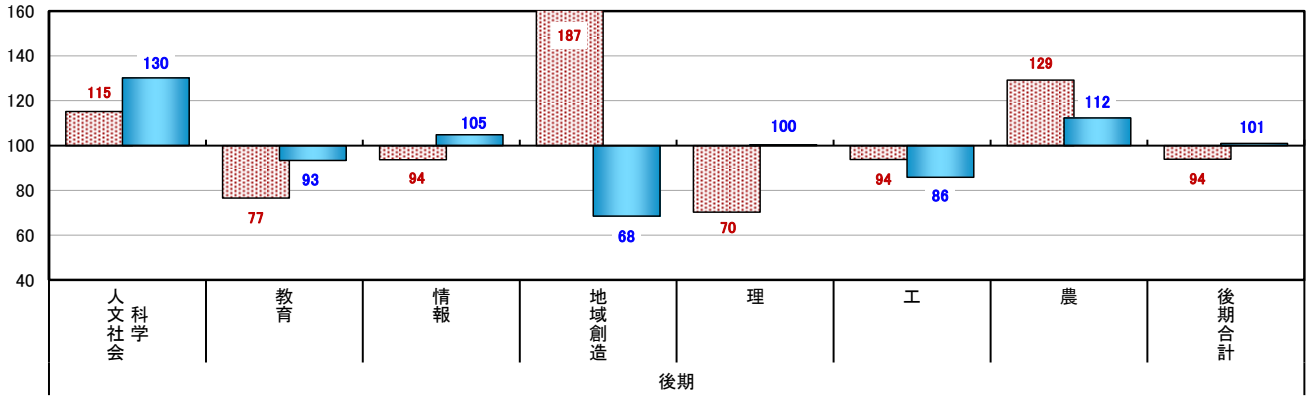
○**医(医)(35)**は、前年度激増の反動と募集人員が 25 人→10 人と 15 人(60%)減少した影響で激減。

○**医(看護)(111)**は、３年連続増加。志願者数は５年ぶりに 200 人を上回った。

○**応用生物科学(共同獣医以外)(137)**は、２年連続大幅増加。２課程はいずれも大幅増加で、特に(応用生命科学)(156)は 60%近い増加で２年連続増加、(生産環境科学)(119)も３年連続増加。

静岡大：前期・後期ともに微増、人文社会科学と農への人気上昇　前期：+6人　後期：+33 人





主な入試変更点	共通テスト：工<前><後>…国+歴公+数２+理２+外　※理：物 or 化 or 生 or 地学 →国+歴公+数２+理２+外　※理：物+化

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は６人(100)の微増。学部・学環別では、人文社会科学(131)、農(113)は２年連続増加。一方で、工(80)、教育(95)は２年連続減少。後期は 33 人(101)の微増で、学部・学環別では、前期と同様に人文社会科学(130)、農(112)は２年連続増加、工(86)、教育(93)は２年連続減少。

<前期日程>

○**人文社会科学(131)**は、２年連続大幅増加で志願者数は３年ぶりに 700 人を上回った。学科別では、(法)(342)は前年度大幅減少の反動で 3.5 倍近い激増。募集人員が 50 人台になった 2014 年度以降で最多の 362 人、志願倍率も最も高い 6.6 倍。一方で、(経済)(66)は前年度激増の反動で大幅減少。

○**教育(95)**は、系統への低い人気からやや減少で２年連続減少。志願者数は 400 人を下回った。16 募集単位中 10 募集単位が減少。(学校教育教員養成／教科教育学－国語教育)(96)を除きいずれも大幅減少。一方で、(学校教育教員養成／教科教育学－理科教育)(263)、(学校教育教員養成／教科教育学－保健体育教育)(250)、(学校教育教員養成／教科教育学－数学教育)(183)、(学校教育教員養成／教科教育学－社会科教育)(162)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。

○**情報(121)**は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加。前年度は３学科全てが減少だったが、一転して全て増加。(情報社会)(149)、(行動情報)(119)は大幅増加、(情報科学)(111)は増加。なお、(行動情報)の選抜区分別では、理系型の<選抜区分Ａ>(142)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、文系型の<選抜区分Ｂ>(90)は前年度大幅減少に引き続き減少。

○**地域創造学環(107)**は、前年度減少率 30%以上の大幅減少の反動は小さくやや増加。コース別では、前年度は３コースとも大幅減少だったが、(アート系)(183)、(文理融合系)(164)は反動で大幅増加。一方で、(スポーツ系)(63)は大幅減少で３年連続減少。

○**理(72)**は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、大幅減少。志願倍率は２倍を下回った。学科別では、６学科中５学科が減少。特に、(地球科学)(54)、(生物科学)(56)、(創造理学)(57)、(数学)(77)は大幅減少。その中の生物科学(56)は３年連続大幅減少で志願倍率は 3.2 倍→2.2 倍→1.2 倍とダウン。一方で、唯一増加した(物理)(105)も前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。

○**工(80)**は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、大幅減少で２年連続減少。学科別では、５学科中４学科が減少。(電気電子工)(49)は半減以下、(機械工)(86)、(数理システム工)(90)、(電子物質科学)(91)は減少。一方で、(化学バイオ工)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加

○**農(113)**は、系統への人気上昇もあり２年連続増加。学科別でも(生物資源科学)　(119)は大幅増加、(応用生命科学)(108)も増加。

駿台

〈後期日程〉

○**人文社会科学**(130)は、２年連続大幅増加。学科別では、(法)(249)は系統への高い人気と前年度大幅減少の反動で激増。志願者数は 350 人、志願倍率は 20 倍を上回り、募集人員が 18 人になった 2016 年度以降では最多。(社会)(193)は２年連続減少の反動で激増、(言語文化)(126)は大幅増加で２年連続増加。一方で、(経済)(55)は前年度激増の反動で大幅減少。

○**教育**(93)は、系統への低い人気から前年度大幅減少の反動はなくやや減少で２年連続減少。後期募集を実施する 10 募集単位中６募集単位が減少。(学校教育教員養成／養護教育)(39)は激減、(学校教育教員養成／教科教育学－美術)(56)、(学校教育教員養成／初等学習開発学)(63)、(学校教育教員養成／教科教育学－家庭科)(73)、(学校教育教員養成／発達教育学－教育実践学)(85)は大幅減少。一方で、(学校教育教員養成／教科教育学－理科教育)(151)、(学校教育教員養成／教科教育学－国語教育)(136)、(学校教育教員養成／教科教育学－数学教育)(118)は大幅増加。

○**情報**(105)は、２年連続減少の反動は小さくやや増加。学科別では、２年連続減少の(情報科学)(155)は大幅増加、(行動情報)(74)、(情報社会)(83)はいずれも大幅減少。

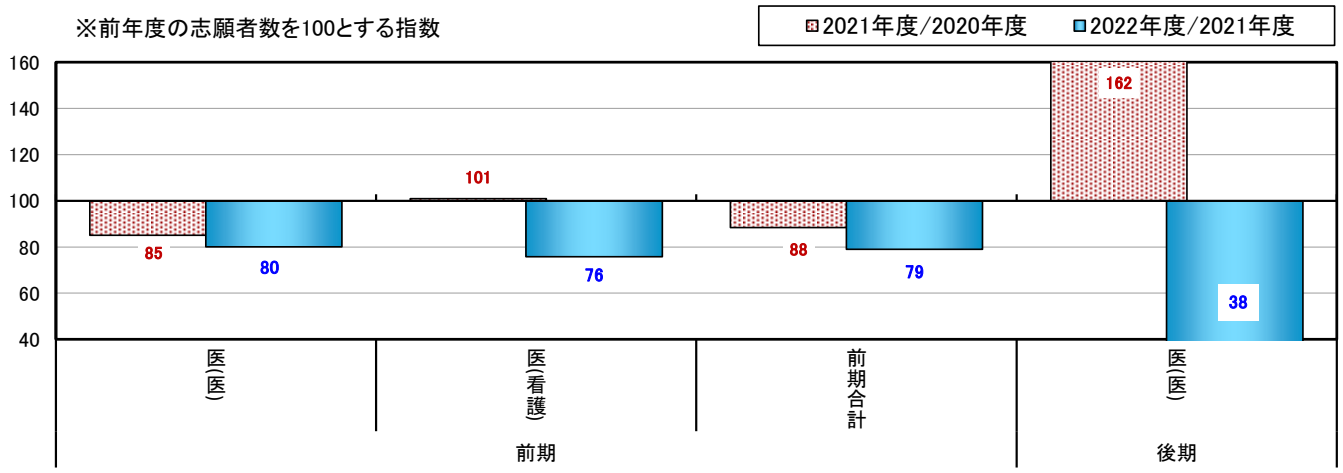
○**地域創造学環**(68)は、大幅減少で、2018 年度以降前年度の反動による増減が継続。

○**理**(100)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、前年度大幅減少の反動はなく前年度並。学科・コース別では、(創造理学コース)(167)は前年度減少率 80%近い激減の反動で激増、(物理)(114)、(地球科学)(111)は増加。一方で、(生物科学)(80)、(数学)(84)、(化学) (85)はいずれも大幅減少。

○**工**(86)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあって、減少で２年連続減少。学科別では、(数理システム工)(116)は大幅増加で２年連続増加、(機械工)(112)は３年連続減少の反動で増加。一方で、(電子物質科学)(55)、(化学バイオ工) (80)は大幅減少、(電気電子工)(90)は減少。

○**農**(112)は、前年度大幅増加の反動はなく２年連続増加。学科別では(生物資源科学)(126)が２年連続大幅増加。

浜松医科大：医(医)は前期大幅減少、後期は個別での教科試験がなく激減　　前期：-91 人　後期：-222 人



主な入試変更点	募集人員：医(医)…〈一般枠〉〈前〉64 人→68 人、〈後〉15 人→14 人 〈地域枠〉〈前〉11→７人、〈後〉０人→１人 出願区分名称変更：医(医)…〈地域医療枠〉→〈地域枠〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

医(医)は、学科合計の志願者数では、前期は 66 人(80)の大幅減少で２年連続大幅減少。４年ぶりに 300 人を下回った。後期は 222 人(38)の激減で、２年連続激増の反動。医(看護)は前期のみ募集だが、25 人(76)の大幅減少で、４年連続増加の反動。

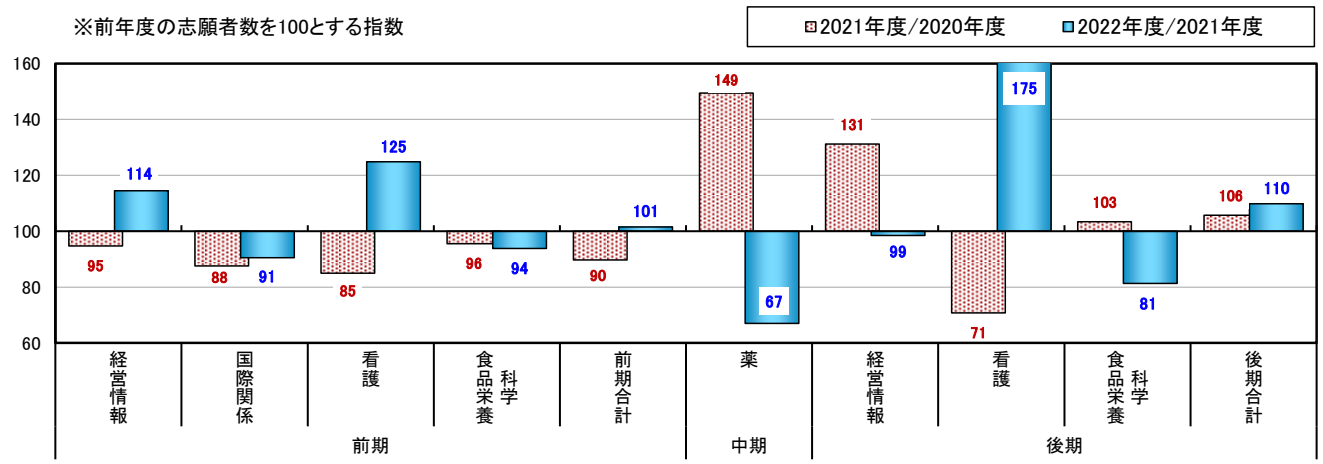
〈前期日程〉

○**医(医)**(80)の出願区分別では、〈一般枠〉(83)は募集人員が４人(６%)増加だが大幅減少で３年連続減少。志願倍率も 2019 年度の 4.8 倍→3.6 倍にダウン。新設３年目の〈地域枠〉(59)は募集人員が４人(36%)減少の影響で、２年連続大幅減少。志願倍率も新設初年度の 8.6 倍→3.0 倍までダウン。

〈後期日程〉

○**医(医)**(38)は、個別試験に教科試験がなく、共通テストの成績で合否が決まるので、平均点大幅ダウンの影響は大きかった。出願区分別では、〈一般枠〉(36)は２年連続大幅増加の反動で激減、募集人員１人(７%)減少も影響。〈地域枠〉は出願区分名称を変更して旧〈地域医療枠〉から２年ぶりに復活したが、募集人員が同じく１人だった 2020 年度との比較で 16 人(33)の激減。

静岡県立大：薬〈中〉は大幅減少、後期は看護が激増　前期：+14 人　中期：−366 人　後期：+36 人



COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は２年連続減少の反動は小さく 14 人(101)の微増。薬のみ募集の中期は、前年度大幅増加の反動で 366 人(67)の大幅減少で、2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、２学科はいずれも大幅減少だが、特に(薬)(62)は前年度激増の反動で 40%近い大幅減少。後期は 36 人(110)の増加で、２年連続増加。

〈前期日程〉

○**経営情報**(114)は、２年連続減少の反動で増加。

○**国際関係**(91)は、コロナ禍の影響による系統への人気低下が影響して３年連続減少。学科別では、(国際言語文化)(124)は２年連続減少、特に前年度の激減の反動で大幅増加。志願倍率は 2.7 倍→3.3 倍にアップ。一方、(国際関係)(59)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は 5.7 倍→3.4 倍にダウンと対照的。

○**看護**(125)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2019 年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。

○**食品栄養科学**(94)は、やや減少で３年連続減少。学科別でも、全ての学科で減少。

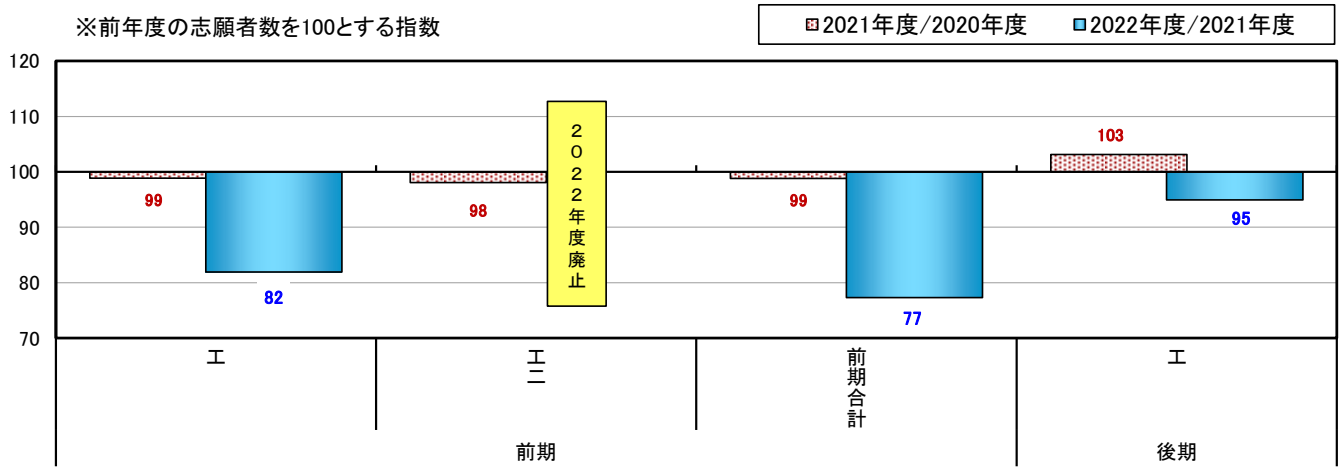
〈後期日程〉

○**経営情報**(99)は、前年度大幅増加の反動は小さく、微減。

○**看護**(175)は、前年度大幅減少の反動で激増。志願者数は５年ぶりに 130 人を上回り、志願倍率は 15.0 倍→26.2 倍に大幅アップ。

○**食品栄養科学**(81)は、大幅減少で 2017 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(食品生命科学)(107)は前年度の激増の反動はなく、２年連続増加。一方で、(栄養生命科学)(66)は大幅減少、(環境生命科学)(76)は２年連続大幅減少、2014 年度以降で最少の志願者数となった。

名古屋工業大：前期は大幅減少、後期はやや減少　前期：−411 人　後期：−111 人



主な入試変更点	選抜方法：工二(夜間主)…一般選抜＜前＞で実施→総合型選抜入試、学校推薦型入試で実施

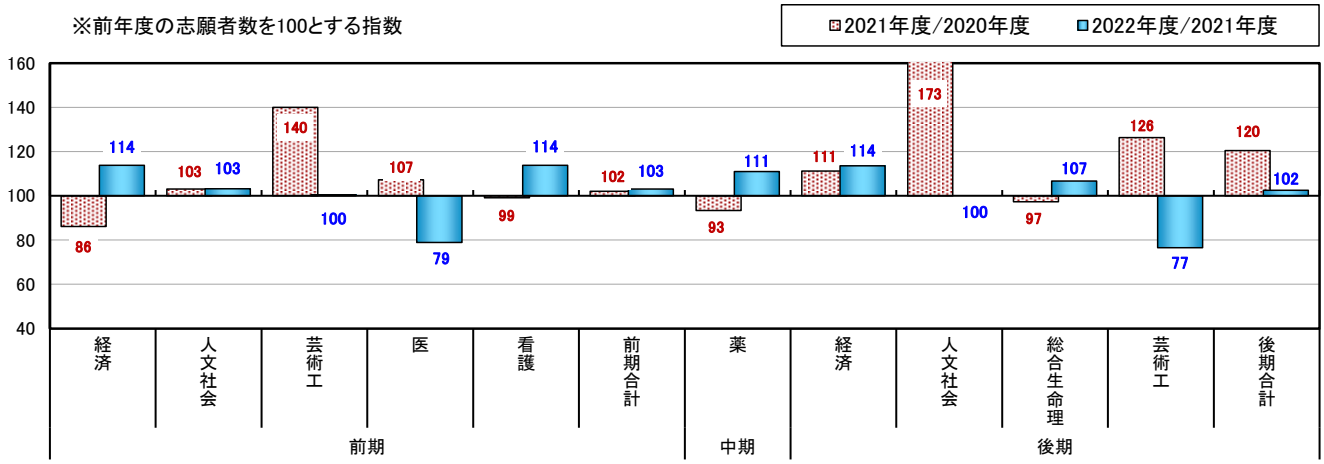
COMMENT　※（　　）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は工二が一般選抜を廃止したこともあり 411 人(77)の大幅減少。工のみでも共通テストの平均点ダウンの影響もあり、309 人(82)の大幅減少。後期は 111 人(95)のやや減少。

〈前期日程〉
○**工**(82)は、共通テストの平均点ダウンの影響もあり大幅減少。募集単位別では、９募集単位中７募集単位が減少。特に、(創造工学／情報・社会)(45)は前年度３倍近い激増の反動で半減以下、志願倍率は 7.7 倍→3.5 倍にダウン。(社会工／環境都市)(47)も前年度約 2.7 倍の激増の反動で半減以下、志願倍率は 4.5 倍→2.1 倍にダウン。(創造工学／材料・エネルギー)(72)は前年倍増以上の反動で大幅減少。一方で、(物理工)(115)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、(社会工／経営システム)(104)が前年度大幅増加に引き続きやや増加。

〈後期日程〉
○**工**(95)は、やや減少。募集単位別では、９募集単位中６募集単位が減少。特に、(創造工学／情報・社会)(40)は前年度倍増以上の反動で激減。(社会工／環境都市)(71)、(物理工)(72)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(社会工／経営システム)(139)は２年連続減少の反動で大幅増加。

名古屋市立大：中期は前年度の反動で増加　　前期：+40 人　中期：+116 人　後期：+36 人



主な入試変更点	第１段階選抜基準変更：医(医)〈前〉…共通テストの合計が 550 点満点中概ね 75%以上 →共通テストの合計が 550 点満点中概ね 73%以上

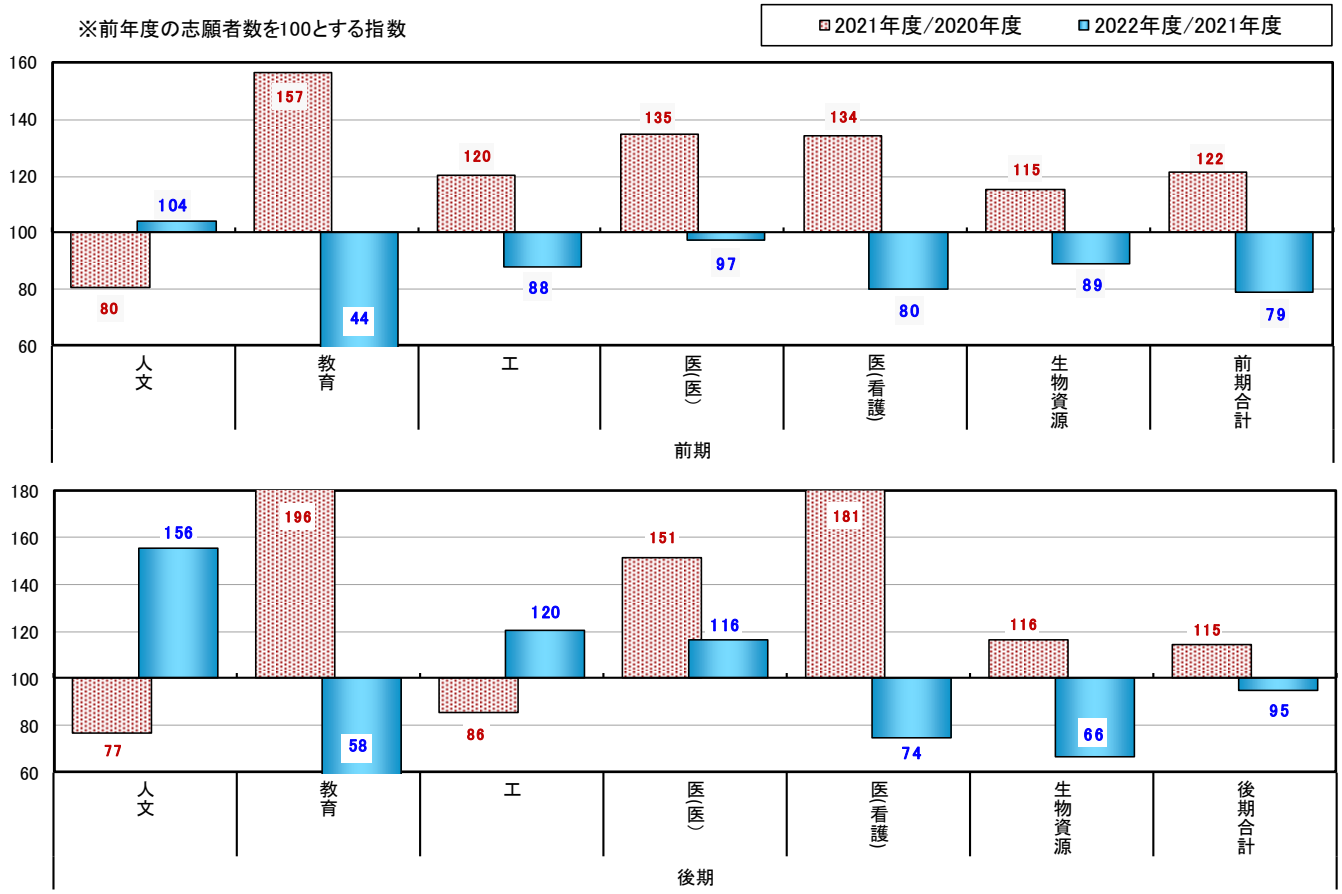
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 40 人(103)のやや増加で２年連続増加。後期は、前年度大幅増加の反動はなく、さらに 36 人(102)の微増。中期は薬のみの募集だが 116 人(111)の増加、学科別では(薬)(112)は２年ぶりに増加、(生命薬科学)(110)は前年度減少の反動で増加。

〈前期日程〉
○**経済**(114)は、２年連続減少の反動で増加。
○**人文社会**(103)は、２年連続やや増加。学科別では、(国際文化)(113)は２年連続増加、(心理教育)(111)は２年連続減少の反動で増加。一方で、(現代社会)(89)は減少。
○**芸術工**(100)は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。学科別では、(建築都市デザイン)(119)は２年連続大幅増加。(産業イノベーション)(102)は前年度大幅増加の反動はなく前年度並。一方で、(情報環境デザイン)(71)は前年度は個別試験で実技の他に小論文での受験も可能になったこともあり激増したが、反動で大幅減少。
○**医**(79)は、第１段階選抜について、1 月 20 日に基準点を、共通テストの総合点 550 点中 390 点以上(概ね 71%以上)に緩和すると大学より発表があったが、それでも共通テスト平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことに加えて、２年連続増加の反動で大幅減少。なお、第１段階選抜の合格率は 92.1%。
○**看護**(114)は増加で、３年ぶりに増加に転じた。

〈後期日程〉
○**経済**(114)は、２年連続増加。方式別では、〈Ｅコース〉(130)が３年連続減少の反動で大幅増加。〈Ｍコース〉(101)は前年度大幅増加した反動はなく前年度並。
○**人文社会**(100)は、前年度激増の反動はなく前年度並。学科別では、(心理教育)(131)は２年連続大幅増加。志願倍率も 8.4 倍→11.0 倍にアップ。(国際文化)(105)は前年度激増の反動はなくやや増加で２年連続増加。一方で、(現代社会)(67)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。
○**総合生命理**(107)は、後期のみの募集だがやや増加。
○**芸術工**(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(情報環境デザイン)(69)は３年連続大幅減少。(建築都市デザイン)(73)も前年度大幅増加の反動で大幅減少。(産業イノベーション)(89)は前年度大幅増加の反動で減少。

三重大：前期は大幅減少、後期はやや減少　　前期：-650 人　後期：-133 人



COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加の反動で 650 人(79)の大幅減少、志願者数は６年ぶりに 2,500 人を下回った。後期は前年度大幅増加の反動は小さく 133 人(95)のやや減少。

〈前期日程〉

○**人文(104)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。学科別では、(文化)(145)は前年度 40%の大幅減少の反動で大幅増加だが。志願者数は 200 人に届かなかった。(法律経済)(86)は減少で４年連続減少、志願者数は 250 人を下回った。

○**教育(44)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 400 人を下回った。課程・コース・専攻・選修別(以下「募集単位別」)では、24 募集単位中 19 募集単位が減少。また、募集人員が少ない募集単位が多いことから増減が極端になりやすく、20 募集単位で 20%以上の増減があった。(学校教育教員養成／学校教育－教育学)(9)は、前年度約 14 倍の大幅増加の反動で激減。志願倍率は 24.1 倍→2.1 倍に大幅ダウン。(学校教育教員養成／社会科－初等)(16)、(学校教育教員養成／特別支援)(19)、(学校教育教員養成／国語－初等)(30)、(学校教育教員養成／社会科－中等)(31)、(学校教育教員養成／美術－初等)(33)、(学校教育教員養成／保健体育－初等)(37)はいずれも前年度激増の反動による激減。一方で、(学校教育教員養成／技術・ものづくり教育－中等)(300)は、２年連続大幅減少の反動で３倍の激増。志願倍率は 1.7 倍→5.0 倍にアップ。(学校教育教員養成／家政－中等)(180)は激増で２年連続大幅増加。

○**工(88)**は、前年度大幅増加の反動で減少。2019 年度の学科改組後、前年度の反動による増減が継続。学科・コース別では、(総合工／情報工学)(152)は２年連続減少の反動で 50%以上の大幅増加。(総合工／機械工学)(143)、(総合工／電気電子工学)(116)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(総合工／総合工学)(47)は前年度約 2.7 倍増の反動で大幅減少。志願倍率は 6.9 倍→3.2 倍にダウン。(総合工／応用化学)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**医(医)(97)**は、２年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。志願倍率も 5.3 倍→5.2 倍とわずかにダウン。

○**医(看護)(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**生物資源(89)**は、前年度大幅増加の反動で減少。志願者数は２年ぶりに 400 人を下回った。学科別では、(共生環境)(107)を除く３学科が減少。特に、(海洋生物資源)(77)は前年度 50%の大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は 4.5 倍→3.5 倍にダウン。

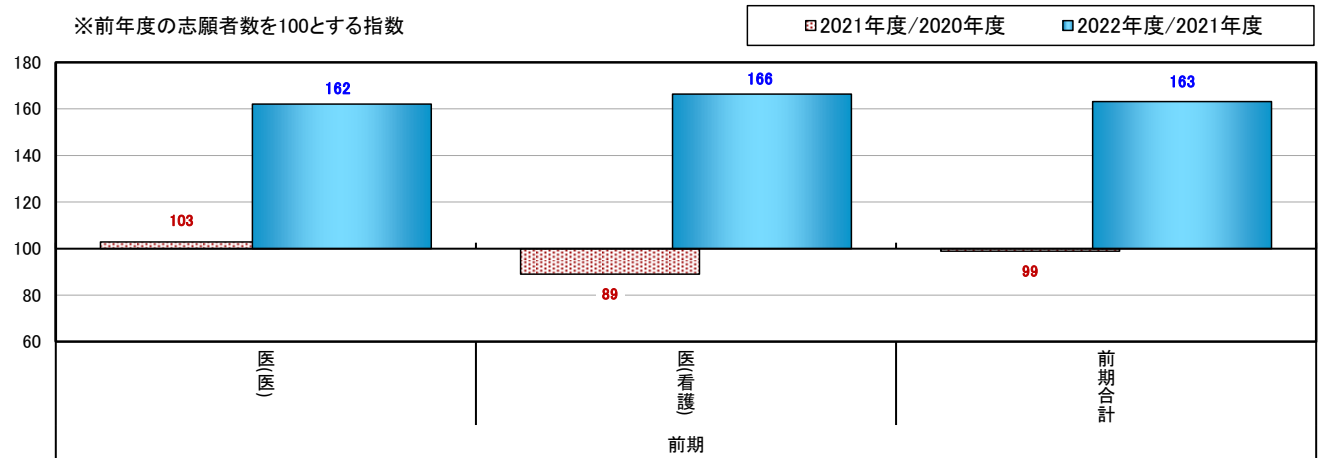
〈後期日程〉

○**人文(156)**は、前年度大幅減少の反動で 50%以上の大幅増加。志願倍率は 6.6 倍→10.3 倍にアップ、10 倍を上回るのは８年ぶり。学科別では、２学科とも大幅増加。(文化)(217)は前年度半減の反動で約 2.2 倍増。(法律経済)(117)は２年連続大幅増加。

○**教育(58)**は、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率は 24.9 倍→14.4 倍に大幅ダウン。2014 年度の改組以降、前年度の反動による増減が継続。募集単位別では、後期募集を行う 10 募集単位中７募集単位が減少。また、募集人員が少ない募集単位ばかりなので増減が極端になりやすく、７募集単位で 20%以上の増減があった。(学校教育教員養成／国語－初等)(28)、(学校教育教員養成／特別支援)(34)、(学校教育教員養成／社会科－初等)(38)はいずれも前年度激増の反動による激減。一方で、(学校教育教員養成／社会科－中等)(135)は大幅増加、志願倍率は 33.0 倍→44.5 倍に大幅アップ。

○**工(120)**は、大幅増加で志願者数は 2019 年度の改組後では最多で、800 人を上回った。学科・コース別では、(総合工／機械工学)(258)は前年度大幅減少の反動で約 2.6 倍の激増。志願者数は 2019 年度の改組後では最多で、志願倍率は 4.3 倍→11.0 倍にアップ。(総合工／情報工学)(175)、(総合工／応用化学)(120)は、いずれも前年度大幅減少の反動による大幅増加。一方で、(総合工／電気電子工学)(59)、(総合工／建築学)(73)は、いずれも前年度大幅増加の反動による大幅減少。
○**医(医)(116)**は、２年連続大幅増加。志願倍率は 18.3 倍→21.3 倍にアップ。
○**医(看護)(74)**は、前年度 80%以上の激増の反動で大幅減少。
○**生物資源(66)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、４学科全てで減少。(資源循環)(55)は前年度ほぼ倍増の反動で大幅減少。志願倍率は 9.5 倍→5.3 倍にダウン。(共生環境)(78)は２年連続大幅減少。

滋賀医科大：医(医)、医(看護)ともに激増　　前期：+214 人



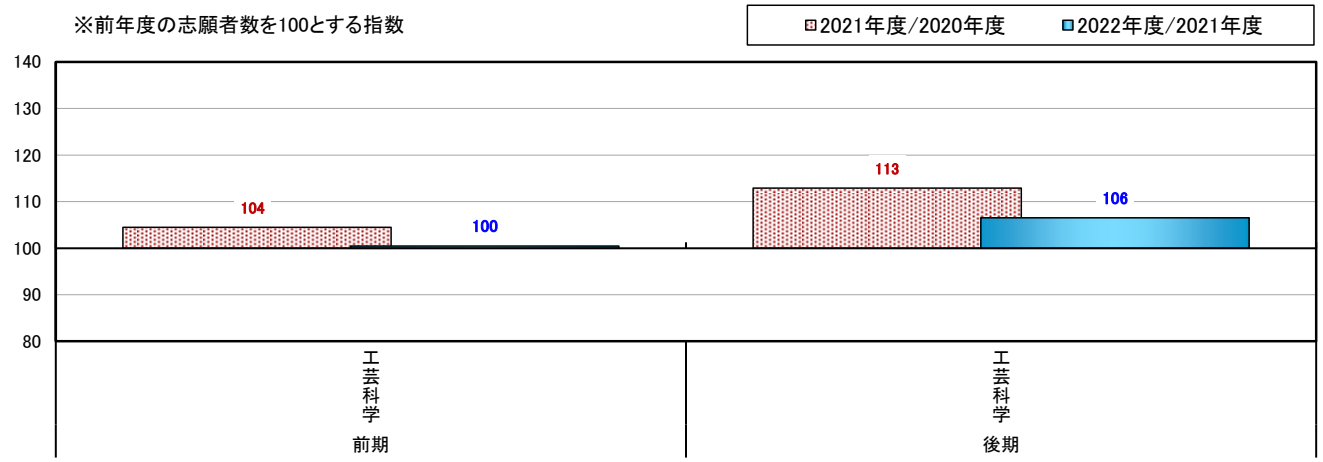
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体で前期のみの募集。医(医)は、共通テストの平均点ダウンの中で近畿地区の医(医)として目標ラインが低いことから志望変更先として狙われた結果。155 人(162)の激増で２年連続増加。志願倍率は 4.2 倍→6.8 倍にアップ。医(看護)は、２年連続減少の反動で 59 人(166)の激増。志願倍率は 2.0 倍→3.3 倍にアップ。

<前期日程>

○**医(医)(162)**は、激増で２年連続増加。募集枠別では、<一般枠>(150)、<地域医療枠>(208)のいずれも大幅増加。特に、新設３年目の<地域医療枠>(208)は、前年度大幅減少の反動で倍増以上。志願倍率は 10.6 倍→22.0 倍に大幅アップ。志願者数は 100 人を上回り、新設以来最多となった。<一般枠>(150)は前年度の増加に引き続き増加率 50%の大幅増加。志願倍率は 3.6 倍→5.4 倍にアップ。２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 86.4%だった。

京都工芸繊維大：前期、後期ともに２年連続増加　　前期：+5 人　後期：+98 人



主な入試変更点	選抜方法：全学部…<地域創生 Tech Program>新規実施　※各募集単位で若干名 共通テスト：工芸科学(設計工／電子システム工学、機械工学)<前><後>…国+歴公+数２+理２+外　(歴公に地歴A科目追加) ※歴公：世 Bor 日 Bor 地理 Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 →※歴公：世 Aor 世 Bor 日 Aor 日 Bor 地理 Aor 地理 Bor 現 or 倫 or 政 or 倫政 (デザイン科学／デザイン・建築学)<後>…国<100>+歴公<100>+数２<200>+理<100>+外<100>=総点<600> →国<50>+歴公<50>+数２<100>+理<50>+外<100>=総点<350> 個別試験：工芸科学(デザイン科学／デザイン・建築学)<後>…総合問題<200>→総合問題<350>

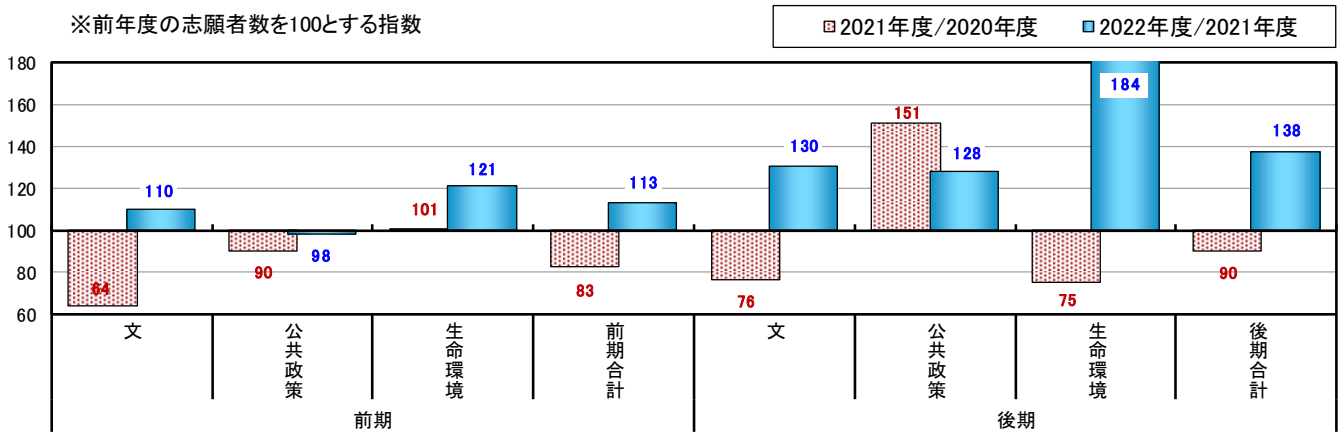
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は５人(100)の微増、後期は 98 人(106)の増加。前期、後期ともに２年連続増加。

〈前期日程〉
○**工芸科学**(100)は、微増だが２年連続増加。学域・課程別では、６課程中４課程が増加。特に(応用生物／応用生物学)(167)は４年連続減少の反動で激増。(設計工／情報工学)(116)は大幅増加、(物質・材料科学／応用化学)(114)は増加でいずれも２年連続増加。一方で、(デザイン科学／デザイン・建築学)(79)、(設計工／電子システム工学)(80)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少。

〈後期日程〉
○**工芸科学**(106)は、やや増加で２年連続増加。学域・課程別では、前期同様に６課程中４課程が増加。特に(応用生物／応用生物学)(173)は前年度大幅減少の反動で激増。志願倍率は 4.6 倍→7.9 倍にアップ。(物質・材料科学／応用化学)(144)は前年度やや増加に引き続き大幅増加。志願倍率は 7.9 倍→11.4 倍にアップ。 (設計工／電子システム工学)(126)は前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。一方で、(設計工／機械工学)(67)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。

京都府立大：前期は増加、後期は大幅増加　　前期：+108 人　後期：+226 人



主な入試変更点	共通テスト：文(和食文化)〈後〉…国+歴公+数+理+外→国+歴公+数+(理・理基２)+外　※理基２追加

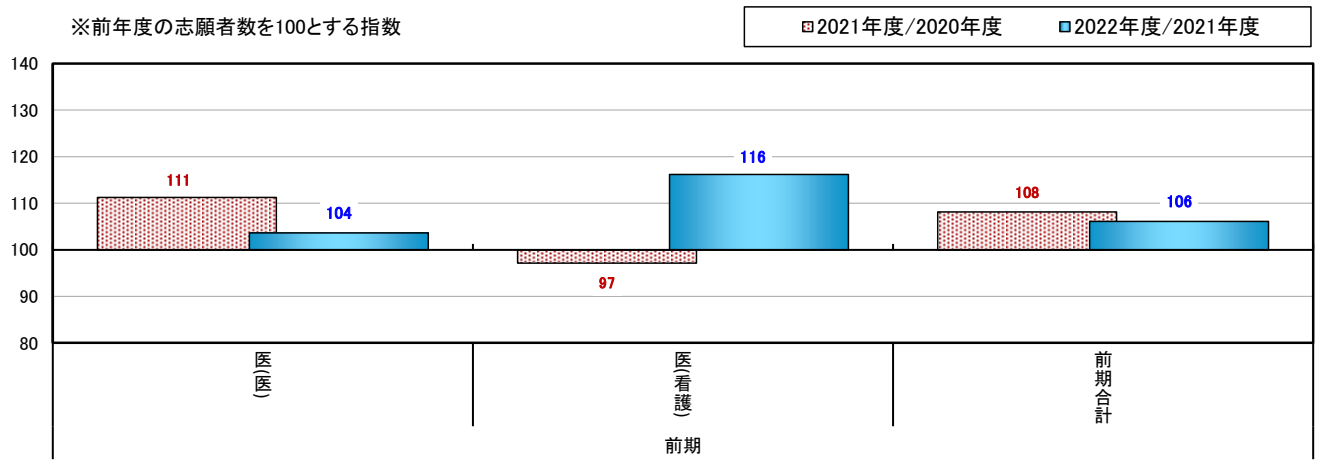
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅減少の反動で 108 人(113)の増加、後期は２年連続減少の反動で 226 人(138)の大幅増加。共通テストの平均点ダウンにより、前期は上位大学からの志望変更、後期は前期上位大学出願者の併願先として狙われた影響が見られた。

〈前期日程〉
○**文**(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、４学科全てで増加。(和食文化)(122) は大幅増加、(日本・中国文)(111)、(欧米言語文化)(108)は増加、(歴史)(104)はやや増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
○**公共政策**(98)は、微減だが２年連続減少。学科別では、(福祉社会)(126)は前年度大幅減少の反動による大幅増加で、５年ぶりに増加。一方で、(公共政策)(83)は２年連続増加の反動で大幅減少。
○**生命環境**(121)は、大幅増加。学科別では、６学科中４学科が増加。(生命分子化)(251)は前年度大幅減少の反動から約 2.5 倍増、前年度の反動による増減が継続。(環境デザイン)(129)、(食保健)(122)は大幅増加で、いずれも２年連続増加。(森林科学)(110)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(環境・情報科学)(78)は２年連続増加の反動で大幅減少。(農学生命科学)(92)は前年度大幅増加の反動で減少。

〈後期日程〉
○**文**(130)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、４学科中３学科が増加。特に、新設４年目の(和食文化)(800)は前年度大幅減少の反動で８倍増。志願者数は 80 人で新設後最多、志願倍率も 2.2 倍→17.6 倍に大幅アップ。(歴史)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(欧米言語文化)(109)は２年連続増加。一方で、(日本・中国文)(83)は２年連続大幅減少。志願倍率は 20.0 倍→16.5 倍にダウン。
○**公共政策**(128)は、２年連続大幅増加。学科別では、(福祉社会)(136)、(公共政策)(124)のいずれも２年連続大幅増加。
○**生命環境**(184)は、前年度後期募集が廃止された(環境デザイン)を除くと、前年度の大幅増加に引き続き激増。学科別では、３学科がいずれも増加。特に、(農学生命科学)(265)は激増で２年連続大幅増加。志願倍率は 5.7 倍→15.1 倍にアップ。(生命分子化)(127)も２年連続大幅増加。(森林科学)(110)は増加で、前年度の反動による増減が継続。

京都府立医科大：医(医)はやや増加、医(看護)は大幅増加　前期：+21 人



COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

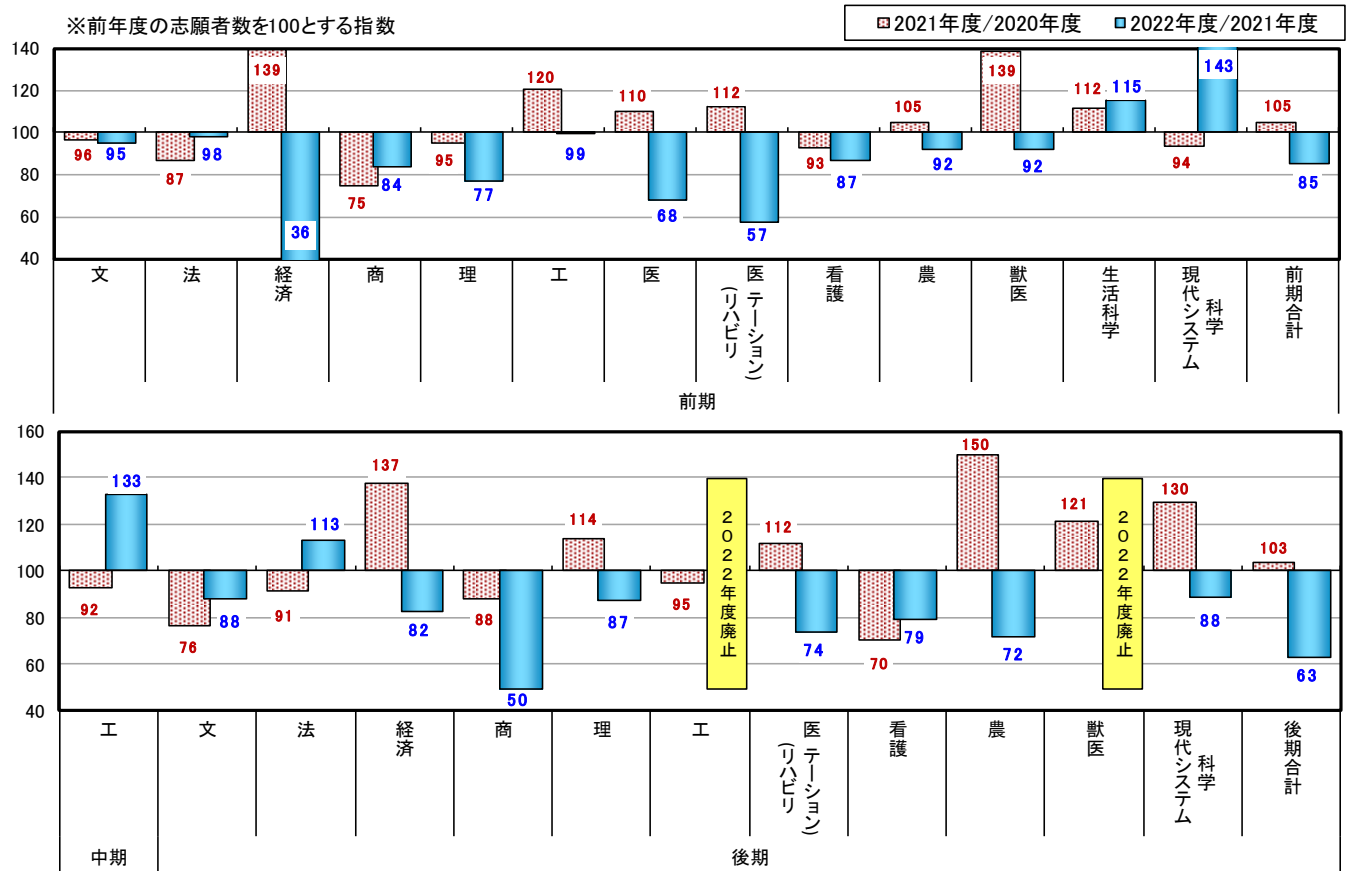
大学全体で前期のみの募集。医(医)は、10 人(104)のやや増加。医(看護)は、11 人(116)の大幅増加。

〈前期日程〉

○医(医)(104)は、やや増加で２年連続増加。志願倍率は 2.8 倍→2.9 倍にアップだが、志願者数は３年連続 300 人を下回った。

○医(看護)(116)は、大幅増加。志願倍率は、2019 年度以降 1.5 倍前後で推移していたが、1.8 倍にアップ。

大阪公立大：統合により志願者数は国公立大で全国最多　前期：-806 人 中期：+1,543 人 後期：-1,338 人



※2021 年度、2020 年度は旧「大阪市立大」と旧「大阪府立大」の該当学部の志願者数合計との比較

主な入試変更点	大学統合：旧「大阪市立大」と旧「大阪府立大」が統合し、大阪公立大へ 旧「大阪市立大」(文、法、経済、商、理、工、医、生活科学) ＋旧「大阪府立大」(現代システム科学域、工学域、生命環境科学域、地域保健学域) →大阪公立大(現代システム科学域、文、法、経済、商、理、工、農、獣医、医、看護、生活科学)

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

2022 年度大阪公立大の志願者数と 2021 年度の旧「大阪市立大」と旧「大阪府立大」の志願者数合計を比較した。大学全体では、志願者数は 13.188 人で 601 人(96)のやや減少だが、全国の国公立大で最多の志願者数となった。募集人員も 96 人(４%)のやや減少と志願者数とほぼ同じ減少率で、志願倍率も 5.42 倍→5.39 倍にごくわずかなダウン。前期は 806 人(85)の大幅減

少、募集人員は 41 人(２%)の微減だったので、志願倍率は 3.1 倍→2.7 倍にダウン。共通テストの平均点ダウンの影響と旧大阪市立大と旧大阪府立大の２大学で幅広い学力層の志願者を集めていたのが、統合により志願者の学力層の幅が狭まってしまったことも影響。中期は工のみの募集だが、1,543 人(133)の大幅増加、募集人員は９人(２%)の微減だったので、志願倍率は 10.3 倍→14.0 倍にアップ。従来からの近畿地区の上位大学前期志願者からの併願先として狙われたことに加えて、旧大阪府立大・工学域が中期のみの募集だったのが、前期と中期に分割された結果、従来はなかった新たな学内併願者が生まれたことも影響。後期は 1,338 人(63)の大幅減少で、共通テストの平均点ダウンの影響から目標ラインの低い大学への志望変更の影響が見られた。募集人員も 46 人(15%)の大幅減少だったが、志願者数減少率が上回り、志願倍率は 11.4 倍→8.4 倍にダウン。なお、前年度 802 人の志願者数だった旧大阪市立大・工〈後〉が募集廃止となった影響もあったが、これを除いても 536 人(81)の大幅減少。

〈前期日程〉

○**文(95)**は、旧大阪市立大・文との比較で、やや減少で３年連続減少。

○**法(98)**は、旧大阪市立大・法との比較で、微減で２年連続減少。募集人員が 10 人(７%)やや増加したので、志願倍率は 2.6 倍→2.4 倍にダウン。

○**経済(36)**は、旧大阪市立大・経済と旧大阪府立大・現代システム科学域(マネジメント学類)の合計との比較で、減少率 60%以上の激減。募集人員も 65 人(26%)大幅減少だが、志願倍率は 3.8 倍→1.8 倍にダウン。前年度に旧大阪市立大・経済が 22%の大幅増加、旧大阪府立大・現代システム科学域(マネジメント学類)が 64%の激増だった反動と２大学で倍広い学力層の志願者を集めていたのが、統合により志願者の学力層の幅が狭まってしまったことが大きく影響。

○**商(84)**は、旧大阪市立大・商との比較で、２年連続大幅減少。志願倍率は 2.2 倍→1.8 倍にダウン。

○**理(77)**は、旧大阪市立大・理と旧大阪府立大・生命環境科学域(理学類)の合計との比較で、大幅減少。募集人員も 27 人(12%)減少だが、志願倍率は 2.6 倍→2.3 倍にダウン。２大学で倍広い学力層の志願者を集めていたのが、統合により志願者の学力層の幅が狭まってしまったことが影響。学科別では、６学科中(数)が 2.7 倍で最も高倍率、一方で(化)が 2.0 倍で最も低倍率。

○**工(99)**は、旧大阪市立大・工との比較では、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。募集人員は 44 人(20%)の大幅増加で、志願倍率は 3.9 倍→3.3 倍にダウン。学科別では、12 学科で(情報工)が 7.2 倍で最も高倍率、一方で(マテリアル工)が 2.0 倍で最も低倍率。

○**医(医)(68)**は前期のみの募集で、旧大阪市立大・医(医)との比較では、減少率 30%以上の大幅減少。志願倍率は 2.8 倍→1.9 で２倍を下回った。共通テストの平均点ダウンの影響で、目標ラインがより低い大学への志望変更の影響があった。

○**医(リハビリテーション)(57)**は、旧大阪府立大・地域保健学域(総合リハビリテーション学類)との比較では、減少率 40%以上の大幅減少。ただし、募集人員は 23 人(43%)の大幅減少で、減少率は志願者数の減少率と同じで、志願倍率は 3.2 倍と変化はなかった。２専攻の志願倍率も(リハビリテーション／理学療法学)が 3.3 倍、(リハビリテーション／作業療法学)が 3.1 倍と大きな差はなかった。

○**看護(87)**は、旧大阪市立大・医(看護)と旧大阪府立大・地域保健学域(看護学類)の合計との比較では、大幅減少で３年連続減少。募集人員も５人(６%)のやや減少で、志願倍率は 2.5 倍→2.3 倍にダウン。

○**農(92)**は、旧大阪府立大・生命環境科学域(応用生命科学類)と旧大阪府立大・生命環境科学域(緑地環境科学類)の合計の比較では、２年連続増加の反動で減少。志願倍率は 3.8 倍→3.5 倍にダウン。学科別では、３学科で(生命機能化)が 4.3 倍で最も高倍率、一方で(緑地環境科学)が 2.6 倍と最も低倍率。

○**獣医(92)**は前期のみの募集で、旧大阪府立大・生命環境科学域(獣医学類)との比較では、前年度大幅増加の反動と共通テストの平均点ダウンの影響で減少。志願倍率は、3.9 倍→3.6 倍にダウン。

○**生活科学(115)**は前期のみの募集で、旧大阪市立大・生活科学との比較では、大幅増加で２年連続増加。募集人員も 14 人(15%)の大幅増加で、増加率は志願者数の増加率と同じで、志願倍率は 3.5 倍と変化はなかった。４募集単位別で、(食栄養)〈均等型〉が 4.0 倍で最も高倍率、一方で(食栄養)〈理数重点型〉が 3.2 倍で最も低倍率

○**現代システム科学域(143)**は、旧大阪府立大・現代科学システム科学域(知能情報システム学類)と旧大阪府立大・環境システム科学域(知能情報システム学類)と旧大阪府立大・地域保健学域(教育福祉学類)の合計との比較では、増加率 40%以上の大幅増加。募集人員も 11 人(７%)のやや増加だが、志願倍率は 2.9 倍→3.9 倍にアップ。募集単位別では 10 募集単位で、(学域募集)〈英・国型〉が 7.0 倍と最も高倍率、一方で(学域募集)〈英・数型〉が 2.6 倍と最も低倍率。

〈中期日程〉

○**工(133)**は、旧大阪府立大・工学域との比較では、大幅増加。募集人員は９人(２%)の微減だったので、志願倍率は 10.3 倍→14.0 倍にアップ。学科別では、12 学科で(建築)が 74.8 倍、(都市)が 27.2 倍、(情報工)が 23.6 倍、(航空宇宙工)が 21.2 倍の４学科が志願倍率 20 倍以上、一方で(電子物理工)は 7.7 倍で最も低倍率と学科間の競争に大きく差がついた。

〈後期日程〉

○**文(88)**は、旧大阪市立大・文との比較で、減少で２年連続減少。

○**法(113)**は、旧大阪市立大・法との比較で、３年連続減少の反動もあって増加。しかし、募集人員が５人(25%)の大幅増加だったので、志願倍率は 17.3 倍→15.6 倍にダウン。

○**経済(82)**は、旧大阪市立大・経済との比較で、前年度 37%の大幅増加だった反動で大幅減少。募集人員は５人(11%)の増加なので、志願倍率は 6.5 倍→4.8 倍にダウン。

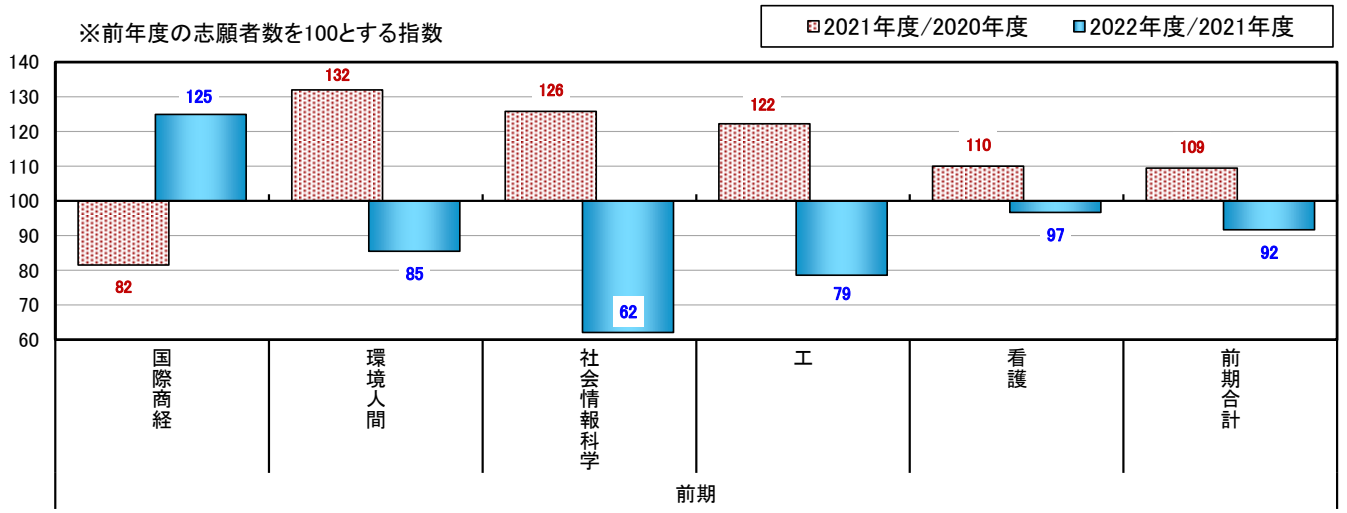
○**商(50)**は、旧大阪市立大・商との比較で、半減で３年連続減少。志願倍率は 5.6 倍→3.9 倍にダウン。

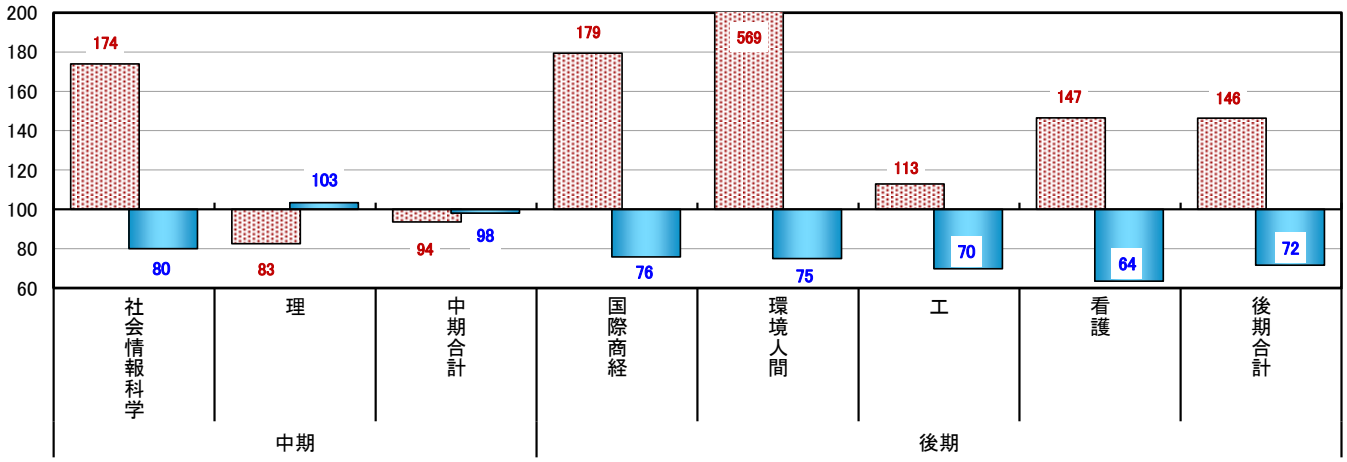
○**理(87)**は、旧大阪市立大・理と旧大阪府立大・生命環境科学域(理学類)の合計との比較で、前年度増加の反動で減少。募集人員は２人(４%)のやや増加なので、志願倍率は 13.1 倍→11.1 倍にダウン。２大学で倍広い学力層の志願者を集めていたのが、統合により志願者の学力層の幅が狭まってしまったことが影響。学科別では、６学科で(数)が 17.3 倍で最も高倍率、一方で(生物化)が 2.7 倍で最も低倍率。

○**医(リハビリテーション)(74)**は、旧大阪府立大・地域保健学域(総合リハビリテーション学類)との比較では、減少率 26%の大幅減少。募集人員も２人(33%)の大幅減少で、募集人員の減少率が上回ったので、志願倍率は 18.5 倍→20.5 倍とアップした。２専攻の志願倍率は(リハビリテーション／作業療法学)が 21.0 倍、(リハビリテーション／理学療法学)が 20.0 倍と大

きな差はなかった。
○**看護**(79)は、旧大阪府立大・地域保健学域(看護学類)との比較では、２年連続大幅減少。募集人員は５人(33%)の大幅増加だったので、志願倍率は7.8倍→4.7倍にダウン。
○**農**(72)は、旧大阪府立大・生命環境科学域(応用生命科学類)と旧大阪府立大・生命環境科学域(緑地環境科学類)の合計の比較では、２年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は8.3倍→6.0倍にダウン。学科別では、３学科中(生命機能化)が7.4倍で最も高倍率、一方で(応用生物科学)が4.8倍と最も低倍率。
○**現代システム科学域**(88)は(学域募集)のみで、旧大阪府立大・現代科学システム科学域と旧大阪府立大・地域保健学域(教育福祉学類)の合計との比較では、前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率は8.9倍→7.9倍にダウン。

兵庫県立大：学部・日程別の増減は全て前年度と逆の増減　前期：-155 人　中期：-45 人 後期：-634 人





COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は155人(92)の減少で、学部別では、国際商経(125)を除いていずれも減少。2017年度以降前年度の反動による増減が継続。中期は45人(98)の微減だが３年連続減少。後期は共通テストの平均点ダウンの影響もあって、634人(72)の大幅減少で、全学部で減少。前期、中期、後期の各学部の増減は全て前年度と逆の増減。

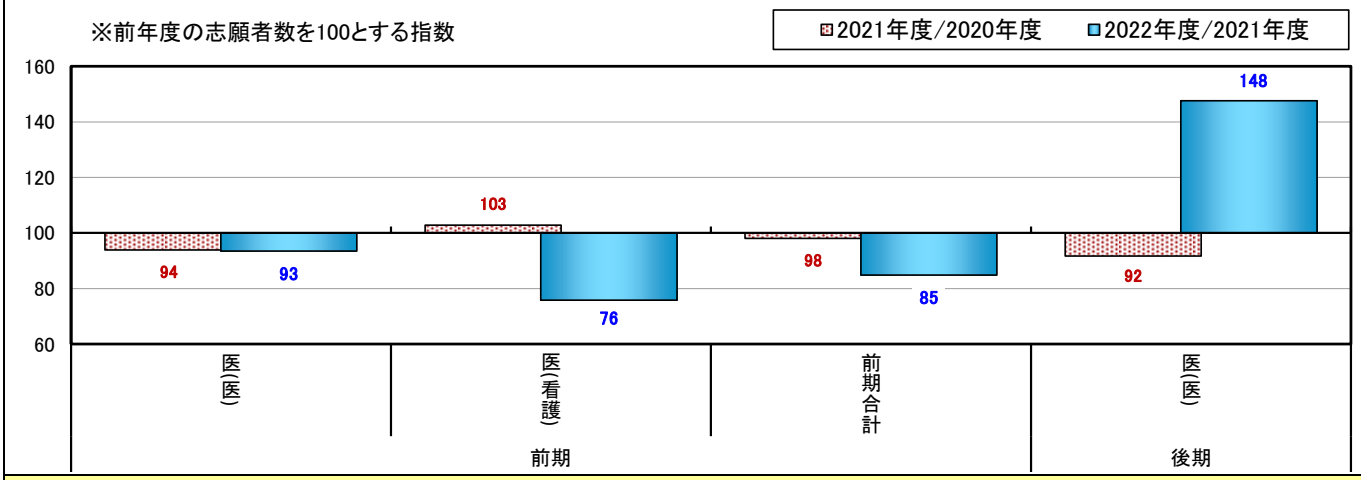
〈前期日程〉
○**国際商経**(125)は、2019年度の改組以降２年連続大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、(国際商経／経済学・経営学)(127)は２年連続減少の反動で大幅増加。(国際商経／グローバルビジネス)(100)は前年度と同じ志願者数だった。
○**環境人間**(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2018年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。
○**社会情報科学**(62)は、2019年度の新設以降２年連続増加の反動で大幅減少。志願者数は150人を下回り新設以降最少。
○**工**(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、３学科ともに減少で、(応用化学工)(62)、(機械・材料工)(77)は大幅減少、(電気電子情報工)(90)は減少。
○**看護**(97)は、前年度増加の反動は小さくやや減少に留まった。

〈中期日程〉
○**社会情報科学**(80)は、前年度倍増以上の反動で大幅減少。志願倍率も27.0倍→21.6倍にダウン。
○**理**(103)は、やや増加。学科別では、２学科とも増加で、(生命科学)(107)は２年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。(物質科学)(100)は前年度並。

〈後期日程〉
○**国際商経**(76)は、(国際商経／経済学・経営学)のみの募集だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019年度の改組以降で前年度の反動による大幅増減が継続

○**環境人間**(75)は、前年度５倍以上の増加の反動で大幅減少。もともと個別試験を課さないため共通テストの平均点ダウンにより敬遠された。学部全体では 2017 年度以降、前年度の反動による増減が継続。
○**工**(70)は、４年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、３学科とも大幅減少で、(応用化学工)(60) 、(電気電子情報工)(72)はいずれも４年連続増加の反動で大幅減少、(機械・材料工)(78)は前年度増加の反動で大幅減少。
○**看護**(64)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少し、志願者数は４年ぶりに 100 人を下回った。

奈良県立医科大：医(医)は前期はやや減少、後期は大幅増加　前期：−45 人　後期：+423 人

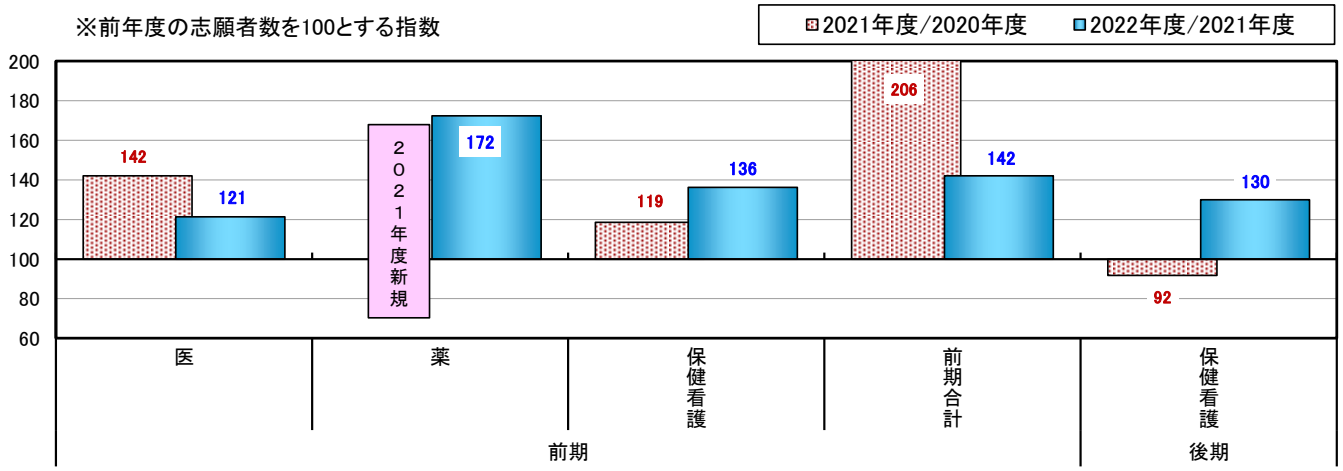


COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

前期は、医(医)は 10 人(93)のやや減少で３年連続減少、医(看護)は 35 人(76)の大幅減少。後期は、医(医)のみの募集だが、423 人(148)の大幅増加。前年度減少の反動と個別試験重視型の配点、さらに近畿地区で唯一の後期募集の医(医)ということで、前期上位大学志願者からの併願先として狙われた結果、志願者数は５年ぶりに 1,300 人を上回り、志願倍率も 25 倍近くにアップした。

〈前期日程〉
○**医(医)**(93)は、やや減少で３年連続減少。志願倍率も 7.0 倍→6.5 倍にダウン。募集人員が 65 人→22 人となった 2013 年度以降では、初めて志願者数が 150 人を下回った。
○**医(看護)**(76)は、大幅減少。共通テスト：個別試験が 700 点：200 点という共通テスト重視配点で、しかも個別試験が小論文+面接と教科試験がないことで、共通テストの平均点ダウンの影響を大きく受けた。募集単位別では、〈一般枠〉(70)は前年度増加の反動もあって大幅減少、志願倍率は 2.6 倍→1.8 倍にダウンし、５年ぶりに２倍を下回った。〈地域枠〉(93)は前年度減少に引き続きやや減少で２年連続減少。志願者数は４年ぶりに 40 人を下回った。

和歌山県立医科大：共テ平均点ダウンで、志望変更先として狙われて医、薬増加　前期：+223 人　後期：+30 人



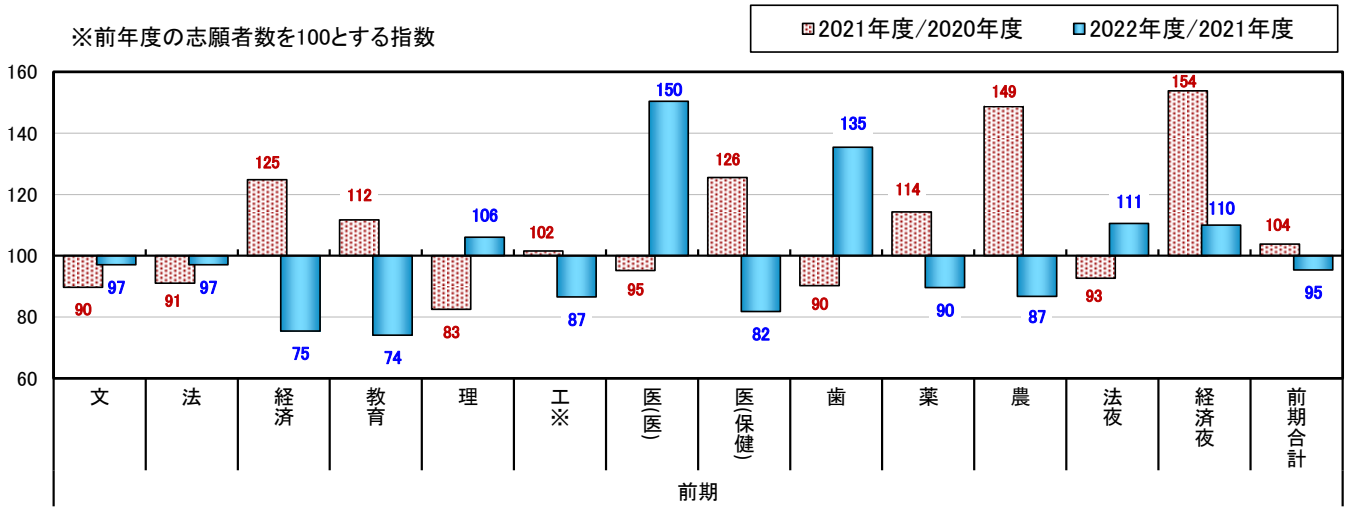
COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

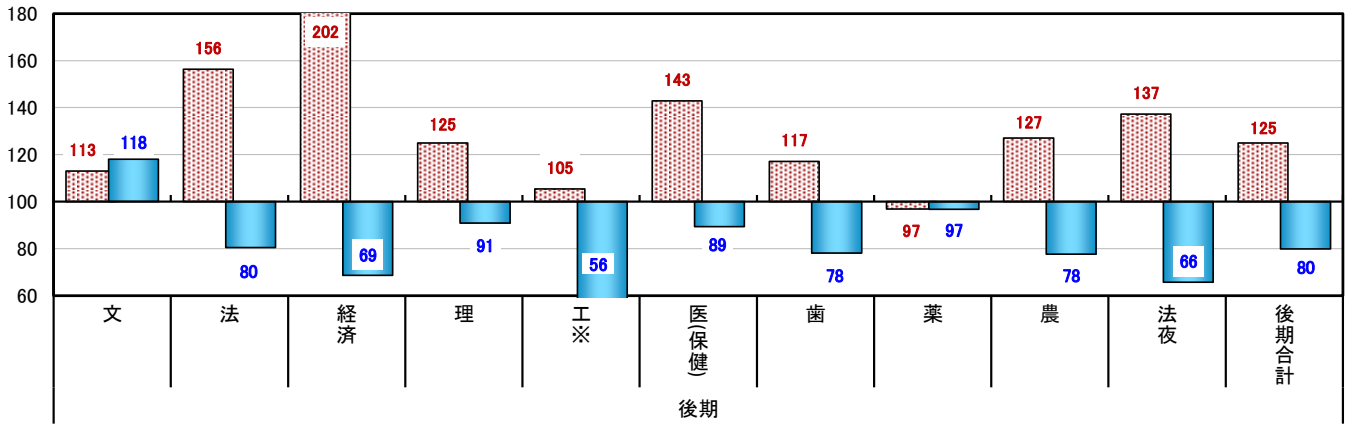
大学全体では、３学部体制になって２年目だが、前期はメディカル系への人気の高まりもあり、223 人(142)の大幅増加。前年度新設だった薬を除いても(126)の大幅増加。後期は保健看護のみの募集だが、30 人(130)の大幅増加で３年ぶりに増加、志願者数が 130 人に達したのは、６年ぶり。

〈前期日程〉
○**医**(121)は、共通テストの平均点ダウンの中で、共通テスト：個別試験＝600 点：700 点とほぼ均等配点であることと、近畿地区の医学科では比較的目標ラインが低いことから、上位大学からの志望変更先として狙われて、前年度の 40%以上の増加に引き続き大幅増加。志願倍率も 2.2 倍→3.1 倍→3.7 倍にアップ。２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 88.1%

だった。
○**保健看護**(136)は、２年連続大幅増加で、志願倍率も 2.2 倍→2.6 倍→3.5 倍にアップ。６年ぶりに３倍台の志願倍率。
○**薬**(172)は、新設２年目で周知が進んだことに加えて、系統への高い人気、志願倍率が前年度公立大の薬では最も低倍率だったこと、共通テストの平均点ダウンの中で、共通テスト：個別試験＝600 点：700 点とほぼ均等配点であることから、上位大学からの志望変更先として狙われたといった要因が重なり、70%以上の激増。志願倍率は 2.6 倍→4.6 倍にアップ。

岡山大：前期はやや減少、後期は前年度の反動で大幅減少　　前期：-161 人　後期：-341 人





※2021年度 新「工」は、2020年度 旧「工」＋旧「環境理工」と比較

主な入試変更点

募集人員：文…〈後〉29 人→27 人
法…〈後〉35 人→32 人
経済…〈後〉24 人→21 人
教育(学校教育教員養成／小学校教育)…〈前〉91 人→88 人
理(数学)…〈前〉16 人→17 人、〈後〉３人→２人、(物理)…〈前〉27 人→29 人
(化学)…〈後〉３人→２人、(生物)…〈前〉24 人→23 人
工(工／機械システム)…〈前〉97 人→93 人、(工／化学・生命)…〈前〉122 人→118 人
(工／環境社会)…〈前〉73 人→57 人、〈後〉10 人→５人
(工／情報・電気・数理データサイエンス)〈前〉137 人→132 人
薬(薬)…〈前〉28 人→27 人
農…〈後〉10 人→９人
共通テスト：医(保健／看護)〈前〉〈後〉…国+歴公+数２+理２+外　※理：生+(物 or 化)
→国+歴公+数２+理２+外　※理：物 or 化 or 生→２
個別試験：教育(養護教諭養成)〈前〉…論→論+ペーパーインタビュー(面に代わる筆記試験)
配点変更：医(医)…〈共テ〉国〈200〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+理２〈200〉+外〈200〉=総点〈900〉
→国〈100〉+歴公〈100〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈500〉
…〈個〉数〈400〉+理２〈400〉+外〈400〉=総点〈1,200〉
→数〈400〉+理２〈300〉+外〈400〉=総点〈1,100〉

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

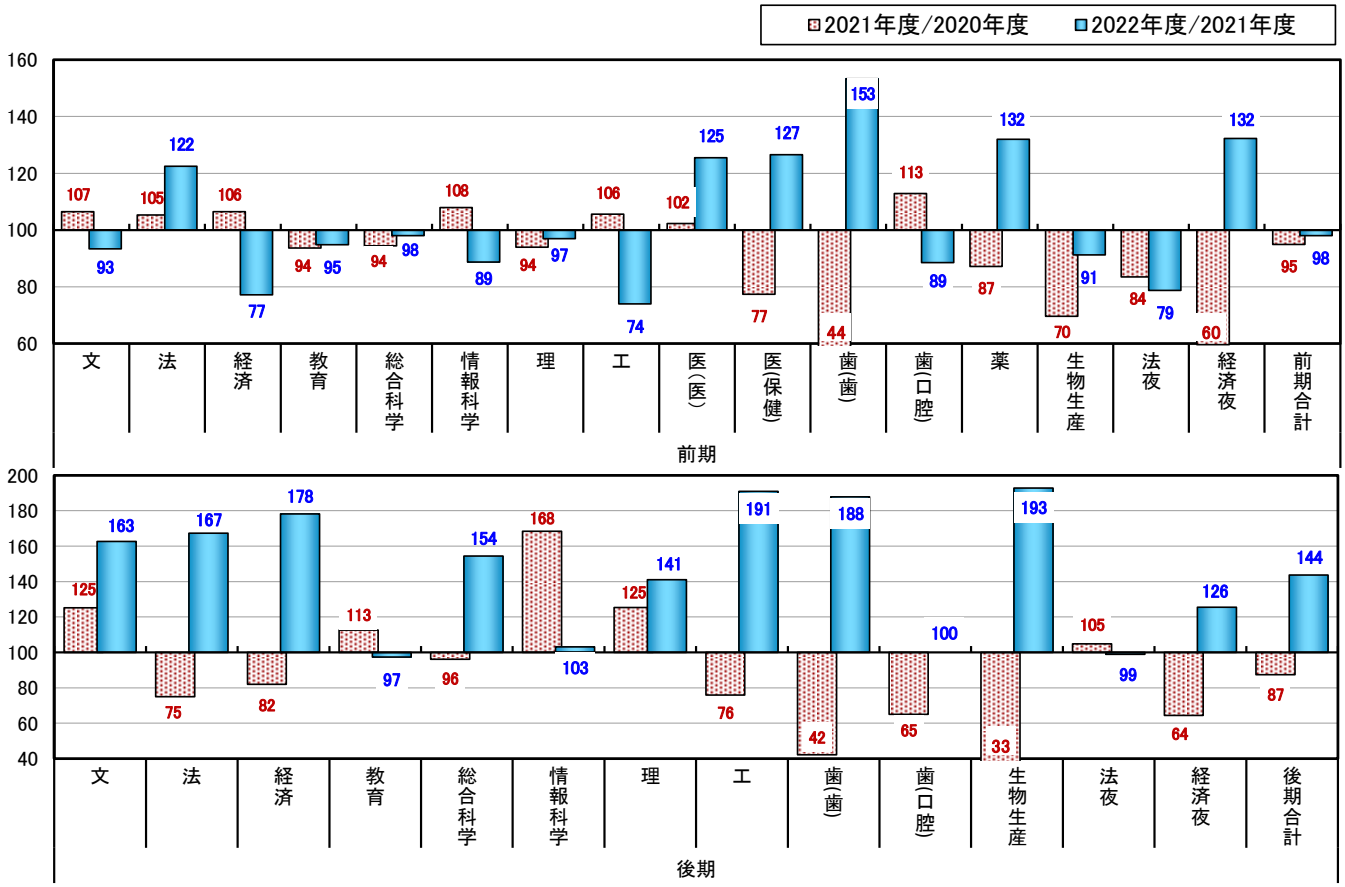
大学全体では、前期は 161 人(95)のやや減少。後期は前年度大幅増加の反動で、341 人(80)の大幅減少、学部別では文(118)のみ大幅増加で、これ以外の学部はいずれも減少だが、募集人員(前年度募集人員対比指数 92)が減少したこともあって、後期全体の志願倍率は 8.8 倍→7.7 倍のダウンに留まった。なお、法夜、経済夜を除いても、前期は 171 人(95)のやや減少、後期は

317 人(80)の大幅減少。

〈前期日程〉
○**文**(97)は、やや減少で２年連続減少。
○**法**(97)は、系統への人気は高いがやや減少で４年連続減少。志願者数は 300 人を下回った。
○**経済**(75)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**教育**(74)は、前年度増加の反動で大幅減少。課程・コース・教科別では、(養護教諭養成)(184)のみ前年度大幅減少の反動で大幅増加。他の課程・コース・教科はいずれも大幅減少で、特に(学校教育教員養成／中学校教育(文系))(43)は半減以下の大幅減少で、志願者数は募集人員を１人上回ったのみで、志願倍率は 2.5 倍→1.1 倍にダウン。
○**理**(106)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(生物)(138)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(地球科学)(120)は２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(物理)(90)は減少で５学科中唯一の減少。
○**工**(87)は、前年度旧工と旧環境理工が統合され、旧２学部合計との比較では大幅増加したが，反動から減少。系別では、いずれも減少で、(工／環境・社会基盤)(83)は募集人員(前年度募集人員対比指数 78)の減少もあり大幅減少、(工／化学・生命)(86)、(工／情報・電気・数理データサイエンス)(87)、(工／機械システム)(89)はいずれも減少。
○**医(医)**(150)は、共通テスト：個別試験の配点比が 900:1200→500:1100 とより個別試験重視に変更されたことで、共通テスト失敗組に狙われて大幅増加。志願者数も 500 人を上回り、志願倍率も 3.7 倍→5.5 倍にアップ。
○**医(保健)**(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅増加。専攻別では、(保健／看護)(119)は２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(保健／放射線技術科学)(56)は前年度激増の反動で大幅減少、(保健／検査技術科学)(72)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**歯**(135)は、３年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率は 2.2 倍→2.9 倍にアップ。
○**薬**(90)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(創薬科学)(100)は前年度と同人数だが、(薬)(83)は大幅減少。
○**農**(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。

〈後期日程〉
○**文**(118)は、大幅増加で２年連続増加。志願倍率は 6.9 倍→8.7 倍にアップ。
○**法**(80)は、２年連続増加の反動で大幅減少。
○**経済**(69)は、前年度倍増以上の激増の反動で大幅減少。
○**理**(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別では、(数学)(156)は前年度 60%以上の激減の反動で大幅増加、(地球科学)(130)は２年連続大幅増加。一方で、(物理)(53)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(化学)(63)は大幅減少で３年連続原書、(生物)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。
○**工**(56)は、前年度旧工と旧環境理工が統合され、旧２学部合計との比較ではやや増加だったが。、２年目の今年度は大幅減少。系別では、いずれも大幅減少で、(工／環境・社会基盤)(46)、(工／機械システム)(50)は半減以下、(工／化学・生命)(59)、(工／情報・電気・数理データサイエンス)(67)も 30%以上の大幅減少。
○**医(保健)**(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。専攻別では、(保健／看護)(115)は大幅増加で２年連続増加。志願倍率も 8.8 倍→10.2 倍にアップ。一方で、(保健／放射線技術科学)(49)は前年度大幅増加の反動で半減以下。
○**歯**(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**薬**(97)は、やや減少で４年連続減少。学科別では、(薬)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(創薬科学)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少と対照的。
○**農**(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。

広島大：前期は微減、後期は前期最難関大からの併願増で大幅増加　　前期：-80 人　後期：+859 人



主な入試変更点	選抜方法：医(保健／看護)〈前〉：文科系及び理科系で受験した者から、募集人員の約半数ずつを合格とする →まず文科系、理科系の受験者ともそれぞれ上位から 20 人ずつを合格とし、残りの枠は、文科系と理科系の受験者に合わせて点数の上位から順に合格とする (保健／作業療法)：文科系及び理科系で受験した者から、募集人員の約半数ずつを合格とする →文科系・理科系の区別なく総合点で判定 共通テスト：情報科学(情報科学)〈後〉…数２〈600〉+外〈600〉=総点〈1,200〉→数２〈800〉+外〈400〉=総点〈1,200〉 歯(口腔健康科学／口腔工)〈前〉〈後〉…国+歴公+外+{(数２+理)or(数+理２)} →国+歴公+数２+理２+外 個別試験：教育(人間形成基礎／教育学系、心理学系)…国+外→(国 or 数 or 外)→２ 情報科学(情報科学・Ａ型)〈前〉…数〈600〉+外〈600〉=総点〈1,200〉→数〈800〉+外〈400〉=総点〈1,200〉 工(第三類)〈後〉…面〈100〉※勉学に対する意欲・志向についての質問並びに数学、化学の簡単な口頭試問を行い、科学的思考力、対応の仕方・態度を通して総合的に評価 →面〈50〉※化学に関連する科学技術への関心や勉学に対する意欲・志向について質問し、その対応を通して適性を総合的に評価

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度よりもコロナ禍の影響による移動敬遠傾向が緩和したことから他地区への流出もあって、80 人(98)の微減。後期は共通テストの平均点ダウンの影響で、前期最難関大志願者の併願先として狙われて、859 人(144)の大幅増加。学部別では、歯(147)、薬(132)、医(126)といったメディカル系が大幅増加、系統の人気が高い法(142)も大幅増加。なお、法夜、経済夜を除くと、前期は 86 人(98)の微減、後期は 848 人(146)の大幅増加。

〈前期日程〉

○**文**(93)は、やや減少で３年ぶりに減少。

○**法**(122)は、系統への高い人気に加えて、2023 年度から東広島市の東広島キャンパスから広島市中区の東千田キャンパスへの移転効果もあって、大幅増加で２年連続増加。

○**経済**(77)は、大幅減少で、志願倍率も 2.4 倍→1.8 倍と２倍台を下回わり、過去 10 年間で最も低倍率だった。

○**教育**(95)は、やや減少で３年連続減少。系別では、(言語文化教育)(117)は大幅増加で５年ぶりに増加、(科学文化教育)(106)はやや増加で３年ぶりに増加。一方で、(学校教育)(86)、(人間形成基礎)(87)はいずれも減少、(生涯活動教育)(93)はやや減少で 2015 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○**総合科学**(98)は、微減だが３年連続減少。学科別では、(国際共創)(110)は増加で４年ぶりに増加だが、(総合科学)(94)はやや減少で３年連続減少。

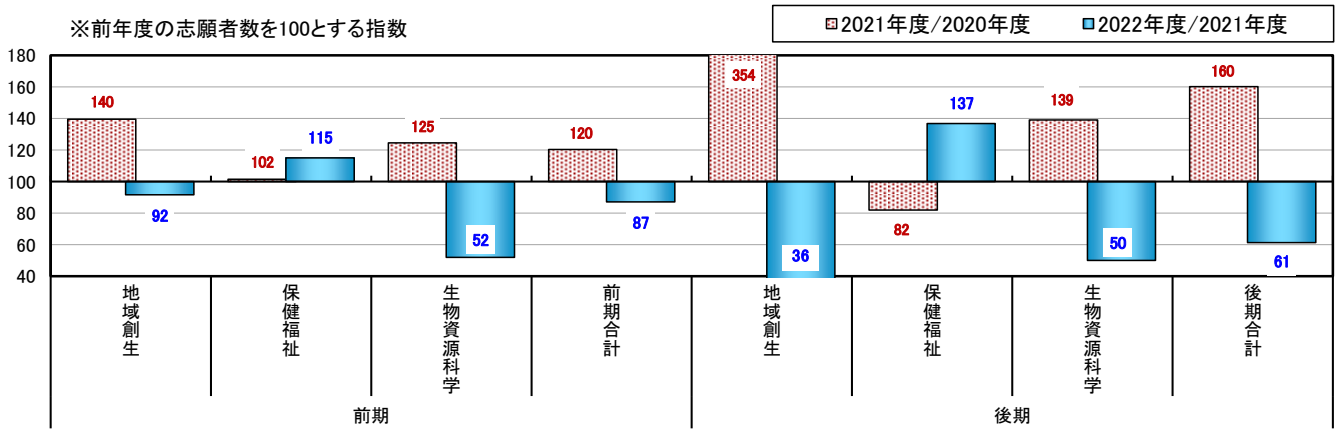
○**情報科学**(89)は、共通テストの平均点ダウンの中で個別試験の数学配点が重くなり個別逆転の可能性が高くなったが、前年

駿台

度増加の反動の影響が大きく減少。
○**理**(97)は、やや減少で２年連続減少。学科別では、(生物科学)(130)は前年度半減以下の減少の反動で大幅増加、(物理)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(化学)(115)も大幅増加で２年連続増加。一方で、(地球惑星システム)(46)は前年度倍増以上の激増の反動で半減以下の大幅減少、(数学)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**工**(74)は、大幅減少で 2018 年度に募集単位を変更後初めて志願者数が 700 人を下回った。募集単位別では、入学時に４つの類に所属せずに、1 年次前期終了時点で成績と希望によって各類に配属される(工学特別)(37)は前年度倍増以上の激増の反動で激減。類別募集では、(第四類)(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他はいずれも大幅減少で、４つの類のいずれも前年度の反動で増減。
○**医**(医)(125)は、大幅増加で２年連続増加、志願者数は 2015 年度以来の 600 人を上回った。
○**医**(保健)(127)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。３つの専攻のいずれも増加。募集単位別では、(保健／看護(文科系)(94)はやや減少、(保健／理学療法(文科系))(100)は前年度並で、その他はいずれも大幅増加。
○**歯**(歯)(153)は、前年度半減以下の減少の反動で大幅増加。志願倍率も 2.3 倍→3.5 倍へアップ。それでも、過去 10 年間では前年度に次ぐ２番目の低倍率。
○**歯**(口腔)(89)は、前年度６年ぶりに増加したが、反動で減少し、志願者数は 2020 年度と同人数。専攻別では、(口腔工)(100)は前年度並、(口腔保健)(82)は２年連続増加の反動で大幅減少。
○**薬**(132)は、２年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、いずれも大幅増加で、(薬)(134)は大幅増加で２年連続増加、(薬科学)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
○**生物生産**(91)は、減少で２年連続減少。志願者数が 100 人を下回り、志願倍率も 1.5 倍を下回った。

<後期日程>
○**文**(163)は、２年連続大幅増加。志願倍率も 6.7 倍→10.9 倍にアップ。
○**法**(167)は、２年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も 6.7 倍→11.2 倍にアップ。
○**経済**(178)は、前年度大幅減少の反動で 80%近い激増。募集単位別では、(文科系)(208)は倍増以上の激増、(理科系)(36)は前年度７倍以上激増の反動で激減、2019 年度の新設翌年から極端な増減が継続。
○**教育**(97)は、前年度５年ぶりに増加したが、再びやや減少。系別では(学校教育)(107)、(生涯活動教育)(105)はいずれもやや増加。一方で、(科学文化教育)(78)は大幅減少、(人間形成基礎)(91)は減少。
○**総合科学**(154)は、２年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も 8.2 倍→12.6 倍へアップ。
○**情報科学**(103)は、やや増加。志願者数は 2018 年度に新設以降で最多。
○**理**(141)は、２年連続大幅増加。学科別では、(地球惑星システム)(308)は前年度大幅減少の反動で３倍以上の激増、(物理)(177)、(化学)(148)は大幅増加。(数学)(98)は前年度大幅増加の反動は小さく前年度並。
○**工**(191)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は 2018 年度に募集単位を変更後最多。募集単位別では、いずれも大幅増加で、特に(第二類)(307)は３倍以上の激増。
○**歯**(歯)(188)は、前年度半減以下の激減の反動で激増。志願倍率も 8.8 倍→16.5 倍へアップ。
○**歯**(口腔)(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年と同人数。
○**生物生産**(193)は、２年連続減少の反動で倍増近い激増。志願倍率も 4.2 倍→8.1 倍へアップ。

県立広島大：前期は減少、後期は大幅減少　　前期：-104 人　後期：-505 人



COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度大幅増加した反動で 104 人(87)の減少。後期は前年度 60%の激増の反動で 505 人(61)の大幅減少。志願者数は再び 800 人台。すべての募集単位で個別試験に教科試験がないので、反動に加えて共通テストの平均点ダウンの影響も大きかった。

〈前期日程〉

○**地域創生**(92)は、学部改組後３年目だが、前年度増加率 40%の大幅増加だった反動で減少。志願者数は再び 300 人を下回った。コース・志向枠別では、４コース・志向枠中３コース・志向枠が減少。(地域創生／地域産業－応用情報志向枠)(66)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。(地域創生／地域文化)(93)、(地域創生／地域産業－経営志向枠)(95)はいずれも前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。一方で、(地域創生／健康科学)(108)は前年度大幅増加の反動はなく引き続き増加。

○**保健福祉**(115)は、学科改組２年目だが大幅増加で改組前の募集人員 97 人の時代から継続して４年連続増加。コース別では、(保健福祉／理学療法学)(182)は 80%以上の激増。(保健福祉／人間福祉学)(154)は大幅増加。一方で、前年度新設の(保健福祉－コース選択)(43)は 60%近い大幅減少で、志願倍率は 3.5 倍→1.5 倍にダウン。

○**生物資源科学**(52)は、学部改組後３年目だが前年度大幅増加の反動でほぼ半減。学科・コース別では、(地域資源開発)(24)は前年度 2.5 倍近い激増の反動で 75%以上の激減。志願倍率も 7.4 倍→1.8 倍にダウン。(生命環境／生命科学)(53)は大幅減少で２年連続減少。(生命環境／環境科学)(92)は減少で２年連続減少。

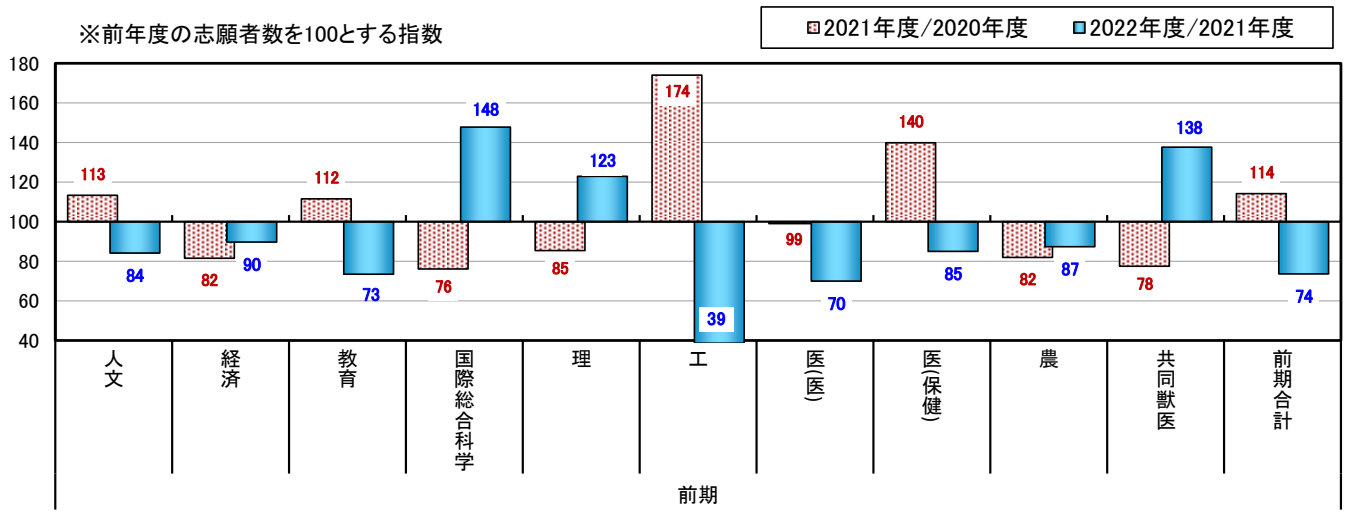
後期日程〉

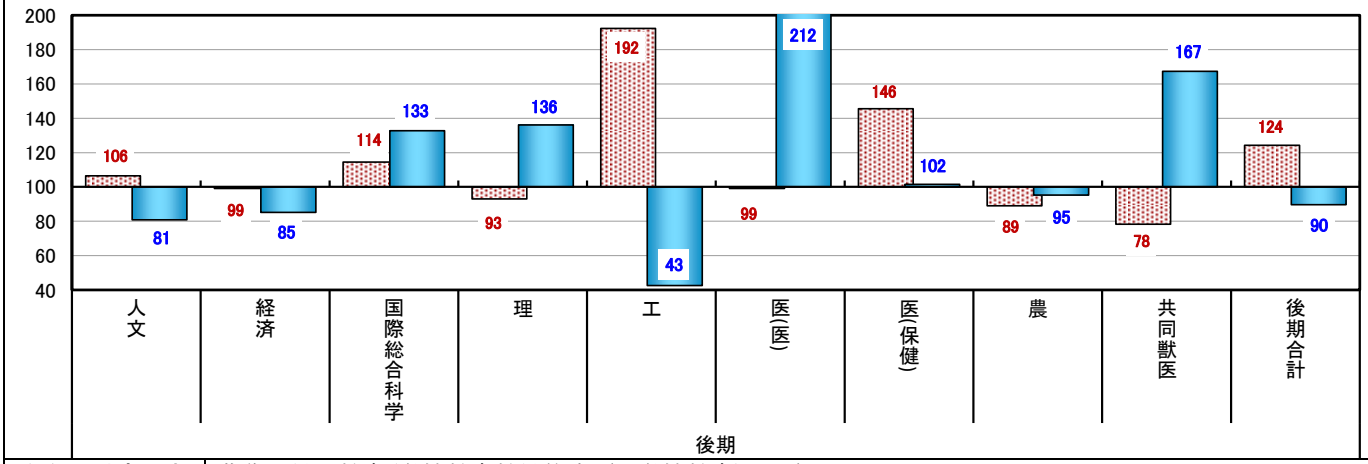
○**地域創生**(36)は、学部改組後３年目で、(地域創生－経過選択)のみの募集だが、前年度５倍近い激増の反動で減少率 60%以上の激減。志願倍率も 22.0 倍→7.9 倍に大幅ダウン。

○**保健福祉**(137)は、学科改組２年目だが大幅増加。コース別では、募集人員が少ないので、極端な増減となりやすく、(保健福祉／理学療法学)(195)、(保健福祉／看護学)(160)はいずれも激増。(保健福祉／人間福祉学)(129)は大幅増加。一方で、(保健福祉／コミュニケーション障害学)(75)は大幅減少。

○**生物資源科学**(50)は、学部改組後３年目だが前年度大幅増加の反動で半減。(生命環境－経過選択制)のみの募集だが、志願倍率は 22.3 倍→11.2 倍に大幅ダウン。

山口大：前期は大幅減少、後期は減少、工に共テ平均点ダウンの影響が顕著　前期：-928 人　後期：-320 人





主な入試変更点	募集人員：教育(学校教育教員養成／小学校教育)…〈前〉37 人→38 人 (学校教育教員養成／情報教育)…〈前〉10 人→８人 (学校教育教員養成／教科教育)…〈前〉80 人→66 人

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 928 人(74)の大幅減少で、志願者数は 2,600 人を下回った。2020 年度以降は大幅な増減が連続。学部別では、特に工(39)は共通テストの平均点ダウンが大きく影響した結果、激減だった。後期は 320 人(90)の減少。2018 年度以降反動により増減が継続。学部(医は学科)別では、医(医)(212)、共同獣医(167)はいずれも激増。一方で、前期同様に工(43)は共通テストの平均点ダウンが大きく影響した結果、大幅減少だった。

〈前期日程〉

○**人文**(84)は、前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は２年ぶりに 300 人を下回り、2016 年度の改組以降で最少。

○**経済**(90)は、減少で３年連続減少。志願倍率も 1.9 倍→1.7 倍とダウンし、２年連続２倍を下回った。

○**教育**(73)は、系統への低い人気に加えて、前年度増加の反動で大幅減少。コース・選修別では、17 コース・選修中 12 選修が減少。特に、(学校教育教員養成／教科教育－国語教育)(32)、(学校教育教員養成／教科教育－英語教育)(38)はいずれも激減、(学校教育教員養成／教科教育－音楽教育)(45)、(学校教育教員養成／教科教育－技術教育)(48)は半減以下。一方で、(学校教育教員養成／教科教育－理科教育)(300)、(学校教育教員養成／小学校教育－心理学)(208)はいずれも激増、(学校教育教員養成／教科教育－美術教育)(125)は大幅増加。なお、(学校教育教員養成／特別支援教育)(100)、(学校教育教員養成／小学校教育－国際理解教育)(100)は前年度と同数。

○**国際総合科学**(148) は、３年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も、1.7 倍→2.5 倍にアップ。

○**理**(123)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(地球圏システム科学)(194)、(物理・情報科学)(181)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(化)(88)は減少、(数理科学)(93)はやや減少。

○**工**(39)は、前年度激増の反動と共通テスト重視配点のため共通テストの平均点ダウンの影響が大きく激減。学科別では、７学科すべてが大幅減少で、(循環環境工)(15)、(電気電子工)(30)、(応用化)(37)、(社会建設工)(39)はいずれも激減。

○**医(医)**(70)は、大幅減少で前年度微減に引き続き２年連続減少。志願倍率も 5.6 倍→3.9 倍にダウン。

○**医(保健)**(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、(保健／検査技術学)(76)は大幅減少、(保健／看護学)(90)は減少。

○**農**(87)は、減少で２年連続減少。学科別では、２学科とも減少で、(生物機能科学)(81)は大幅減少、(生物資源環境科学)(96)はやや減少。

○**共同獣医**(138)は、３年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も 3.3 倍→4.5 倍にアップ。

〈後期日程〉

○**人文**(81)は、大幅減少。志願者数は５年ぶりに 300 人を下回り、2016 年度の改組以降で最少。

○**経済**(85)は、大幅減少で３年連続減少。志願者数は４年ぶりに 400 人を下回った。

○**国際総合科学**(133) は、大幅増加で２年連続増加。志願者数は、2015 年度の新設以降で最多。

○**理**(136)は、３年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(物理・情報科学)(177)、(化)(172)はいずれも激増、(数理科学)(118)は大幅増加、(生物)(111)は増加。一方で、(地球圏システム科学)(92)は前年度激増の反動で減少。

○**工**(43)は、前年度激増の反動と共通テスト重視配点のため共通テストの平均点ダウンの影響が大きく大幅減少。学科別では、全ての学科で大幅減少し、特に(社会建設工)(21)、(電気電子工)(22)、(循環環境工)(25)は減少率 70%以上の激減。

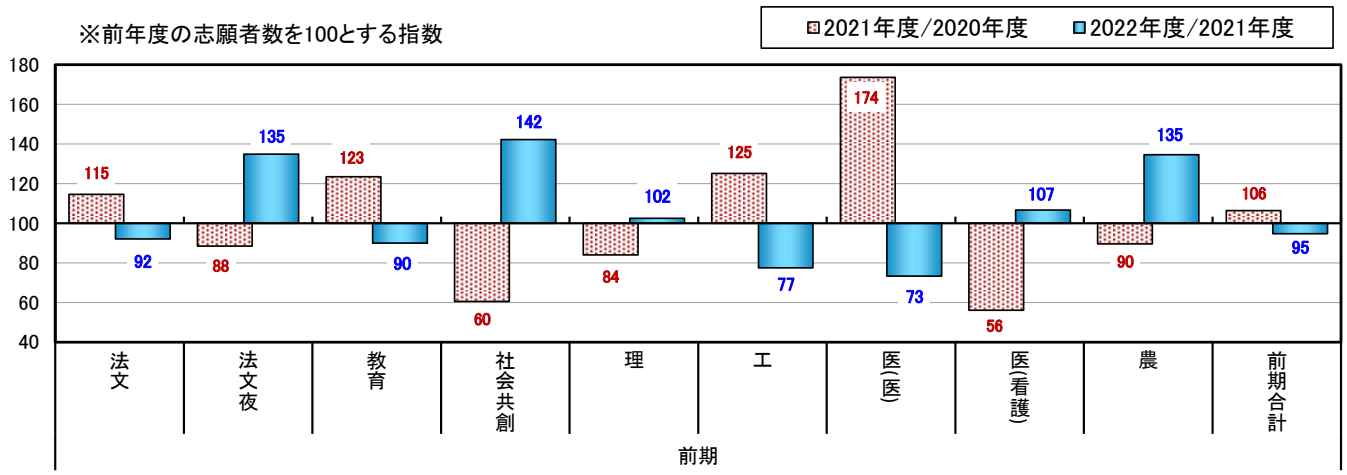
○**医(医)**(212)は、医学科で中国・四国地区で唯一の後期募集であることに加えて、２年連続減少の反動で倍増以上。志願倍率も 21.2 倍→45.0 倍に大幅アップ。２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 33.3%と厳しい競争だった。

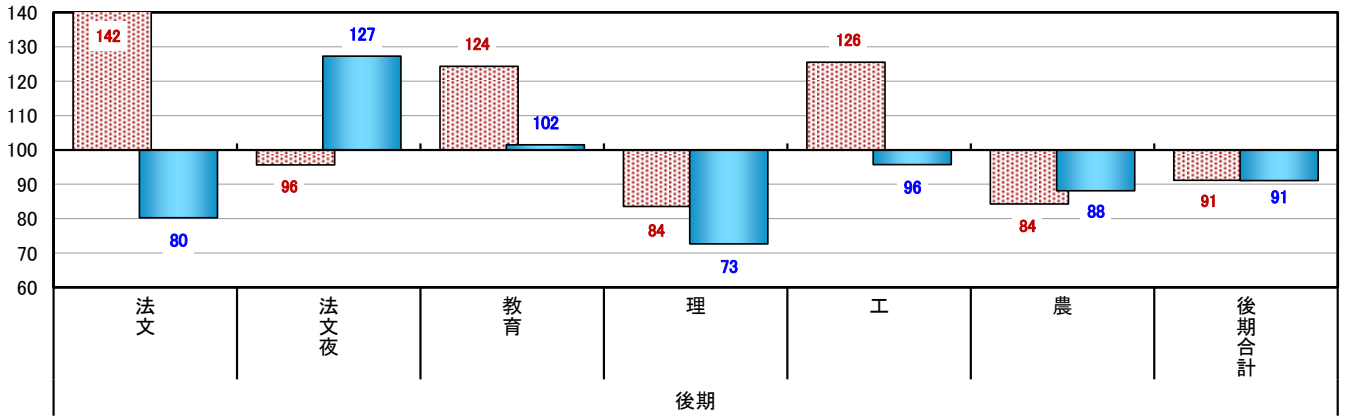
○**医(保健)**(102)は、前年度大幅増加の反動はなく微増。専攻別では、(保健／看護学)(111)は増加。一方で、(保健／検査技術学)(83)は大幅減少。

○**農**(95)は、やや減少で４年連続減少。学科別では、(生物資源環境科学)(146)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、(生物機能科学)(65)は２年連続大幅増加の反動で大幅減少と対照的。

○**共同獣医**(167)は、２年連続減少の反動で激増。志願倍率も 9.7 倍→16.2 倍とアップ。

愛媛大：前期はやや減少で、後期は４年連続減少　　前期：-150 人　後期：-184 人





主な入試変更点	募集人員：工…<前>326 人→324 人

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 150 人(95)のやや減少。法文(人文社会／夜間主コース)(135)を除いても(93)のやや減少。後期は 184 人(91)の減少で、４年連続減少。志願者数は 2,000 人を下回った。なお、法文(人文社会／夜間主コース)(127)を除いても(87)の減少。

<前期日程>

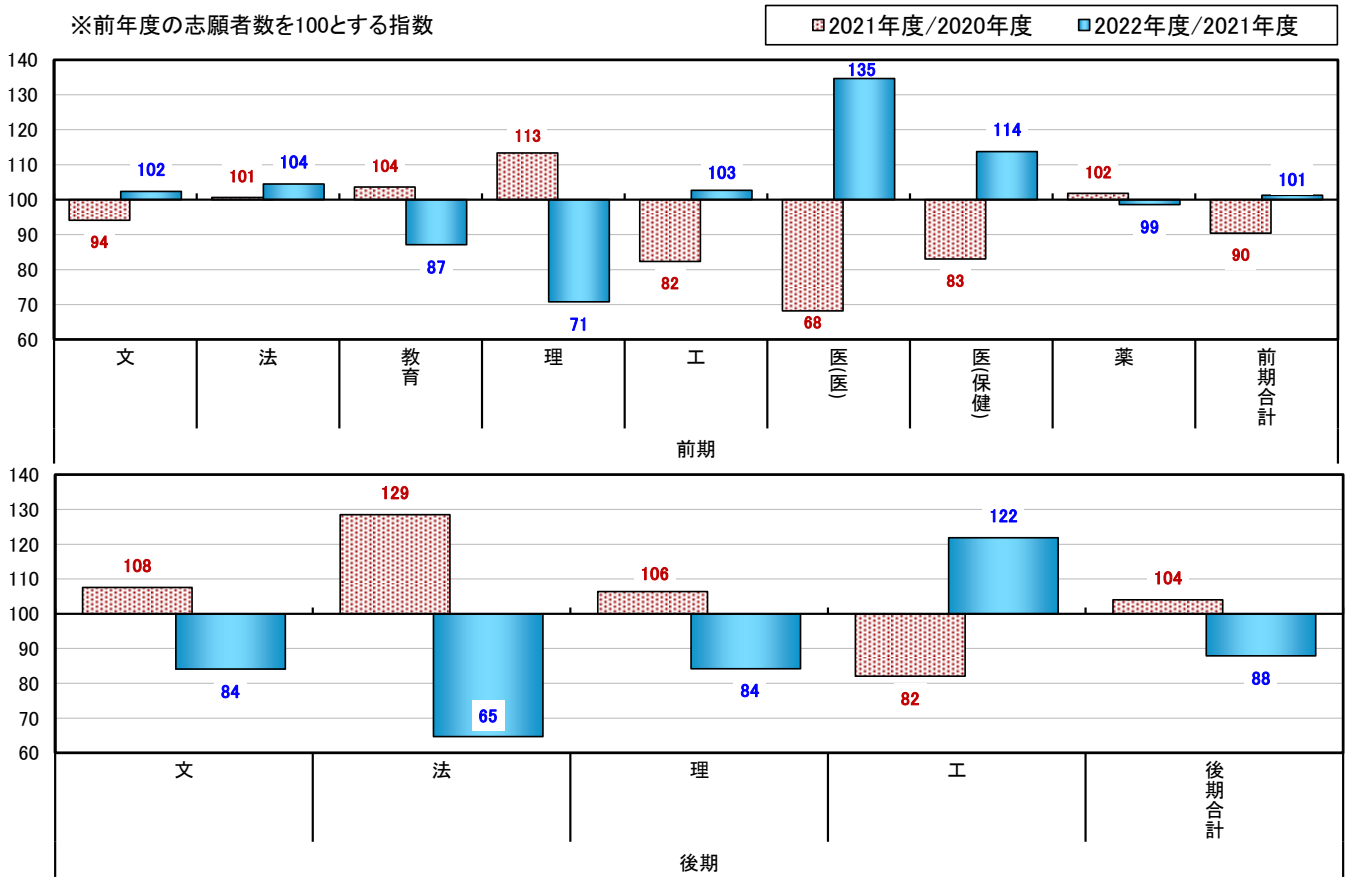
○**法文(人文社会／昼間主コース)(92)**は、前年度大幅増加の反動で減少。
○**教育(90)**は、前年度大幅増加の反動で減少。コース・専攻別では、11 募集単位中７募集単位で大幅減少。特に(学校教育教員養成／中等教育－家政教育)(47)、(学校教育教員養成／中等教育－英語教育)(50)はいずれも半減以下。一方で、４募集単位は大幅増加で、 特に(学校教育教員養成／中等教育－国語教育)(567)は前年度半減の反動で５倍以上の激増。
○**社会共創(142)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科・コース別では、６募集単位中４募集単位が増加。特に(産業マネジメント)(258)、(地域資源マネジメント／農山漁村マネジメント)(231)はいずれも前年度半減以下の反動で２倍以上の激増。一方で、(産業イノベーション)(41)は前年度激増の反動で大幅減少。
○**理(102)**は、前年度大幅減少の反動はなく微増。募集単位別では、(理／地学受験)(300)は前年度激減の反動で３倍の激増、(理／生物受験)(126)は大幅増加。一方で、(理／物理受験)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○**工(77)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別でも、(工／文理型入試(社会デザインコース))(71)、(工／理型入試(社会デザインコースを除く))(78)はいずれも大幅減少。
○**医(医)(73)**は、３年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は 400 人を下回り、志願倍率も 9.7 倍→7.1 倍にダウン。
○**医(看護)(107)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。志願倍率は２年連続２倍を下回った。
○**農(135)**は、大幅増加。学科別では、３学科全てで増加し、特に(食料生産)(167)は前年度大幅減少の反動で激増。

<後期日程>

○**法文(人文社会／昼間主コース)(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も 10.8 倍→8.6 倍とダウン。
○**教育(102)**は、(学校教育教員養成／初等教育－小学校)のみの募集だが、前年度の大幅増加に引き続き微増で２年連続増加。
○**理(73)**は、２年連続大幅減少。募集単位別では、<B(面接)>(65)、<A(数学)>(77)といずれも大幅減少。いずれも共通テスト重視の配点や教科試験がなかったりしたことで、共通テストの平均点ダウンの影響が大きかった。
○**工(96)**は、系統への高い人気もあって、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。募集単位別では、(工／文理型入試(社会デザインコース))(75)は大幅減少、(工／理型入試(社会デザインコースを除く))(97)はやや減少。
○**農(88)**は、前年度の大幅減少に引き続き２年連続減少。学科別では、(生物環境)(146)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(食料生産)(70)は２年連続大幅減少、(生命機能)(73)も大幅減少で２年連続減少。

駿台

熊本大：前期は微増だが３年ぶりの増加、後期は減少　　前期：+35 人　後期：−132 人



主な入試変更点	選抜方法：文(コミュニケーション情報)〈後〉…廃止 共通テスト：医(看護)〈前〉…国〈100〉+歴公〈100〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈500〉 →国〈100〉+歴公〈50〉+数２〈100〉+理２〈100〉+外〈100〉=総点〈450〉 個別試験：医(看護)〈前〉…国〈100〉+数〈100〉+外〈100〉=総点〈300〉→国〈200〉+数〈200〉+外〈200〉=総点〈600〉 募集人員：文(コミュニケーション情報)…〈前〉18 人→20 人、〈後〉３人→０人 医(医)…〈前〉90 人→87 人 薬(薬)…〈前〉45 人→40 人 改組：教育（小学校教員養成)、(中学校教員養成／国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術、家庭)、(特別支援教育教員養成)、(養護教諭養成)→(学校教育教員養成／初等・中等教育、特別支援教育、養護教育)

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 35 人(101)の微増で３年ぶりの増加。学部別では、医(医)(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、一方で理(71)は前年度増加の反動で大幅減少、教育(87)は減少。後期は 132 人(88)の減少。学部別では、増加したのは工(122)のみで、後期募集の４学部ともに前年度と逆の増減。

〈前期日程〉

○**文**(102)は、２年連続減少の反動はなく前年度並。学科別では、(コミュニケーション情報)(170)は激増で３年ぶりの増加。志願倍率も 1.8 倍→2.8 倍にアップ。一方で、(文)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(歴史)(89)は減少で２年連続減少。

○**法**(104)は、やや増加で２年連続増加。

○**教育**(87)は、減少。2019 年度以降、前年度の反動による増減が継続。課程・専攻・コース別では、改組のため(学校教育教員養成／初等・中等教育－数学)(131)と旧(中学校教員養成／数学)の比較で、(学校教育教員養成／養護教員養成)(124)と旧(養護教諭養成)の比較でいずれも大幅増加で３年ぶりに増加。一方で、(学校教育教員養成／初等・中等教育－音楽、美術、保健体育、家庭、技術)(60)と旧(中学校教員養成／音楽、美術、保健体育、家庭、技術)の比較では大幅減少で３年連続減少、(学校教育教員養成／初等・中等教育－国語)(71)と旧(中学校教員養成／国語)、(学校教育教員養成／初等・中等教育－小学校)(80)と旧(小学校教員養成)の比較でいずれも大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。

○**理**(71)は、大幅減少。2013 年度以降、前年度の反動による増減が継続。

○**工**(103)は、やや増加だが、2018 年度の学科改組以前を含めると、2015 年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(機械数理工)(126)、(材料・応用化学)(118)はいずれも大幅増加。一方で、(情報電気工)(82)は大幅減少で２年連続減少。

○**医(医)**(135)は、大幅増加で３年ぶりに増加。志願倍率は 3.7 倍→5.1 倍にアップ。

○**医(保健)**(114)は、増加。専攻別では、(保健／看護)(148)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、(保健／検査技術科学)(114)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、(保健／放射線技術科学)(79)は大幅減少で６年ぶりに減少。

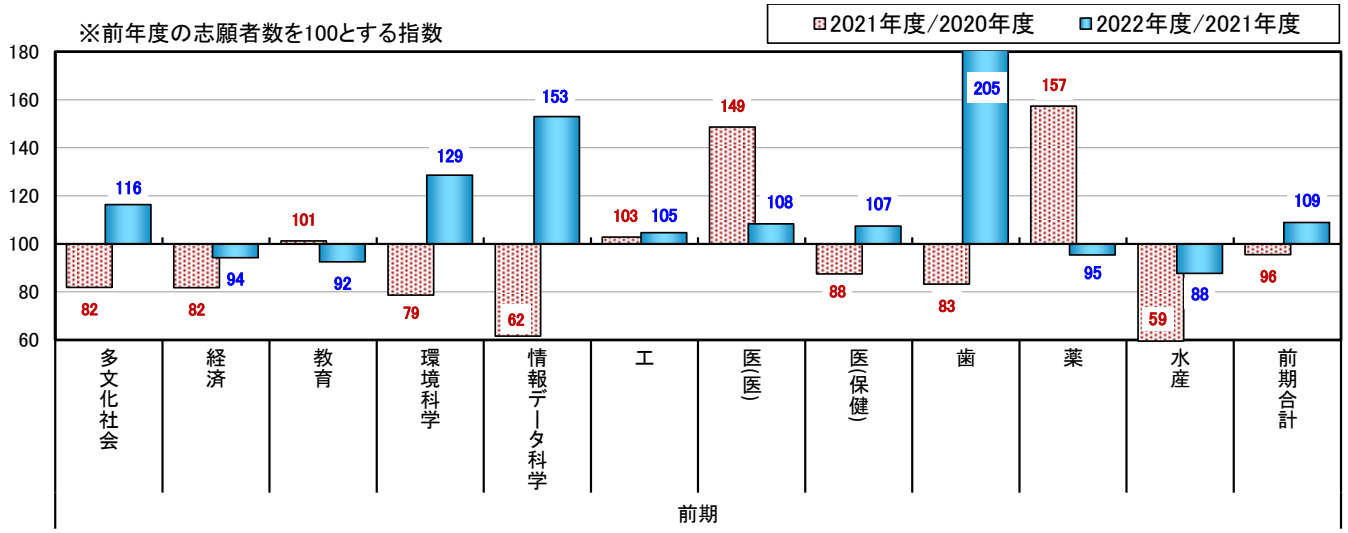
○**薬**(99)は、２年連続前年度並。学科別では、(創薬・生命薬科学)(110)は増加で２年連続増加。(薬)(95)はやや減少で３年連

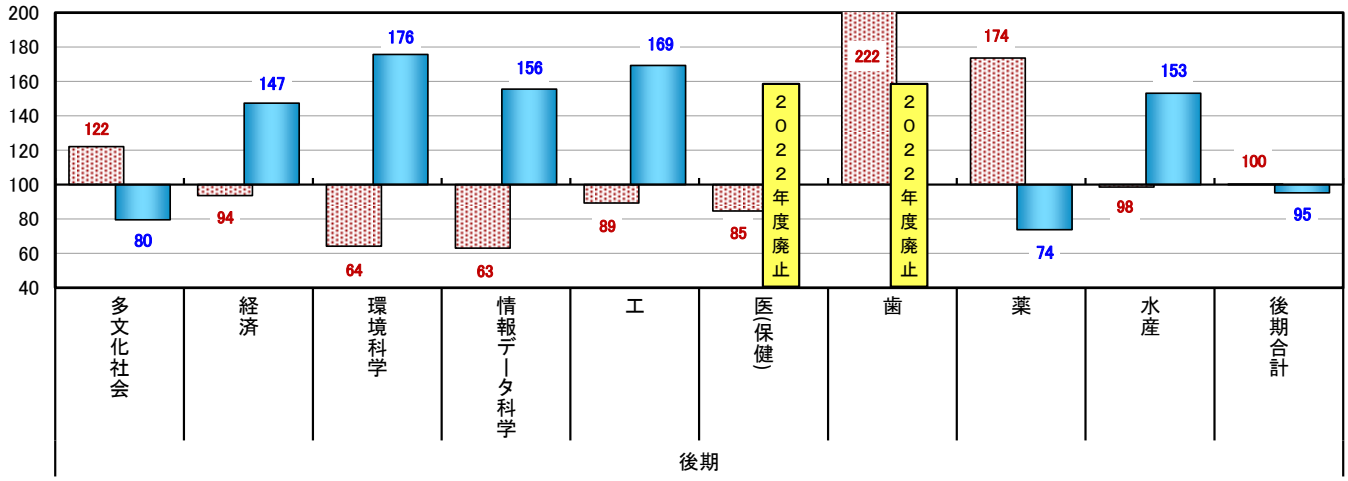
駿台

続減少。

〈後期日程〉
○文(84)は、(コミュニケーション情報)の後期廃止により大幅減少、後期募集を継続する３学科合計でも前年度大幅増加の反動で(89)の減少。学科別では、いずれも減少で、(歴史)(84)は大幅減少、(総合人間)(88)は減少、(文)(96)はやや減少。
○法(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
○理(84)は、前年度増加の反動で大幅減少。
○工(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(材料・応用化学)(185)は２年連続大幅減少の反動で大幅増加、(機械数理工)(131)は２年連続減少の反動で大幅増加、(情報電気工)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(土木建築)(83)は大幅減少で３年連続減少、志願倍率も 5.8 倍→4.8 倍にダウン。

長崎大：前期は３年ぶり増加、後期は廃止学部・学科もありやや減少　前期：+235 人　後期：-81 人





主な入試変更点	選抜方法：医(保健)、歯…後期廃止 教育〈前〉…面接の評価が著しく低い場合には、大学入学共通テスト及び個別学力検査等の成績にかかわらず、不合格とすることがある →面接の得点率が 20%以下の者は大学入学共通テスト及び個別学力検査等の成績にかかわらず、不合格とする 環境科学〈後〉…(合否判定基準追加)　→総得点が著しく低い者は、不合格とすることがある 募集人員：医(保健／看護学)…〈前〉48 人→54 人、〈後〉10 人→０人 (保健／理学療法学)…〈前〉10 人→15 人、〈後〉５人→０人 (保健／作業療法学)…〈前〉10 人→14 人、〈後〉５人→０人 歯…〈後〉７人→０人 環境科学…〈後〉〈選別方法Ａ(文系)〉13 人→10 人、〈選抜方法Ｂ(理系)〉13 人→10 人 工…〈前〉224 人→〈ａ方式〉160 人、〈ｂ方式〉50 人、〈後〉50 人→53 人 共通テスト：教育(学校教育教員養成／中学校教育－理系)〈前〉 …国〈200〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+外〈300〉+｛理２or(理+理基２)｝〈200〉=総点〈1,000〉 →国〈200〉+歴公〈100〉+数２〈200〉+外〈200〉+｛理２or(理+理基２)｝〈200〉=総点〈900〉 環境科学〈後〉…国+歴公+外　※「世B、日B、地理B」のうち１科目を「世A、日A、地理A」へ変更可 →国+歴公+外　※「世B、日B、地理B」のうち１科目を「世A、日A、地理A」へ変更不可 〈後〉…数２+外+{理２or(理+理基２)}→数２+理２+外

	情報データ科学〈前〉…国+歴公+数２+外+｛理２or(理+理基２)｝→国+歴公+数２+理２+外 〈後〉…数２+外+{理２or(理+理基２)}→数２+理２+外 工(工)〈前〉…国+歴公+数２+外+｛理２or(理+理基２)｝→国+歴公+数２+理２+外 〈後〉…国+歴公+数２+外+｛理２or(理+理基２)｝※理：物基 or 化基 or 生基 or 地基、物 or 化 →国+歴公+数２+理２+外　※理：物+化 個別試験：教育(学校教育教員養成／中学校教育－理系)〈前〉…面+(数 or 理)→外+面+(数 or 理)

COMMENT　※(　　)内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は 235 人(109)の増加で３年ぶりに増加。後期は 81 人(95)のやや減少。後期廃止の医(保健)と歯を除くと 333 人(127)の大幅増加。なお、多文化社会〈前〉〈後〉、医(医)〈前〉、薬(薬)〈後〉、水産〈前〉で２段階選抜が実施された。

〈前期日程〉

○**多文化社会(116)**は、２年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、(多文化社会／オランダ特別以外)(123)は２年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(多文化社会／オランダ特別)(60)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集人員が少ないこともあって、2017 年度以降は前年度の反動による大幅な増減が継続。

○**経済(94)**は、やや減少で前年度の大幅減少に引き続いて２年連続減少。

○**教育(92)**は、減少で４年ぶりに減少。コース・系別では、６募集単位中４募集単位が減少。(学校教育教員養成／中学校教育－実技系)(82)は２年連続大幅減少、(学校教育教員養成／中学校教育－理系)(87)は個別試験での科目負担増もあり減少。一方で、(学校教育教員養成／幼児教育)(144)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

○**環境科学(129)**は、新設３年目だが２年連続大幅減少の反動で大幅増加。選抜方法別では、いずれも増加で、〈選抜方法Ｂ(理系)〉(150)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、〈選抜方法Ａ(文系)〉(108)は増加で２年連続増加。

○**情報データ科学(153)**は、前年度大幅減少の反動から大幅増加で、志願倍率も 1.7 倍→2.6 倍にアップしたが、新設初年度の志願者数には及ばなかった。

○**工(105)**は、２年連続やや増加。募集人員が 14 人(募集人員前年度対比指数 94)減少もあり、志願倍率は 2.1 倍→2.3 倍にアップ。2022 年度から共通テスト重視配点の〈a 方式〉と個別試験重視配点の〈b 方式〉に分けて募集が行われたが、志願倍率は〈a 方式〉が 1.4 倍、〈b 方式〉が 5.4 倍と共通テストの平均点ダウンにより個別試験での逆転を目指す受験生からは〈b 方式〉の人気が高かった。

○**医(医)(108)**は、前年度の大幅増加に引き続き増加で、志願倍率は 3.7 倍→5.6 倍→6.0 倍とアップ。２段階選抜が実施され、第１段階選抜の合格率は 83.2%だった。

○**医(保健)(107)**は、２年連続減少の反動は小さくやや増加に留まった。専攻別では、(保健／作業療法学)(121)、(保健／理学療法学)(119)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。なお、(保健／看護学)(100)の志願者数は前年度と同数。

○**歯(205)**は、２年連続大幅減少の反動で倍増以上。志願倍率も 3.3 倍→6.8 倍にアップ。

○**薬(95)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別では、６年制の(薬)(114)は増加で２年連続増加、４年制の(薬科学)(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○**水産(88)**は、減少で４年連続減少。志願者数は 130 人を下回り、志願倍率も 3.1 倍→2.7 倍にダウン。なお、第１段階選抜は共通テスト 900 点満点中 450 点以上が合格者という基準点方式で、共通テストの平均点ダウンによる敬遠の影響もあった。

〈後期日程〉

○**多文化社会(80)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2019 年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。

○**経済(147)**は、３年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は４年ぶりに 300 人を上回った。

○**環境科学(176)**は、３年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も 3.3 倍→7.6 倍にアップ。選抜方法別でも、〈選抜方法Ｂ(理系)〉(177)、〈選抜方法Ａ(文系)〉(174)といずれも大幅増加。

○**情報データ科学(156)**は、新設３年目だが、前年度大幅減少の反動から大幅増加で、志願倍率も 6.0 倍→9.3 倍にアップ。しかし、新設初年度志願者数にはわずかに及ばなかった。

○**工(169)**は、３年連続減少の反動で激増。志願倍率は 5.0 倍→8.0 倍へアップ。

○**薬(74)**は、前年度激増の反動で大幅減少。学科別でも、２学科とも大幅減少。

○**水産(153)**は、大幅増加。志願倍率も 2.8 倍→4.4 倍にアップ。